

学术交流レポート

—2015—

桐蔭横浜大学

学 長 挨拶



桐蔭横浜大学
学長 佐藤 宣 践

「学術交流レポート2015」が刊行されて、学術教育活動などの進展が一覧できることになり、有意義なワンステップであると思います。

レポート刊行の意義は、いよいよ大きくなっています。研究と教育を同時に推進していくところに、大学の組織としての独自性、そして主体性があります。教育は、研究の裏打ちを得てこそ真の輝きをもち、若者の精神に深い感動を呼び起こすでしょう。自由な知的土俵である大学においては、好奇心に富む柔軟な若い心に生じる素朴な疑問が端緒となって、時代を超える新しい着想や理論が生み出されることも少なくないのです。大学において教育と研究が支えあって展開されることで、社会に対する大きな貢献ができるのだと思います。このことは、学問が大きく進歩し、その最先端が加速度的な伸びを示している今日、とりわけ重要であり、大学への期待に応え、大学の存在感を一段と大きいものとするに連なるでしょう。

「学術交流レポート2015」は、単年間の専任教員による学術研究と教育活動をまとめたものです。本学は、法学、医用工学、スポーツ健康政策学の3学部体制となり、また、3つの学術大学院と1つの専門職大学院(法科大学院)がその上に配置されております。こうした進展のなかで、高等教育機関の総合的体制が整備されつつあると自負しております。そこから生まれるところの学術研究教育活動の成果を社会に発信する本レポートが刊行されることで、学の内外にわたり幅広い知的交流の機会が増大し、そのプロセスの中で、研究と教育の間のよき相乗作用が光彩を増すことになれば、まことに幸いです。

現在、本学において、地域社会と海外都市を結ぶデルタ型の仮想空間とその仕組みを動かそうとする目的が共有され、本学をいわばコミュニティのハブ組織の一つとして、研究と教育をグローバルに展開するエネルギーが盛り上がってきています。本レポートは、大学が一段と高い役割を果たしていくスプリングボードとなるものと確信しています。

学術交流レポート2015 目次

■	学長挨拶	1	
■	建学の精神	3	
■	大学組織図	4	
■	法学部		
	法律学科	5	～ 39
■	医用工学部		
	生命医工学科	40	～ 67
	臨床工学科	68	～ 106
■	スポーツ健康政策学部		
	スポーツ教育学科	107	～ 129
	スポーツテクノロジー学科	130	～ 142
	スポーツ健康政策学科	143	～ 157
■	工学研究科 医用工学専攻・情報・機械工学専攻	158	～ 170
■	スポーツ科学研究科	171	～ 176
■	法務研究科 法務専攻	177	～ 197
■	先端医用工学センター	198	～ 199
■	公開講座・セミナー・シンポジウム・イベント等開催	200	～ 210

建学の精神

社会連帯を基調とした、義務を実行する自由人たれ。

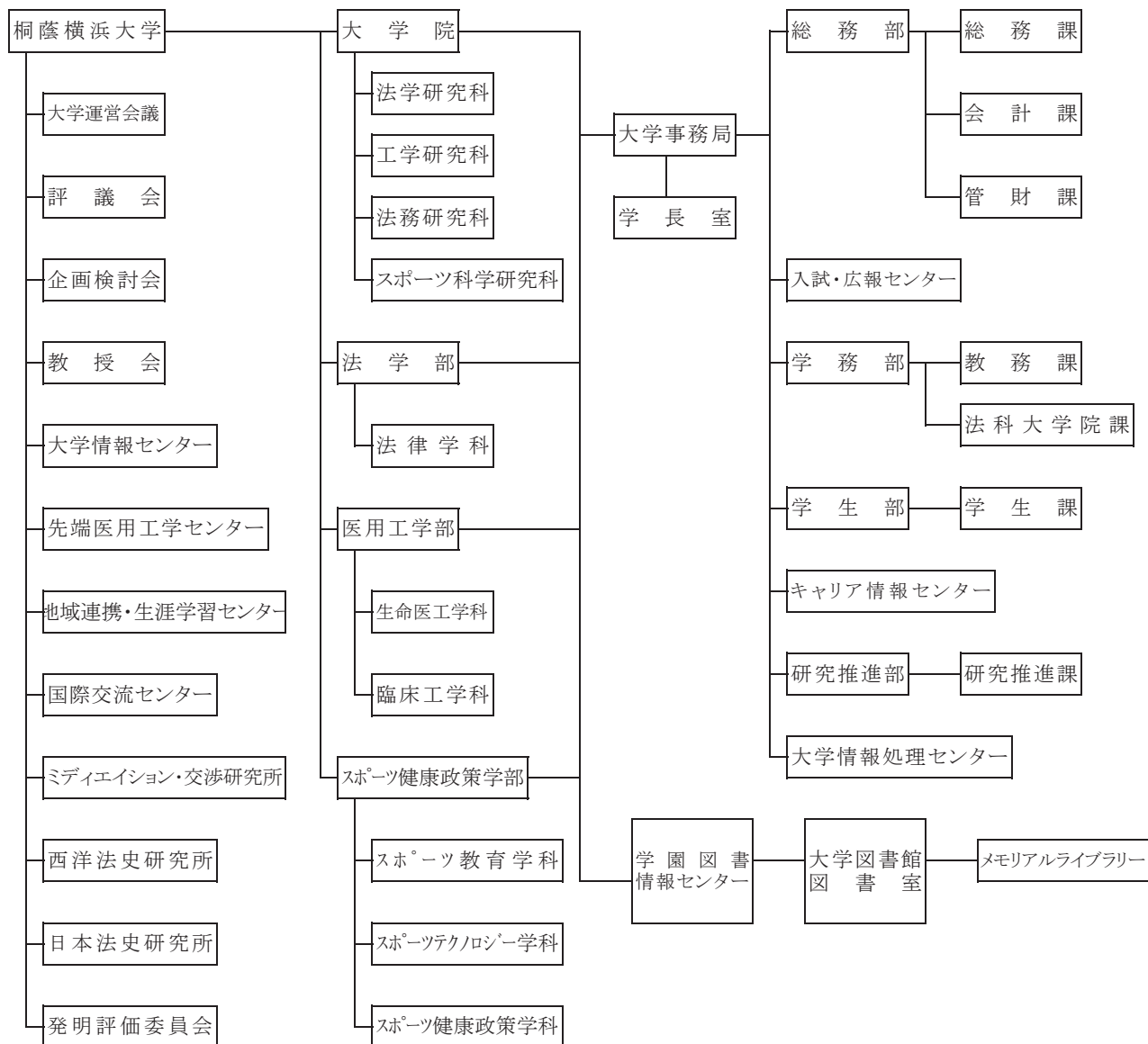
学問に徹し、求学の精神の持主たれ。

道義の精神を高揚し、誇り高き人格者たれ。

国を愛し、民族を愛する国民たれ。

自然を愛し、平和を愛する国際人たれ。

大学組織 2016.4.1現在



法学部 (Faculty of Law)

法律学科 (Department of Law)

内ヶ崎 善英 (うちがさき よしひで) 教授



出生年 : 1958(昭和33)年
在籍 : 1993(平成5)年4月～
最終学歴 : 中央大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得満期退学
学位 : 法学修士(中央大学)、Master of Laws (N.Y.U.)
学位論文 : 勧告的意見の機能について
専門分野 : 国際法
前職 : 日本学術振興会特別研究員
学内役職等 : 法学部学部長(2016～)
留学 : New York University, School of Law
資格 :
非常勤講師 : 中央大学法学部
受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(2) 法学教育におけるアクティブラーニング導入の試み	2012年4月～	・法学部の導入教育におけるアクティブラーニングの導入を模索している。 ・具体的には、リーガルシミュレーションゲームと称して、現実には生じうる仮定の事件を設定し、学生にその事件の当事者となってもらい、当事者であればするであろう主張を展開し、相手方との交渉を行い、最終的には両当事者の妥協点を見つけ出していく。模擬裁判とは異なり、生の形のトラブルからスタートするため法的に再構成されていない紛争の中で話し合いによる解決を模索するところに特色がある。よって、法的知識は必要でなく、相手方の利益を踏まえたうえで両当事者の双方にとって利益をもたらすような解決策を探すために、相互理解を深めていくことが肝要となる。すなわち、対話能力が培われ、自身の主観的な観点から離れ、間主観的な視点からトラブルを考えていく俯瞰的理解力の強化につながっていくことが期待できる。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
国際法学会、世界法学会、国際法理論史研究会、国際法立法研究会

鹿兒嶋 繁雄 (かごしま しげお) 教授



出生年 : 1950(昭和25)年
在籍 : 1993(平成5)年4月～
最終学歴 : 立教大学大学院文学研究科
学位 : 文学修士
学位論文 : ゴート語の現在分詞について
専門分野 : ゲルマン語学
前職 : 成蹊大学工学部非常勤講師
学内役職等 :
留学 :
資格 :
非常勤講師 : 中央大学法学部
受賞・表彰 :

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本独文学会

笠原 毅彦 (かさほら たけひこ) 教授



出生年：1957(昭和32)年
 在籍：1993(平成5)年4月～
 最終学歴：慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程満期退学
 学位：法学修士(慶應義塾大学)
 学位論文：法判断権の所在
 専門分野：民事法、法情報学
 前職：常磐大学短期大学部講師
 学内役職等：学生部副部長(2014～)
 留学：ドイツ連邦共和国ザールラント大学(1984～1986, 1994～1995)
 資格：
 非常勤講師：国土館大学大学院総合知的財産法学科, 大東文化大学法務研究科, 早稲田大学法学部

受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
https://nodata.jp/klabo/	2000年4月～現在	授業外での学習促進のための学生間, 学生・教員間の議論用オンライン会議室。
http://www.cc.toin.ac.jp/juri/fj01/	2000年4月～現在	講義内容のWEB上での公開, 教材として呈示しながら講義を展開。
2.作成した教科書、教材、参考書		
http://www.cc.toin.ac.jp/juri/fj01/ https://nodata.jp/klabo/?page_id=466	2000年4月～現在	講義教材及び講義資料のダウンロードサイト。

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略					
<p>2015年度も, 総務省委託研究の調査研究報告書「諸外国におけるインターネット上の権利侵害情報対策に関する調査研究」から始まった。</p> <p>デジタルフォレンジック研究会 (IDF), 情報ネットワーク法学会, 人工知能学会, 私立大学情報教育協会, 弁護士会を中心に活動した。</p> <p>技術者と法律家の共同研究の場であるIDFでは, 両者の相互理解のために, 「数値で見る日本の裁判 — 技術者のための裁判講座」の講演をした。</p> <p>人工知能学会では, 国際シンポジウムJurisin 2015(慶應義塾大学)をCo-Chairとして開催。連名で「A Study of Ontology for Civil Trial」の報告をした。日本語版を, 電子情報通信学会思考と言語研究会(早稲田大学)で報告した。</p> <p>東京弁護士会民事訴訟部会の依頼で, 民事裁判のICT化に関して報告した。</p> <p>交流の深かったザールラント大学法情報研究所所長Herberger教授が, 2014年3月で定年退職したが, その後任所長Borges教授と親交を結んだ。2016年5月に招聘し, 学会, 弁護士会3か所で講演を依頼, うち2回通訳を務めた。後輩に人脈を引き継ぐことを意識している。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
ドイツにおける青少年保護のためのインターネット規制(大学紀要)	単著	2015年11月	桐蔭論叢23巻		15-25頁

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
A Study of Ontology for Civil Trial	2015年11月	人工知能学会国際シンポジウムJurisin 2015(慶應義塾大学)	伊藤篤宇都宮大学教授, 桐生雄也, 波多野裕之, 藤井雅彦, 渡辺裕宇都宮大学大学院生
民事事件の裁判記録のためのオントロジーに関する一考察	2015年12月	電子情報通信学会思考と言語研究会(早稲田大学)	伊藤篤宇都宮大学教授, 桐生雄也, 波多野裕之, 藤井雅彦, 渡辺裕宇都宮大学大学院生
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
民事裁判のICT化	2016年3月	弁護士会館	東京弁護士会民事訴訟部会
○その他			
(その他特記事項)			
大学院生論文審査			
情報処理学会法情報学国際ワークショップ(JURISIN2015) Co-Chair, プログラム委員			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本私法学会、比較法学会、慶應法学会、民事訴訟法学会、法とコンピュータ学会、日本経営実務法学会、情報ネットワーク法学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
1985年 9月～現在	手続法研究所(慶應大学)理事
1999年 4月～現在	私立大学情報教育協会法律学教育FD/IT活用研究委員会アドバイザー
2002年 7月～現在	情報ネットワーク法学会設立発起人・役員
2004年10月～現在	私立大学情報教育協会産官学連携サイバーユニバーシティ構想推進会議委員
2006年 9月～現在	Japrico Club(キャンパスツール普及促進組織)運営委員
2008年4月～現在	名古屋大学法情報研究センター(JaLII)フェロー
2009年 3月～現在	農林水産省沖縄伊江村民泊プロジェクト専門家委員会委員
2013年11月～現在	人工知能学会法情報学国際ワークショッププログラム委員
2014年2月～現在	国立情報学研究所共同研究員

勝 亦 啓 文 (かつまた ひろふみ) 教授



出 生 年 : 1973(昭和48)年
 在 籍 : 2005(平成17)年4月～
 最 終 学 歴 : 中央大学大学院法学研究科民事法専攻博士後期課程単
 位取得退学
 学 位 : 法学修士
 学 位 論 文 : フランス労働法上の非典型協定
 専 門 分 野 : 労働法
 前 職 : 東京国際大学非常勤講師、青山学院大学非常勤講師
 学 内 役 職 等 : キャリア情報センター長(2014～)
 留 学 :
 資 格 :
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
地域商店街との連携活動	2011年～	相模大野北口商店会との連携による学生の地域活性化事業への参加
神奈川県警との連携活動	2013年～	神奈川県警本部生活安全総務課との連携による学生防犯活動への参加
2.作成した教科書、教材、参考書		
『社会保障法第4版』(有斐閣、2009)、レジュメ(社会保障法)	2009年～	
『労働法解体新書第3版』(法律文化社、2011)、レジュメ(労働法)	2011年～	
『アクチュアル労働法』(法律文化社、2014)、レジュメ(労働法)	2014年～	

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略 労働契約法20条の施行およびパートタイム労働法の改正で求められる均等待遇ないし均衡待遇の今後の影響について検討するとともに、東京都および神奈川県との労働行政に協力して、普及啓発活動にあたった。
○その他 (その他特記事項) 「東京都『どうなる?こんなトラブル!』平成27年度版監修」(2015年10月31日)

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称 日本労働法学会、日独労働法協会
--

河合 幹雄 (かわい みきお) 教授



出生年：1960(昭和35)年
 在籍：1993(平成5)年4月～
 最終学歴：京都大学法学部博士後期課程
 学位：法学修士
 学位論文：アメリカにおける被害者の権利運動
 専門分野：法社会学
 前職：京都大学法学部助手
 学内役職等：副学長(2016～)

留学：パリ第2大学博士課程
 資格：
 非常勤講師：一橋大学法科大学院・早稲田大学法学部
 受賞・表彰：第六回日本法社会学会奨励賞
 著書「安全神話崩壊のパラドックス」に対して
 日本法社会学会 第六回奨励賞 受賞(2005年5月)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
『學士會会報』 第888号		「法学教育の見直しとエリートの役割変化」26頁～30頁
4.その他教育活動上特記すべき事項		
日本学会議特任連携会員		大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会 法学教育の参照基準造り

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「21世紀の日本最強論「世界で一番安全な国」」	共著	2015年4月20日	文藝春秋編 文藝春秋	分担執筆	60～70頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「死刑と厳罰の意見はどうすれば変わるのか」	2015年5月8日～10日	2015日本法社会学会学術大会 首都大学東京	-		
「犯罪・治安対策」	2015年5月18日、22日	人事院公務員研修所平成26年度 初任行政研修Bコース 政策課題研究:基調講演・全体討議(犯罪・治安対策) 人事院公務員研修所	-		
「死刑の象徴化と公判重視～犯罪実態と世論調査を踏まえた死刑論」	2015年6月20日	東京法哲学研究会6月例会 東京大学法4号館8階 大講義室	-		
“What Recognition Can Change Japanese People’s Opinion about Penal Punishment?: Analysis of Opinion Survey in 2014 in Japan”	2015年8月5日	2015 EALS TOKYO:The 4th East Asian Law & Society Conference(第4回東アジア法社会学会議) 早稲田大学	-		
「人々の刑事司法についての知識 2014年全国意識調査から」	2015年11月21日	日本犯罪社会学会第42回 桐蔭横浜大学	-		

「法社会学 犯罪統計・実態・大衆の認識」	2015年12月2日	矯正研修所	-
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
科学研究費補助金(日本学術振興会)	2011年4月～2016年3月	新学術領域 刑罰と犯罪防止 研究代表者	
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン(32)―「怒れる犯罪被害者」の実態との隔離と”許し”」	2015年5月18日	『サイゾー』2015年6月号 100～101頁	
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン(33)―「次に死刑に処される者」を決めるのは”誰”なのか?」	2015年6月18日	『サイゾー』2015年7月号 104～105頁	
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン(34)―ドローンの危険性から考える「社会はなぜ”安全”なのか?」」	2015年7月18日	『サイゾー』2015年8月号 112～113頁	
「乱暴な少年法・成人年齢議論と改憲論」	2015年7月18日	The Japan Times 「Despire what the media says about juvenile crime, the kids are alright」	
「起訴相当を出せることが刑事司法改革のポイント―検察審査会の存在意義と原発事故の責任、有罪率99.9%は真犯人取り逃がしを意味」	2015年8月13日	WEBRONZA	
「記事内コメント「元組員の就職を支援 企業リスク軽減が課題」内」	2015年9月14日	熊本日日新聞	
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン(36)―現場の刑務官が思う死刑の”軽さ”」	2015年9月18日	『サイゾー』2015年10月号 106～107頁	
「インタビュー河合幹雄「ニッポン経済の盛衰から見る山口組100年の歴史と”分裂”」	2015年10月19日	『サイゾー』2015年11月号 30頁	
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン㊲一元”酒鬼薔薇聖斗”から考える「更生」とはなんなのか?」	2015年10月19日	『サイゾー』2015年11月号 98～99頁	
「大半は更生する少年犯罪者、少年Aは失敗例か?―少年Aは完治していないものの再犯しない適応力つけた一応の成功例、理想は改心だが…」	2015年10月28日	WEBRONZA	
「調書頼みの終焉を示した東住吉事件の再審決定―突っ走った警察、チェックできなかった検察、最大の責任は自白調書重視の裁判所」	2015年11月3日	WEBRONZA	
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン㊳―「エロ教授の漏洩事件」に見る司法試験の難しさの”本質”」	2015年11月18日	『サイゾー』2015年12月号 88～89頁	
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン(39)―司法試験の不人気は、国家にとって益するという”逆説”」	2015年12月18日	『サイゾー』2016年1月号 106～107頁	
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン(40)―データ偽装への非難轟々に見る”社会の可視化”という問題」	2016年1月18日	『サイゾー』2016年2月号 98～99頁	

「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン(41)―警察が”カラシニコフ”を導入!? その小さくも大きな変化とは」	2016年2月18日	『サイゾー』2016年3月号 90～91頁
「予算獲得ルールと連動する刑法犯認知件数——犯罪被害者実態調査の件数は20年間横ばい、犯罪を減らした成果という見せかけ」	2016年2月10日	WEBRONZA
「死刑議論の焦点を抑えた優れた調査だ」	2016年3月10日	朝日新聞 文化・文芸35
(その他特記事項)		
「スタジオゲスト出演 テレビ朝日 「ビートたけしのTVタックル」 「選挙権18歳に引き下げ!少年法適用も18歳未満にすべき?!徹底討論SP」 2015年7月6日		
「コメント ytv 「情報ライブ ミヤネ屋」 「大阪中1二人遺棄事件」 2015年9月1日		
「コメント テレビ朝日 「ワイド!スクランブル」 「大阪中1二人遺棄事件」 2015年8月25日		
「ゲスト出演 FMラジオ局J-WAVE 「JAM THE WORLD」 「BREAKTHROUGH!」 2016年3月3日		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本法社会学会、日本法哲学学会、日本犯罪社会学会、日本被害者学会、比較法史学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
1999年1月～現在	法務省矯正局「矯正処遇に関する政策研究会」委員	
2005年5月～現在	日本法社会学会理事	
2010年7月7日～現在	EMA(モバイルコンテンツ審査・運用監視機構)基準策定委員会委員	
2011年5月20日～現在	全国篤志面接委員連盟評議員	
2012年5月1日～現在に至る	日本学術振興会 博士課程教育リーディングプログラム委員会専門委員	
2013年4月9日～現在に至る	公益財団法人矯正協会業務執行役員候補者審議委員会委員	
2013年6月～現在に至る	日本被害者学会理事	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
河合隼雄財団を創設し評議員就任	2012年5月～現在	

竹内明世（たけうち あきよ）教授



出生年：1969(昭和44)年
在籍：1998(平成10)年4月～
最終学歴：中央大学大学院法学研究科博士後期課程
学位：法学修士
学位論文：金融機関の決済システムとその法的諸問題
専門分野：商法、銀行取引法、民法
前職：
学内役職等：
留学：
資格：
非常勤講師：明治学院大学法科大学院(2006年4月～9月)、横浜国立大学経済学部(2013年10月～2014年3月)、横浜国立大学経営学部(2014年4月～現在)
受賞・表彰：

II 研究活動

○その他
(その他特記事項)
桐蔭学園中学校/中等教育学校オープンスクール『わくわく体験フェスタ』の「裁判官や弁護士になってみよう!」において模擬裁判の指導をした。(2015年5月16日)
オープンキャンパスのミニ講義「裁判のキホン」において模擬裁判の指導をした。(2015年6月13日および14日)
私立聖パウロ学園高等学校(2年15名程度)の大学見学会において模擬裁判のシナリオ提供および出演をした。(2015年6月19日)

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本私法学会、金融法学会、日本交通法学会、法文化学会、科学技術社会論学会、臨床法学教育学会

竹村 典良 (たけむら のりよし) 教授



出生年：1957(昭和32)年
 在籍：1993(平成5)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科刑事法専攻博士後期課程
 学位：法学修士
 学位論文：刑事学的コープテーションの動因・諸相・帰趨(中央大学)
 専門分野：刑事政策、犯罪学、被害者学、刑事法
 前職：中央大学法学部兼任講師
 学内役職等：研究推進部副部長(2014～)
 留学：チュービンゲン大学(ドイツ)(2002年8月～2003年3月)
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：第3回菊田クリミノロジー賞(2002年1月)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)双方向学生参加型授業の実践	2005年4月～現在	ゼミと講義形式の授業を融合し、質問応答形式の授業を展開(いわゆるソクラテスマソッドを実践)することによって、学生の授業参加意欲ならびに問題意識を高めている。
(2)授業外における学習促進のための刑事関係施設参観	1993年～現在	刑事政策の実務について資料をもとに学習した上で、刑事施設等を参観し、実務家との間で質疑応答を行い、現状と問題点を学んでいる(横浜刑務所、府中刑務所、網走刑務所、美祿社会復帰促進センター、島根あさひ社会復帰促進センター、久里浜少年院、東京少年鑑別所、横浜少年鑑別所、旭川保護観察所沼田就業支援センター)。また、旧施設を移築した監獄博物館を見学し、刑務所をはじめとする刑事施設の歴史を学んでいる(博物館網走監獄、月形権戸博物館、旧釧路集治監)。
(3)ゼミ論文集の編纂	2005年～現在	ゼミにおけるグループ研究、個別研究の集大成として、毎年度末にゼミ論文集『犯罪と社会正義』を編纂している。

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称 (著書)	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
Dynamic Complexity of Environmental Crime: Some Aspects of Applied Green Criminology: Thirteenth United Nations Congress on Crime Prevention and Criminal Justice Background documents, A/CONF.222/IE/7	単著	2015年4月	United Nations Office of Drug and Crime		
(学術論文)					
「国家、自治体、市民団体に共通する継続的な課題としての応用的な犯罪予防」	翻訳	2015年10月	桐蔭法学、第22巻第1号	ハンス・ユルゲン・ケルナー著	151-174頁
“Honey Bee Loss, Fruitless Fall, and Catastrophe of Flora and Fauna: Will the Butterfly Effect of Green Crime happen?,”	単著	2016年2月	Toin University of Yokohama No.33	-	pp.47-61

○その他		
(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
科学技術の発達と社会の発展による環境・エコ犯罪に関する調査研究	2015年4月～2019年3月	科学研究費補助金(日本学術振興会)

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
Société Internationale de Criminologie、European Society of Criminology、American Society of Criminology、Australian and New Zealand Society of Criminology、Academy of Criminal Justice Sciences. 日本刑法学会、日本犯罪社会学会、日本被害者学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2008年1月～現在	Asian Journal of Criminology 編集委員
2015年4月	Individual Expert invited by United Nations、Thirteenth United Nations Congress on the Prevention of Crime and Criminal Justice, Doha, Qatar

出口 雄一 (でぐち ゆういち) 教授



出生年：1972(昭和47)年
 在籍：2004(平成18)年4月～
 最終学歴：慶應義塾大学大学院法学研究科公法学専攻後期博士課程単位取得退学
 学位：法学修士
 学位論文：占領期司法改革における法継受とA・C・オペラー
 専門分野：日本法制史、日本近現代史、法文化論
 前職：桐蔭横浜大学法学部非常勤講師
 学内役職等：法学研究科専攻長(2016～)
 留学：
 資格：
 非常勤講師：慶應義塾大学法学部
 受賞・表彰：

II 研究活動

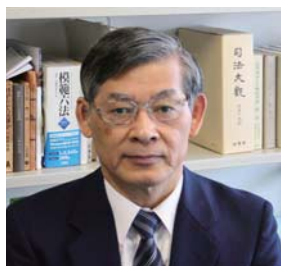
○2015年度の研究活動概略					
第二次世界大戦後の占領期におけるアメリカ法継受 GHQ法律スタッフの法思想の分析 近現代日本における司法制度の変遷 戦時・戦後初期の日本における法及び法学のあり方の実証研究					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
『戦後システムの転形(年報日本現代史第20号)』 II「戦後法学」の形成——一九五〇年代の社会状況との関係から」	共著	2015年5月25日	現代史料出版	「年報日本現代史」編集委員会編	37-70頁
『戦時体制と法学者 1931～1952』	共編著	2016年3月20日	国際書院	小野博司・出口雄一・松本尚子編	
『教養としての憲法入門』 日本国憲法の成り立ちとは？——憲法制定史(第2章) 天皇の歴史と現代における存在意義とは？——象徴天皇制(岡崎まゆみ氏と共著:第3章)	共著	2016年3月30日	弘文堂	神野潔編著	32-68頁
(学術論文)					
森林法事件——憲法の保障する「財産権」とは何か？(憲法判例再読——他分野との対話[第3回]) (山本龍彦氏と共著)	共著	2016年2月1日	『法学セミナー』61巻2号		50-59頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
ミニシンポジウム「戦時体制下の公法学史——ドイツ公法史との対話の試み」コメント「日本現代法史の立場から」	2015年6月28日	法制史学会東京部会第256回例会・第17回戦時法研究会共催	松本尚子、小野博司、小石川裕介、Michael Stolleis		

○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「戦後70年」の原風景を捉え直す——占領下の映像資料から	2015年8月20日	日比谷カレッジ	千代田区立日比谷図書文化館地下1階コンベンションホール
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
科学研究費補助金基盤研究(C): 占領管理体制下における「戦後法学」の形成過程に関する法史的観点からの再検討	2013年4月～2016年3月	日本学術振興会	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
法制史学会、法文化学会、日本法社会学会、日本法哲学会、同時代史学会、占領・戦後史研究会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2003年12月～現在	占領・戦後史研究会事務局
2011年12月～2015年12月	占領・戦後史研究会代表
2013年4月～現在	法文化学会理事
2014年4月～現在	法文化学会事務局

西 謙 二 (にし けんじ) 教授



出生年：1948(昭和23)年
 在籍：2014(平成26)年4月～
 最終学歴：一橋大学法学部
 学位：
 学位論文：
 専門分野：民法学、民事訴訟学、倒産法学
 前職：福岡高等裁判所判事
 学内役職等：
 留学：シュツットガルト地方裁判所等・ドイツ連邦共和国
 (1983年11月)
 資格：弁護士
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

Ⅱ 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の 年 月 日 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
「調査官判例解説」(平成4年7月17日第二小法廷判決)	単著	1992年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	305頁
「調査官判例解説」(平成4年12月5日第三法廷判決)	単著	1992年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	552頁
「調査官判例解説」(平成5年1月19日第三小法廷判決)	単著	1993年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	1頁
「調査官判例解説」(平成5年3月16日第三小法廷判決)	単著	1993年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	433頁
「調査官判例解説」(平成6年2月8日第三小法廷判決)	単著	1994年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	163頁
「調査官判例解説」(平成6年3月22日第三小法廷判決)	単著	1994年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	264頁
「調査官判例解説」(平成6年4月26日第三小法廷判決)	単著	1994年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	334頁
「調査官判例解説」(平成6年10月25日第三小法廷判決)	単著	1994年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	521頁
「調査官判例解説」(平成7年2月21日第三小法廷判決)	単著	1995年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	85頁

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
民事訴訟法学会

Ⅳ 法律実務に関する活動

任期、活動期間等	活動内容等
1990年4月～1995年3月	最高裁判所調査官(民事系)
2002年4月～2003年3月	東京高等裁判所判事(民事系)
2003年4月～2008年3月	東京地方裁判所判事(民事系)
2010年1月～2013年6月	福岡高等裁判所判事(民事系)

原 千砂子 (はら ちさこ) 教授



出生年：1955(昭和30)年
 在籍：1993(平成5)年4月～
 最終学歴：国際基督教大学大学院比較文化研究科博士後期課程
 学位：法学修士
 学位論文：
 専門分野：政治思想史
 前職：長崎大学商科短期大学部助教授
 学内役職等：法律学科学科長(2016～)
 留学：
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)英語の多読指導	2005年4月～現在	平易なgraded readingsを用いて、短時間に多量の英語をインプットすることにより、英語理解力の向上を狙った学習方法を、授業内に導入している。
(2)「日米法文化比較」の講義を英語で実施	2010年4月～現在	日本との比較に基づいてアメリカの社会・歴史と法との関わりを英語で講義。
4.その他教育活動上特記すべき事項		
(1)新規科目「ジェンダー論」を担当	2009年9月～現在	社会学、歴史学、心理学、生物学、政治学等の知見を広く用いながら、人間社会のジェンダー的構成についての理解を深めるための授業。学説史の説明に留まることなく、学生一人ひとりのジェンダー規範を問い直すことを目指し、学生の高い評価を得ている。

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略
ジェンダー研究分野において「銃後の思想」について研究を行った。
○その他
(その他特記事項)
法学研究科修士論文審査

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
アメリカ学会、日本政治学会、政治思想学会、初期アメリカ学会

ペマ・ギャルポ (ペま・ぎやるぽ) 教授



出生年 : 1953(昭和28)年
 在籍 : 2004(平成16)年4月～
 最終学歴 : モンゴル国立大学
 学位 : 政治学博士
 学位論文 : 中国とチベットの国際関係
 専門分野 : 国際政治
 前職 : ダライ・ラマ法王アジア・太平洋地区担当初代代表(1980～1990)
 岐阜女子大学 客員教授(1990～1996)
 岐阜女子大学 教授(1996～2004.3)
 拓殖大学海外事情研究所客員教授(1997～)
 拓殖大学海外事情研究所研究員・講師(1982～1997)
 学内役職等 : 国際交流センター長(2012～)
 国際交流センター長(～2011)
 留資格 :
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 : 1995年11月 第32回翻訳出版文化賞
 1998年2月 ベストテューター賞
 2009年7月 モンゴル国友好勲章受章
 その他 : チベット文化研究所名誉所長
 岐阜女子大学名誉教授

II 研究活動

○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「諸国の運命は大国によって左右されている」	2015年5月12日	西部すすむ事務所	日本記者クラブ
「日本がアジアに果たすべき使命ーブータンワンチュク国王から教わったこと」	2015年5月16日	いわて安全保障フォーラム	森岡グランドホテル
「6・4天安門事件26周年記念活動シンポジウム」26年を経て今、何が変わったか	2015年6月4日	中国民主陣営	新国際劇場
「中国の動向」	2015年6月6日	アジア問題懇話会	池袋 都立劇場
「チベットの現状と中国の人権問題」	2015年6月13日	チベット文化研究所	チベット文化研究所
「日本を取り巻く国際情勢」	2015年6月23日	OISCA	OISCA杉並
「最近のアジア情勢」	2016年2月24日	GIFT	私学会館
「誇りある日本の再生を目指すシンポジウム」基調講演	2016年2月28日	郷友会	グランドヒル市ヶ谷
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
「アジアのステーツマン」	2015年6月	新世界往来 ペマギャルポのアジア時評 6月号 P66～67	
「バランス感覚を失う日本人」	2015年6月29日	世界日報 ビューポイント	

「参院は良識ある安保審議を」	2015年7月28日	世界日報 ビューポイント
「G7で活躍した安倍首相・印バングラが国境問題解決」	2015年7月	新世界往来8月号 ペマギャルポのアジア時評 P66～67
20代、7つのギモン インタビュー記事	2015年7月	しがく新聞終戦70年特別企画 P4
「現在を反省すべき中国共産党」	2015年8月23日	世界日報 ビューポイント
「2つの軍事パレードが露呈する中国の矛盾」	2015年9月号	新政界往来 ペマギャルポのアジア時評 P52～54
「平和に貢献する安保法成立」	2015年9月28日	世界日報 ビューポイント
「中国 習政権の野望にどう立ち向かうか」	2015年9月30日	宏信11号 P50～63
「日本は中国のチベット弾圧を直視せよ」インタビュー記事	2015年10月号	世界思想10月号 P24～27
「遺憾なユネスコ南京事件登録」	2015年10月22日	世界日報 ビューポイント
「アジアの中の日本ー役割と可能性」	2015年11月号	月刊FECニュース11月1日号 講演要旨掲載
「ダライ・ラマの死を待っている中国」	2015年11月特大号	Will ワック出版 P90～95
「危険極まる中台首脳会談」緊急寄稿	2015年11月25日	夕刊フジ
「中台首脳の握手を危惧する」	2015年11月30日	世界日報 ビューポイント
「地球上で一番幸せの国、ブータンとは」	2014～2015年	ロータリークラブ地区大会記念誌 講演録 P72～85
「重要度増すアジアにおける日本の役割」	2016年1月号	念法真教会報 鶯の声 P72～75
「台湾総統選 蔡氏勝利を祝う」	2016年1月25日	世界日報ビューポイント
「ガリ元国連事務総長を偲ぶ」	2016年2月28日	世界日報ビューポイント
(その他特記事項)		
2015年5月14日 日本安全保障危機管理学会創立記念行事 グランドヒル市ヶ谷		
2015年6月21日 国連世界ヨガデー 出席		
2015年6月24日 インド公使 表敬訪問		
2015年7月4日 ダライ・ラマ法王お誕生を祝う会 ホテルオークラ		
2015年7月 9日 インド公使表敬訪問		
2015年7月13日 ダライ・ラマ法王日本代表事務所 表敬訪問		
2015年7月14日 インド大使と日印教育交流に関する懇談		
2015年7月19日 岩手町創立50周年記念式典 出席		
2015年7月20日 インド公使 表敬訪問		
2015年7月21日 GNH学会理事会 出席		
2015年7月22日 フィリピン大使 表敬訪問		
2015年7月24日 GIFT勉強会モデレーター		
2015年7月25日 アジア自由民主連帯協議会定例勉強会		
2016年2月11日 国護り弁論大会 審査委員		
2016年2月12日 南アジア研究会 国際文化会館		

2016年2月17日 世界連邦仏教徒懇話会理事会 高輪プリンスホテル	
日印タゴール友好協会 新橋会議室	
2016年2月18日 OISCA取材 ルノワール品川店	
2016年2月22日 外務大臣主催パーティー出席 飯倉迎賓館	
2016年2月23日 タシ塾 (株)キャリアコンサルティング会議室	
2016年2月24日 FEC勉強会 帝国ホテル	
2016年2月29日～3月9日 ブータン・バングラデシュ研究調査	
2016年3月10日 チベット決起記念シンポジウム モデレーター KPS神田	
2016年3月21日～28日 インド研究調査	
所属学会・機関・団体等の名称	
アジア政経学会、国際政治学会、南アジア学会チベット学会、国際コミュニケーション学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2001年1月～	NPO法人チベット教育福祉基金理事長
1999年4月～	(社)国際青年文化交流協会 理事
2005年5月～	(財)OISCA評議員
1994年～	NPO法人日印親善協会(JIGA)理事 Japan India Goodwill Association

升 信 夫 (ます のぶお) 教授



出生年：1958(昭和33)年
 在籍：1997(平成9)年4月～
 最終学歴：東京大学大学院法学政治学研究科博士課程
 学位：法学博士
 学位論文：J. S. ミルの自由主義思想
 専門分野：欧州政治思想史
 前職：立教大学文学部非常勤講師
 学内役職等：法学研究科長、学務部部長（2016～）
 留学：ドイツ・チュービンゲン大学(2000年9月～2001年3月)
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略					
1. 明治中期修養思想の類型化 「修養」は明治中期において多様な意味で用いられている。これを6の類型に分類し、その用例を検討した。具体的には①外形修身型、②事上磨錬型、③内面涵養型、④有限自覚型、⑤忠君愛国型、⑥立身处方型である。『桐蔭法学22巻第1号』に「明治中期「修養」の類型化」として論説を掲載した。					
2. Bildungの概念史について 「修養」「教養」は、Bildung, cultureの訳語という性格も一面では持っていた。Bildungの概念史と修養、教養の概念史を比較することで、見えてくるものについて継続的に研究している。Bildungの場合、宗教的な事柄、あるいは超越性、無限といったこととの係わりを強く持っている。これを軸にBildungの概念史を確認するならば、「修養」「教養」の概念史との異同が鮮やかになる。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「明治中期「修養」の類型化」	単著	2015年10月	桐蔭法学 第21巻1号		93-136頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本政治学会

村上 秀明 (むらかみ ひであき) 教授



出生年：1951(昭和26)年
 在籍：1993(平成5)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院体育科学研究科運動生化学専攻修了
 学位：体育学修士、農学修士
 学位論文：運動誘発性喘息(EIA)の成因について—chemical mediatorを中心として—(体育学)
 光合成細菌の肥料化について(農学)
 専門分野：公衆衛生学、健康科学、生理学、体育学
 前職：東京工業大学工学部助手,国立身体障害者リハビリテーション研究所研究員,国立小児病院アレルギー科研究員
 学内役職等：生涯学習副センター長 (2016～)
 留学籍：
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1) 体育実技(担当種目:バドミントン) 1) 優れた教育方法の実践例 ・オリジナルの出席カード(授業毎に内容・問題点の確認ができる) ・グループ学習によるオリジナルノート作成など 2) マルチメディア機器を活用した授業方法 ・ビデオ分析による指導 ・パソコンの動作分析ソフトを用いた問題点の確認と指導 3) 学生の授業以外における学習促進のための取り組み ・毎回、グループ毎の指導案作成 4) 学生や教員同士での授業評価等 ・半期毎に最初と最後にオリジナルの授業アンケート(学生用) ・教員は、最初に到達目標に対しての概要を提出し、最後に教員用アンケートに答え、教員相互の評価をする	2005年4月～現在	健康体力づくり・生活文化としてのスポーツについて理解を深め、自ら進んで楽しむための理論と実践を経験させている。特に、ラケット種目のバドミントンは個人技術の習得が重要となり、ゲーム(シングルス・ダブルス)を楽しむ為に中級者と初級者の交流もはかり、グループ学習を通して、集団と個人の有り方について再確認させている。内容は、基礎練習と試合を中心に授業の楽しみ方を適宜グループを変え、考えさせる。又、安全管理やマナーを習得させ、ビデオ解析による技術向上や万歩計による自己の健康・体力づくりの検討も行っている。特に、毎時間、反省・感想・意見を全員に書かせ、次回にフィードバックさせている。又、オリジナルのドリル練習方法や対戦表作成等を行い、常に授業に工夫を持たせている。
(2) 健康の科学 1) 優れた教育方法の実践例 ・オリジナルの出席カード(授業毎に内容・問題点の確認ができる) ・グループ学習によるオリジナルノート作成など 2) マルチメディア機器を活用した授業方法 ・ビデオ・CD・DVDによる授業 ・グループ学習での個人のデータやまとめをパソコンの入力し、分析ソフトを用いて、問題点の確認と指導 3) 学生の授業以外における学習促進のための取り組み ・3回に1回、メールにてレポート・資料の提出 4) 学生や教員同士での授業評価等 ・半期毎に最初と最後にオリジナルの授業アンケート(学生用) ・教員は、最初に到達目標に対しての概要を提出し、オリジナルの自己点検アンケートに答え、評価をする。	2005年4月～現在	この授業では、自ら監修した教科書「健康科学」を中心に「健康とは何か」について、オリジナルの資料やパワーポイントを用い授業を行っている。復習をかねての小テストによる確認、オリジナルの出席カード提出による学生とのコミュニケーションを図り、双方向の授業を行い、授業の充実を図っている。後半は、グループ学習による学生同士の活性化を図っている。

2.作成した教科書、教材、参考書		
教科書 (1)健康科学と運動実践 学術図書出版社(共著・監修)	2005年4月～	実技と理論の両方の授業で使用できるよう工夫した教科書で、健康と運動に関する新しい知見を取り入れている。
(2)健康科学(改訂版) 道和書院(共著・監修)	2005年4月～	「健康とは何か」について、多角的に考察を行っている教科書である。主な項目は、生命と健康・健康生活の実践・健康指標と生活習慣病の予防・現代生活とメンタルヘルス・人体の構造と機能・トレーニング処方・環境への適応・運動スポーツへの心理的適応・検査値の読み方・性の科学・健康と寿命で健康についてトータル的にとらえた新しい教科書となっている。
教材 (4)プロジェクト・ノート(ゼミ用) (単著)学内印刷による非売品	2005年4月～	学生生活を充実させるためのゼミノートで、自発的実践をサポートするための資料やマニュアルが中心。具体的な事例が多く記載されていて、主な内容は生活表の記入・自己分析・ストレス対処法・行動療法(学習・生活習慣など)等である。尚、毎年改訂し、工夫している。
(4)その他、作成した教材は多数		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
(1)内部疾患と処方(免疫を中心として)	2005年4月～(毎年1回)	国立身体障害者リハビリテーションセンター

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略					
<ul style="list-style-type: none"> 健康・生活に関する調査研究(肥満・ダイエット・メタボリックシンドローム) 体温調節に関する研究(特に発育発達・老化に伴う抹消部体温調節反応の変化) 青年期(大学生)における運動と行動変容に関する研究 離島などにおける健康活動等に関する研究 気功などの呼吸法に関する生理学的研究 					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
生理学	共著	2015年8月20日	化学同人	村上秀明、須田和裕、石渡貴之、長谷川博、依田珠江	細胞;3-13頁、消化吸収;101-113頁、血液と生体防御;169-181頁、性・生殖;183-194頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
正課体育の授業における気功呼吸法の授業効果	2015年9月20日	日本体力医学会第70回大会、和歌山県民文化会館	村上秀明、田中幸夫、石濱慎司		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本学校保健学会、日本公衆衛生学会、日本発育発達学会、日本体力医学会、日本運動生理学会、日本体育学会、日本肥満学会、日本陸上競技学会、日本ゴルフ学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2013年4月～2016年3月	日本ゴルフ学会幹事

Ⅳ 芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
(ゴルフ部部監督)平成27年度会長杯関東学生ゴルフ連盟男子9月月例会	2015年9月18日	一の宮カントリークラブ	仲佐翔悟 3位 予選会通過
(ゴルフ部監督)第52回会長杯関東学生ゴルフ選手権	2015年11月20日	美野原カントリークラブ	仲佐翔悟 32位(個人)

森 保 憲 (もり やすのり) 教授



出 生 年 : 1961(昭和36)年
在 籍 : 2003(平成15)年4月～
最 終 学 歴 : 中央大学大学院法学研究科博士後期課程満期退学
学 位 : 法学修士
学 位 論 文 : フランス第5共和制における「違憲審査制」
専 門 分 野 : 憲法
前 職 : 青森中央学院大学経営法学部専任講師
学 内 役 職 等 :
留 学 : ドイツ チュービンゲン大学(2008年9月～2009年3月)
資 格 :
非 常 勤 講 師 :
受 賞 ・ 表 彰 :

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本公法学会、法文化学会、青森法学会、全国憲法研究会、憲法理論研究会、ドイツ憲法判例研究会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2013年4月～	ドイツ憲法判例研究会運営委員

谷田部 玲 生 (やたべ れいお) 教授



出生年：1956(昭和31)年
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院修士課程教育研究科教育専攻社会科
 コース修了
 学位：教育学修士(筑波大学)
 学位論文：
 専門分野：教科教育学(社会科教育・公民教育)
 前職：国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部
 総括研究官
 学内役職等
 留学籍：
 資格：中学校教諭一級普通免許状(社会)、高等学校教諭一級
 普通免許状(社会)
 非常勤講師：東京学芸大学
 受賞・表彰：日本教育研究連合会表彰(2010年12月)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
「小学社会」(日本文教出版)	2015年4月より供給	
「中学社会」(日本文教出版)	2016年4月より供給	
「高等学校 現代社会」(第一学習社)	2013年4月より供給	執筆者代表
「高等学校 新現代社会」(第一学習社)	2013年4月より供給	執筆者代表
「高等学校 政治・経済」(第一学習社)	2013年4月より供給	

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本社会科教育学会、全国社会科教育学会、日本公民教育学会、日本NIE学会、中等社会科教育学会、社会系教科教育学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
1998年4月～現在	日本社会科教育学会幹事	
2000年4月～現在	日本社会科教育学会評議員	
2002年6月～現在	全国高等学校NIE研究会顧問	
2005年4月～現在	全国社会科教育学会理事	
2014年4月～現在	中等社会科教育学会理事	
2014年4月～現在	日本NIE学会副会長	
2016年4月～現在	日本公民教育学会会長	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
「教科書・教材のデジタル化に関する調査研究(その2)」社会科部会部会長	2013～2017年度	公益財団法人教科書研究センター
教科書研究センター調査研究企画委員会委員	2014年4月～現在	公益財団法人教科書研究センター

山口 裕博 (やまぐち やすひろ) 教授



出生年：1951(昭和26)年
在籍：1994(平成6)年4月～
最終学歴：中央大学大学院法学研究科博士後期課程民事法専攻
学位：博士(法学)
学位論文：芸術と法－英米法を中心とする学際的研究－
専門分野：英米法、民法
前職：女子美術大学芸術学部助教授
学内役職等：
留学：ウィスコンシン大学ロースクール客員研究員(アメリカ合衆国)
資格：
非常勤講師：国立音楽大学音楽学部、女子美術大学芸術学部
受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
講義科目における受講生の理解を深め、知識を定着させるための授業の実践		講義科目の授業において、双方向型の授業を展開させ、受講生の理解度を深めるため、毎時間ごとに授業内容を確認する小テストを実施し、次の授業時に解説をすることで知識を定着させるとともに、授業内容に連続性を持たせる工夫を行った。

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略
比較契約法領域においては、イギリス契約法における黙示的契約条項に関する法理の近時の展開について、圧倒的な影響を及ぼして来たHoffmann卿の契約解釈法則の表明から、それに修正を加え、対峙して新たな方途を模索するイギリス最高裁判例までの検討を行い、その成果を桐蔭法学誌上で発表する準備を行った。芸術法領域においては、2013年に出版した『芸術法の基礎』の改訂版発表に向けて、内容面の検討と新たな法情報の収集を行った。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
比較法学会、日米法学会、信託法学会、日本EU学会、日本私法学会

秋田知子（あきた ともこ）准教授



出生年：1973(昭和48)年
在籍：2005(平成17)年4月～
最終学歴：桐蔭横浜大学法学研究科博士後期課程
学位：法学修士
学位論文：文書提出命令の改正と文書管理のあり方～特に企業法務部門における訴訟管理対策への指針として
専門分野：民事法
前職：桐蔭横浜大学法科大学院教育助手
学内役職等：
留学：
資格：
非常勤講師：
受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)裁判法 I	2007年9月1日～	初学者向けに穴埋め式の教材を作成し、授業ごとに配布し、知識の確認を行った。
(4)民事訴訟法	2014年～	初学者向けに○×形式の教材を作成し、授業ごとに配布し、知識の確認を行った。
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)英語A-1、A-2で使用した教材	2009年4月1日～2013年3月	初歩的な英文法テキストを大学生向けに作成した。
(2)英語A-1、A-2で使用した教材	2013年4月～	2009年～2013年まで使用していた本学大学生向けテキストを改訂し出版した。

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略
アメリカにおける弁護士の役割と倫理の研究を継続し、さらにアメリカの法律扶助について研究を始めた。特に民事訴訟において貧しい当事者に弁護士をつけることは権利として認められるのかという問題を検討している。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本交渉学会、日本民事訴訟法学会

麻妻 和人 (あさづま かずひと) 准教授



出生年：1969(昭和44)年
 在籍：2005(平成17)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科博士前期課程修了
 学位：法学修士
 学位論文：捜査の規律に関する一考察 ―盗聴―
 専門分野：刑事訴訟法
 前職：桐蔭横浜大学法科大学院教育助手
 学内役職等：
 留学資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
米国刑事判例の動向V	共著	2016年2月5日	中央大学出版部	椎橋隆幸 編	[21] [22] [24]を担当
(学術論文)					
Warger v. Shauers, 574 U.S. __ (2014)	単著	2015年12月	中央大学比較法雑誌 49巻3号		125頁～136頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本刑法学会 日本被害者学会、警察政策学会

韓 寧 (かん ねい) 准教授



出生年：1974(昭和49)年
在籍：2007(平成19)年4月～
最終学歴：中央大学大学院法学研究科博士後期課程
学位：法学博士
学位論文：中国における調停に関する理論及び実証的な検討一日・米法との比較の視点から
専門分野：紛争処理法、比較法、中国法
前職：北京法務局
学内役職等：
留学：群馬大学社会情報学研究科修士課程、中央大学法学研究科博士後期課程
資格：中国弁護士
非常勤講師：
受賞・表彰：

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略		
2015年度、引き続き日中民事訴訟法の比較に取り組んでおり、また、高齢者ADRの課題にも取り組んでおりました。ほかに、『和解技術論』という本を中国語に翻訳いたしました。		
○その他		
(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
法学部三年次編入学学生募集	2015年4月8日～2015年4月11日	南京師範大学(中国)
北京師範大学、北京理工大学、清華大学訪問	2015年11月27日～2015年12月1日	北京師範大学、北京理工大学、清華大学(中国)

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
仲裁ADR法学会、民事訴訟法学会、司法アクセス学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2007年4月～現在	中央大学日本比較法研究所嘱託研究員

小島 奈津子 (こじま なつこ) 准教授



出生年：1970(昭和45)年
在籍：2004(平成16)年4月～
最終学歴：法政大学大学院社会科学部法律学専攻満期中退
学位：法学修士
学位論文：
専門分野：民法
前職：
学内役職等：
留学：
資格：
非常勤講師：
受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
ミニテスト(授業内)の実施	民法ⅠⅡにおいて	出席を促し、学習を促進するために、授業内テストを期末試験のほか3回程度行っている。予告を前回授業でし、復習を促している。
契約法入門の配布	民法Ⅱにおいて	テスト前の勉強に役立つため、学生に配布した。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
私法学会

谷 脇 真 渡 (たにわき まさと) 准教授



出 生 年 : 1974(昭和49)年
在 籍 : 2005(平成17)年4月～
最 終 学 歴 : 桐蔭横浜大学大学院法学研究科博士後期課程
学 位 : 法学修士
学 位 論 文 : 抽象的事実の錯誤における「符合の実質化」とその限界
専 門 分 野 : 刑法
前 職 : 桐蔭横浜大学法科大学院教育助手
学 内 役 職 等 :
留 学 :
資 格 :
非 常 勤 講 師 : 神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部
受 賞 ・ 表 彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
刑法 I・II	2007年～現在	講義用レジュメの作成および授業での活用 双方向授業の実践
社会科学特別講義Ⅲ	2015年～現在	テーマについて学生の理解を促進させるためのパワーポイントや映像教材の活用

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略
1.故意と錯誤に関する研究の一環として、「業務上過失」についての研究に取り組み、その成果を桐蔭法学研究会において報告した。 2.引き続き、故意と錯誤およびこれに関連する問題点についても研究し、さらに発展させていきたい。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本刑法学会

茂木 洋平 (もぎ ようへい) 専任講師



出生年：1981年10月
 在籍：2012年4月～
 最終学歴：東北大学大学院法学研究科後期博士課程修了
 学位：博士(法学)
 学位論文：Affirmative Actionの正当化法理 ～アメリカの判例と学説を中心に～
 専門分野：憲法
 前職：熊本学園大学経済学部リーガル・エコノミクス学科助教
 学内役職等：
 留学：
 資格：
 非常勤講師：横浜市立大学(2013年4月～)
 関東学院大学法科大学院(2016年4月～)

受賞・表彰：東北大学男女共同参画奨励賞(沢柳賞)研究部門

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
榎澤幸広・奥田喜道編『憲法未来予想図』(現代人文社)	2015年8月	近未来の日本を予測し、憲法の観点から分析。平等の章を担当。

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略					
<p>博士論文をまとめた業績を刊行した(『Affirmative Action正当化の法理論-アメリカ合衆国の判例と学説の検討を中心に-』(東北大学法政実務叢書 第3巻)(商事法務, 2015年11月))。また、AAに関連して以下の業績を刊行した(「多様性の価値とAffirmative Action」, 憲法理論研究会編『憲法理論叢書第23巻』(敬文堂, 2015年11月)(197-214頁))。また、共著として以下の業績を刊行した(吉田仁美・渡辺暁彦編『憲法判例クロニクル』(ナカニシヤ出版, 2016年5月)参議院定数不均衡, 衆議院定数不均衡, 天皇の民事裁判権, 首相の靖国神社参拝, 婚外子相続分差別担当; 辻村みよ子・山元一・佐々木弘通編『憲法基本判例』(尚学社, 2015年9月)(婚外子相続分差別担当, 102-114頁))。また、判例評釈として以下の業績を刊行した(「Michigan州憲法の修正による大学の入学者選抜でのAffirmative Actionの禁止は合衆国憲法に違反しないとされた事例-Schutte v. Coalition to defend Affirmative Action, 134 S.Ct 1632 (2014)-」, 桐蔭法学22巻2号(2016年3月)45-64頁(桐蔭法学会); 「参議院議員における定数不均衡[最高裁大法廷平成26.11.26判決]」, 単著, 桐蔭法学22巻1号(2015年9月)(桐蔭法学会), 137-149頁)。</p> <p>現在、アメリカの合衆国裁判所が保守化した理由について、合衆国大統領による合衆国裁判所裁判官の任命権限を通じての司法統制の観点から考察している。また、合衆国裁判所におけるマイノリティの認識の変化について研究している。伝統的に、合衆国裁判所は、マイノリティを「切り離され孤立した」政治的弱者だと認識して保護の対象としてきたが、近年、合衆国裁判所において、マイノリティは団結し組織化されており、政治的に強者だと認識され、司法による保護の対象から外されている。この現象を判例を通じて、さらには政治学の論稿にまで考察範囲を広げて研究している。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
憲法基本判例	共著	2015年9月	尚学社	辻村みよ子・山元一・佐々木弘通編	102-114頁
Affirmative Action正当化の法理論	単著	2015年11月	商事法務	茂木洋平	308頁
憲法理論研究会編『憲法理論叢書第23巻』	共著	2015年11月	敬文堂	憲法理論研究会編	194-217頁

(学術論文)				
「参議院議員における定数不均衡 [最高裁大法廷平成26.11.26判 決]」	単著	2015年9月	桐蔭法学22巻1号	137-149頁
「Michigan州憲法の修正による大 学の入学者選抜でのAffirmative Actionの禁止は合衆国憲法に違 反しないとされた事例-Schuette v. Coalition to defend Affirmative Action, 134 S.Ct 1632 (2014)-」	単著	2016年3月	桐蔭法学22巻2号	45-64頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演				
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名	
政治プロセスの理論とマイノリティ保護-マイノ リティは政治的弱者なのか	2016年2月	憲法と差別的文化研究会	成城大学	
○その他				
(補助金・助成金等)				
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等		
出版刊行助成	2015年6月	未延財団出版助成		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本公法学会 憲法理論研究会 全国憲法研究会 日米法学会 東北大学公法判例研究会

箭野章五郎(やの しょうごろう) 講師



出生年：1967(昭和42)年
在籍：2015年4月～
最終学歴：中央大学大学院法学研究科刑事法専攻博士後期課程修了
学位：博士(法学)
学位論文：「刑事責任能力の研究」
専門分野：刑事法
前職：獨協大学法科大学院特任助教
学内役職等：
留学：
資格：
非常勤講師：明治学院大学法学部、中央大学法学部
受賞・表彰：

Ⅱ 研究活動

○2015年度の研究活動概略					
刑事責任能力についての研究を継続して行った。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
刑事裁判例批評(308)「医療観察法鑑定の意見の一部を採用しない場合における裁判所の判断の在り方」	単著	2015年11月20日	刑事法ジャーナル46号		169-175頁

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本刑法学会

浅岡 慶太 (あさおか けいた) 助教



出生年：1974(昭和49)年
 在籍：2001(平成13)年4月～
 最終学歴：桐蔭横浜大学大学院法学研究科博士後期課程満期退学
 学位：法学修士
 学位論文：若者から少年へ—ドイツ少年刑法の歴史的前提
 専門分野：ヨーロッパ近代法史
 前職：
 学内役職等：
 留学：チュービンゲン大学(ドイツ)(2004年7月～2005年3月)
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略					
プロイセン一般ラント法(1794)第2編19章「救貧施設とその他の慈善的な基金について」の条文を翻訳し、当時の救貧事情と地方団体や国家の関係性について研究した。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
プロイセン一般ラント法(1794)第2編19章 救貧施設とその他の慈善的な基金について(試訳)	単著	2016年3月15日	桐蔭法学 第22巻 2号	浅岡慶太	65-100頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日独法学会 青森法学会

高瀬 武志(たかせ たけし) 助教



出生年：1986(昭和61)年
 在籍：2014年(平成26)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院人間総合科学研究科体育学専攻博士前期課程修了
 学位：修士(体育学)
 学位論文：武士道思想における死生観に関する研究
 専門分野：武道論・武道史・思想史・死生観・体育学・剣道
 前職：桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部助手
 学内役職等：剣道部監督
 留学：
 資格：中学校・高等学校教諭1種免許(保健体育)・剣道五段
 非常勤講師：東京都市大学
 受賞・表彰：神奈川県スポーツ優秀選手表彰・神奈川県文化賞スポーツ賞・筑波大学体育専門学群長賞・桐蔭横浜大学法学部エクセレントティーチャー賞

II 研究活動

○その他 (表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
全国教職員剣道大会 第三位	2015年8月	全国教職員剣道大会	高瀬・小山・有馬・天野・川村

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本武道学会・身体運動文化会・日本武道学会剣道専門分科会・スポーツ法学会		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
東日本大震災復興支援活動	2012年～	福島県立相馬高校剣道部や近隣剣道場との交流
はまっ子ふれあいスクール剣道体験教室	2014年～	あざみ野第二小学校において開催

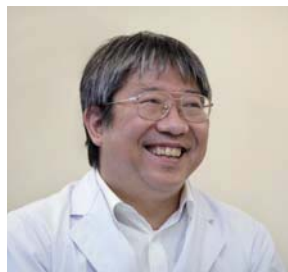
IV 芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
第60回春季神奈川県学生剣道選手権大会	2015年6月	関東学院大学体育館	女子団体戦:第三位
第4回東都学生剣道優勝大会	2015年7月	城西大学体育館	女子個人戦:第三位(菊川)
第60回秋季神奈川県学生剣道選手権大会	2015年10月	関東学院大学体育館	女子個人戦:第三位(牛込)

医用工学部 (Faculty of Biomedical Engineering)

生命医工学科 (Department of Medical Technology)

小寺 洋 (こでら よう) 教授



出生年 : 1962(昭和37)年
在籍 : 1988(昭和63)年4月～
最終学歴 : 東京工業大学理学部
学位論文 : Chemical modification of proteins and biological substances with polyethylene glycols.
専門分野 : 生物化学、タンパク質工学
前職 :
学内役職等 : 研究推進部部长(2014～)
研究推進部副部长(～2011)
留学 :
資格 :
非常勤講師 :
受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)学生の授業外による学習促進のための取組	2005年～現在	・毎回授業の最初15分程度を割り、前回の講義内容を中心に小テストを課している。・基礎学力が不十分な学生に関してはIndecafeへ誘導して個別指導を行わせている。
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)市販教科書からの引用により作成したプリント	2005年～現在	参考のため配布している。

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略					
タンパク質の科学修飾による改変により、生体内での代謝酵素のデリバリーや免疫応答の改善を目指している。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
“Genetic factors involved in the pathogenesis of systemic lupus erythematosus”	共著	2015年	Mini-reviews in Medical Chemistry, in press.	Kodera, Y., Ohtsuji, M., Shirai, T., Hirose, S., and Nishimura, H.	
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
“Genetic control of the abnormal activation and sequestration of splenic CD4+ Tcells in autoimmune disease-prone (NZB x NZW)F1 hybrid mice”	2015年11月18日	The 44th Annual Meeting of Japanese Society for Immunology Sapporo Conbebtion Center	Hirono Fusako, Obata Masaomi, Kodera Yo, Ohtsuji Mareki, Shirai Toshikazu, Hirose Sachiko, Nishimura Hiroyuki		

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本生化学会、日本免疫学会

齋藤 潔 (さいとう きよし) 教授



出生年：1956(昭和31)年
 在籍：1990(平成2)年3月～
 最終学歴：筑波大学大学院博士課程
 学位：理学博士、学術修士(環境)
 学位論文：Synthesis and Applications of Hemin Copolymer as Polymer Reagents
 専門分野：有機化学、高分子化学、機能性高分子化学、環境科学
 前職：通産省工業技術院製品科学研究所博士研究員(非常勤)
 学内役職等：学生部長(2010～2013)
 留資格：(社)ネイチャーゲーム協会初級指導員
 非常勤講師：
 受賞・表彰：松籟科学技術振興財団研究助成(1996)、日本環境教育学会浦野環境教育奨励金(2000)、第9回コカ・コーラ環境教育賞奨励賞(2002)、(公益社団法人)日本化学会 化学教育賞(2015)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
学生実験、講義、演習の内容の関連付け、講義内への演示・参加型実験プログラムの組み込みの実施と改善	1993年度～現在	同一学期に開講される学生実験、講義、演習で担当科目を完全に内容を一致させるようにし、重要な概念が繰り返して学生に伝わるよう配慮した。レポート作製についても、実験時間や演習で、個別に指導するようにした。生命環境システム工学科の2年次の有機化学I,II,および、今年度生命医工、電子情報工学科2年次の有機化学I,II,において、学生の状況に合わせた実験プログラムを立ち上げ、講義時間に組み込んだ。
なんでも相談室、インディーカフェ 企画	1999年度～現在	オフィスアワーを学生に公開し、講義の補講、実験レポートの作成に関する個人相談を受け付けている。
高校生に対する課題研究指導	1996年度～現在	桐蔭高校、県内工業高校の生徒に対する課題研究の指導を行っているテーマは地球環境、導電性ポリマーなどである。
ブレインストーミングによる討論や、演習、発表などを講義の中で実施	2005年～現在	環境調和と化学において国際的な環境問題を取り上げ、さらに、キャリア研究ではかだいについての小論文をまとめるための演習としてブレインストーミングを実施した 地域の小学生に対する、環境教育プログラムの開発と継続的な実践を行っている。
課外学習としてプロジェクト研究の単位化とその指導	2002年～現在	各研究室でのテーマの認定と、日本化学会普及交流委員会の化学普及活動と連携して出前実験教室を実施し、現在までに学会より250枚の感謝状が学生に「授与された。
文部省サイエンス・ボランティア(現文部科学省)、(社)日本ネイチャーゲーム協会初級指導員、環境庁子どもエコクラブ(現環境省)の環境教育活動	1995年度～現在	日本化学会の化学普及行事の企画、実施を委員として行っている。
(8) 公益社団法人 日本化学会 教育・普及部門普及交流委員会委員、及び実験体験小委員会委員長	2012年～現在	(7)の活動を継続している。また、東日本大震災の被災地からの依頼で気仙沼、石巻、南相馬の仮設や小学校、幼稚園、図書館で実験教室を行った。

2.作成した教科書、教材、参考書		
(学内版教科書) 応用化学実験、機能化学工学実験、生命・環境システム実験テキスト電子情報工学科1,2年実験テキスト	1992年度～現在	2年次、3年次の有機化学系学生実験のテキストを作成し、配布している。
有機化学、反応有機化学、有機合成化学、理論有機化学問題集、有機化学I,II、生命医工学科有機化学I,II、高分子化学	1993年度～現在	2年次、3年次の有機化学系講義の副読本(問題集)を作成し、配布している。
生物有機化学、環境科学資料、環境調和化学、生物無機化学、大学院環境調和学特論	1993年～現在	講義資料を編集してテキストとして配布している。
課題研究及び化学普及活動用テキスト、資料	1995年度～現在	「化学は地球を救う」、「導電性ポリマーをつくってみよう」、「あやしい化学実験ノート」、「おもしろ理科教室テキスト」、「ミニ地球をつくろう」などの資料を作成し、配布した。
生命医工学科用の有機化学基礎、有機化学I, II, 高分子化学(生体高分子)	2010年～現在	臨床検査技師を目指す学生や生命科学志向の学生向けの内容に全面改定した教科書を作成して配布している。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
自己点検評価	1994年度～現在	年2回学生に対する担当講義のアンケートに基づき大学自己点検評価委員会に報告している。アンケートの結果について積極的に次年度の授業改善のために利用している。
4.その他教育活動上特記すべき事項		
公益社団法人 日本化学会 教育・普及部門普及交流委員会委員、及び実験体験小委員会委員長	2012, 2013, 2014, 2015, 2016年	本学の学生を出前実験教室のTAとしての活動に参加させて、その活動に対する日本化学会会長からの感謝状の授与が継続している。また、東日本大震災の被災地からの依頼で気仙沼、石巻、南相馬の仮設や小学校、幼稚園、図書館で実験教室を行った。
公益社団法人 日本化学会 化学教育賞	2015年度	「化学との出会いのための実験体験」への貢献により、日本化学会から化学教育賞が授与された。

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略					
黄色ブドウ球菌の産生する色素の単離とその機能、および光反応特性 ポリアニリンを用いる活性酸素の発生とその応用 新規ポリアニリン電極の作製に関する研究 活性酸素発生装置を用いる生体内での反応のモデル反応系の構築 植物由来生理活性物質の活性酸素との反応挙動					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
「化学との出会い」に期待すること(巻頭言)	単著	2016年3月1日	日本化学会「化学と教育」誌、64巻、3号	齋藤 潔	89頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所		共同発表者名	
(国内学会発表)					
「化学との出会い」のための出前実験教室の継続的実施のための仕組みの構築と実践	2016年3月24日	日本化学会第96春季年会、京都		齋藤 潔・朝比奈 健太・養田 太一・鹿島 大雄・小石 明弘	
化学教育賞受賞講演 「化学との出会い」のための実験体験への貢献	2016年3月26日	日本化学会第96春季年会、京都		齋藤 潔	

○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
化学教育賞受賞講演 「化学との出会い」のための実験体験への貢献	2016年3月26日	日本化学会第96春季年会、 京都	京都 同志社大学
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
わくわく実験教室	2011年、2012年、2013年、2014年、2015年、2016年	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会の4団体で構成)	
基盤研究(B)「モンゴル産フライアッシュの有効利用に関する総合的調査」	2013年、2014年、2015年度	文部科学省科学研究費補助金、連携研究者	
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
平成27年度 日本化学会 化学教育賞受賞者紹介	2016年3月	化学と工業、69巻、3号、212頁	
平成27年度 日本化学会 化学教育賞受賞者紹介	2016年3月	化学と教育、64巻、3号、143頁	
(その他特記事項)			
おもしろ理科教室のブース(参加型実験)を担当(2013年、2014年、2015年)			

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
日本化学会、日本化学会生体機能関連化学部会、有機合成化学協会、高分子学会、民族自然史研究会、日本内分泌攪乱化学物質学会、日本環境教育学会、植物化学調節学会、こども環境学会		
任期、活動期間等	学会等における役職等	
1995年～現在	文部科学省専門教育課サイエンス・ボランティア登録	
1996年～現在	(社)ネイチャーゲーム協会初級指導員	
2011年4月～現在	公益社団法人日本化学会教育・普及部門普及交流委員会 実験体験小委員会委員長	
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
科学技術館 夏休み子ども化学実験ショー わくわく実験教室 犯人は誰だ？化学の技で謎を解け！	2015年8月1日、2日	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会)で構成
南相馬市立中央図書館 南相馬市教育委員会共催 わくわく実験教室、けんきゅうしゃをちよっとたいていけん！ しょくぶつからDNAをとりだそう！！	2015年8月11日、12日	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会)で構成
桐蔭横浜大学 おもしろ理科教室、わくわく実験教室、犯人は誰だ？化学の技で謎を解け！	2015年8月18日、	桐蔭横浜大学
荒川区東日暮里ふれあい館、荒川区西日暮里ふれあい館、わくわく実験教室、犯人は誰だ？化学の技で謎を解け！	2015年8月24日、	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会)で構成
町田市立南成瀬小学校 わくわく実験教室 犯人は誰だ？化学の技で謎を解け！	2015年9月2日、	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会)で構成

桐蔭横浜大学燦爛祭 わくわく実験教室、犯人は誰だ？化学の技で謎を解け！	2015年9月26日、27日	桐蔭横浜大学
江戸川区立小松川小学校 わくわく実験教室 犯人は誰だ？化学の技で謎を解け！	2015年10月7日、	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会で構成)
大阪京セラドーム、化学の日子ども化学実験ショー わくわく実験教室 犯人は誰だ？化学の技で謎を解け！	2015年10月24日、25日	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会で構成)
日本科学未来館、科学技術振興機構、サイエンスアゴラ わくわく実験教室 犯人は誰だ？化学の技で謎を解け！	2015年11月14日、15日	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会で構成)

徳岡 由一 (とくおか よしかず) 教授



出生年：1965(昭和40)年
 在籍：2001(平成13)年4月～
 最終学歴：東京理科大学大学院理工学研究科工業化学専攻修士課程
 学位：博士(工学)
 学位論文：界面活性剤水溶液による香料の可溶化
 専門分野：生体材料工学、光治療工学、薬物送達学
 前職：エステー化学株式会社 研究開発部主任研究員
 学内役職等：医用工学部 生命医工学科 学科長
 留資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：平成11年度日本油化学会進歩賞「界面活性剤水溶液による香料の可溶化と揮発制御に関する研究」

2003年度材料技術研究協会技術賞「癌の光線力学的療法用新規メタルハライドランプ」

第11回日本油化学会エディター賞「Oxidation Decomposition of Unsaturated Fatty Acids by Singlet Oxygen in Phospholipid Bilayer Membranes」

2009年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞「ラメラ構造を有するメソポーラス・アパタイトの面間隔制御」

SPACC-17 Poster Award, "Synthesis of oxovanadium(IV) complexes from hydroxyazine-type heterocycles and their apoptosis-inducing activity against leukemia cells"

Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010 Presents Poster Session Award, "Effect of 18-crown-6 on protoporphyrin IX accumulation in cultivated cancer cells"

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
(3) バイオマテリアル学(生命医工学科3年)の授業で「血液検査学(臨床検査学講座)」(医師薬出版)を教科書として使用	2011年～	血液学の基礎および凝固系の説明にりようする。網羅的に記載されており、国家試験のみならず、将来、臨床現場でも十分に利用できる。
(4) 生命工学セミナーⅡ(生命医工学科3年)の授業で「臨床化学検査学(臨床検査学講座)」(医師薬出版)を教科書として使用	2011年～	臨床化学に関する測定原理、測定方法等が網羅的に記載されており、国家試験のみならず、将来、臨床現場でも十分に利用できる。
(6) 生物学Ⅰ(生命医工学科2年)の授業で「生化学(臨床検査学講座)」(医師薬出版)を教科書として使用	2012年	臨床検査学を習得するのに際して必要な生化学を網羅した書籍である。
(7) 生物学Ⅱ(生命医工学科2年)の授業で「生化学(臨床検査学講座)」(医師薬出版)を教科書として使用	2012年	臨床検査学を習得するのに際して必要な生化学を網羅した書籍である。
(1) 化学(生命医工学科1年生)の授業で「化学の基礎」(岩波書店)を参考書として使用	2013年～	高校での化学の復習と書あるいは大学での化学の入門書として最適である。
(2) 化学(生命医工学科1年生)の授業で「化学(臨床検査学講座)」(医師薬出版)を教科書として使用	2013年～	臨床検査技師養成のための必要最小限の内容が網羅された書籍である。

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略					
<p>【生体材料工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> 前年に引き続き、水晶発振子マイクロバンス(QCM)を用いて血液凝固および血栓線溶プロセスのモニターリングについて検討した。その結果、フィブリノゲンおよびトロンピンを用いることでQCM基板上にフィブリンが吸着することを見出し、さらにプラスミノゲンおよびウロキナーゼを用いることで基板上のフィブリンが分解除去されることを見出した。この結果、QCMを用いて血液凝固および血栓線溶プロセスをモニターリングすることに成功した。さらに、タンパク分解酵素であるナットウキナーゼを、プラスミノゲンおよびウロキナーゼ系の代替として使用した場合、プラスミノゲンおよびウロキナーゼ系と比較してフィブリンは顕著に分解されることがわかった。 以前行ったオゾン-紫外線処理したポリスチレンおよびポリエチレンテレフタレート表面の化学的性状変化および血清タンパク吸着に関する研究について、国内外の学術誌への投稿の準備を開始した。 <p>【光治療工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> 前年スタートした5-アミノレブリン酸(ALA)を光増感剤として用いたフォトダイナミックセラピー(PDT)による<i>P.acnes</i>に対する殺菌効果について、国内学会(第25回日本光線力学学術講演会)にて発表した。さらに、上皮性癌細胞に対するPDT効果におけるエピガロカテキンガレートの添加効果について検討を開始した。 多剤耐性菌に対する光治療について、国内学会(平成27年度日臨技首都圏支部医学検査学会)にて発表した。 <p>【薬物送達学】</p> <ul style="list-style-type: none"> PDTに用いるALAの経皮吸収促進を目的に、新たにW/Oエマルションを用いた光増感剤の経皮吸収効果について引き続き検討した。さらに、光増感剤を内包したリポソームを調製し、その経皮吸収についても検討した。その結果、W/OエマルションおよびリポソームはALAの経皮吸収を有意に増加することを見出した。 以前行ったALAの経皮吸収に対するイオントフォoresisの効果に関する研究について、国外の学術誌への投稿の準備を開始した。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツ健康政策学部の先生と、アスリートの貧血調査に関する共同研究を行った。その結果は、国内学会(第70回日本体力医学会大会)にて発表した。 					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
Effect of Tween 20 concentration on macropore formation in spherical diopside particles.	共著	2015	Journal of the Japan Society of Colour Material, 88 (1)	Yuhki Nakamura, Aya Hasebe, Tetsuya Johno, Takuro Murakami, Yoshikazu Tokuoka, and Norimichi Kawashima	2-7
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
5-Aminolevulinic acid による <i>Propionibacterium acnes</i> へのポルフィリン化合物の集積	2015年7月	第25回日本光線力学学術講演会 シンポジウム3「感染症への新展開(PACT)」(京王プラザホテル)	緒方亜里紗, 蓮沼裕也, 菊池恵美衣, 石井琢也, 石塚昌宏, 徳岡由一		
大学女子バスケットボール選手における鉄欠乏性貧血と血清フェリチンとの相関	2015年9月	第70回日本体力医学会大会(和歌山県民文化会館)	清水智美, 蓮沼裕也, 奥田美穂, 小山桂史, 木村和宏, 河合優一, 徳岡由一		
<i>Staphylococcus aureus</i> に対する白色LEDを用いた光線療法の基礎的検討	2015年11月	平成27年度日臨技首都圏支部医学検査学会(第4回)(パシフィコ横浜アネックスホール)	蓮沼裕也, 金沢浩平, 池上和志, 角田拓也, 若松篤, 永田明義, 徳岡由一		
Accumulation of porphyrin compounds into the <i>Propionibacterium acnes</i> by 5-aminolevulinic acid and its derivatives	2015年11月	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2015	Arisa Ogata, Yuya Hasumuma, Emii Kikuchi, Takuya Isii, Masahiro Ishizuka, Yoshikazu Tokuoka		
UV-ozone generator using microwave plasma	2015年11月	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2015	Naoki Kusumoto, Shigemi Hiraoka, Norimichi Kawashima, Yoshikazu Tokuoka		

○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
可溶化とマイクロエマルジョン	2015年6月	第16回日本油化学会フレッシュマンセミナー(界面科学と界面活性剤)	東京理科大学森戸記念館(新宿区)
光の医療分野への応用	2015年10月	第15回高機能膜フォーラム	東京大学武田先端知ビル武田ホール(文京区)

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本油化学会、材料技術研究協会、日本光線力学学会、日本光医学・光生物学会、日本バイオマテリアル学会、色材協会、ポルフィリン-ALA学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2003年4月～現在に至る	材料技術研究協会「MATERIAL TECHNOLOGY」編集委員会委員
2007年4月～現在に至る	材料技術研究協会「MATERIAL TECHNOLOGY」副編集委員長
2008年4月～現在に至る	色材協会編集委員会委員(現在に至る)
2008年4月～現在に至る	色材協会関東支部審議委員(現在に至る)

西村 裕之 (にしむら ひろゆき) 教授



出生年：1955(昭和30)年
 在籍：1994(平成6)年4月～
 最終学歴：東京工業大学大学院理工研究科博士後期課程
 学位：理学博士
 学位論文：Chemical Modification of enzymes with polyethylene glycol. A new technique to render exogenous enzymes non-immunoreactive, non-immunogenic and stable in the circulation.
 専門分野：分子生物学、免疫工学
 前職：順天堂大学医学部助教授
 学内役職等：工学研究科長、医用工学専攻長(2014～)
 留学：Hospital for Joint Diseases, Beth Israel Medical Center New York N.Y., USA 研究員
 資格：
 非常勤講師：順天堂大学
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)英語教材を用いた専門科目教育	2008年4月12日～	学部担当科目、「臨床免疫学」および「分子生物学I」および「分子生物学II」の講義において、英語教材を取り入れる。毎回の授業内容を要約する英文(A4版1枚相当)を、授業の終わりに課題として、学生に与える。学生には、内容を平易な日本語で記述することが科せられる。およそ12回の講義を通じて、学生は専門科目の内容を学ぶと同時に、英文の読解能力を培うことができる。学生はよく努力してよい成果をあげている。
(2)演習を中心とする大学院専門科目教育	2008年4月12日～	大学院の専門科目「バイオインフォマティクス」では、遺伝統計学の基礎と、ゲノム情報処理の初歩を実習を通じて学ばせる。遺伝統計学では、遺伝連鎖解析の方法の基礎を扱った上で、LINKAGE Softwareを用いた疾患家系を対象とする遺伝連鎖解析の実習を行う。ゲノム情報処理の基礎では、Perlを用いた文字列情報の処理について、演習する。理論的観点よりも、実際にDNAを扱ういわゆるwet領域の研究者の立場から、実地で役に立つバイオインフォマティクスを教えるプログラムを構築しているところに特徴がある。

II 研究活動

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
“Preventive and therapeutic effects of anti-IL-6 receptor antibody on spontaneously occurring rheumatoid arthritis in an FcγRIIB-deficient mouse model”	2015年4月23日	第59回 日本リウマチ学会・ 総会名古屋国際会議場	大辻希樹, 林青順, 西川桂子, 岡崎英規, 天野浩文, 西村裕之, 西本憲弘, 白井俊一, 広瀬幸子
「細胞特異的FcγRIIB発現欠損マウスの樹立によるYaa誘導ループ腎炎発症機序の解明」	2015年4月23日	第59回 日本リウマチ学会・ 総会名古屋国際会議場	林青順, 西川桂子, 大辻希樹, 天野浩文, 西村裕之, 白井俊一, 広瀬幸子

“Role of inhibitory Fc γ R II b and autoimmune-prone SLAM haplotype in autoimmune disease”	2015年11月18日	The 44th Annual Meeting of Japanese Society for Immunology Sapporo Conbebtion Center	Keiko Nishikawa , Lin Qingshun , Tsurui Hiromichi , Amano Hirofumi, Okazaki Hideki , Ohtsuji Mareki, Shirai Toshikazu , Hirose Sachiko , Nishimura Hiroyuki
“Cell Type-specific role of inhibitory IgG Fc receptor II B in Yaa-induced murine lupus”	2015年11月18日	The 44th Annual Meeting of Japanese Society for Immunology Sapporo Conbebtion Center	Lin Qingshun , Tsurui Hiromichi , Keiko Nishikawa, Amano Hirofumi, Ohtsuji Mareki, Nishimura Hiroyuki , Shirai Toshikazu , J.Sjef.Verbeek , Hirose Sachiko

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本免疫学会、日本分子生物学会、日本癌学会、日本生化学会、日本臨床免疫学会、日本リウマチ学会

萩原 啓実 (はぎわら ひろみ) 教授



出生年：1957(昭和32)年
 在籍：2004(平成16)年4月～
 最終学歴：東京工業大学大学院理工学研究科博士後期課程
 学位：理学博士
 学位論文：Studies on Endothelial Cells(東京工業大学1984)
 専門分野：生物化学、分子生物学、細胞生理学、骨代謝学
 前職：東京工業大学バイオ研究基盤支援総合センター助教授
 学内役職等：医用工学部長、先端医用工学センター長(2014～)
 工学研究科長、医用工学部生命・環境システム工学科長、
 医用工学部生命医工学科長、先端医用工学センター長
 (～2013)
 留学：米国バンダービルト大学医学部(1987年4月～1988年6月)
 資格：高等学校教諭二級普通免許状(教科名生物)
 受賞・表彰：手島科学奨励賞(1984年)、三越医学賞(1990年)、東京高
 血圧研究会奨励賞(1991年)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)対話型授業の実施	2005年4月～	教員が一方向的に話をする授業ではなく、学生に手と頭を使わせる対話型の授業を試みている。
(2)ビジュアルな教育	2005年4月～	授業の関連事項をまとめ、プロジェクターなどの機器を利用して解説する。さらに、関連するビデオ教材を用いてビジュアルに教育を行う。 毎年学生からの授業評価は高評価を受けている。
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)手製の教材の利用	2005年4月～	現在までに担当している講義はほとんど全てを市販の教科書を使用せずに実施してきた。このため教材は手製のプリントをほぼ毎回配布している。

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略					
骨形成を制御する因子の探索 遺伝子KOマウスの表現型の解析					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
“In Vivo Disposition of S-(1,2-Dichlorovinyl)-L-cysteine in Mice”	共著	2015年10月1日	Research Bulletin Toin University of Yokohama.・32	Norikazu KOMORIYA, Nobuaki SHIRAI, Hiroki TOMISAWA, Kaoru YOSHIDA, Hiromi HAGIWARA	pp.113-116
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名		
“Distribution of S-(1,2-Dichlorovinyl)-L-cysteine and Its Related Substances in the Tissues in Mice”	2015年11月14日	TOIN BME Symposium 2015 Toin University of Yokohama, Yokohama, Japan	Norikazu KOMORIYA, Nobuaki SHIRAI, Hiroki TOMISAWA, Kaoru YOSHIDA, Hiromi HAGIWARA		

“The Role of Testicular Zinc Finger Protein Zfp318 in Mouse Spermatogenesis ”	2015年11月14日	TOIN BME Symposium 2015 Toin University of Yokohama, Yokohama, Japan	Akihiko KONO , Kaoru YOSHIDA , Hiromi HAGIWARA
「フィセチンの脂質代謝、糖代謝、筋代謝に及ぼす影響」	2015年12月1日	第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会 合同大会 神戸ポートアイランド	米坂知昭, 吉田薫, 萩原啓実
「ジンクフィンガータンパク質Zfp318のマウス精子形成における役割」	2015年12月2日	第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会 合同大会 神戸ポートアイランド	河野説彦, 吉田薫, 萩原啓実
○その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
「Award of Excellence」 (The Role of Testicular Zinc Finger Protein Zfp318 in Mouse Spermatogenesis)	2015年11月14日	10th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2015, Toin University of Yokohama	Akihiko KONO, Kaoru YOSHIDA, Hiromi HAGIWARA
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
トリクロエチレン代謝産物の骨関連細胞に与える影響に関する研究	2014年5月～2015年4月	株式会社ネモト・サイエンス	
トリクロエチレン代謝産物の骨関連細胞に与える影響に関する研究	2015年5月～2016年4月	株式会社ネモト・サイエンス	
細胞増殖の最適環境に関する研究	2015年4月～2016年3月	清水建設株式会社	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本生化学会、日本分子生物学会、日本骨代謝学会、米国骨代謝学会、日本心血管内分泌代謝学会、日本軟骨代謝学会、日本血管生物医学学会、日本環境ホルモン学会、日本動物細胞工学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
1994年～現在	日本血管生物医学学会評議員
1999年～現在	日本心血管内分泌代謝学会評議員
2004年～現在	老人病研究所客員研究員
2005年～現在	筑波大学北アフリカ研究センター客員共同研究員
2006年～現在	桐蔭学園理事, 評議員
2011年7月～現在	日本臨床検査学教育協議会評議員

森永茂生 (もりなが しげお) 教授



出生年 : 1956(昭和31)年
 在籍 : 1989(平成元)年4月～
 最終学歴 : 東京都立大学大学院博士課程
 学位 : 理学博士
 学位論文 : A Study of Insoluble Organic Matter (Kerogen) in Recent Sediments by Chemical Degradation-Gas Chromatography/Mass Spectrometry
 専門分野 : 環境化学、分析化学、有機地球化学
 前職 : 桐蔭学園工業高等専門学校講師
 学内役職等 : 学務部副部長(2014～)
 留学 :
 資格 :
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 : とうきゅう環境浄化財団研究助成A類N0.177(1994-1996)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
工学ワークショップ I テキスト	2010年～2016年4月	生命医工学科の工学ワークショップ I 担当のテーマに関するテキストを作成した。
工学ワークショップ II テキスト	2010年～2015年9月	臨床工学科の工学ワークショップ I 担当のテーマに関するテキストを作成した。

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略
植物を利用した重金属等の土壌汚染物質除去(ファイトレメディエーション)に関する研究を、改めて飯島研究室や東京都市大学の涌井教授などとの共同研究している。研究の現場は東京都市大学に設置している。今後の汚染土壌地域の開発への利用が期待されている。また、体内蓄積脂肪や食品の油脂に関する研究を立案している。いわゆる、トランス脂肪酸の過剰の摂取が、心臓疾患に繋がることから、世界的にも懸念されている。現在、不飽和脂肪酸分析の詳細を検討し、データの構築を行っている。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本化学会、日本地球化学会、日本有機地球化学会、日本腐植物質学会、日本環境化学会、日本水環境学会、ソノケミストリー研究会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2012年4月～	日本芝草学会24年度査読委員

米坂知昭 (よねさか ともあき) 教授



出生年：1958(昭和33)年
在籍：2009(平成21)年1月～
最終学歴：桐蔭横浜大学大学院 工学研究科 医用工学専攻
学位：博士(工学)
学位論文：フィセチンの脂質代謝と糖代謝に及ぼす効果に関する研究
専門分野：臨床検査学、病院管理概論(管理運営)
前職：済生会横浜市東部病院
学内役職等：
留学：
資格：臨床検査技師
非常勤講師：
受賞・表彰：神奈川県公衆衛生表彰、厚生労働大臣表彰

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略			
ポリフェノール(Fisetin)の脂肪代謝および糖代謝における効果の検討、C57BL6雄マウスを用いた実験。超音波診断装置を用いた甲状腺ならびに頸動脈の疫学的解析調査			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
「フィセチンの脂質代謝、糖代謝、筋代謝に及ぼす影響」	2015年12月1日	第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会 合同大会 神戸ポートアイランド	米坂知昭, 吉田薫, 萩原啓実

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本臨床衛生検査技師会・神奈川県臨床衛生検査技師会・日本薬理学会・分子生物学会・日本医療機器学会

落合 晃 (おちあい あきら) 准教授



出生年：1966(昭和41)年
 在籍：2003(平成15)年9月～
 最終学歴：北海道薬科大学大学院生物薬学専攻
 学位：医学博士
 学位論文：ラット虚血急性腎不全に対するレシチン化superoxide dismutase(PC-SOD)の抑制効果
 専門分野：薬理学、再生医学、衛生科学
 前職：生化学工業株式会社
 学内役職等：
 学内役職等：
 留学：聖マリアンナ医科大学 難病治療研究センター(国内)
 ミシシッピ大学 メディカルセンター(米国)
 資格：薬剤師 衛生検査技師
 非常勤講師：聖マリアンナ医科大学
 受賞・表彰：

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本臨床検査学教育学会、日本リウマチ学会、日本DDS学会、日本炎症・再生医学会、日本薬学会、日本臨床薬理学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
	日本臨床検査学教育学会 評議委員

吉田 薫 (よしだ かおる) 准教授



出生年：1970(昭和45)年
 在籍：2004(平成16)年6月～
 最終学歴：東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻博士課程修了
 学位：博士(理学)
 学位論文：ニシン精子活性化タンパク質による精子活性化機構の生理生化学的研究
 専門分野：生殖生物学、生化学、細胞生物学
 前職：科学技術振興機構・戦略的創造研究推進事業「内分泌かく乱物質」岩本チーム研究員
 学内役職等：
 留学：
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略					
受精時の精子機能解明に関して研究を行った。具体的には、カタユレイボヤ精子誘引物質の受容体候補の機能解析を行い、受容体として機能する証拠を幾つか得た。これらについて、論文執筆にとりかかった。またマウス精囊分泌タンパク質の機能に関してはこのタンパク質ファミリーに属する別のタンパク質2種について、機能解析を行い、その結果について論文を作成し、投稿したところ、修正の上受理される見込みとなった。精子無力症の基礎研究に関しては臨床検体の免疫染色による検査症例について、予後調査を行い、検査結果との関連性について解析を行った結果について、引き続き、論文を作成した。また、精子運動への水素の影響と精子鞭毛波形形成の生物物理学的検討の2つの学外との共同研究を開始した。学内共同研究のTZFノックアウトマウスの表現系解析については、精子形成不全について引き続き検討し、再度論文投稿を試みている。この他にも、ポリフェノール類の骨形成への影響、トリクロロエチレン代謝物の骨組織への影響等の共同研究を行い、それぞれ論文が受理されている。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
“In Vivo Disposition of S-(1,2-Dichlorovinyl)-L-cysteine in Mice”	共著	2015年10月1日	Research Bulletin Toin University of Yokohama.・32	Norikazu KOMORIYA, Nobuaki SHIRAI, Hiroki TOMISAWA, Kaoru YOSHIDA , Hiromi HAGIWARA	pp.113-116
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「水素含有培養液を用いたSwim up法回収精子の運動率の改善について」	2015年5月30日～31日	第56回日本卵子学会 栃木県総合文化センター	中田久美子, 池上加代子, 中西彩, 渡邊ひとみ, 阿部 睦, 河野博臣, 小野千紘, 吉田雅人, 吉田薫 , 吉田 学, 山下直樹		
「SVS2による精子膜ステロールレベル調節を介した受精能獲得制御」	2015年6月26日	日本アンドロロジー学会第34回学術大会 福岡大学病院メディカルホール	吉田薫 , 荒木直也, 河野菜摘子, 宮戸健二, 吉田学		
「精囊分泌タンパク質SVS3とSVS4の受精能獲得への影響」	2015年6月26日	日本アンドロロジー学会第34回学術大会 福岡大学病院メディカルホール	吉田学, 荒木直也, 吉田薫 , 河野菜摘子, 宮戸健二		
「水素分子処置による精子無力症患者の凍結融解精子の運動性の回復について—セメノジュリンの併用とペントキシフィリンとの比較検討—」	2015年6月26日	日本アンドロロジー学会第34回学術大会 福岡大学病院メディカルホール	中田久美子, 吉田薫 , 小野千紘, 吉池美紀, 岩本晃明, 吉田雅人, 吉田学, 山下直樹		

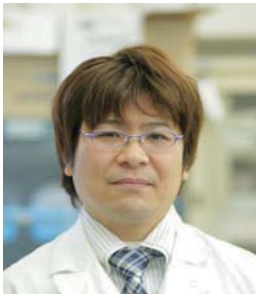
「Seminal vesicle protein SVS2 acts as a protectant of sperm sterols and prevents ectopic sperm capacitation」	2015年6月18日～22日	48th Annual Meeting of the Society for the Study of Reproduction, Puerto Rico Convention Center	Yoshida, M., Araki, N., Kawano, N., Miyado, K., Yoshida, K.
「Seminal vesicle proteins control status of mouse sperm capacitation and prevent ectopic sperm capacitation」	2015年7月19日～24日	Gordon Research Conference: Fertilization and the Activation of Development, Plymouth	Araki, N., Kawano, N., Miyado, K., Yoshida, K. , Yoshida, M.
「The role of Ca ²⁺ transport and plasma membrane Ca ²⁺ -ATPase (PMCA) activity in membrane potential alteration during Bester sperm motility.」	2015年9月7日～11日	5th Workshop on the Biology of Fish Gametes, Ancona	Bondarenko, O., Yoshida, M., Yoshida, K. , Ono, C., Dzyuba, B., Cosson, J.
「RNAseqによるカタウレイボヤ卵形成過程の遺伝子発現解析」	2015年9月17日～19日	日本動物学会第86回大会 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター	小野千紘, 稲森貴一, 熊谷真彦, 入江直樹, 武田洋幸, 吉田 薫 , 吉田 学
「精子走化性におけるカルシウム排出機構」	2015年9月17日～19日	日本動物学会第86回大会 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター	吉田 薫 , 吉田 学
「グルコース非添加培養液により低下させたマウス精子の運動性は水素処置で改善する」	2015年9月17日～20日	第108回日本繁殖生物学会大会 宮崎大学木花キャンパス	小野千紘, 中田久美子, 木島大雅, 吉田 薫 , 吉田 学, 山下直樹
「Mamld1欠損は出生後の精巣サイズ減少を招く」	2015年10月8日	第49回日本小児内分泌学会学術集会 タワーホール船堀	宮戸真美, 吉田薫 , 宮戸健二, 勝見桃理, 齊藤和毅, 緒方勤, 深見真紀
“Distribution of S-(1,2-Dichlorovinyl)-L-cysteine and Its Related Substances in the Tissues in Mice”	2015年11月14日	TOIN BME Symposium 2015 Toin University of Yokohama, Yokohama, Japan	Norikazu KOMORIYA, Nobuaki SHIRAI, Hiroki TOMISAWA, Kaoru YOSHIDA , Hiromi HAGIWARA
“The Role of Testicular Zinc Finger Protein Zfp318 in Mouse Spermatogenesis ”	2015年11月14日	TOIN BME Symposium 2015 Toin University of Yokohama, Yokohama, Japan	Akihiko KONO, Kaoru YOSHIDA , Hiromi HAGIWARA
「水素分子処置による精子無力症患者の凍結融解精子の運動性の回復について(ペントキシフィリンとの比較検討)」	2015年11月26日～27日	第33回日本受精着床学会総会・学術講演会 TFTホール	中田久美子, 小野千紘, 吉田薫 , 吉田雅人, 吉田 学, 山下直樹
「水素分子処置がヒト精子の運動性機能を改善するメカニズムについて」	2015年11月26日～27日	第33回日本受精着床学会総会・学術講演会 TFTホール	中田久美子, 小野千紘, 吉田薫 , 吉田雅人, 吉田 学, 山下直樹
「水素処置によるグルコース非含有培養液により低下させたマウス精子の運動性の回復」	2015年11月26日～27日	第33回日本受精着床学会総会・学術講演会 TFTホール	小野千紘, 中田久美子, 木島大雅, 吉田 薫 , 吉田 学, 山下直樹
「ジンクフィンガータンパク質Zfp318のマウス精子形成における役割」	2015年12月2日	第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会合同大会 神戸ポートアイランド	河野説彦, 吉田薫 , 萩原啓実
「フィセチンの脂質代謝、糖代謝、筋代謝に及ぼす影響」	2015年12月1日	第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会合同大会 神戸ポートアイランド	米坂知昭, 吉田薫 , 萩原啓実
「精漿タンパク質SVS2欠損マウスから見えてきた、精子を殺すメスの免疫機構」	2015年12月3日	第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会合同大会 神戸ポートアイランド	河野菜摘子, 康 宇鎮, 吉田 薫 , 吉田 学, 宮戸 健二

○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「第三回男女共同参画学協会連絡会 大規模アンケート「科学技術系専門職の男女共同参画実態調査」発生物学会会員データ解析報告2」	2015年6月5日	日本発生物学会第48回大会 第9回男女共同参画ランチョンワークショップ	つくば国際会議場
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
科学研究費補助金	2014年度～2016年度	基盤研究C、精囊分泌タンパク質による糖鎖を介した細胞膜流動性と受精能獲得制御機構解明26462465、研究代表者	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本動物学会、日本発生物学会、日本分子生物学会、日本生殖医学会、日本アンドロロジー学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2012年9月～現在	日本動物学会男女共同参画委員
2014年1月1日～2015年12月31日	「日本発生物学会運営委員(会長指名・男女共同参画担当)」

大 辻 希 樹 (おおつじ まれき) 専任講師



出 生 年 : 1972(昭和47)年
 在 籍 : 2009(平成21)年4月～
 最 終 学 歴 : 放送大学 教養学部
 学 位 : 博士(医学)
 学 位 論 文 : IL-6 signal blockade ameliorates the enhanced
 専 門 分 野 : 病理学、臨床病理学、免疫学、免疫遺伝学
 前 職 : 順天堂大学 医学部 病理・腫瘍学講座 助手
 学 内 役 職 等 :
 留 学 :
 資 格 : 臨床検査技師
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
病理学、免疫学の知識をもとに、病態の発症機序を教授する	2010年より現在	内因、外因、環境要因が炎症(免疫)を惹起したときに、細胞内でおこる変化を病理学の観点から教授し、その結果として病態がどう進むか理解させる。年次ごとに改定
2.作成した教科書、教材、参考書		
病理学、臨床病理学、医学総論	2010年より現在	正常と異常の状態を、ミクロ的マクロ的に対比させた。内容に解剖学を含んでいることから、身体の中で起こる事象についても理解することができるように工夫した。年次ごとに改定
生命医工学セミナーIV(病理学実習)	2011年より現在	組織学、細胞学、病理技術学について、教科書に載っていない内容も加味した
国試でしかれるシリーズ(解剖学、病理学、免疫学)	2012年より現在	臨床検査技師国家試験対策用資料集 国家試験の頻出範囲に的を絞った参考書。年次ごとに改定。

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略			
疾患モデルマウスを用いた自己免疫疾患発症機序の解明 RAモデルに対するサイトカイン抑制による治療実験			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
“Preventive and therapeutic effects of anti-IL-6 receptor antibody on spontaneously occurring rheumatoid arthritis in an FcγRIIB-deficient mouse model ”	2015年4月23日	第59回 日本リウマチ学会・総会名古屋国際会議場	大辻 希樹, 林 青順, 西川 桂子, 岡崎 英規, 天野 浩文, 西村 裕之, 西本 憲弘, 白井 俊一, 広瀬 幸子
「細胞特異的FcγRIIB発現欠損マウスの樹立によるYaa誘導ループス腎炎発症機序の解明」	2015年4月23日	第59回 日本リウマチ学会・総会名古屋国際会議場	林青順, 西川桂子, 大辻希樹, 天野浩文, 西村裕之, 白井俊一, 広瀬幸子

“Genetic control of the abnormal activation and sequestration of splenic CD4 ⁺ T cells in autoimmune disease-prone (NZB x NZW)F1 hybrid mice”	2015年11月18日	The 44th Annual Meeting of Japanese Society for Immunology Sapporo Conbebtion Center	Hirono Fusako, Obata Masaomi, Kodera Yo, Ohtsuji Mareki , Shirai Toshikazu, Hirose Sachiko, Nishimura Hiroyuki
“Role of inhibitory Fc γ RIIb and autoimmune-prone SLAM haplotype in autoimmune disease”	2015年11月18日	The 44th Annual Meeting of Japanese Society for Immunology Sapporo Conbebtion Center	Keiko Nishikawa, Lin Qingshun, Tsurui Hiromichi, Amano Hirofumi, Okazaki Hideki, Ohtsuji Mareki , Shirai Toshikazu, Hirose Sachiko, Nishimura Hiroyuki
“Cell Type-specific role of inhibitory IgG Fc receptor II B in Yaa-induced murine lupus”	2015年11月18日	The 44th Annual Meeting of Japanese Society for Immunology Sapporo Conbebtion Center	Lin Qingshun, Tsurui Hiromichi, Keiko Nishikawa, Amano Hirofumi, Ohtsuji Mareki , Nishimura Hiroyuki, Shirai Toshikazu, J.Sjef.Verbeek, Hirose Sachiko

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本免疫学会、日本病理学会、日本リウマチ学会、超音波検査技師会、日本臨床衛生検査技師会 神奈川県臨床検査技師会

清水 智美 (しみず ともみ) 専任講師



出生年：1972(昭和47)年
 在籍：2010(平成22)年4月～
 最終学歴：順天堂大学大学院 医学研究科 博士課程修了
 学位：博士(医学)
 学位論文：超長時間持久的負荷(24時間走)における炎症およびストレス反応の推移
 専門分野：臨床生理学、生理学
 前職：大東文化大学スポーツ・健康科学部健康科学科
 学内役職等：講師
 留学：
 資格：臨床検査技師、日本体力医学会健康科学アドバイザー
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略				
酸化ストレスと抗酸化力の生体応答 発汗と自律神経機能について ラクトフェリンのストレス軽減効果について				
(学術論文)				
Different training status may alter the continuous blood glucose kinetics in self-paced endurance running.	共著	2015年	Experimental and Therapeutic Medicine. Tuesday, June 23	Yoshio Suzuki, Tomomi Shimizu, Makoto Ota, Ryuzo Hirata, Kenji Sato, Yoshifumi Tamura, Akio Imanishi, Masayuki Watanabe, Keishoku Sakuraba
1-5				
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演				
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名	
(ポスター)大学女子バスケットボール選手における鉄欠乏性貧血と血清フェリチンとの相関	2015年9月20日	第70回日本体力医学会大会 和歌山市	清水 智美、蓮沼 裕也、奥田 美穂、小山 桂史、木村 和弘、河合 優一、徳岡 由一	
○講演会・研修会・セミナー講師				
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所	
第26回日本体力医学会スポーツ医学研修会	2015年8月7日	日本体力医学会学術委員会・スポーツ医学研修会実行委員会	東京慈恵会医科大学西新橋校各会議室・大学1号館6F機能系実習室	
○その他				
(補助金・助成金等)				
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等		
食シグナルの認知科学の新展開と脳を活性化させる次世代機能性食品開発へのグランドデザイン	2015年4月～	SIP(戦略的イノベーション創造プログラム)次世代農林水産業創造技術		
(その他特記事項)				
臨床検査技師国家試験問題注解 2016年版(金原出版) 2015年6月1日				

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
日本臨床衛生検査技師会、日本臨床生理学会、日本体力医学会、日本運動生理学会、日本臨床検査医学会、日本臨床スポーツ医学会、日本看護科学会、日本栄養・食糧学会		
任期、活動期間等	学会等における役職等	
2014年9月～	日本体力医学会評議員	
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
東京都日野市 歳の鬼あしマラソン実行委員	2007年5月～2016年5月 (年1回)	歳の鬼あし実行委員会 日野市文化スポーツ課

大 沼 健 太 郎(おおぬま けんたろう) 専任講師 (2016年度 新任教員)



出 生 年 : 1974(昭和49)年
 在 籍 : 2016(平成28)年2月～
 最 終 学 歴 : 東京電機大学大学院先端科学技術研究科先端技術創生専攻
 学 位 : 博士(工学)
 学 位 論 文 : Extended-Timed-Automata外科手術モデルの構築とScrub Nurse Robot用リアルタイム視覚認識システムの開発に関する研究
 専 門 分 野 : 医用電子工学、医用システム、人工臓器
 前 職 : 国立循環器病研究センター研究所人工臓器部 特任研究
 学 内 役 職 等 :
 留 学 :
 資 格 :
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 : 東京電機大学ME会奨励賞(2016年3月)
 第36回人工心臓と補助循環懇話会 若手賞(2008年3月)
 丹羽保次郎賞(2008年3月)
 SICE SI2005ベストセッション賞(連名)(2005年12月)
 バリアフリーシステム開発財団奨励賞(2003年5月)

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略					
<p>・自律的人工心臓制御に関する研究 生物の適応性・恒常性を表す数理モデルを応用した血液ポンプ流量制御を行い、拍動下に自己調節的挙動が可能であった。今後、フェイルセーフ機構や連続流ポンプの拍動駆動への応用を検討する。</p> <p>・空気駆動式小型血液ポンプ用小型駆動装置の開発 全置換型人工心臓用に1モータ2室駆動の小型空気圧発生装置を開発し基本特性を評価した。今後、左右流量の平衡を考慮した制御について、シミュレーションと実機両面から検討する。 研究開発してきた間接的流量モニタ法が、国立循環器病研究センターで開発中の空気圧駆動式補助人工心臓用小型駆動装置に実装された。今後2次試作機の性能評価予定である。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
Development of a flow rate monitoring method for the wearable ventricular assist device driver	共著	2015年6月	J Artif Organs, 18(2)	Ohnuma K, Homma A, Sumikura H, Tsukiya T, Takewa Y, Mizuno T, Mukaibayashi H, Kojima K, Katano K, Taenaka Y, Tatsumi E	pp. 106-113
ウェアラブル全置換型人工心臓システム用小型空気圧駆動装置の開発 —— 駆動装置の小型高効率化に関する基礎的検討 ——	共著	2015年7月	電気学会論文誌C (IEEJ Trans. EIS), 135(11)	大沼健太郎, 住倉博仁, 築谷朋典, 巽英介, 妙中義之, 武輪能明, 水野敏秀, 片野一夫, 小嶋孝一, 向林宏, 本間章彦	1376-1385頁
In vitro hydrodynamic evaluation of biovalve with stent (tubular leaflet type) for transcatheter pulmonary valve implantation	共著	2015年12月	J Artif Organs, 18(4)	Sumikura H, Nakayama Y, Ohnuma K, Satoru K, Takewa Y, Tatsumi E	pp. 307-314

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称	共同発表者名
選択的腎動脈補助用カテーテル式補助循環装置の開発とin vitro評価	2015年6月	日本生体医工学学会大会(54), (名古屋市)	住倉博仁、大沼健太郎、花田繁、築谷朋典、水野敏秀、本間章彦、向林 宏、小嶋孝一、武輪能明、巽英介
体内埋め込み式人工心臓の解剖学的適合性に関する検討	2015年6月	日本生体医工学学会大会(54), (名古屋市)	茂木諒介、本間章彦、住倉博仁、大沼健太郎、巽英介、福井康裕
In vitro evaluation of a minimally invasive mechanical circulatory support device for assisting renal blood circulation	2015年6月	American Society for Artificial Internal Organs (61), (Chicago, USA)	Sumikura H, Ohnuma K, Hanada S, Tsukiya T, Mizuno T, Homma A, Mukaibayashi H, Kojima K, Takewa Y, Tatsumi E
In-vitro evaluation of an autonomous control algorithm using stochastic method for a ventricular assist device	2015年6月	American Society for Artificial Internal Organs (61), (Chicago, USA)	Ohnuma K, Sumikura H, Homma A, Tsukiya T, Mizuno T, Takewa Y, Tatsumi E
Computational design and in vitro evaluation of a catheter-based intravascular rotary blood pump for assisting renal blood circulation	2015年8月	37th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society, (Milano, ITA)	Sumikura H, Ohnuma K, Hanada S, Tsukiya T, Mizuno T, Homma A, Mukaibayashi H, Kojima K, Takewa Y, Tatsumi E
Improvement and evaluation of biovalve with stent for transcatheter pulmonary valve implantation	2015年9月	Annual European Society for Artificial Organs Congress (42), (Leuven, BEL)	Sumikura H, Nakayama Y, Ohnuma K, Takewa Y, Tatsumi E
Proposal and evaluation of an autonomous control algorithm using stochastic method for a ventricular assist device	2015年9月	Annual European Society for Artificial Organs Congress (42), (Leuven, BEL)	Ohnuma K, Sumikura H, Homma A, Tsukiya T, Mizuno T, Takewa Y, Tatsumi E
耐久性試験装置の開発と応用事例	2015年9月	講演会「医用アクチュエーションの最近の話題」, (札幌市)	住倉博仁、大沼健太郎、本間章彦、妙中義之、武輪能明、築谷朋典、水野敏秀、向林 宏、小嶋孝一、巽 英介
選択的腎動脈補助用カテーテル式補助循環装置の改良と評価	2015年9月	日本機械学会2015年度年次大会, (札幌市)	住倉博仁、大沼健太郎、花田繁、築谷朋典、水野敏秀、本間章彦、向林 宏、小嶋孝一、武輪能明、巽 英介
確率的探索手法による自律的補助人工心臓駆動の基礎特性に関する検討	2015年9月	日本機械学会2015年度年次大会, (北海道札幌市)	大沼健太郎、住倉博仁、本間章彦、築谷朋典、水野敏秀、武輪能明、巽 英介
選択的腎灌流用カテーテル式補助循環装置の改良と in vitro 評価	2015年11月	日本定常流ポンプ研究会2015, (東京都)	住倉博仁、大沼健太郎、花田繁、築谷朋典、水野敏秀、本間章彦、向林 宏、小嶋孝一、武輪能明、妙中義之、巽 英介
静脈内留置型人工肺用小型軸流血液ポンプに関する基礎検討	2015年11月	日本人工臓器学会大会(53), (東京都)	山口敬吾、住倉博仁、大沼健太郎、野口展士、荒船龍彦、大越康晴、本間章彦、福井康裕
人工心臓埋め込みの術前検討支援プログラムの開発	2015年11月	日本人工臓器学会大会(53), (東京都)	茂木諒介、本間章彦、住倉博仁、大沼健太郎、巽 英介、荒船龍彦、大越康晴、福井康裕
確率的手法を用いた自律的補助人工心臓制御の左心系模擬循環経路での評価	2015年11月	日本人工臓器学会大会(53), (東京都)	大沼健太郎、住倉博仁、本間章彦、築谷朋典、武輪能明、水野敏秀、巽 英介

選択的腎灌流用カテーテル式血液ポンプの in vitro性能評価	2016年3月	人工心臓と補助循環懇話会 学術集会(44),(宮城県松島 町)	住倉博仁、大沼健太郎、花田 繁、築谷朋典、水野敏秀、本間章 彦、福井康裕、向林宏、小嶋孝 一、武輪能明、巽英介
○その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
第9回東京電機大学ME会奨励賞	2016年3月23日	東京電機大学ME会	大沼健太郎
(産学協同研究)			
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称	
補助人工心臓用耐久試験装置の開発	20010年4月～現在	株式会社イワキ	
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
補助人工心臓治療を高度化する能動的計測 法による新しいモニタリングシステムの構築	2013年4月～2016年3月	科学研究費補助金・挑戦的萌芽研究,(代表)	
心不全の能動的治療を可能とする超小型カ テーテル式補助循環デバイスの研究開発	2013年4月～2016年3月	科学研究費補助金・基盤研究(B),(分担)	
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
補助人工心臓の安全性を向上 循環器病研 究センターなど	2012年2月1日～現在	日経新聞Web刊, URL: http://www.nikkei.com/article/DGXNASGG0600S_Z10C12A2TJM000/?at=ALL	
補助人工心臓用耐久試験装置誕生秘話(前 編)	2014年10月～現在	株式会社イワキHP, URL: http://www.iwakupumps.jp/interview_laboheart_1	
補助人工心臓用耐久試験装置誕生秘話(後 編)	2014年10月～現在	株式会社イワキHP, URL: http://www.iwakupumps.jp/interview_laboheart_2	

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本人工臓器学会、ライフサポート学会、IEEE (EMBS)、米人工臓器学会(ASAIO)、日本生体医工学会

濤川 唯 (なみかわ ゆい) 助教



出生年：1981(昭和56)年
在籍：2011(平成23)年4月～
最終学歴：獨協大学外国語学部英語学科、大東医学技術専門学校
学位：
学位論文：
専門分野：生理学、臨床生理学、
前職：恩賜財団済生会横浜市東部病院
学内役職等：
留学：米国(4年)
資格：臨床検査技師
非常勤講師：
受賞・表彰：

Ⅱ 研究活動

○2015年度の研究活動概略

2015年度。日本臨床検査技師会の職務の一環として新潟学会での座長をつとめた。また2016年度国際学会に向けて日臨技国際委員に任命され学会準備に着手している。

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称

日本臨床衛生検査技師会、神奈川県臨床検査技師会、超音波検査学会、

蓮 沼 裕 也 (はすぬま ゆうや) 助教



出生年：1986(昭和61)年
 在籍：2012(平成24)年4月～
 最終学歴：大東文化大学スポーツ・健康科学部健康科学科修了
 学位：健康科学士
 学位論文：
 専門分野：臨床微生物学、感染症学、細菌学、感染制御学
 前職：東海大学医学部附属病院 院内感染対策室 技術員
 学内役職等：
 留学：
 資格：臨床検査技師、認定臨床微生物検査技師、2級臨床検査士(微生物学)、遺伝子分析科学認定士(初級)
 非常勤講師：茅ヶ崎看護専門学校 非常勤講師(微生物学)
 受賞・表彰：一般社団法人 色材協会 2014 JSCM Most Accessed

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
臨床検査技師国家試験のための補講	2012年9月～2016年2月	臨床検査技師国家資格取得のため、週5～6コマの補講を実施した。内容は各科目ごとの体系的な解説から、横断的な内容まで及んだ。補講内では、効率的かつ印象に残るよう、独自の表やイメージ像を図示するよう努めた。
臨床検査技師国家試験のための学内試験および問題演習にて○×問題の取り入れ	2012年9月～2016年2月	臨床検査技師国家資格取得のための学内試験には、本番での形式である5択以外に、○×問題を取り入れた。5択の場合、正解にたどり着いた時点で正答となるが、1文ずつ詳細な内容を理解しないままのケースがある。○×問題はその問題点を解決するのに有益であった。また受験直前の冬休み課題として、○×問題演習を行ったことで、記憶漏れや記憶ミスを抽出できた。

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略			
<p>家畜から分離される抗菌薬耐性菌研究の一環として、健康人および食用肉からの耐性菌分離を行った。また臨床検査センターの協力を得て、神奈川県や東京都の病院から分離される耐性菌ESBLの疫学調査を実施した。本研究は基礎研究と臨床現場をつなぐ橋渡しの研究として、今後神奈川県近郊の耐性菌制御の一助となると確信している。</p> <p>また耐性菌制御のため、薬剤耐性菌早期検出を目指した高速液体クロマトグラフィーによる検査法の確立と、抗菌薬を用いない感染症治療法として光線力学的療法PDTおよびPTによる抗菌活性について、標準菌株及び臨床菌株を用いて細菌学的立場から検討した。</p> <p>これらの成果の一部は学会発表、または論文執筆による報告を行った。</p>			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名
(シンポジウム・口頭発表)5-Aminolevulinic acid による <i>Propionibacterium acnes</i> へのポルフィリン化合物の集積	2015年7月	第25回日本PDT学会, 京王プラザ	緒方亜里紗・蓮沼裕也 他
(ポスター)大学女子バスケットボール選手における鉄欠乏性貧血と血清フェリチンとの相関	2015年9月	第70回体力医学会大会, 和歌山	徳岡由一・蓮沼裕也 他
(口頭発表) <i>Staphylococcus aureus</i> に対する白色LEDを用いた光線治療の基礎的検討	2015年11月	第4回日臨技首都圏支部医学検査学会, パシフィコ横浜	蓮沼裕也・金沢浩平 他
(ポスター) Accumulation of Porphyrin Compounds into The <i>Propionibacterium acnes</i> by 5-Aminolevulinic acid and Its Derivative.	2015年11月	第10回桐蔭医用工学国際シンポジウム, 桐蔭横浜大学	OGATA, A・HASUNUMA, Y <i>et al.</i>

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称

日本臨床衛生検査技師会、日本臨床微生物学会、日本臨床検査自動化学会、日本細菌学会、日本体力医学会、LAMP法研究会、PCR感染症研究会、臨床微生物迅速診断研究会、動物用抗菌薬研究会

臨床工学科 (Department of Clinical Engineering)

佐藤 敏夫 (さとう としお) 教授



出生年 : 1961(昭和36)年
 在籍 : 1997(平成9)年12月～
 最終学歴 : 慶應義塾大学工学部計測工学科
 桐蔭横浜大学大学院工学研究科博士後期課程制御システム工学専攻
 東京女子医科大学医学部研究生
 学位 : 博士(医学)、博士(工学)
 学位論文 : Evaluation of blood access dysfunction based on a wavelet transform analysis of shunt murmurs (医学博士論文)
 非線形破壊力学に基づいた歯科用低溶陶材の信頼性評価に関する研究(工学博士論文)
 専門分野 : 生体工学、破壊力学、音響工学、臨床工学
 前職 : (株)東京計器 MRDセンター副主事
 学内役職等 : キャリア情報センター副センター長(2013～)
 留学 :
 資格 : 第1種ME技術実力検定試験合格、第2種ME技術実力検定試験合格、臨床工学技士免許
 非常勤講師 : 千葉科学大学危機管理学部医療機器管理学科
 読売医療福祉専門学校臨床工学専攻科
 受賞・表彰 : 科学技術庁から第51回注目発明選定証を受賞(1992)
 2002年度材料技術研究協会討論会 技術賞
 2003年度材料技術研究協会討論会 ゴールドポスター賞
 2008年度材料技術研究協会討論会 ゴールドポスター賞
 2011年度ものづくり技術交流会 ポスター賞
 2013年度日本医工学治療学会学術大会 優秀演題賞
 2013年度日本人工臓器学会 第51回日本人工臓器学会大会コメディカル賞(腎臓)
 2014年日本人工臓器学会 第52回日本人工臓器学会大会第1回萌芽研究ポスターセッション 優秀賞

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略					
2015年度は2014年度に引き続き、生体音の時間-周波数解析に基づく生体機能評価方法の提案、血液透析用穿刺針やダブルルーメンカテーテルの最適形状の提案を目的とした実験および有限要素法を用いた理論解析、人工心肺回路や血液透析用回路内の血液凝固の早期検出を目的としたシステムの開発などを行った。研究成果はこれまでと同様に日本人工臓器学会、日本医工学治療学会、日本音響学会、桐蔭医用工学国際シンポジウム等で発表した。どのテーマも臨床業務に携わる臨床工学技士をはじめとする医療従事者や医療機器メーカーの開発担当者からのニーズを反映した開発要素を含むことから、高い評価を得ることができた。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
「シャント音の持続時間定量化と分岐を有する擬似血管狭窄モデルを用いたバスキュラーアクセス機能評価に対する有用性の検討」	共著	2015年6月15日	人工臓器 44巻 1号 第52回日本人工臓器学会大会 萌芽研究ポスター発表優秀賞受賞レポート	佐々木一真、本橋由香、山内 忍、佐藤敏夫、阿岸鉄三	26頁

(学術論文)					
「体外循環血液回路内雑音の連続モニタリングによる回路内凝固検出」	共著	2015年11月16日	桐蔭論叢 第32号	島崎直也, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三	123-128頁
「嚙下音の3次スプライン曲線を用いた嚙下機能改善効果に対する定量評価法」	共著	2015年11月16日	桐蔭論叢 第32号	佐々木一真, 本橋由香, 山内 忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三	117-122頁
「透析用留置針の脱血特性改善を目的とした側孔の最適化に関する基礎検討」	共著	2015年11月16日	桐蔭論叢 第32号	山内 忍, 高橋怜美, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三	129-135頁
「圧力センサー付ガイドワイヤーを用いた透析用留置針内部の圧力分布測定」	共著	2016年3月1日	医工学治療 Vol.28 No.1	山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三	24-32頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目		年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名	
擬似分岐血管狭窄モデルを用いたシャント音分析によるVA機能評価法の検証		2015年6月26日～28日	日本透析医学会 第60回日本透析医学会学術集会・総会(パシフィコ横浜)	可児雅弥, 佐々木一真, 本橋由香, 山内 忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三	
透析患者に誤嚥を防ぐ食事を提供するための定量評価法の提案		2015年6月26日～28日	日本透析医学会 第60回日本透析医学会学術集会・総会(パシフィコ横浜)	可児雅弥, 佐々木一真, 本橋由香, 山内 忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三	
レーザー散乱光の測定による血液回路の凝固検出方法の検討		2015年6月26日～28日	日本透析医学会 第60回日本透析医学会学術集会・総会(パシフィコ横浜)	可児雅弥, 坂元英雄, 本橋由香, 山内 忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三	
血液凝固時の色変化測定による回路内血液凝固の専属的検出方法		2015年6月26日～28日	日本透析医学会 第60回日本透析医学会学術集会・総会(パシフィコ横浜)	坂元英雄, 土屋浩希, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三	
回路内血液凝固の検出に適した血流音測定用加速度センサ装着部位の検討		2015年6月26日～28日	日本透析医学会 第60回日本透析医学会学術集会・総会(パシフィコ横浜)	島崎直也, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三	
穿刺針の細径化を目的とした側孔の最適化に関する理論検討		2015年6月26日～28日	日本透析医学会 第60回日本透析医学会学術集会・総会(パシフィコ横浜)	田口友樹, 高橋怜美, 本橋由香, 山内 忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三	
圧力ガイドワイヤーを用いた圧力測定およびPIVを用いた流れの可視化による透析用留置針の最適形状の検討		2015年6月26日～28日	日本透析医学会 第60回日本透析医学会学術集会・総会(パシフィコ横浜)	山内 忍, 高橋怜美, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三	
コアクシアル型ダブルルーメンカテーテルの外筒先端孔が再循環率に及ぼす影響		2015年6月26日～28日	日本透析医学会 第60回日本透析医学会学術集会・総会(パシフィコ横浜)	滝川千恵美, 大城寿乃, 小林桃子, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三	
コアクシアル型ダブルルーメンカテーテルの外筒先端孔がへばりつき発生に及ぼす影響		2015年6月26日～28日	日本透析医学会 第60回日本透析医学会学術集会・総会(パシフィコ横浜)	滝川千恵美, 大城寿乃, 小林桃子, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三	
「コアクシアル型ダブルルーメンカテーテルの最適形状に関する研究」		2015年10月25日	第1回神奈川県臨床工学会かながわ労働プラザ	滝川千恵美, 荒井大輔, 菅野聖乃, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三	
「血液回路内の血流音モニタリングによる回路内凝固検出の試み」		2015年10月25日	第1回神奈川県臨床工学会かながわ労働プラザ	塩田卓也, 島崎直也, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三	
「嚙下音の時間-周波数分析による非侵襲嚙下機能スクリーニング検査方法の検討」		2015年10月25日	第1回神奈川県臨床工学会かながわ労働プラザ	可児雅弥, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三	

「血液回路内凝固の発生に及ぼす静脈側ドリップチャンバ全長の影響」	2015年10月25日	第1回神奈川県臨床工学会 かながわ労働プラザ	山本準矢, 島崎直也, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「血液透析用留置針の側孔の数及び実血流量の関係」	2015年10月25日	第1回神奈川県臨床工学会 かながわ労働プラザ	田口友樹, 星 直樹, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「血液回路内凝固の発生を検出するための斜め入射型超音波センサの開発」	2015年10月25日	第1回神奈川県臨床工学会 かながわ労働プラザ	秋山航汰, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
“Investigation of indwelling hemodialysis cannula by pressure distribution measurement and visualization flow, and proposal for optimal shape”	2015年11月14日	10th TOIN International Symposium on Biomedical engineering Toin University of Yokohama	Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi , Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
“Automatic detection of representative swallowing sound signals for quantitative evaluation of swallowing function”	2015年11月14日	10th TOIN International Symposium on Biomedical engineering Toin University of Yokohama	Masaya Kani , Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi , Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
“CFD analysis of hemodialysis indwelling needles to minimize discrepancies between prescribed and actual blood flow volumes”	2015年11月14日	10th TOIN International Symposium on Biomedical engineering Toin University of Yokohama	Yoichi Marushita , Yuki Taguchi, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi , Toshio Sato
“Examination of mechanism underlying shunt sound using numerical computation”	2015年11月14日	10th TOIN International Symposium on Biomedical engineering Toin University of Yokohama	Noriaki Nakane, Naoya Shimazaki , Yuka Motohashi , Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
“Wavelength dependence of change in light absorbance before and after blood coagulation using a transmissive photosensor”	2015年11月14日	10th TOIN International Symposium on Biomedical engineering Toin University of Yokohama	Hideo Sakamoto , Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
“n experimental investigation on the effect of the overall length of the venous drip chamber on blood coagulation”	2015年11月14日	10th TOIN International Symposium on Biomedical engineering Toin University of Yokohama	Naoya Shimazaki , Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi , Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
“An experimental investigation of the effect of side holes on the difference between actual flow rate and set flow rate in hemodialysis indwelling needles”	2015年11月14日	10th TOIN International Symposium on Biomedical engineering Toin University of Yokohama	Yuki Taguchi , Yoichi Marushita , Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi , Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
“Effect of distance between blood removal and return holes on recirculation rate and adherence of a coaxial double-lumen catheter”	2015年11月14日	10th TOIN International Symposium on Biomedical engineering Toin University of Yokohama	Chiemi Takikawa , Kiyono Sugano, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi , Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
「透過型光センサを用いた血液凝固前後の吸光度変化の波長依存性に関する検討」	2015年11月19日 ～21日	第53回日本人工臓器学会大会 東京ドームホテル	坂元英雄, 可児雅弥, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「設定血流量と実血流量の乖離を抑えることを目的とした血液透析用留置針のCFD解析」	2015年11月19日 ～21日	第53回日本人工臓器学会大会 東京ドームホテル	丸下洋一, 田口友樹, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「血液透析用留置針の設定血流量と実血流量の乖離量に及ぼす側孔の影響に着目したCFD解析」	2015年11月19日 ～21日	第53回日本人工臓器学会大会 東京ドームホテル	田口友樹, 丸下洋一, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「人工血管内シャントで発生するシャント音の発生メカニズムに関する流れ解析」	2015年11月19日 ～21日	第53回日本人工臓器学会大会 東京ドームホテル	中根紀章, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「静脈側ドリップチャンバの長さが回路内血液凝固に及ぼす影響」	2015年11月19日 ～21日	第53回日本人工臓器学会大会 東京ドームホテル	島崎直也, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三

「コアクシャル型ダブルルーメンカテーテルの各種設計パラメータが再循環率とへばりつき発生に及ぼす影響」	2015年11月19日～21日	第53回日本人工臓器学会大会 東京ドームホテル	滝川千恵美, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「血液回路内を多重反射する超音波の連続モニタリングによる血液凝固に伴う超音波特性的変化検出の試み」	2015年11月19日～21日	第53回日本人工臓器学会大会 東京ドームホテル	佐藤敏夫, 山内 忍, 本橋由香, 阿岸鉄三
「嚙下機能の定量評価を目的とした代表嚙下音信号自動検出機能」	2015年11月19日～21日	第53回日本人工臓器学会大会 東京ドームホテル	可児雅弥, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「医工学治療分野における各種「音」の分析による非侵襲モニタリングの可能性を探る」	2016年3月18日～20日	日本医工学治療学会第32回 学術大会 甲府富士屋ホテル	佐藤敏夫, 山内 忍, 本橋由香, 阿岸鉄三
「複数の加速度センサによる嚙下音信号の検出及び合成に基づく非侵襲嚙下機能評価法」	2016年3月18日～20日	日本医工学治療学会第32回 学術大会 甲府富士屋ホテル	可児雅弥, 本橋由香, 山内 忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「血液凝固前後における透過光パワー変化の測定に基づく非侵襲凝固検出の試み」	2016年3月18日～20日	日本医工学治療学会第32回 学術大会 甲府富士屋ホテル	坂元英雄, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「静脈側ドリップチャンバの各種パラメータが血液凝固発生に及ぼす影響評価」	2016年3月18日～20日	日本医工学治療学会第32回 学術大会 甲府富士屋ホテル	島崎直也, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「コアクシャル型ダブルルーメンカテーテルの最適形状に関する実験的検討」	2016年3月18日～20日	日本医工学治療学会第32回 学術大会 甲府富士屋ホテル	滝川千恵美, 菅野聖乃, 荒井大輔, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「血液透析用17ゲージ留置針の側孔最適化による確保できる実流量増加の試み」	2016年3月18日～20日	日本医工学治療学会第32回 学術大会 甲府富士屋ホテル	田口友樹, 島崎直也, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三,
「血液透析用17ゲージ留置針の側孔最適化を目的としたCFD解析の試み」	2016年3月18日～20日	日本医工学治療学会第32回 学術大会 甲府富士屋ホテル	島崎直也, 中根紀章, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
○その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
“Effect of distance between blood removal and return holes on recirculation rate and adherence of a coaxial double-lumen cathete”	2015年11月14日	10th TOIN International Symposium on Biomedical engineering Toin University of Yokohama	Chiemi Takikawa, Sugano Kiyono, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
「超音波シンポジウム論文賞」	2015年11月6日	第36回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム	Yuki Uemura, Kazuma Sasaki, Kyohei Minami, Pak-Kon Choi, Toshio Sato, Shinichi Takeuchi
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
「シャント音の持続時間定量化と分岐を有する擬似血管狭窄モデルを用いたバスキュラーアクセス機能評価に対する有用性の検討」	2015年6月15日	人工臓器 44巻 1号 第52回日本人工臓器学会大会 萌芽研究ポスター発表優秀賞 受賞レポート 佐々木一真, 本橋由香, 山内 忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本医工学治療学会、日本透析医学会、日本医療機器学会、日本臨床工学技士会、日本音響学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2009年1月1日～2016年12月31日	日本医工学治療学会 評議員
2009年1月～現在	日本医工学治療学会 編集委員

佐野元昭 (さの もとあき) 教授



出生年：1959(昭和34)年
 在籍：1999(平成11)年4月～
 最終学歴：東京工業大学大学院理工学研究科物理学専攻博士後期課程
 学位：理学博士
 学位論文：光複屈折による六方晶ABX₃型反強磁性体の相転移の研究
 専門分野：信号処理、画像処理、コンピュータグラフィックス
 前職：東京工業大学大学院総合理工学研究科助手
 学内役職等：教務委員(工学系学部)(2003～2012)
 規定検討委員会委員(2008～2015)
 おもしろ理科教室実行委員会委員(2009～)委員長(2011
 入試・広報センター(2013～2015)、
 アドミッション委員(2012～2015)
 大学入試センター試験 試験場本部 統括責任(2012～
 図書館運営委員(2013～2015)
 ハラスメント対策委員(2013)
 情報処理教育委員(2013～)
 インディカフェ(2013～2015)
 (社)私立大学情報教育協会(2013～)窓口
 (電算事故調査委員会委員(2015))
 学生部長(2016～)、学生委員会(委員長)(2016～)
 文化教育推進本部(2016～)
 留学：
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：電気学会論文発表賞(1992)

I 教育活動

2.作成した教科書、教材、参考書		
コンピュータリテラシ	2009年4月 2010年4月 2011年4月 2012年4月 2013年4月 2014年4月 2015年4月 2016年4月	毎年新入生を対象に行われる情報処理関係のオリエンテーションの資料として、情報処理演習室の使い方から、インターネット基礎およびWord、Excel、PowerPointの簡単な説明までを1冊にまとめた参考書である。
物理Ⅰ 物理Ⅱ	2010年4月および9月 2011年4月および9月 2012年4月および9月 2013年4月および9月 2014年4月および9月 2015年4月および9月 2016年4月および9月	工学系学部を対象にした「物理Ⅰ」、「物理Ⅱ」のテキストである。小林講師、中丸非常勤、私の3名で担当しており、私の分担は、物理Ⅰは静力学、物理Ⅱは電荷、電流・電圧、回路である。2012年からは、小林講師と私の2名になったので改定。

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略
2014年度に引き続き、科研費の研究として、ハイスピードカメラによる葉の振動の同時多点計測を行い、葉の振動を「葉全体の振動」と「葉自身のたわみ振動」に分離し、それぞれの振動が植物の水ストレスとどのような関係にあるかを調べた。また、ハイスピードカメラの代わりにレーザ変位計を3台平行に並べて葉の3点の振動変位を同時計測することにより「葉全体の振動」と「葉自身のたわみ振動」を分離して、それぞれの振動が植物の水ストレスとどのような関係にあるかを調べた。それらの結果、植物の水ストレスの検出には、葉自身のたわみ振動よりも、葉全体の振動を調べた方が良いことが確認できた。この結果は、日本音響学会の研究発表会で発表した。この科研費は2015年度で終了であるが、この結果を踏まえて、2016年度から新たな科研費の研究として、通常のCCDカメラを用いた振動解析により、植物の水ストレスを推定するための研究を行うことにしている。

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
“Estimation of water stress of plant by vibration measurement of leaf using acoustic radiation force”	共著	2015年5月29日	Acoustical Science and Technology, Vol. 36, No. 3	Motoaki Sano , Yutaka Nakagawa1, Tsuneyoshi Sugimoto1, Takashi Shirakawa1, Kaoru Yamagishi1, Toshiaki Sugihara2, Motoyoshi Ohaba2, and Sakae Shibusawa	248-253頁
「ハイスピードカメラを用いた葉の振動計測に関する検討」	共著	2015年10月15日	桐蔭論叢 第32号	佐野元昭 , 中川 裕, 安齋拓也, 内川千春, 大平武征, 白川貴志, 杉本恒美	187-192頁
「音響計測を用いた植物の水ストレス症状の検出に関する研究」	共著	2015年10月15日	桐蔭論叢 第32号	中川 裕, 杉本恒美, 佐野元昭 , 白川貴志, 大平武征, 内川千春	193-196頁
「縦挿し型送受信機を用いた培養土中の体積含水率推定に関する検討」	共著	2015年10月15日	桐蔭論叢 第32号	白川貴志, 大平武征, 中川 裕, 佐野元昭 , 杉本恒美	197-200頁
「圧力センサによる土壌圧力の測定に関する検討」	共著	2015年10月15日	桐蔭論叢 第32号	大平武征, 杉本恒美, 佐野元昭 , 白川貴志, 中川 裕	201-204頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目		年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名	
「ハイスピードカメラによる葉の振動計測と植物の水ストレス」		2015年9月9日	日本生物環境工学会2015年宮崎大会 シーガイア コンベンションセンター	安齋拓也, 佐野元昭 , 中川裕, 内川千春, 大平武征, 白川貴志, 杉本恒美	
“Basic Study About The Relation Between The Natural Frequency And Water Stress in The Plant (II)”		2015年11月14日	10th Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2015(ISBME) Toin University of Yokohama	Yutaka Nakagawa, Motoaki Sano , Tsuneyoshi Sugimoto	
“Study on the measurement of the soil pressure utilizing the pressure sensor of the polymer thick film”		2015年11月14日	10th Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2015(ISBME) Toin University of Yokohama	Takeyuki Ohdaira, Tsuneyoshi Sugimoto , Motoaki Sano, Takashi Shirakawa, Yutaka Nakagawa	
“Propagation Velocity in Soil Using Handheld Sound Source and Sensors”		2015年11月14日	10th Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2015(ISBME) Toin University of Yokohama	Takashi Shirakawa, Takeyuki Ohdaira, Yutaka Nakagawa, Motoaki Sano , Tsuneyoshi Sugimoto	
“Study on The Modeling of The Natural Frequency of A Plant Leaf”		2015年11月14日	10th Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2015(ISBME) Toin University of Yokohama	Chiharu Uchikawa, Motoaki Sano , Tsuneyoshi Sugimoto	
“Basic Study on the Detection of the Water Stress in the Plant using Ultrasonic Sound Source (II)”		2015年11月7日	The 36th Symposium on Ultrasonic Electronics (USE2015) Epochal Tsukuba International Congress Center	Yutaka Nakagawa, Tsuneyoshi Sugimoto, Motoaki Sano , Takashi Shirakawa, Takeyuki Ohdaira, Chiharu Uchikawa	
“Estimation of Water Stress of Plant by Vibration Analysis of Leaf with High Speed Camera 2”		2015年11月7日	The 36th Symposium on Ultrasonic Electronics (USE2015) Epochal Tsukuba International Congress Center	Motoaki Sano , Yutaka Nakagawa, Takuya Anzai, Chiharu Uchikawa, Takeyuki Ohdaira, Takashi Shirakawa, Tsuneyoshi Sugimoto	

「葉の多点振動解析による作物吸水ニーズの推定」	2016年3月9日	日本音響学会 2016年 春季 研究発表会 桐蔭横浜大学	佐野元昭, 中川裕, 安齋拓也, 内川千春, 大平武征, 白川貴志, 杉本恒美
「音響振動による植物給水ニーズの推定に関する研究—葉モデルを用いた葉の共振周波数に関する基礎検討—」	2016年3月9日	日本音響学会 2016年 春季 研究発表会 桐蔭横浜大学	杉本恒美, 中川裕, 白川貴志, 大平武征, 内川千春, 佐野元昭
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
戦略的創造推進事業(CREST)	2010年10月～2015年3月	独立行政法人科学技術振興機構(JST)	
研究成果展開事業	2011年8月～2012年3月	研究成果最適展開支援プログラム(A-Step)探索タイプ 独立行政法人科学技術振興機構(JST)	
科学研究費助成事業	2013年6月～2016年3月	独立行政法人日本学術振興会 学術研究助成基金助成金(基盤研究(C))	
科学研究費助成事業	2015年4月～2018年3月	独立行政法人日本学術振興会 学術研究助成基金助成金(基盤研究(C))	
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
「植物の水分量、超音波で判定」	2015年6月22日	日本経済新聞(2015年6月22日)13面	
(その他特記事項)			
iTSCOMチャンネル(地デジ11ch)「地モトTVおかえり!」(トビックスコーナー(2分))(9月2日(火)6:30～, 13:00～, 15:00～, 17:00～, 22:30～)おもしろ理科教室の取材(主催者インタビュー)			

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本物理学会、応用物理学会、電気学会、日本音響学会、日本生物環境工学会

竹内 真一 (たけうち しんいち) 教授



出生年：1956(昭和31)年
 在籍：1994(平成6)年4月～
 最終学歴：武蔵工業大学大学院工学研究科修士課程電気工学専攻
 ：桐蔭横浜大学大学院工学研究科博士課程材料工学専攻
 学位：博士(工学)
 学位論文：信号処理による超音波診断装置の分解能改善に関する研究(修士)
 Study on applicability of microbubbles in harmonic imaging and development of ultrasound transducer for harmonic imaging(博士)
 専門分野：超音波工学、音響工学、医用生体工学、電子通信工学
 前職：(株)キメック研究開発センター計測電子システム部副主事
 学内役職等：医用工学部臨床工学科長(2012～)
 学務部副部長(2010・2011)
 留学：
 資格：第1級陸上無線技術士、第1種電気通信主任技術者(伝送交換)、第2種ME技術実力検定試験合格
 非常勤講師：日本工学院専門学校・臨床工学専攻科、東京工科大学・医療保健学部・理学療法士学科、看護学科、作業療法士学科
 受賞・表彰：第51回注目発明に選定(超音波流量測定方法およびその装置)日本超音波医学会・超音波工学フェロー電子情報通信学会・シニア会員2000年度材料技術研究協会討論会ポスター賞受賞2002年度材料技術研究協会技術賞2002年度材料技術研究協会討論会ポスター賞2005年度材料技術研究協会討論会ポスター奨励賞

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略					
当研究室は主に、超音波の医療応用を目的とした研究を実施している。特に、本年は、超音波照射による膵臓癌および脳腫瘍の治療を目的としたがん細胞のアポトーシス誘導の研究、心臓および血管内の治療診断を目的としたIVUS (Intra Vascular Ultrasound Imaging System) に使用する超小型超音波モーターの開発、IVUS 用超音波プローブの研究、近年注目され始めている低強度パルス超音波を利用した骨折治療促進システムに応用する簡易形超音波骨折部位検出装置の研究、音響キャビテーションの発生を伴う高強度の超音波音場でも壊れることなく音圧や音響強度の空間分布を計測可能な堅牢方ハイドロホンの研究と実用化のための共同研究を行っている。さらに高強度の超音波音場計測技術の研究を行っている。本年度は、「Observation of cavitation bubbles and acoustic streaming in high intensity ultrasound fields」というタイトルでJapanese Journal of Applied Physics に掲載された論文が、2015年度のSpotlight Paper および超音波シンポジウム論文賞に選定された。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称 (学術論文)	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
Observation of cavitation bubbles and acoustic streaming in high intensity ultrasound fields	共著	2015年7月	Japanese Journal of Applied Physics 54	Yuuki Uemura, Kazuma Sasaki, Kyohei Minami, Toshio Sato, Pak-Kon Choi, and Shinichi Takeuchi	07HB05-1～6頁
Fundamental study of hydrothermally synthesized lead zirconate titanate polycrystals deposited on a Ti substrate during nucleation	共著	2015年7月	Japanese Journal of Applied Physics 54	Toshinobu Abe, Seiya Ozeki, Minoru Kuribayashi Kurosawa, and Shinichi Takeuchi	07HB06-1～3頁

複数の音響導波路を用いた超音波音源の2次元音場シミュレーションによる基礎検討 (Consideration by 2D Acoustic Field Simulation for Ultrasound Source System using Multiple Acoustic Waveguide)	共著	2015年10月	桐蔭論叢, 32	五十嵐茂, 竹内真一	pp137-143
水熱合成法を用いたTi基板に対するジルコン酸チタン酸鉛多結晶の結晶成長に関する基礎研究 (Fundamental Study on the Hydrothermally Synthesized Lead Zirconate Titanate Poly-crystals on a Ti Substrate during Crystal Growth)	共著	2015年10月	桐蔭論叢, 32	阿部峻靖、大関誠也、黒澤実、竹内真一	pp145-146
超音波照射が膵臓癌細胞の生存率に及ぼす影響の基礎検討 (Basic Research on the effect of ultrasound irradiation on the survival rate of pancreatic cancer cells)	共著	2015年10月	桐蔭論叢, 32	佐藤貴亮、菅俣浩明、西村裕之、竹内真一	pp151-157
厚みモード球面型凹面状圧電振動子の表面を伝搬する不要波についての検討 (Consideration on spurious waveform propagating through the surface of the thickness mode spherical concave piezoelectric transducer)	共著	2015年10月	桐蔭論叢, 32	田中祐介、竹内真一	pp159-163
Control of Deposition Area for Hydrothermally synthesized Lead Zirconate Titanate Film by Masking with Au Sputtering	共著	2015年10月	Research Bulletin NO.32 October 2015 TOIN UNIVERSITY OF YOKOHAMA	Seiya OZEKI, Toshinobu ABE, Minoru KURIBAYASHI KUROSAWA and Shinichi TAKEUCHI	pp.165-168
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
水熱合成PZT振動子を用いた医療用コイル状ステータ超音波モータの基礎検討	2015年5月22日	日本超音波医学会第88回学術集会、S491、2015.5(グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール(東京都))	大関誠也、阿部峻靖、守屋 正、入江喬介、黒澤 実、竹内真一		
チタン製前面板を有する耐音響キャビテーション堅牢型ハイドロホンの構造の再検討	2015年5月22日	日本超音波医学会第88回学術集会、S497、2015.5、(グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール(東京都))	竹内真一、岡田長也、椎葉倫久		
音響導波路を用いたハイドロホン校正用高強度音源システムの開発 -2次元音場シミュレーションによる検討-	2015年5月25日	電子情報通信学会技術研究報告 (IEICE Technical Report) 超音波研究会 (US2015-11) Vol.115、NO.52、pp.13~18、(2015-05) (機械振振興会館、東京)	五十嵐茂、竹内真一		
水熱合成PZT多結晶膜を用いた医療応用を目的とした二振動子型コイル状ステータ超音波モータの基礎検討	2015年5月25日	電子情報通信学会技術研究報告 (IEICE Technical Report) 超音波研究会 (US2015-12) Vol.115、NO.52、pp.19~23、(2015-05) (機械振振興会館、東京)	大関誠也、阿部峻靖、黒澤 実、竹内真一		

Robust Hydrophone with Hydrothermal PZT Thick Film Vibrator and Titanium Front Layer Available in High Power Ultrasound Field	2015年5月24-27日	2015 Joint ISAF-ISIF-PFM conference (IEEE International Symposium on Application of Ferroelectric (ISAF) International Symposium on integrated Functionalities (ISIF), Piezoresponse Force Microscopy Workshop (PFM) in Singapore in May 201	Nagaya OKADA, Shinichi TAKEUCHI
チタン前面板を有した耐キャビテーションハイドロホンの開発 - 封止方法が耐久性に及ぼす影響 -	2015年6月19日	日本超音波医学会 基礎技術研究会資料, Vol. 2015、No.2、2015. 6、pp. 19~23 (熊本大学、熊本)	椎葉倫久、岡田長也、黒澤実、 竹内真一
チタン前面板を有した耐キャビテーションハイドロホンの開発 - 封止方法が耐久性に及ぼす影響 -	2015年6月19日	電子情報通信学会技術研究報告 (IEICE Technical Report) 超音波研究会 (US2015-19) Vol.115、NO.102、pp.17~21、(2015-06) (熊本大学、熊本)	椎葉倫久、岡田長也、黒澤実、 竹内真一
医療応用を目的としたコイル状ステータ超音波モータの振動子表面における振動速度分布の測定	2015年9月17日	日本音響学会2015年秋季研究発表会講演論文集、1167~1168、2015.9 (会津大学、福島)	大関 誠也、(桐蔭横浜大院)、黒澤 実 (東工大院)、 竹内 真一 (桐蔭横浜大院)
チタン製前面板を有するハイドロホンの開発 - 構造の再検討による耐久性の違い -	2015年9月17日	日本音響学会2015年秋季研究発表会講演論文集、1181~1181、2015.9 (会津大学、福島)	椎葉倫久 (桐蔭横浜大院・学振PD)、岡田長也 (本多電子)、黒澤実 (東工大院)、 竹内真一 (桐蔭横浜大)
音響導波路を用いたハイドロホン校正用高強度音源システムの開発* - 有限要素法を用いた3次元音場シミュレーションによる検討 -	2015年9月17日	日本音響学会2015年秋季研究発表会講演論文集、1183~1184、2015.9 (会津大学、福島)	五十嵐茂 (職業能力開発総合大学校)、森下武志、 竹内真一 (桐蔭横浜大学)
臓器癌細胞のアポトーシス誘導に関する基礎研究	2015年10月28日	平成27年度 神奈川県ものづくり技術交流会 プログラム Oct. 2015、(神奈川県産業技術センター、神奈川県)	佐藤 貴亮、西村 裕之、吉田 薫、萩原 啓実、 竹内 真一
ナノダイヤモンド微粒子の超音波による分散と凝集の基礎研究	2015年10月28日	平成27年度 神奈川県ものづくり技術交流会 プログラム Oct. 2015、(神奈川県産業技術センター、神奈川県)	遠田 リキ、池上 正志、 竹内 真一
血管内超音波検査プローブ搭載に向けたコイル状ステータ超音波モータの形状の検討	2015年10月28日	平成27年度 神奈川県ものづくり技術交流会 プログラム Oct. 2015、(神奈川県産業技術センター、神奈川県)	大関誠也、栗田恵亮、 竹内真一
コイル状ステータ超音波モータ (CS-USM) の駆動効率向上に関する研究 - 適切な音響導波路材料の選定	2015年10月28日	平成27年度 神奈川県ものづくり技術交流会 プログラム Oct. 2015、(神奈川県産業技術センター、神奈川県)	大関誠也、上原長佑、 竹内真一
骨折部位の簡易診断用斜角超音波探触子とこれを用いた超音波診断システムの基礎研究	2015年10月29日	平成27年度 神奈川県ものづくり技術交流会 プログラム Oct. 2015、(神奈川県産業技術センター、神奈川県)	遠山大樹、 竹内真一

Fundamental Study on the Miniature Coiled Stator-UltraSound Motor with hydrothermally synthesized lead zirconate titanate poly-crystalline film transducer for medical applications	2015年10月22日	IEEE International Ultrasonics Symposium 2015 (IEEE IUS2015)	Seiya Ozeki, Toshinobu Abe, Tadashi Moriya, Takasuke Irie, Minoru Kurosawa and Shinichi Takeuchi
Development of anti-cavitation hydrophone with hydrothermal PZT film -Estimation of durability	2015年10月22日	Development of anti-cavitation hydrophone with hydrothermal PZT film - Estimation of durability	Michihisa Shiiba, Nagaya Okada, Minoru Kurosawa and Shinichi Takeuchi
Influence of Tough Hydrophone Shapes with Titanium Front Plate and Hydrothermal PZT Thick Film on Distribution of Acoustic Bubbles around Focal Point of HIFU Transducer	2015年10月22日	IEEE International Ultrasonics Symposium 2015 (IEEE IUS2015), 2015. 10. 21-24 (Taipei International Convntion Center, TAIPEI, ROC)	Nagaya Okada, Michihisa Shiiba, Minoru K. Kurosawa, Shinichi Takeuchi
超音波照射によるナノダイヤモンド微粒子の分散と凝集に関する基礎研究	2015年11月5日	第36回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム(USE 2015)、2015.11、(つくば国際会議場(エポカルつくば)、茨城)	遠田 リキ、池上 正志 竹内 真一
キャビテーション計測技術の開発 -マイクロバブル濃度とセンサ出力信号の関係-	2015年11月5日	第36回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム(USE 2015)、2015.11、(つくば国際会議場(エポカルつくば)、茨城)	内田 武吉、吉岡 正裕、松田 洋一、 竹内 真一 、堀内 竜三
音響導波路を用いた高強度超音波音源システムの開発を目的とした軸対称有限要素解析、超音波照射によるナノダイヤモンド微粒子の分散と凝集に関する基礎研究	2015年11月5日	第36回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム(USE 2015)、2015.11、(つくば国際会議場(エポカルつくば)、茨城)	五十嵐 茂、森下 武志、 竹内 真一
水熱合成法を用いたPZT 多結晶膜の結晶成長に関する基礎検討、超音波照射によるナノダイヤモンド微粒子の分散と凝集に関する基礎研究	2015年11月6日	第36回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム(USE 2015)、2015.11、(つくば国際会議場(エポカルつくば)、茨城)	大関 誠也、黒沢 実、 竹内 真一
耐キャビテーションハイドロホンの開発- キャビテーションに対するチタン前面板の効果	2015年11月7日	第36回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム(USE 2015)、2015.11、(つくば国際会議場(エポカルつくば)、茨城)	椎葉 倫久、岡田 長也、黒澤 実、 竹内 真一
Development of high Intensity Ultrasonic Source using Acoustic Waveguides and Concave Type Transducer - Consideration by 3-D Finite Element Acoustic Field Simulation	2015年11月14日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2015, Nov. 14, pp. 98-99, 2015	Shigeru IGARASHI, Takeshi MORISHITA and Shinichi TAKEUCHI
Fundamental Consideration on CS-USM with Hydrothermally Synthesized PZT Poly-crystalline Film Transducers - Consideration of Miniaturization of The Vibrator -“, TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2015, Nov. 14, pp.194-195, 2015	2015年11月14日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2015, Nov. 14, pp.194-195, 2015 - Yokohama	Seiya OZEKI, Minoru K. KUROSAWA and Shinichi TAKEUCHI
Basic Research on The Effect of Ultrasound Irradiation on Pancreatic Cancer Cells	2015年11月14日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2015, Nov. 14, pp.106-107, 2015 - Yokohama	Takaaki SATO, Hiroyuki Nishimura, Hiromi HAGIWARA, Shinichi TAKEUCHI

Estimation of Durability of Tough Hydrophone with Re-examined Structure	2015年11月14日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2015, Nov. 14, pp.112-113, 2015	Michihisa SHIIBA, Nagaya OKADA, Minoru KUROSAWA and Shinichi TAKEUCHI
Basic study on the effects of ultrasound irradiation on the survival rate of C6 rat glioma cell line	2015年11月14日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2015, Nov. 14, pp.114-115, 2015	Hiroaki SUGAMATA and Shinichi TAKEUCHI
Basic Study on Aggregation of Nanometer Sized Diamond Particles by Ultrasound Exposure	2015年11月14日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2015, Nov. 14, pp.116-117, 2015	Riki TOHDA, Masashi IKEGAMI and Shinichi TAKEUCHI
Simple ultrasound diagnostic system of the fractured site in bone with a variable angle ultrasound probe	2015年11月14日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2015, Nov. 14, pp.118-119, 2015	Hiroki TOOYAMA and Shinichi TAKEUCHI
Study on measurement technique for amount of generated cavitation -Relationship between state of microbubbles and output signal of cavitation sensor	2015年11月14日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2015, Nov. 14, pp.120-121, 2015	Takeyoshi UCHIDA, Shinichi TAKEUCHI and Tsuneo KIKUCHI
Basic study on apoptosis induction to cancer cells by ultrasound exposure for minimally invasive cancer treatment	2015年11月14日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2015, Nov. 14, pp.146-147, 2015	Akihiro WATANABE, Hiroyuki NISHIMURA and Shinichi TAKEUCHI
耐音響キャビテーション堅牢ハイドロホンの開発	2015年11月15日	日本超音波医学会第27回関東甲信越地方会学術集会抄録集、p.48、2015.11、(東京ファッションタウンビル)	椎葉倫久、岡田長也、 竹内真一
超音波照射による膵臓癌細胞のアポトーシス誘導に関する基礎研究	2015年12月4日	日本超音波医学会 基礎技術研究会資料、Vol. 2015、No.5、2015. 12、pp. 1~5 (桐蔭横浜大学、神奈川)	佐藤貴亮、西村裕之、萩原啓実、吉田薫、 竹内真一
○その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
「Spotlight Papaer」	2015年11月6日	Japanese Journal of Applied Physics	Yuki Uemura, Kazuma Sasaki , Kyohei Minami , Pak-Kon Choi, Toshio Sato, Shinichi Takeuchi
「超音波シンポジウム論文賞」	2015年11月6日	第36回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム	Yuki Uemura, Kazuma Sasaki , Kyohei Minami , Pak-Kon Choi, Toshio Sato, Shinichi Takeuchi
(産学協同研究)			
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称	
「水熱合成法によるハイドロホンの開発」	2011年4月1日～2016年3月31日	本多電子株式会社	
「高出力超音波音場計測とその応用に関する研究」	2006年4月1日～2015年3月31日	独立行政法人産業技術総合研究所	

(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
「水熱合成法によるハイドロホンの開発」	2011年4月1日～2016年3月31日	本多電子・奨学寄附金
(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
IEEE International Ultrasonics Symposium 2015 (IEEE IUS2015), 2015. 10. 21-24 (Taipei International Convntion Center, TAIPEI, ROC)	2015年 10月 21日～24日	台北、台湾

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
IEEE、MRS、電子情報通信学会、日本音響学会、日本超音波医学会、日本脳神経超音波学会、日本非破壊検査協会、材料技術研究協会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2009年05月～現在	日本超音波医学会・超音波検査士制度委員会委員(基礎領域・領域副責任者)
2008年05月～現在	日本音響学会・研究発表会・プログラム編集委員
2011年5月～現在	超音波シンポジウム論文委員会委員
2009年04月～現在	電子情報通信学会・シニア会員
2009年05月～現在	日本超音波医学会・超音波工学フェロー
2009年08月～2015年07月	日本超音波医学会・超音波専門医制度委員会委員(基礎領域・領域責任者)
2015年08月～現在	日本超音波医学会・超音波専門医制度委員会委員(基礎領域・領域副責任者)
2010年04月～2016年03月	日本超音波医学会・代議員
2012年11月～2015年11月	日本超音波医学会・関東甲信越地方会・第25回学術集会・実行委員
2010年04月～現在	電子情報通信学会・シニア会員
2011年04月～現在	電子情報通信学会・超音波専門委員会委員(再任)
2014年04月～現在	日本音響学会・研究発表会・準備委員会・委員
2014年04月～2016年03月	日本音響学会・2016年春季研究発表会・実行委員会・委員長
2014年04月～2016年03月	日本超音波医学会・基礎技術研究会・代表



出生年：1955(昭和30)年
 在籍：1994(平成6)年4月～
 最終学歴：長岡技術科学大学大学院情報制御工学専攻博士後期課程修了
 学位：工学博士
 学位論文：レジスタ転送レベルのハードウェア設計における機能検証
 専門分野：(情報処理工学)最適化アルゴリズム、(電子工学)携帯医療機器のハードとソフト
 前職：株式会社日立製作所中央研究所客員研究員
 学内役職等：学生委員会委員、研究推進部委員、ハラスメント相談員、
 (前年度学内役職等)：入試試験委員会委員
 留学：
 資格：アマチュア無線技士(電話級)
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)学部の一部の担当科目用のホームページを作成し、授業の講義内容等を公開している	2009年～現在	公開ページのリンクは、下記の通りである。 http://www.cc.toin.ac.jp/sc/palacios/portal/education_j.html
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)幾つかの科目の教科書や参考書等を作成	2007年～現在	公開ページのリンクは、下記の通りである。 http://www.cc.toin.ac.jp/sc/palacios/portal/books_j.html
4.その他教育活動上特記すべき事項		
(1)日本ペルー共生協会のNPOのボランティア・グループで外国籍の児童等の教育	2001年～現在	文化庁や国際移住機関駐日事務所「IOM」と日本国文部科学省の支援事業等の補助金で色々な補習や就学支援の教室やコース等の活動に関わっている。 http://www.ajape.org/

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略			
この年度には、糖尿病網膜症の診断用アルゴリズム、携帯機器用生体信号処理システムの研究・開発、臨床工学技士の資格獲得・学習用ソフトウェアの研究・開発、およびウェブレットを用いた医用画像のノイズ軽減方法に関する研究を指導してきた。携帯機器用生体信号処理システムと医用画像のノイズ軽減方法については本学出版の学術雑誌「桐蔭論叢」に投稿し、(2016年6月の)第35に搭載される。医用画像のノイズ軽減方法に関する技術論文も国際学会に出した。前年度の研究成果は、ウルグアイの国際ワークショップ、イタリアと中国の国際学会にも発表しました。			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名
“Improving the kNN method for Breast Cancer Diagnosis”	2015年8月28日	The 37th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (EMBS) Milan, Italy	Alberto Palacios Pawlovsky, 秋吉匠, 長谷川純哉, 浅沼章弘
“Software Tool for the Analysis of Gate Activation in the ISCAS 85 Combinational Circuits”	2015年2月24日～27日	Iberchip 2015 Montevideo, Uruguay	-

“Improving the Accuracy of the kNN Method when Using an Even Number k of Neighbors”	2015年10月9日	International Conference on Biomedical and Health Informatics, ICBHI 2015 Haikou, China	Alberto Palacios Pawlovsky , Daisuke Kurematsu
---	------------	--	---

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
ペルー工学会、IEEE(Senior Member)、電子情報通信学会(IEICE)、およびACMの各会員		
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
NPOの日本・ペルー共生協会	2002年から現在まで	理事長

宮坂 力 (みやさか つとむ) 教授



出生年：1953(昭和28)年
 在籍：2001(平成13)年12月～
 最終学歴：東京大学大学院工学系研究科合成化学専攻博士課程
 学位：工学博士
 学位論文：光合成初期過程の電気化学シミュレーション
 専門分野：光電気化学、環境エネルギー化学
 前職：富士写真フイルム足柄研究所主任研究員
 学内役職等：研究推進部長(2012)
 留学：カナダ・ケベック大学トリビエール校生物物理学科(1979～1980)
 資格：危険物取扱甲種主任
 受賞・表彰：2002年 (財)化学技術戦略推進機構「アカデミアショーケース」
 2004年 横浜市ベンチャービジネスプランコンテスト「アカデミー賞」
 2005年 Scientific American 50 selection (2005)
 2009年 GSC(グリーンサステナブルケミストリー)・文部科学大臣賞
 2012年 日本写真学会 学術賞

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略

われわれの研究室で2006年ころから研究が始まり、現在では次世代太陽電池の有力技術として研究が世界的に活発化している有機無機ペロブスカイト太陽電池の技術向上を目的とした研究活動に注力した。研究活動は科学技術振興機構(JST)の先端的低炭素化技術開発(ALCA)プロジェクトと科学研究費補助金(基盤研究B)の支援によって加速的に推進させることができ、ペロブスカイト太陽電池の高効率化と交耐久化に寄与する基礎技術を構築することができた。研究成果を年度内に17件の審査付き論文に出版した。この論文数は桐蔭横浜大学で研究を開始してから最も多い数であり、研究の密度が高かったことを示す。ペロブスカイト太陽電池の性能は実用化する化合物半導体やシリコン太陽電池に近いレベルまで急速に進化し、研究発表の舞台は全世界に広がっており、研究室から国際学会での発表件数も20件近かった。この研究分野はこれからも成長し、太陽エネルギー利用の産業研究をリードしていく技術となることは明らかと思われる。

○著書・論文等

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
「ペロブスカイト太陽電池と光エレクトロニクス素子」	単著	2015年7月	月刊OPTRONICS, 403	宮坂 力	pp59-65
“Trend of perovskite solar cells: Dig deeper to build higher”	共著	2015年6月	J. Phys. Chem. Lett., 6	Kai Zhu, Tsutomu Miyasaka , Jin Young Kim, and Ivan Mora-Sero	pp2315-2317
「ペロブスカイト太陽電池の特徴とエネルギーハーベストへの応用」	単著	2015年10月23日	「エネルギーハーベスティングの設計と応用展開」桑野 博喜, 竹内 敬治 監修, シーエムシー出版	宮坂 力	pp101-109
「高効率ペロブスカイト光電変換の応用展開と環境対応」	単著	2015年	光触媒, 47	宮坂 力	pp48-59

(学術論文)					
“Perovskite Photovoltaics: Rare Functions of Organo Lead Halide in Solar Cells and Optoelectronic Devices”(Highlight Review)	单著	2015年4月8日	Chem. Lett., 2015, 44	Tsutomu Miyasaka	pp720-729
“Low-temperature SnO ₂ -based electron selective contact for efficient and stable perovskite solar cells”	共著	2015年4月9日	J. Mater. Chem. A, 2015, 3	J. Song, E. Zheng, J. Bian, X.-F. Wang, W. Tian, Y. Sanehira, and T. Miyasaka	pp10837-10844
“The Interface between FTO and the TiO ₂ Compact Layer Can Be One of the Origins to Hysteresis in Planar Heterojunction Perovskite Solar Cells”	共著	2015年4月23日	ACS Appl. Mater. Interfaces, 2015, 7	Ajay Kumar Jena, Hsin-Wei Chen, Atsushi Kogo, Yoshitaka Sanehira, Masashi Ikegami, Tsutomu Miyasaka	9817–9823
“A switchable high-sensitivity photodetecting and photovoltaic device with perovskite absorber”	共著	2015年4月23日	J. Phys. Chem. Lett., 2015, 6	H.-W. Chen, N. Sakai, A. K. Jena, Y. Sanehira, M. Ikegami, K.-C. Ho, and T. Miyasaka	pp1773-1779
“Determination of Chloride Content in Planar CH ₃ NH ₃ PbI ₃ -xCl _x Solar Cells by Chemical Analysis”	共著	2015年5月21日	Chem. Lett., 2015, 44	L. Cojocar, S. Uchida, A. K. Jena, T. Miyasaka , J. Nakazaki, T. Kubo, and H. Segawa	pp1089-1091
“Efficient perovskite solar cells fabricated using an aqueous lead nitrate precursor”	共著	2015年7月10日	Chem. Commun., 2015, 51	Tsung-Yu Hsieh, Tzu-Chien Wei, Kuan-Lin Wu, Masashi Ikegami, Tsutomu Miyasaka	pp.13294-13297
“Efficient perovskite solar cell fabricated using an aqueous lead nitrate precursor”	共著	2015年7月10日	Chem. Commun., 2015, 51	T.-Yu Hsieh, T. C. Wei, K.-L. Wu, M. Ikegami, and T. Miyasaka	pp13294-13297
“PbI ₂ -based Dipping-controlled Material Conversion for Compact Layer Free Perovskite Solar Cells”	共著	2015年8月6日	ACS Appl. Mater. Interfaces, 2015	E. Zheng, X-F Wang, J. Song, L. Yan, W. Tian, and T. Miyasaka	pp18156-18162
“Excitonic feature in hybrid perovskite CH ₃ NH ₃ PbBr ₃ single crystals”	共著	2015年6月5日	Chem. Lett., 2015,44	H. Kunugita, T. Hashimoto, Y. Kiyota, Y. Udagawa, Y. Takeoka, Y. Nakamura, J. Sano, T. Matsushita, T.Kondo, T. Miyasaka , and K. Ema	pp852-854
“Similar structural dynamics for the degradation of CH ₃ NH ₃ PbI ₃ in air and in vacuum”	共著	2015年9月2日	ChemPhysChem, 2015, 16	A. Alberti, I. Deretzi, G. Pellegrino, C. Bongiorno, E. Smecca, G. Mannino, F. Giannazzo, G. G. Condorelli, N. Sakai, T. Miyasaka , C. Spinella, A. L. Magna	pp3064-3071

“Brookite TiO ₂ as a low-temperature solution-processed mesoporous layer for hybrid perovskite solar cells”	共著	2015年9月7日	J. Mater. Chem. A., 2015, 3	A. Kogo, Y. Sanehira, M. Ikegami, and T. Miyasaka	pp20952-20957
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
“Metal oxide management in perovskite-based photovoltaic cells and photodiodes”	2015年5月10日～13日	International Conference on Hybrid and Organic Photovoltaics 2015 (HOPV15), Rome, Italy	T. Miyasaka , A. Kogo, Y. Numata, H.-W. Chen, K.-C. Ho, M. Ikegami		
“Evaluation of Radiation Tolerance of Perovskite Solar cell For Use in Space”	2015年6月14日～19日	42th IEEE Photovoltaic Specialist Conference (PVSC), New Orleans, LA, USA	Y. Miyazawa, M. Ikegami, T. Miyasaka , T. Ohshima, M. Imaizumi, and K. Hirose		
“Progresses in hybrid perovskite-based photovoltaic and optoelectric devices”	2015年6月19日	The 5th International Symposium on Organic and Inorganic Electronic Materials and Related Nanotechnologies (EM-NANO 2015), 朱鷺メッセ(新)	T. Miyasaka		
“Organo-lead Iodide Perovskite: Rare Functions in Photovoltaics and Optoelectronics”	2015年6月26日	The 5th Sungkyun International Solar Forum (SISF 2015), Seoul, Korea	T. Miyasaka		
“Metal Oxide Layer Design for Lead Halide Hybrid Perovskite in High Performance Photovoltaics and Optoelectronics”	2015年9月9日～11日	International Conference on Solution Processed Innovative Solar Cells (SPINS15), Santiago de Compostela, Spain	T. Miyasaka		
「ペロブスカイト太陽電池構造を用いる超高感度光検出素子の創製」	2015年9月11日	2015年電気化学秋季大会、埼玉工業大学(埼玉県深谷市)	陳 信偉、Jena Ajay、池上和志、 宮坂 力		
「ブルッカイト酸化チタンを用いた低温プロセスペロブスカイト太陽電池」	2015年9月11日	2015年電気化学秋季大会、埼玉工業大学(埼玉県深谷市)	古郷敦史、實平義隆、池上和志、 宮坂 力		
「有機ヨウ化鉛ペロブスカイトを用いる高効率薄膜太陽電池と光ダイオード」	2015年9月16日	第18回ヨウ素学会シンポジウム、千葉大学(西千葉キャンパス)	宮坂 力		
「FAPbI ₃ ペロブスカイト太陽電池の光電変換特性におけるメソポーラス層のナノ粒子サイズ効果」	2015年9月14日	第76回応用物理学会秋季学術講演会、名古屋国際会議場	沼田 陽平、實平 義隆、 宮坂 力		
「二次元ペロブスカイト結晶の配向性制御に向けた十面体酸化チタン膜の構造制御と太陽電池特性」	2015年9月14日	第76回応用物理学会秋季学術講演会、名古屋国際会議場	實平 義隆、沼田 陽平、 宮坂 力		
「有機無機ペロブスカイトを用いる高効率光電変換と高感度光センシング」	2015年9月14日	第76回応用物理学会秋季学術講演会、名古屋国際会議場	宮坂 力		

"Role of metal oxides in perovskite-based photovoltaic cells and photodetectors"	2015年9月27日～29日	1st International Conference on Perovskite Solar Cells and Optoelectronics (PSCO-2015), Lausanne, Switzerland	T. Miyasaka
"Excitonic Properties and Carrier Dynamics of CH ₃ NH ₃ PbBr ₃ Single Crystals"(poster)	2015年9月27日～29日	1st International Conference on Perovskite Solar Cells and Optoelectronics (PSCO-2015), Lausanne, Switzerland	Y. Kiyota, Y. Udagawa, H. Kunugita, Y. Takeoka, Y. Nakamura, T. Matsushita, T. Kondo, T. Miyasaka, and K. Ema
"Is Hysteresis a Practical Problem for the Power Output of Perovskite Solar Cells?"(poster)	2015年9月27日～29日	1st International Conference on Perovskite Solar Cells and Optoelectronics (PSCO-2015), Lausanne, Switzerland	A. K. Jena, A. Kulkarni, M. Ikegami, and T. Miyasaka
"Metal oxide engineering for high performance lead halide perovskite solar cells and optoelectronic devices"	2015年11月11日	Advanced Ceramics and Technologies for Sustainable Energy Applications toward a Low Carbon Society, (ACTSEA-2015), International Conference Hall, National Cheng Kung University(NCKU), Tainan, Taiwan	T. Miyasaka
"Is Hysteresis truly a problem for perovskite solar cells?"	2015年12月17日	2015 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (PACIFICHEM 2015)	A. Jena, and T. Miyasaka
"Organo lead halide perovskite for high efficiency solar cells and optoelectronic devices"	2015年12月18日	2015 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (PACIFICHEM 2015)	T. Miyasaka
"Metal oxide management in high performance photovoltaics and optoelectronics of hybrid perovskite devices"	2015年12月24日～30日	International Symposium on Functional Materials 2016 (ISFM 2016), Okinawa Institute of Science and Technology Graduate University (OIST)	T. Miyasaka
"Present status and future prospects in perovskite solar cells"	2016年1月28日	12th Workshop on the Future Direction of Photovoltaics, Tokyo Tech Front, Tokyo Institute of Technology Tokyo, Japan	T. Miyasaka
「ヒステリシスのない高性能ペロブスカイト太陽電池の開発に向けて」	2016年3月24日	日本化学会第96春季年会(2016), ATP講演会, 同志社大学 京田辺キャンパス	宮坂 力
「太陽電池の新潮流、有機無機ハライドペロブスカイト」	2016年3月25日	日本化学会第96春季年会(2016), ATP講演会, 同志社大学 京田辺キャンパス	宮坂 力

「ハロゲン混合CH ₂ (NH ₂) ₂ PbX ₃ 太陽電池のBrand gap制御」	2016年3月19日	第63回応用物理学会春季学術講演会、東工大、大岡山キャンパス	内海 一馬, 沼田 陽平, 宮坂 力, 白井 肇
“Effect of non-halide lead precursors on CH ₃ NH ₃ PbI ₃ perovskite for photovoltaic applications”	2016年3月19日	第63回応用物理学会春季学術講演会、東工大、大岡山キャンパス	T. Singh, T. Miyasaka
「チオシアネートを有する2次元擬ペロブスカイトを用いたペロブスカイト太陽電池に関する研究」	2016年3月20日	第63回応用物理学会春季学術講演会、東工大、大岡山キャンパス	沼田 陽平, 實平 義隆, 宮坂 力
「結晶配向性を制御した酸化チタン膜上における二次元ペロブスカイト結晶の太陽電池特性」	2016年3月20日	第63回応用物理学会春季学術講演会、東工大、大岡山キャンパス	實平 義隆, 沼田 陽平, 宮坂 力
「軟X線照射が引き起こすCH ₃ NH ₃ PbI ₃ ペロブスカイト太陽電池の表面状態の変化」	2016年3月20日	第63回応用物理学会春季学術講演会、東工大、大岡山キャンパス	元木 啓介, 宮澤 優, 小林 大輔, 池上 和志, 宮坂 力, 山本知之, 廣瀬 和之
「低温製膜SnO _x -Brookite TiO ₂ 電子収集層を用いたフレキシブルペロブスカイト太陽電池」	2016年3月20日	第63回応用物理学会春季学術講演会、東工大、大岡山キャンパス	古郷 敦史, 實平 義隆, 池上 和志, 宮坂 力
「Incorporation of interfacial modifiers to boost the performance and stability of perovskite solar cell」	2016年3月30日	第83回電気化学会、大阪大学、吹田キャンパス	チャウダリ プミカ, クルカニ アシシ, ジェナ アジェイ, 池上 和志, 宮坂 力
「低温製膜 SnO _x 緻密層を用いるFA/MA混合ペロブスカイト太陽電池の高性能化」	2016年3月30日	第83回電気化学会、大阪大学、吹田キャンパス	ピンピタック ピラタット, 陳 信偉, 池上 和志, 宮坂 力
(gained Best Poster Award) “Space environment tolerance of hybrid perovskite solar cells using polymer hole transport layers”	2016年3月29日～31日	MRS Spring Meeting, Phoenix Convention Center, Phoenix, USA	Y. Miyazawa, M. Ikegami, T. Miyasaka, M. Imaizumi, and K. Hirose
(ポスター) “Role of thin MgO layer in suppressing interfacial recombination loss at FTO-TiO ₂ interface in perovskite solar cells”	2016年3月29日～31日	MRS Spring Meeting, Phoenix Convention Center, Phoenix, USA	A. Kulkarni, A. Jena, Y. Sanehira, M. Ikegami, and T. Miyasaka
(ポスター) “Lead free (CH ₃ NH ₃) ₃ Bi ₂ I ₉ perovskite for optoelectronic applications”	2016年3月29日～31日	MRS Spring Meeting, Phoenix Convention Center, Phoenix, USA	T. Singh, T. Miyasaka
“Lead acetate based perovskite hybrid solar cells with very low hysteresis and high efficiency”	2016年3月29日～31日	MRS Spring Meeting, Phoenix Convention Center, Phoenix, USA	T. Singh, T. Miyasaka
“Reversible and irreversible performance degradation in perovskite solar cells”	2016年3月29日～31日	MRS Spring Meeting, Phoenix Convention Center, Phoenix, USA	A. Jena, H.-W. Chen, A. Kogo, Y. Sanehira, M. Ikegami, and T. Miyasaka
“Low-temperature processed brookite TiO ₂ electron collector for hysteresis-less and high efficiency flexible perovskite solar cells”	2016年3月29日～31日	MRS Spring Meeting, Phoenix Convention Center, Phoenix, USA	A. Kogo, Y. Sanehira, M. Ikegami, and T. Miyasaka
“Metal oxide management for Low-cost and durable lead halide perovskite solar cells”	2016年3月29日～31日	MRS Spring Meeting, Phoenix Convention Center, Phoenix, USA	T. Miyasaka

○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
"Organo lead halide perovskite for high efficiency solar cells and optoelectronic devices"	2015年12月18日	2015 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (PACIFICHEM 2015)	T. Miyasaka
"Metal oxide management in high performance photovoltaics and optoelectronics of hybrid perovskite devices"	2015年12月24日 ～30日	International Symposium on Functional Materials 2016 (ISFM 2016), Okinawa Institute of Science and Technology Graduate University (OIST)	T. Miyasaka
"Present status and future prospects in perovskite solar cells"	2016年1月28日	12th Workshop on the Future Direction of Photovoltaics, Tokyo Tech Front, Tokyo Institute of Technology Tokyo, Japan	T. Miyasaka
「ヒステリシスのない高性能ペロブスカイト太陽電池の開発に向けて」	2016年3月24日	日本化学会第96春季年会(2016), ATP講演会, 同志社大学 京田辺キャンパス	宮坂 力
「太陽電池の新潮流、有機無機ハライドペロブスカイト」	2016年3月25日	日本化学会第96春季年会(2016), ATP講演会, 同志社大学 京田辺キャンパス	宮坂 力
○その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
2016 MRS Spring Meeting, Best Poster Award	2016年3月29日～31日	MRS Spring Meeting, Phoenix Convention Center, Phoenix, USA	Y. Miyazawa, M. Ikegami, T. Miyasaka , M. Imaizumi, and K. Hirose
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
「NEDO太陽光発電システム次世代高性能技術の開発」	2010年4月～現在	受託テーマ「フィルム型軽量低価格色素増感太陽電池の研究開発」、産学連携型	
「有機無機ハイブリッド太陽電池の高効率化開発」	2013年10月～現在	科学技術振興機構(JST)、先端的低炭素化技術開発(ALCA)による研究助成、代表:桐蔭横浜大学(担当:宮坂力)	
「有機金属のメソ構造体ハイブリッド化による物質変換と高機能化」	2014年4月～2019年度	科学研究費補助金・基盤B 研究助成	
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
International Conference on Hybrid and Organic Photovoltaics 2015 (HOPV15)	2015年5月10日～13日	Angelicum Conference Centre, Rome, Italy	
The 5th Sungkyun International Solar Forum (SISF 2015)	2015年6月23日～26日	Sungkyunkwan大学, Seoul, Korea	
International Conference on Solution Processed Innovative Solar Cells (SPINS15),	2015年9月8日～13日	Santiago de Compostela, Spain	

1st International Conference on Perovskite Solar Cells and Optoelectronics (PSCO-2015)	2015年9月26日～10月1日	ローザンヌ工科大学, Lausanne, Switzerland
Advanced Ceramics and Technologies for Sustainable Energy Applications toward a Low Carbon Society, (ACTSEA-2015)	2015年11月9日～12日	International Conference Hall, National Cheng Kung University(NCKU), Tainan, Taiwan
2015 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (PACIFICHEM 2015)	2015年12月15日～19日	ハワイコンベンションセンター、ハワイ、USA
2016 MRS Spring Meeting	2016年3月28日～4月2日	Phoenix Convention Center, Phoenix, USA
(雑誌・新聞記事等掲載)		
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
「低電子で電子増幅2400倍 安価なペロブスカイトを採用」	2015年5月23日	日刊工業新聞
「[深層断面]”日本初“革新技術で貢献 “ペロブスカイト”本命に」	2015年11月4日	日刊工業新聞
「光発電特性に優れる日本初の太陽電池、世界に」	2015年11月12日	日刊工業新聞
(その他特記事項)		
(TV放送用取材・放送) TBS「未来の起源」で若手研究者・技術者の紹介として、宮坂研究室 古郷敦史研究員が紹介された。放送日 2015年5月17日 21:54～22:00		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本化学会、電気化学会、光化学協会、高分子学会、アメリカ電気化学会、MRS (Material Research Society)、写真学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2004年4月～現在	(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO) 技術委員(若手研究ナノテクノロジー分野評価委員)
2009年4月～現在	(独)科学技術振興機構(JST) 国際科学技術協力推進委員、審査委員
2010年4月～現在	研究開発支援プログラム(FIRST) サブテームリーダー
2010年4月～現在	(社)電気化学会評議員
2012年～現在	日本学術振興会、科学研究補助金評価委員

阿部 憲二 (あべ けんじ) 准教授



出生年：1964(昭和39)年
 在籍：2002(平成14)年9月～
 最終学歴：サンフランシスコ大学教育学部博士課程
 国際化に伴う社会教育学科修了
 学位：教育学博士(Ed.D.)
 学位論文：Achieving High Oral Proficiency Levels in ESL
 専門分野：国際社会病理
 前職：北カリフォルニア大学助教授・マリン郡短期大学講師
 学内役職等：国際交流委員(2012～)
 留学：アリゾナ州立大学(1984.6～1985.5)
 サンフランシスコ大学(修士:1990.6～1991.5、博士:2000.1
 ～2001.12)
 資格：中学1級・高校2級教員免許、英検1級
 上級心理カウンセラー、サイコパス診断資格
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
コミュニケーション上達のための独自テキスト使用	2005年4月～	英語コミュニケーション(I～IV)に関しては、すべて自作のテキストを使用し、話す・聴く・渡米実践編(下・上)と学生たちに必要とされるであろう前半を攻略する独自のシステムを確立し、授業アンケートでも上位に評価され、医用工学部長からも認められる。
米国のESL教授法に則った最先端の英語教授法を展開	2005年4月～	英語III・IVに関しては、学生たちが専門研究に進んだ場合に必要となる英語論文及び国際学会に対応することを想定した実践を最重視した独自の授業を展開。
2.作成した教科書、教材、参考書		
「英会話攻略はこれしかない」(洋泉社)を副読本として使用	2005年4月～	初級レベルからネイティブレベルに到達するまでの英会話上達の5ステップを具体的に説明。

III 学会等および社会における主な活動

任期、活動期間等	学会等における役職等	
2009年8月～現在	府中刑務所篤志面接員	
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
府中刑務所	2012年9月～現在	入所者及び満期出所者オリエンテーション担当講師 受刑者心理カウンセリング

池上 和志 (いけがみ まさし) 准教授



出生年：1973(昭和48)年
 在籍：2006(平成18)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院化学研究科化学専攻修了
 学位：博士(理学)
 学位論文：Photochemical Reactions of Intra- and Intermolecularly Hydrogen Bonded Compounds (分子内及び分子間水素結合系の光化学反応に関する研究)
 専門分野：光化学、光電気化学
 前職：ペクセル・テクノロジーズ(株) 研究開発部博士研究員
 学内役職等：
 留学：
 資格：甲種危険物取扱者
 非常勤講師：
 受賞・表彰：グリーンサステナブルネットワーク文部科学大臣賞(2009)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
色素増感太陽電池実験キットの実用化と、学生実験での採用。高校生、中学生等への教育	2008年～	色素増感太陽電池の実験キットを活用して、環境問題、エネルギー問題を考える授業を展開。科学館、高校等でも小学生、中学生、高校生向けの講座を実施。
2.作成した教科書、教材、参考書		
色素増感太陽電池実験キット	2008年～	プラスチックフィルムを使い、きわめて安全な方法により、太陽電池を作製することができる実験キット。特開2008-198488

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略					
<p>色素増感太陽電池の研究における新規の光増感剤の検討の中から見出されたペロブスカイト型化合物を用いた新規の固体型有機無機ハイブリッド太陽電池の研究を進めた。特に、今年度は、ペロブスカイト太陽電池のプラスチックフィルム化の検討を重点的に行った。ペロブスカイト太陽電池の電極半導体層には、メソポーラス酸化チタンの焼成膜が用いられることが一般的である。今年度は、プラスチックフィルムの耐熱温度以下で、メソポーラス酸化チタン層を製膜する材料開発を進めた。また、昨年度から継続して、ペロブスカイト太陽電池の宇宙機搭載の基礎検討を開始した。JAXA(宇宙航空研究開発機構)にサンプルを提供し、真空下における放射線・陽子線の暴露試験等も行った。</p> <p>研究成果の普及活動として、7月と8月に、産総研その他におけるサイエンスイベントに参加し、色素増感太陽電池の実験教室・体験教室を開催した。7月には、太陽光発電の国際展示会PVJAPANでの展示発表を行った。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
「色素増感太陽電池の最新トピックス」	共著	2015年7月20日	色材協会誌 Vol.88 2015 No.7	池上和志	218-222頁
「有機系太陽電池」	共著	2015年9月29日	塗布型透明導電膜の材料開発と成膜・パターン形成技術	池上和志	85-98頁
色素増感太陽電池の開発状況と計測・評価の課題	単著	2015年9月5日	クリーンテクノロジー	池上和志	29-33頁

(学術論文)					
“The Interface between FTO and the TiO ₂ Compact Layer Can Be One of the Origins to Hysteresis in Planar Heterojunction Perovskite Solar Cells”	共著	2015年4月23日	ACS Appl. Mater. Interfaces, 7	Ajay Kumar Jena, Hsin-Wei Chen, Atsushi Kogo, Yoshitaka Sanehira, Masashi Ikegami , Tsutomu Miyasaka	9817–9823
“A switchable high-sensitivity photodetecting and photovoltaic device with perovskite absorber”	共著	2015年5月5日	J. Phys. Chem. Lett., 2015, 6	H.-W. Chen, N. Sakai, A. K. Jena, Y. Sanehira, M. Ikegami , K.-C. Ho, and T. Miyasaka	pp.1773-1779
“Brookite TiO ₂ as a low-temperature solution-processed mesoporous layer for hybrid perovskite solar cells”	共著	2015年6月5日	J. Mater. Chem. A., 2015, 3	A. Kogo, Y. Sanehira, M. Ikegami , and T. Miyasaka,	pp.20952-20957
“A room-temperature process for fabricating a nano-Pt counter electrode on a plastic substrate for efficient dye-sensitized cells”	共著	2015年6月6日	Journal of Power Sources, 283	Tsung-Yu Hsieh, Tzu-Chien Wei, Peng Zhai, Shien-Ping Feng, Masashi Ikegami , Tsutomu Miyasaka	pp.351-357
“Efficient perovskite solar cells fabricated using an aqueous lead nitrate precursor”	共著	2015年7月10日	Chem. Commun., 2015, 51	Tsung-Yu Hsieh, Tzu-Chien Wei, Kuan-Lin Wu, Masashi Ikegami , Tsutomu Miyasaka	pp.13294-13297
“Emergence of hysteresis and transient ferroelectric response in organo-lead halide perovskite solar cells”	共著	2015年7月15日	J. Phys. Chem. Lett., 2015, 6	H.-W. Chen, N. Sakai, M. Ikegami , and T. Miyasaka	pp.164-169
“Anatase and Brookite Electron Collectors from Binder-free Precursor Pastes for Low Temperature Solution-processed Perovskite Solar Cells”	共著	2015年11月26日	Chem. Lett., 2016, 45	A. Kogo, Y. Sanehira, M. Ikegami , and T. Miyasaka	pp.143-145
“Steady state performance, photo-induced performance degradation and their relation to transient hysteresis in perovskite solar cells”	共著	2016年3月31日	Journal of Power Sources, 2016, 309	A. K. Jena, A. Kulkarni, M. Ikegami , T. Miyasaka	pp.1-10
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
Metal oxide management in perovskite-based photovoltaic cells and photodiodes	2015年5月10日～5月13日	International Conference on Hybrid and Organic Photovoltaics 2015 (HOPV15), Rome, Italy	T. Miyasaka, A. Kogo, Y. Numata, H.-W. Chen, K.-C. Ho, M. Ikegami		
Evaluation of Radiation Tolerance of Perovskite Solar cell For Use in Space	2015年6月14日～6月19日	42th IEEE Photovoltaic Specialist Conference (PVSC), New Orleans, LA, USA	Yu Miyazawa, Masashi Ikegami , Tsutomu Miyasaka, Takeshi Ohshima, Mitsuru Imaizumi, Kazuyuki Hirose		
「ペロブスカイト太陽電池構造を用いる超高感度光検出素子の創製」, 「ブルッカイト酸化チタンを用いた低温プロセスペロブスカイト太陽電池」	2015年9月11日	2015年電気化学秋季大会、埼玉工業大学(埼玉県深谷市)	陳 信偉, Jena Ajay, 池上和志、宮坂 力・古郷敦史、實平義隆、 池上和志 、宮坂 力		
「低温製膜SnOx-Brookite TiO ₂ 電子収集層を用いたフレキシブルペロブスカイト太陽電池」	2016年3月20日	第63回応用物理学会春季学術講演会、東工大、大岡山キャンパス	古郷 敦史, 實平 義隆, 池上和志 , 宮坂 力		

軟X線照射が引き起こすCH ₃ NH ₃ PbI ₃ ペロブスカイト太陽電池の表面状態の変化	2016年3月20日	第63回応用物理学会春季学術講演会、東工大、大岡山キャンパス	元木 啓介, 宮澤 優, 小林 大輔, 池上 和志 , 宮坂 力, 山本知之, 廣瀬 和之
低温製膜 SnO _x 緻密層を用いるFA/MA混合ペロブスカイト太陽電池の高性能化	2016年3月30	第83回電気化学会、大阪大学、吹田キャンパス	ピンピタック ピラタット, 陳 信偉, 池上 和志 , 宮坂 力
Incorporation of interfacial modifiers to boost the performance and stability of perovskite solar cell	2016年3月30日	第83回電気化学会、大阪大学、吹田キャンパス	チャウダリ ブミカ, クルカニ アシシ, ジェナ アジェイ, 池上 和志 , 宮坂 力
色素増感太陽電池・ペロブスカイト太陽電池のフレキシブル化と実用化の課題	2016年3月25日	日本化学会 第96春季年会 (2016)	池上和志
"Role of thin MgO layer in suppressing interfacial recombination loss at FTO-TiO ₂ interface in perovskite solar cells"	2016年3月29日～3月31日	MRS Spring Meeting, Phoenix Convention Center, Phoenix, USA	A. Kulkarni, A. Jena, Y. Sanehira, M. Ikegami , T. Miyasaka
"Low-temperature processed brookite TiO ₂ electron collector for hysteresis-less and high efficiency flexible perovskite solar cells"	2016年3月29日～3月31日	MRS Spring Meeting, Phoenix Convention Center, Phoenix, USA	A. Kogo, Y. Sanehira, M. Ikegami , T. Miyasaka
"Space environment tolerance of hybrid perovskite solar cells using polymer hole transport layers"	2016年3月29日～3月31日	MRS Spring Meeting, Phoenix Convention Center, Phoenix, USA	Y. Miyazawa, M. Ikegami , T. Miyasaka, M. Imaizumi, and K. Hirose
"Reversible and irreversible performance degradation in perovskite solar cells"	2016年3月29日～3月31日	MRS Spring Meeting, Phoenix Convention Center, Phoenix, USA	A. Jena, H.-W. Chen, A. Kogo, Y. Sanehira, M. Ikegami , T. Miyasaka
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「ペロブスカイト太陽電池の材料開発と特性評価の課題」	2015年5月18日	『ペロブスカイト,有機無機ハイブリッド太陽電池』など 新しい太陽電池の材料,製造,高効率化,その評価	日幸五反田ビル8F 技術情報協会 セミナールーム
「有機無機ペロブスカイト太陽電池の開発動向とペースト・部材への要求特性」	2015年6月22日	ペロブスカイト太陽電池	川崎市産業振興会館 10F 第1会議室【神奈川・川崎】
「太陽電池の測定法の基礎と応用」	2015年7月13日	次世代型太陽電池の測定法とその評価	東陽テクニカ テクノロジーインターフェースセンター
「ペロブスカイト太陽電池の最新技術動向」	2016年2月15日	情報機構技術セミナー	東京・大井町 きゅりあん
ペロブスカイト太陽電池のフレキシブル化と製造プロセスの課題	2016年3月3日	第35回宇宙エネルギーシンポジウム	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所(JAXA)(ISAS)
○その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
Best Poster Award	2016年3月29日～3月31日	MRS Spring Meeting, Phoenix Convention Center, Phoenix, USA	Y. Miyazawa, M. Ikegami , T. Miyasaka, M. Imaizumi, and K. Hirose

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
日本化学会、光化学協会、日本光医学・光生物学会、電気化学会、アメリカ電気化学会		
任期、活動期間等	学会等における役職等	
2015年1月1日～12月31日	2015年国際固体素子・材料コンファレンス論文委員	
2016年1月1日～12月31日	2016年国際固体素子・材料コンファレンス論文委員・Vice Chair	
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
ペクセル・テクノロジーズ株式会社 取締役	2009年6月～現在	ペクセル・テクノロジーズ株式会社

森 下 武 志 (もりした たけし) 准教授



出 生 年 : 1967(昭和42)年
 在 籍 : 2008(平成20)年4月～
 最 終 学 歴 : 横浜国立大学大学院工学府博士後期課程修了
 学 位 : 博士(工学)
 学 位 論 文 : 小型両眼視覚ロボットと教育への展開
 専 門 分 野 : 医用システム統合工学、福祉環境工学、教育工学
 前 職 : 神奈川県教育委員会職員 教諭 主任主事兼務(2004)
 学 内 役 職 等 : 入試広報副センター長 (2013～)
 留 学 : 東京大学大学院知能機械情報学系研究科 情報システム
 工学研究室(井上・稲葉研究室)内地留学(2003)
 資 格 :
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 : 3rd International Micro-Mechanism Contest Excellent
 Award (2009)
 第26回全国高等学校総合文化祭 ロボットコンテスト(相撲
 ロボット自立型部門)優勝(2002)
 第12回全日本ロボット相撲 in USA 国際大会 自立型 サ
 ンフランシスコ場所 準優勝(2000)
 神奈川県知事賞受賞(1995,1996,1997,1998,2002,2011)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)資格試験対策の効果的教育法への取り組みと指導	2013年3月～現在	第2種ME技術実力検定試験の試験対策学習方の実践
(2)医用工学部学生へのものづくり体験の推進・指導	2012年4月～現在	時間的制約を考慮した実践的ものづくり教育の展開
(3)福祉住環境教育に対する学習促進	2013年4月～現在	高齢化・福祉・居住環境に関する意識付けと動機を喚起する教育の実践
(4)医療系学生への工作機械を用いた機械加工工学と体験的学習の指導	2013年4月～現在	医療系技術者育成における、工作物が製造されるまでの設計・製図・加工・評価の一連の流れを体験させ実践力を養う指導を実践
(5)医療系学生への工学的実験検証体験の指導	2014年4月～現在	座学で学ぶ工学的理論を、実験によって確認させることでより深い理解力を養う指導を実践
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)科目:医用工学総論 I	2012年4月～現在	3段式の復習を実現する第2種ME技術実力検定試験対策指導テキストと問題の作成
(2)科目:工学WS I 実習教材	2012年4月～現在	各種計測機器、設計製図、機械加工、実験的評価を系統立てた実践的教材とテキスト開発
(3)科目:工学WS II 実習教材	2012年4月～現在	実験計測と誤差、および統計的処理方に関する、実践的テキスト開発と実験での体験教育
(4)科目:福祉工学	2013年4月～現在	高齢社会、障害者など一般社会人として医療技術者として有用な知識を検定試験形式での教育教材の開発と実践
(5)科目:基礎工学実験教材	2014年4月～現在	交流回路実験を通して、波形、回路、位相、ベクトル等を座学や国試験問題等の裏付けを実験的に検証する教材開発

(6)科目:医用電磁気学	2014年8月～現在	ME検定試験、国家試験の電気系全般に網羅する範囲を確実な資格試験対応力を養う演習教材の開発
(7)科目:工学へのステップテキスト	2015年8月～現在	数値の科学的処理方法、電子回路作成方法などのできる限りわかりやくしたテキストの全面改訂版作成

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
Development of High Intensity Ultrasonic Source Using Acoustic Waveguides and Concave Type Transducer - Consideration by 3-D Finite Element Acoustic Field Simulation -	共著	2015年11月14日	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2015	Shigeru IGARASHI, Takeshi MORISHITA, Shinichi TAKEUCHI	p.98-99
Simple observation sensor system and local community network model - Real society experiment aimed at eliminating solitary death for low-income elderly living alone in collective housing-	共著	2016年1月20日	Proceedings of 21st International Symposium on Artificial Life and Robotics (AROB 21st 2016)	Shinjiro Mochida, Takeshi Morishita	pp,51-56
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
貯血槽の重量計測による人工心肺自動制御化への取り組み	2015年9月3日	第33回日本ロボット学会学術講演会'講演論文集, 1J2-06	小林悦弘, 高倉祥平, 森下 武志		
人工心肺貯血槽の液量レベルリニアセンシングデバイスに関する調査	2015年1月9日	日本機械学会 第27回バイオエンジニアリング講演会, 講演論文集, 1G36	小林悦弘, 高倉祥平, 森下 武志		
人工心肺貯血槽の液量レベルリニアセンシングに関する検討	2015年5月18日	日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会'15 講演論文集, 1P1-D07	小林悦弘, 森下 武志		
貯血槽の重量計測による人工心肺自動制御化への取り組み	2015年9月3日	第33回日本ロボット学会学術講演会'講演論文集, 1J2-06	小林悦弘, 高倉祥平, 森下 武志		
音響導波路を用いたハイドロホン校正用高強度音源システムの開発 - 有限要素法を用いた3次元音場シミュレーションによる検討 -	2015年9月17日	日本音響学会2015年秋季研究発表会講演論文集pp.1183~1184(会津大学)	五十嵐茂, 森下武志, 竹内真一		
音響導波路を用いた高強度超音波音源システムの開発を目的とした軸対称有限要素解析	2015年11月5日	第36回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム2015 1P5-15(つくば国際会議場)	五十嵐茂, 森下武志, 竹内真一		
人工心肺自動制御化のための圧力センサを用いた貯血槽の貯血レベル計測に関する調査	2016年1月9日	日本機械学会 第28回バイオエンジニアリング講演会 講演論文集, 1A25	小林悦弘, 森下 武志		

音響導波路を用いたハイドロホン校正用高強度音場システムの開発- 実験システム構築のための検討 -	2016年3月9日	日本音響学会2016年春季研究発表会講演論文集pp.1303～1304(桐蔭横浜大学)	五十嵐茂, 森下武志, 竹内真一
--	-----------	---	------------------

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本ロボット学会、日本機械学会

石河 睦生 (いしかわ むつお) 専任講師



出生年：1976(昭和51)年
 在籍：2011(平成23)年4月～
 最終学歴：東京工業大学大学院総合理工学研究科博士後期課程修了
 学位：博士(工学)
 学位論文：水熱合成法による圧電性多結晶膜の成膜と超音波トランスデューサへの応用
 専門分野：超音波工学、制御システム、電子機能システム、応用物理、人間工学
 前職：東京工業大学大学院 研究員、東京大学大学院 特任助教
 学内役職等：
 留学：University of Southern California (USA) (2009年11月～2010年10月)
 資格：第2種ME技術実力検定試験合格
 非常勤講師：
 受賞・表彰：2003年度材料技術研究協会学生論文賞(2003年)
 第25回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム奨励賞(2004年)
 平成21年度 コニカミノルタ画像科学奨励賞 (2009年)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
授業外における定期的な補講の実施	2011年4月～	物理学や電気工学の基礎に関する補講の実施
2.作成した教科書、教材、参考書		
実験系授業における教材	2011年4月～現在	工学ワークショップ、基礎工学実験、医用工学実験における各授業での教材の作成と資料配付
第2種ME試験対策用教材	2012年4月～現在	試験対策用に勉強期間を設定し、8種類の資料作成と配布
物理学、電気工学、人間工学におけるそれぞれの教材	2013年4月～現在	前期後期共に、各授業15回分の授業における教材資料の作成と配付

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本音響学会、精密工学会、日本超音波医学会、電子情報通信学会、応用物理学会、材料技術研究協会、IEEE、MRS	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2008年8月～現在	NPO法人健康福祉工学会 理事
2014年4月～現在	材料技術研究協会 理事
2014年4月～現在	麗澤会 常任理事

本橋由香 (もとはし ゆか) 専任講師



出生年：1982(昭和57)年
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：桐蔭横浜大学大学院工学研究科医用工学専攻博士後期課程修了
 学位：博士(工学)
 学位論文：生体音の時間-周波数解析に基づく非侵襲診断方法に関する研究ーバスキュラーアクセス及び嚙下機能評価への適応ー
 専門分野：生体計測、臨床工学
 前職：桐蔭横浜大学職員
 学内役職等：教務委員(2013～)
 留資格：第2種ME技術実力検定試験合格(2002)
 非常勤講師：
 受賞・表彰：桐蔭工学会賞(2007)
 2011年度ものづくり技術交流会 ポスター賞
 2013年度日本医工学治療学会学術大会 優秀演題賞
 2013年度日本人工臓器学会 第51回日本人工臓器学会大会コメディカル賞
 2014年日本人工臓器学会 第52回日本人工臓器学会大会第1回萌芽研究ポスターセッション 優秀賞

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略					
2015年度は2014年度に引き続き、生体音の時間-周波数解析に基づく生体機能評価方法に関する研究を中心に行った。また、血液透析用留置針やダブルルーメンカテーテルの最適形状の提案を目的とした有限要素法を用いた理論解析では、解析結果と実験の両面から安全かつ侵襲の低い医用材料の開発に向けた基礎検討を実施した。研究成果は2014年までと同様に日本人工臓器学会、日本医工学治療学会、日本音響学会、桐蔭医用工学国際シンポジウム等で発表したが、どのテーマも臨床業務に携わる臨床工学技士をはじめとする医療従事者や医療機器メーカーの開発担当者と有意義な議論を進めることができ、医療業界のニーズを反映した研究を遂行することができた。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
「シャント音の持続時間定量化と分岐を有する擬似血管狭窄モデルを用いたバスキュラーアクセス機能評価に対する有用性の検討」	共著	2015年6月15日	人工臓器 44巻 1号 第52回日本人工臓器学会大会 萌芽研究ポスター発表優秀賞受賞レポート	佐々木一真、本橋由香、山内 忍、佐藤敏夫、阿岸鉄三	26頁
(学術論文)					
「体外循環血液回路内雑音の連続モニタリングによる回路内凝固検出」	共著	2015年11月16日	桐蔭論叢 第32号	島崎直也、山内 忍、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三	123-128頁
「嚙下音の3次スプライン曲線を用いた嚙下機能改善効果に対する定量評価法」	共著	2015年11月16日	桐蔭論叢 第32号	佐々木一真、本橋由香、山内 忍、佐藤敏夫、阿岸鉄三	117-122頁
「透析用留置針の脱血特性改善を目的とした側孔の最適化に関する基礎検討」	共著	2015年11月16日	桐蔭論叢 第32号	山内 忍、高橋怜美、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三	129-135頁
「圧力センサー付ガイドワイヤーを用いた透析用留置針内部の圧力分布測定」	共著	2016年3月1日	医工学治療 Vol.28 No.1	山内 忍、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三	24-32頁

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
擬似分岐血管狭窄モデルを用いたシャント音分析によるVA機能評価法の検証	2015年6月26日～28日	日本透析医学会 第60回日本透析医学会学術集会・総会(パシフィコ横浜)	可児雅弥, 佐々木一真, 本橋由香 , 山内 忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
透析患者に誤嚥を防ぐ食事を提供するための定量評価法の提案	2015年6月26日～28日	日本透析医学会 第60回日本透析医学会学術集会・総会(パシフィコ横浜)	可児雅弥, 佐々木一真, 本橋由香 , 山内 忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
レーザー散乱光の測定による血液回路の凝固検出方法の検討	2015年6月26日～28日	日本透析医学会 第60回日本透析医学会学術集会・総会(パシフィコ横浜)	可児雅弥, 坂元英雄, 本橋由香 , 山内 忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
血液凝固時の色変化測定による回路内血液凝固の専属的検出方法	2015年6月26日～28日	日本透析医学会 第60回日本透析医学会学術集会・総会(パシフィコ横浜)	坂元英雄, 土屋浩希, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
回路内血液凝固の検出に適した血流音測定用加速度センサ装着部位の検討	2015年6月26日～28日	日本透析医学会 第60回日本透析医学会学術集会・総会(パシフィコ横浜)	島崎直也, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
穿刺針の細径化を目的とした側孔の最適化に関する理論検討	2015年6月26日～28日	日本透析医学会 第60回日本透析医学会学術集会・総会(パシフィコ横浜)	田口友樹, 高橋怜美, 本橋由香 , 山内 忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
圧力ガイドワイヤーを用いた圧力測定およびPIVを用いた流れの可視化による透析用留置針の最適形状の検討	2015年6月26日～28日	日本透析医学会 第60回日本透析医学会学術集会・総会(パシフィコ横浜)	山内 忍, 高橋怜美, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
コアクシアル型ダブルルーメンカテーテルの外筒先端孔が再循環率に及ぼす影響	2015年6月26日～28日	日本透析医学会 第60回日本透析医学会学術集会・総会(パシフィコ横浜)	滝川千恵美, 大城寿乃, 小林桃子, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
コアクシアル型ダブルルーメンカテーテルの外筒先端孔がへばりつき発生に及ぼす影響	2015年6月26日～28日	日本透析医学会 第60回日本透析医学会学術集会・総会(パシフィコ横浜)	滝川千恵美, 大城寿乃, 小林桃子, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
“コアクシアル型ダブルルーメンカテーテルの最適形状に関する研究”	2015年10月25日	第1回神奈川県臨床工学会かながわ労働プラザ	滝川千恵美, 荒井大輔, 菅野聖乃, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「血液回路内の血流音モニタリングによる回路内凝固検出の試み」	2015年10月25日	第1回神奈川県臨床工学会かながわ労働プラザ	塩田卓也, 島崎直也, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「嚥下音の時間-周波数分析による非侵襲嚥下機能スクリーニング検査方法の検討」	2015年10月25日	第1回神奈川県臨床工学会かながわ労働プラザ	可児雅弥, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「血液回路内凝固の発生に及ぼす静脈側ドリップチャンバ全長の影響」	2015年10月25日	第1回神奈川県臨床工学会かながわ労働プラザ	山本準矢, 島崎直也, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「血液透析用留置針の側孔の数及び実血流量の関係」	2015年10月25日	第1回神奈川県臨床工学会かながわ労働プラザ	田口友樹, 星 直樹, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「血液回路内凝固の発生を検出するための斜め入射型超音波センサの開発」	2015年10月25日	第1回神奈川県臨床工学会かながわ労働プラザ	秋山航汰, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
“Investigation of indwelling hemodialysis cannula by pressure distribution measurement and visualization flow, and proposal for optimal shape”	2015年11月14日	10th TOIN International Symposium on Biomedical engineering Toin University of Yokohama	Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi

“Automatic detection of representative swallowing sound signals for quantitative evaluation of swallowing function”	2015年11月14日	10th TOIN International Symposium on Biomedical engineering Toin University of Yokohama	Masaya Kani , Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“CFD analysis of hemodialysis indwelling needles to minimize discrepancies between prescribed and actual blood flow volumes”	2015年11月14日	10th TOIN International Symposium on Biomedical engineering Toin University of Yokohama	Yoichi Marushita , Yuki Taguchi, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi , Toshio Sato
“Examination of mechanism underlying shunt sound using numerical computation”	2015年11月14日	10th TOIN International Symposium on Biomedical engineering Toin University of Yokohama	Noriaki Nakane, Naoya Shimazaki , Yuka Motohashi , Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
“Wavelength dependence of change in light absorbance before and after blood coagulation using a transmissive photosensor”	2015年11月14日	10th TOIN International Symposium on Biomedical engineering Toin University of Yokohama	Hideo Sakamoto , Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
“In experimental investigation on the effect of the overall length of the venous drip chamber on blood coagulation”	2015年11月14日	10th TOIN International Symposium on Biomedical engineering Toin University of Yokohama	Naoya Shimazaki , Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“An experimental investigation of the effect of side holes on the difference between actual flow rate and set flow rate in hemodialysis indwelling needles”	2015年11月14日	10th TOIN International Symposium on Biomedical engineering Toin University of Yokohama	Yuki Taguchi , Yoichi Marushita , Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi , Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
“Effect of distance between blood removal and return holes on recirculation rate and adherence of a coaxial double-lumen catheter”	2015年11月14日	10th TOIN International Symposium on Biomedical engineering Toin University of Yokohama	Chiemi Takikawa , Kiyono Sugano, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi , Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
「透過型光センサを用いた血液凝固前後の吸光度変化の波長依存性に関する検討」	2015年11月19日～21日	第53回日本人工臓器学会大会 東京ドームホテル	坂元英雄, 可児雅弥, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「設定血流量と実血流量の乖離を抑えることを目的とした血液透析用留置針のCFD解析」	2015年11月19日～21日	第53回日本人工臓器学会大会 東京ドームホテル	丸下洋一, 田口友樹, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「血液透析用留置針の設定血流量と実血流量の乖離量に及ぼす側孔の影響に着目したCFD解析」	2015年11月19日～21日	第53回日本人工臓器学会大会 東京ドームホテル	田口友樹, 丸下洋一, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「人工血管内シャントで発生するシャント音の発生メカニズムに関する流れ解析」	2015年11月19日～21日	第53回日本人工臓器学会大会 東京ドームホテル	中根紀章, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「静脈側ドリップチャンバの長さが回路内血液凝固に及ぼす影響」	2015年11月19日～21日	第53回日本人工臓器学会大会 東京ドームホテル	島崎直也, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「コアアクシアル型ダブルルーメンカテーテルの各種設計パラメータが再循環率とへばりつき発生に及ぼす影響」	2015年11月19日～21日	第53回日本人工臓器学会大会 東京ドームホテル	滝川千恵美, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「血液回路内を多重反射する超音波の連続モニタリングによる血液凝固に伴う超音波特性の変化検出の試み」	2015年11月19日～21日	第53回日本人工臓器学会大会 東京ドームホテル	佐藤敏夫, 山内 忍, 本橋由香 , 阿岸鉄三
「嚥下機能の定量評価を目的とした代表嚥下音信号自動検出機能」	2015年11月19日～21日	第53回日本人工臓器学会大会 東京ドームホテル	可児雅弥, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「医工学治療分野における各種「音」の分析による非侵襲モニタリングの可能性を探る」	2016年3月18日～20日	日本医工学治療学会第32回 学術大会 甲府富士屋ホテル	佐藤敏夫, 山内 忍, 本橋由香 , 阿岸鉄三

「複数の加速度センサによる嚙下音信号の検出及び合成に基づく非侵襲嚙下機能評価法」	2016年3月18日～20日	日本医工学治療学会第32回 学術大会 甲府富士屋ホテル	可児雅弥, 本橋由香 , 山内 忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「血液凝固前後における透過光パワー変化の測定に基づく非侵襲凝固検出の試み」	2016年3月18日～20日	日本医工学治療学会第32回 学術大会 甲府富士屋ホテル	坂元英雄, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「静脈側ドリップチャンバの各種パラメータが血液凝固発生に及ぼす影響評価」	2016年3月18日～20日	日本医工学治療学会第32回 学術大会 甲府富士屋ホテル	島崎直也, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「コアクシアル型ダブルルーメンカテーテルの最適形状に関する実験的検討」	2016年3月18日～20日	日本医工学治療学会第32回 学術大会 甲府富士屋ホテル	滝川千恵美, 菅野聖乃, 荒井大輔, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「血液透析用17ゲージ留置針の側孔最適化による確保できる実流量増加の試み」	2016年3月18日～20日	日本医工学治療学会第32回 学術大会 甲府富士屋ホテル	田口友樹, 島崎直也, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三,
「血液透析用17ゲージ留置針の側孔最適化を目的としたCFD解析の試み」	2016年3月18日～20日	日本医工学治療学会第32回 学術大会 甲府富士屋ホテル	島崎直也, 中根紀章, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
○その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
“Effect of distance between blood removal and return holes on recirculation rate and adherence of a coaxial double-lumen cathete”	2015年11月14日	10th TOIN International Symposium on Biomedical engineering Toin University of Yokohama	Chiemi Takikawa, Sugano Kiyono, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi , Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
「シャント音の持続時間定量化と分岐を有する擬似血管狭窄モデルを用いたバスキュラーアクセス機能評価に対する有用性の検討」	2015年6月15日	人工臓器 44巻 1号 第52回日本人工臓器学会大会 萌芽研究ポスター発表優秀賞 受賞レポート 佐々木一真, 本橋由香 , 山内 忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三	

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本透析医学会、日本医工学治療学会、日本医療機器学会、日本音響学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2013年1月1日～2016年12月31日	日本医工学治療学会 評議員

山内 忍 (やまうち しのぶ) 助教



出生年：1976(昭和51)年
 在籍：2012(平成24)年～
 最終学歴：桐蔭横浜大学大学院工学研究科博士後期課程医用工学専攻
 学位：博士(工学)
 学位論文：血液透析用留置針内の圧力分布測定に基づく側孔の最適化に関する研究
 専門分野：臨床工学、生体機能代行装置学
 前職：日本工学院専門学校臨床工学科
 学内役職等：
 留資格：臨床工学技士、透析技術認定士、呼吸療法認定士、第2種ME技術実力検定試験合格
 非常勤講師：
 受賞・表彰：2013年度日本医工学治療学会学術大会 優秀演題賞
 2013年度日本人工臓器学会 第51回日本人工臓器学会大会コメディカル賞
 2014年日本人工臓器学会 第52回日本人工臓器学会大会第1回萌芽研究ポスターセッション 優秀賞

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略					
2015年度に実施した主な研究テーマとして、嚙下音の時間-周波数解析に基づく嚙下機能評価方法の提案、血液透析用留置針やダブルルーメンカテーテルの最適形状の提案を目的とした再循環率の測定実験、流れの可視化実験および有限要素法を用いた理論解析、人工心肺用血液回路や透析用血液回路内での血液凝固の早期検出を目的としたシステムの開発などを行った。研究成果はこれまでと同様に日本人工臓器学会、日本医工学治療学会、日本音響学会、米人工臓器学会等で発表した。どのテーマも臨床業務に携わる臨床工学技士をはじめとする医療従事者や医療機器メーカーの開発担当者からのニーズを反映した開発要素を含むことから、高い評価を得ている。次年度以降も安全な医療の提供に貢献できる技術開発を実施していく予定である。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
「シャント音の持続時間定量化と分岐を有する擬似血管狭窄モデルを用いたバスキュラーアクセス機能評価に対する有用性の検討」	共著	2015年6月15日	人工臓器 44巻 1号 第52回日本人工臓器学会大会 萌芽研究ポスター発表優秀賞受賞レポート	佐々木一真、本橋由香、 山内 忍 、佐藤敏夫、阿岸鉄三	26頁
(学術論文)					
「体外循環血液回路内雑音の連続モニタリングによる回路内凝固検出」	共著	2015年11月16日	桐蔭論叢 第32号	島崎直也、 山内 忍 、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三	123-128頁
「嚙下音の3次スプライン曲線を用いた嚙下機能改善効果に対する定量評価法」	共著	2015年11月16日	桐蔭論叢 第32号	佐々木一真、本橋由香、 山内 忍 、佐藤敏夫、阿岸鉄三	117-122頁
「透析用留置針の脱血特性改善を目的とした側孔の最適化に関する基礎検討」	共著	2015年11月16日	桐蔭論叢 第32号	山内 忍 、高橋怜美、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三	129-135頁
「圧力センサー付ガイドワイヤーを用いた透析用留置針内部の圧力分布測定」	共著	2016年3月1日	医工学治療 Vol.28 No.1	山内 忍 、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三	24-32頁

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
擬似分岐血管狭窄モデルを用いたシャント音分析によるVA機能評価法の検証	2015年6月26日～28日	日本透析医学会 第60回日本透析医学会学術集会・総会(パシフィコ横浜)	可児雅弥, 佐々木一真, 本橋由香, 山内 忍 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
透析患者に誤嚥を防ぐ食事を提供するための定量評価法の提案	2015年6月26日～28日	日本透析医学会 第60回日本透析医学会学術集会・総会(パシフィコ横浜)	可児雅弥, 佐々木一真, 本橋由香, 山内 忍 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
レーザー散乱光の測定による血液回路の凝固検出方法の検討	2015年6月26日～28日	日本透析医学会 第60回日本透析医学会学術集会・総会(パシフィコ横浜)	可児雅弥, 坂元英雄, 本橋由香, 山内 忍 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
血液凝固時の色変化測定による回路内血液凝固の専属的検出方法	2015年6月26日～28日	日本透析医学会 第60回日本透析医学会学術集会・総会(パシフィコ横浜)	坂元英雄, 土屋浩希, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
回路内血液凝固の検出に適した血流音測定用加速度センサ装着部位の検討	2015年6月26日～28日	日本透析医学会 第60回日本透析医学会学術集会・総会(パシフィコ横浜)	島崎直也, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
穿刺針の細径化を目的とした側孔の最適化に関する理論検討	2015年6月26日～28日	日本透析医学会 第60回日本透析医学会学術集会・総会(パシフィコ横浜)	田口友樹, 高橋怜美, 本橋由香, 山内 忍 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
圧力ガイドワイヤーを用いた圧力測定およびPIVを用いた流れの可視化による透析用留置針の最適形状の検討	2015年6月26日～28日	日本透析医学会 第60回日本透析医学会学術集会・総会(パシフィコ横浜)	山内 忍 , 高橋怜美, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
コアクシアル型ダブルルーメンカテーテルの外筒先端孔が再循環率に及ぼす影響	2015年6月26日～28日	日本透析医学会 第60回日本透析医学会学術集会・総会(パシフィコ横浜)	滝川千恵美, 大城寿乃, 小林桃子, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
コアクシアル型ダブルルーメンカテーテルの外筒先端孔がへばりつき発生に及ぼす影響	2015年6月26日～28日	日本透析医学会 第60回日本透析医学会学術集会・総会(パシフィコ横浜)	滝川千恵美, 大城寿乃, 小林桃子, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
“コアクシアル型ダブルルーメンカテーテルの最適形状に関する研究”	2015年10月25日	第1回神奈川県臨床工学会 かながわ労働プラザ	滝川千恵美, 荒井大輔, 菅野聖乃, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「血液回路内の血流音モニタリングによる回路内凝固検出の試み」	2015年10月25日	第1回神奈川県臨床工学会 かながわ労働プラザ	塩田卓也, 島崎直也, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「嚥下音の時間-周波数分析による非侵襲嚥下機能スクリーニング検査方法の検討」	2015年10月25日	第1回神奈川県臨床工学会 かながわ労働プラザ	可児雅弥, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「血液回路内凝固の発生に及ぼす静脈側ドリップチャンバ全長の影響」	2015年10月25日	第1回神奈川県臨床工学会 かながわ労働プラザ	山本準矢, 島崎直也, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「血液透析用留置針の側孔の数及び実血流量の関係」	2015年10月25日	第1回神奈川県臨床工学会 かながわ労働プラザ	田口友樹, 星 直樹, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「血液回路内凝固の発生を検出するための斜め入射型超音波センサの開発」	2015年10月25日	第1回神奈川県臨床工学会 かながわ労働プラザ	秋山航汰, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
“Automatic detection of representative swallowing sound signals for quantitative evaluation of swallowing function”	2015年11月14日	10th TOIN International Symposium on Biomedical engineering Toin University of Yokohama	Masaya Kani, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi

“CFD analysis of hemodialysis indwelling needles to minimize discrepancies between prescribed and actual blood flow volumes”	2015年11月14日	10th TOIN International Symposium on Biomedical engineering Toin University of Yokohama	Yoichi Marushita , Yuki Taguchi, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi , Toshio Sato
“Wavelength dependence of change in light absorbance before and after blood coagulation using a transmissive photosensor”	2015年11月14日	10th TOIN International Symposium on Biomedical engineering Toin University of Yokohama	Hideo Sakamoto , Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi , Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
“n experimental investigation on the effect of the overall length of the venous drip chamber on blood coagulation”	2015年11月14日	10th TOIN International Symposium on Biomedical engineering Toin University of Yokohama	Naoya Shimazaki , Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi , Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
“An experimental investigation of the effect of side holes on the difference between actual flow rate and set flow rate in hemodialysis indwelling needles”	2015年11月14日	10th TOIN International Symposium on Biomedical engineering Toin University of Yokohama	Yuki Taguchi , Yoichi Marushita , Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi , Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
“Effect of distance between blood removal and return holes on recirculation rate and adherence of a coaxial double-lumen catheter”	2015年11月14日	10th TOIN International Symposium on Biomedical engineering Toin University of Yokohama	Chiemi Takikawa , Kiyono Sugano , Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi , Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
“Investigation of indwelling hemodialysis cannula by pressure distribution measurement and visualization flow, and proposal for optimal shape”	2015年11月14日	10th TOIN International Symposium on Biomedical engineering Toin University of Yokohama	Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi , Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
「透過型光センサを用いた血液凝固前後の吸光度変化の波長依存性に関する検討」	2015年11月19日～21日	第53回日本人工臓器学会大会 東京ドームホテル	坂元英雄, 可児雅弥, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「設定血流量と実血流量の乖離を抑えることを目的とした血液透析用留置針のCFD解析」	2015年11月19日～21日	第53回日本人工臓器学会大会 東京ドームホテル	丸下洋一, 田口友樹, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「血液透析用留置針の設定血流量と実血流量の乖離量に及ぼす側孔の影響に着目したCFD解析」	2015年11月19日～21日	第53回日本人工臓器学会大会 東京ドームホテル	田口友樹, 丸下洋一, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「人工血管内シャントで発生するシャント音の発生メカニズムに関する流れ解析」	2015年11月19日～21日	第53回日本人工臓器学会大会 東京ドームホテル	中根紀章, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「静脈側ドリップチャンバの長さが回路内血液凝固に及ぼす影響」	2015年11月19日～21日	第53回日本人工臓器学会大会 東京ドームホテル	島崎直也, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「コアクシアル型ダブルルーメンカテーテルの各種設計パラメータが再循環率とへばりつき発生に及ぼす影響」	2015年11月19日～21日	第53回日本人工臓器学会大会 東京ドームホテル	滝川千恵美, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「血液回路内を多重反射する超音波の連続モニタリングによる血液凝固に伴う超音波特性の変化検出の試み」	2015年11月19日～21日	第53回日本人工臓器学会大会 東京ドームホテル	佐藤敏夫, 山内 忍 , 本橋由香, 阿岸鉄三
「嚙下機能の定量評価を目的とした代表嚙下音信号自動検出機能」	2015年11月19日～21日	第53回日本人工臓器学会大会 東京ドームホテル	可児雅弥, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「医工学治療分野における各種「音」の分析による非侵襲モニタリングの可能性を探る」	2016年3月18日～20日	日本医工学治療学会第32回 学術大会 甲府富士屋ホテル	佐藤敏夫, 山内 忍 , 本橋由香, 阿岸鉄三
「複数の加速度センサによる嚙下音信号の検出及び合成に基づく非侵襲嚙下機能評価法」	2016年3月18日～20日	日本医工学治療学会第32回 学術大会 甲府富士屋ホテル	可児雅弥, 本橋由香, 山内 忍 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三

「血液凝固前後における透過光パワー変化の測定に基づく非侵襲凝固検出の試み」	2016年3月18日～20日	日本医工学治療学会第32回 学術大会 甲府富士屋ホテル	坂元英雄, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「静脈側ドリップチャンバの各種パラメータが血液凝固発生に及ぼす影響評価」	2016年3月18日～20日	日本医工学治療学会第32回 学術大会 甲府富士屋ホテル	島崎直也, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「コアクシヤル型ダブルルーメンカテーテルの最適形状に関する実験的検討」	2016年3月18日～20日	日本医工学治療学会第32回 学術大会 甲府富士屋ホテル	滝川千恵美, 菅野聖乃, 荒井大 輔, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏 夫, 阿岸鉄三
「血液透析用17ゲージ留置針の側孔最適化による確保できる実流量増加の試み」	2016年3月18日～20日	日本医工学治療学会第32回 学術大会 甲府富士屋ホテル	田口友樹, 島崎直也, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三,
「血液透析用17ゲージ留置針の側孔最適化を目的としたCFD解析の試み」	2016年3月18日～20日	日本医工学治療学会第32回 学術大会 甲府富士屋ホテル	島崎直也, 中根紀章, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
○その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
“Effect of distance between blood removal and return holes on recirculation rate and adherence of a coaxial double-lumen cathete”	2015年11月14日	10th TOIN International Symposium on Biomedical engineering Toin University of Yokohama	Chiemi Takikawa, Sugano Kiyono, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi , Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
「シャント音の持続時間定量化と分岐を有する擬似血管狭窄モデルを用いたバスキュラーアクセス機能評価に対する有用性の検討」	2015年6月15日	人工臓器 44巻 1号 第52回日本人工臓器学会大会 萌芽研究ポスター発表優秀賞 受賞レポート 佐々木一真、本橋由香、 山内 忍 、佐藤敏夫、阿岸鉄三	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本臨床工学技士会、日本透析医学会、日本音響学会

スポーツ健康政策学部 (Faculty of Culture and Sport Policy)

スポーツ教育学科 (Department of Sport Education)

井筒次郎 (いづつ じろう) 教授



出生年 : 1949(昭和24)年
在籍 : 2008(平成20)年4月～
最終学歴 : 日本体育大学大学院体育研究科修了
学位 : 修士(体育学)
学位論文 : 横浜市における社会体育の振興に関する調査研究
専門分野 : スポーツ教育学、保健体育科教育学、安全教育学
前職 : 流通経済大学スポーツ健康科学部教授
学内役職等 : スポーツ健康政策学部大学院専攻長
留学 :
資格 :
非常勤講師 :
受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
保健体育科教育学法	2009年9月～	体育・スポーツ専攻学生のための体育科教育学法、保健科教育学法講義用教科書。学習指導要領の改訂に伴って新たに出版されて。高等学校の「陸上競技」の部分を執筆。106-109頁
「学校安全」講義資料	2011年9月～	教職必修科目である「学校安全」16回分の教材を冊子として作成。110頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体育学会、日本学校保健学会、日本スポーツ教育学会、日本安全教育学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2008年9月～現在	日本安全教育学会監事
2007年4月～現在	(財)日本学校保健会健康教育推進学校表彰審査委員会委員

佐藤 豊(さとう ゆたか) 教授 (2016年度 新任教員)



出生年：1962(昭和37)年
 在籍：2016(平成28)年4月～
 最終学歴：横浜国立大学大学院教育学研究科修士課程修了
 学位：教育学修士
 学位論文：「高等学校における野外教育プログラムの効果及び評価について(横浜国立大学:教修第1930号)」(修士論文)
 専門分野：体育科教育学、スポーツ教育学、野外教育学
 前職：鹿屋体育大学スポーツ人文応用社会科学系教授
 学内役職等：教職課程委員会、FD委員会
 留資格：高等学校(保健体育)専修教員免許状
 中学校(保健体育)一種教員免許状
 学校心理士(学校心理士認定運営機構第72333号)
 非常勤講師：福岡教育大学
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
単元構造図方式によるユニットプラン作成ツールを用いたグループワークによる演習授業	2009～現在	学習指導に際しての俯瞰力および観点別学習評価理解のための演習ツールを開発し、大学、現職教員研修で実施、改良を図っている。
体づくり運動授業用アプリを用いたICT活用の効果的授業の模擬授業演習	2012～現在	一斉指導、個別指導、学習評価を踏まえたアプリを開発し、モデル校における研究成果を学会等で公表した。
単元計画、模擬授業、中学校授業演習、ビデオ省察の繰り返しによる実践的指導力の育成カリキュラム	2013～現在	教育実習前の実践的指導力育成のためのカリキュラムを開発し、大学紀要で成果を公表した。
大学版単元構造図の開発と、資質・能力評価シートの開発	2013～現在	カリキュラムポリシーに基づく15時間のユニットプラン(観点別学習評価計画)と効率的・効果的な評価シートを開発
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
宮城県総合研修センター体育科・保健体育科研修会体育科・保健体育科における学びのデザイン	2015年6月5日	現職教員を対象とした21世紀型学力等中央教育審議会の動向、領域の特性を踏まえた単元構造図グループワーク等を通して、授業デザインの方法について講座を実施
平成27年度西諸地区中学校体育連盟夏季研修会	2015年7月30日	器械運動(マット運動)・保健の授業について、単元構造図ワークショップを行った。
平成27年度茨城県学校体育実技指導者講習会ICT機器を活用した体づくり運動のモデル授業	2015年8月11日	現職教員を対象として、体づくり運動アプリの実践的活用法の研修及び模擬授業を通して、単元の進め方について演習を行った
鳥取県中学校・高等学校保健体育講座 気付き・調整・交流を意識した授業づくり～タブレット端末を活用した体づくり運動～	2015年9月7日	現職教員を対象として、体づくり運動アプリの実践的活用法の研修及び模擬授業を通して、体ほぐし運動の充実、改善に向けた取り組みについて講演・演習を実施した。
福岡県筑後地区小学校体育科研究会 体育科教育の価値観の再構築「これからの資質・能力の論議を踏まえて」	2015年10月1日	21世紀型学力などの資質・能力論の動向から体育科学習の価値について再構築を検討する講演を行った。
第59回富山県中学校教育課程研究大会保健体育部会 21世紀型能力と保健体育科の役割＝授業力の向上に向けて＝	2015年10月14日、15日	学習指導要領を踏まえた授業づくりについて授業力向上に向けたポイントについて講演を実施した。

九州地区学校体育連絡協議会長崎大会	2015年10月30日	九州地区学校体育研究大会において、佐世保高等学校の公開授業に関して体育科教育の視点から指導助言を行った。
全国女子体育連盟全国大会東京大会	2015年10月6日	東京都立隅田中学校において、公開授業の指導助言を行った。
神戸市総合教育センター 体育的学力を支える体育理論を目指して	2015年10月20日	体育理論の進め方、考え方等について講演を行った。
第54回全国学校体育研究大会広島大会 第8分科会 廿日市市立四季が丘中学校	2015年11月12日	フロアバレーを教材化し、インクルーシブ教育につながる体育授業の可能性および剣道授業における簡易竹刀の活用について提供した。
福岡県体育研修報告会 シンポジウム 21世紀型能力と保健体育-アクティブ・ラーニングのとらえ方、とり入れ方	2016年2月19日	保健体育科におけるアクティブ・ラーニングについて国立教育政策研究所森氏、東京女子大学宮本氏とともにシンポジウムを実施した
4.その他教育活動上特記すべき事項		
鹿屋体育大学FD研修会において、大学版単元構造図の試みについて、演習を実施した。	2015年6月30日	体育実技科目、講義科目、演習科目についてグループでの大学版構造図の説明および演習を実施した。

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略					
科学研究費補助金(日本学術振興会)基礎研究B(15H0364)教師養成、現職教員の協働によるアクション・ラーニング研修プログラムの開発をテーマとして、体育・保健体育ネットワーク研究会 http://kyushunet.com/?from=m (北海道・東北、北信越、中国・四国、九州)を23回開催およびホームページを通じて、学習指導要領の理解促進、授業づくり等をテーマに大学、教育委員会、教諭、教職を目指す学生の意見交換を中心としたアクション・ラーニング型研修の実践を図るとともに、韓国中央大学との研究交流協定、JADA(日本アンチドーピング機構)、日本体操学会、台湾師範大学と共同した授業改善に向けた研究を行った。日本体育学会、日本教育学会、Sports Mals in Italy等でのICT活用事例の研究結果の発表、教師教育における実践的指導力育成のためのカリキュラム研究について、大学紀要等で成果報告を行った。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年・月・日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
岐路に立つ学校体育(往復書簡) 「体育は大切」と思う国民の育成を	単著	2015年11月	体育科教育12月号	佐藤豊	32-35頁
論説 新たな体育科教育の可能性に向けて 多様なスポーツの魅力を広げるダンス学習への期待	単著	2016年3月	女子体育	佐藤豊	6-9頁
(学術論文)					
業づくりシンポジウム2013「体育科・保健体育科におけるよい授業を考える」(平成24年度～26年度科学研究費助成事業(基盤研究(B))課題番号24300214) 研究報告	共著	2015年12月1日	学術研究紀要第51号	佐藤 豊、石川泰成、大友 智、下野六太	39-頁
単元構造図、模擬授業、映像視聴の連続体験による体育科教員養成授業モデルの検討 -鹿屋体育大学における2013年度保健体育科教育法Ⅳの授業実践とその省察から-	共著	2015年12月1日	学術研究紀要第51号	佐藤 豊、梶 ちか子	11-24頁
保健体育授業づくりシンポジウム 世界の体育の危機を共有する「アジアの学習指導要領の変化と日本の課題」(平成24年度～26年度 科学研究費助成事業(基盤研究(B))課題番号24300214) 研究報告	共著	2015年12月1日	学術研究紀要第51号	佐藤 豊、JeongAe You、Yuh-Chih Chen、森 良一	53-70頁

鹿屋体育大学における2014年度保健体育科教育法Ⅳの授業実践とその省察－体験学習モデルに基づくアクティブ・ラーニング型授業における実践的指導力育成システムの構築に向けて－	共著	2016年3月	鹿屋体育大学学術研究紀要第52号	佐藤 豊、梶 ちか子	35-67頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
体づくり運動におけるアクティブ・ラーニングを促すタブレット(ICT)活用ソフトの開発提案	2015年9	日本体育科教育学会ラウンドテーブル 横浜国立大学、横浜市	佐藤豊、木原慎介、佐藤 若(山梶 ちか子)		
タブレットのある体育授業からの最新事例	2015年9月12日	日本体操学会 第15回大会シンポジウム(京都市)	佐藤豊他 パネリスト		
体育系大学のダンス授業におけるICTを活用したアクティブ・ラーニング型授業の検討	2015年8月	日本体育学会体育科教育学 国士舘大学、東京	梶 ちか子、松元隆秀、村上 俊祐、高橋仁大、佐藤豊		
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
国、県、研究会等の教育講演 200回以上					
○その他					
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
教師養成、現職教員の協働によるアクション・ラーニング研修プログラムの開発	2015年4月～2019年3月	科学研究費補助金(日本学術振興会)基礎研究B(15H0364)			
(海外出張)					
用件	出張期間	出張先			
IEASEP(国際スポーツ教育学会)におけるスポーツ教育の動向調査	2015年7月7日～12日	Universidad Europea de Madrid (ヨーロッパ大学マドリード校)			
SPORTFORUM MALS 2015における情報収集	2015年7月16日～7月21日	Staatsstraße 9 - 39024 Mals - ITALY			
台湾文部科学省、台北市内小中高視察	2016年3月	台湾教育部体育署他			
(その他特記事項)					
九州体育・保健体育ネットワーク研究会, 第9回鹿屋ファイナルラウンド研究紀要, 2015,					

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
Ieaspep(国際スポーツ教育学会)、日本体育学会、日本体育科教育学会、日本野外教育学会、日本体操学会、日本学校心理士会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2013年～	日本体育科教育学会理事
2012年～	日本スポーツ教育学会理事
2012年～	国立教育政策研究所指定研究開発学校(北広島町挑戦科)調査協力委員会座長
2014年～	教員研修センター全国子供体力向上指導者養成研修講師
2013年～	国立教育政策研究所調査協力会議(副座長)
2011年～	長崎県地域スポーツ人材活用による運動部活動等推進事業委員会座長
2011年～	毎日新聞社中学校体力づくりコンテスト審査委員
2015年	全国学校体育研究連合広島大会 廿日市市立四季が丘中学校指導助言者
2015年	全国女子体育連盟全国大会(東京大会)、葛飾区立常磐中学校指導助言者

(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
大学・教育委員会、教員、学生の多様で広域な連携モデルによる授業研究会(31名) 体力向上指導者研修の動向 佐賀県生涯学習センター	2015年5月15日	九州体育・保健体育研究会ネットワーク研究会 むつごろうラウンド(佐賀県事務局)
大学・教育委員会、学校の多様で広域な連携モデルによる授業研究会(11名) 体育のタブレット活用 水前寺共済会館	2015年6月8日	九州体育・保健体育研究会ネットワーク研究会 くまモンラウンド(熊本県事務局)
大学・教育委員会、学校の多様で広域な連携モデルによる授業研究会(50名) 各領域の単元構造図 鹿子島中央公民館	2015年6月27日	九州体育・保健体育研究会ネットワーク研究会 黒豚ラウンド(鹿児島県事務局)
大学・教育委員会、学校の多様で広域な連携モデルによる授業研究会(43名) 熊本大会振り返り 熊本県民会館	2015年8月12日	九州体育・保健体育研究会ネットワーク研究会 火の国ラウンド(熊本県事務局)
大学・教育委員会、学校の多様で広域な連携モデルによる授業研究会(44名) アクティブラーニング(宮崎市中央公民館)	2015年9月5日	九州体育・保健体育研究会ネットワーク研究会 ちきん南蛮ラウンド(宮崎県事務局)
大学・教育委員会、学校の多様で広域な連携モデルによる授業研究会(49名) 附属小学校の実践(鹿児島大学教育学部附属小学校)	2015年10月17日	九州体育・保健体育研究会ネットワーク研究会 第2回黒豚ラウンド(鹿児島県事務局)
大学・教育委員会、学校の多様で広域な連携モデルによる授業研究会(26名) 観点別評価(A)の姿(佐世保市中部地区公民館)	2015年10月30日	九州体育・保健体育研究会ネットワーク研究会 佐世保バーガーラウンド(長崎県事務局)
大学・教育委員会、学校の多様で広域な連携モデルによる授業研究会(24名) YMCA国際文化センター	2015年11月13日	九州体育・保健体育研究会ネットワーク研究会 もみじまんじゅうラウンド(広島県事務局)
大学・教育委員会、学校の多様で広域な連携モデルによる授業研究会(28名) ICT活用の可能性 コンパホール大分	2015年12月12日	九州体育・保健体育研究会ネットワーク研究会 とり天ラウンド(大分県事務局)
大学・教育委員会、学校の多様で広域な連携モデルによる授業研究会(59名) アプリ授業体験 沖縄県体協スポーツ会館	2016/1/23	九州体育・保健体育研究会ネットワーク研究会 シーサーラウンド(沖縄県事務局)
大学・教育委員会、学校の多様で広域な連携モデルによる授業研究会(38名) 北九州市立思永中学校	2016年2月13日	九州体育・保健体育研究会ネットワーク研究会 焼うどんラウンド(北九州市事務局)
大学・教育委員会、学校の多様で広域な連携モデルによる授業研究会(155名) 福岡県立スポーツ科学情報センター	2016年3月5日	九州体育・保健体育研究会ネットワーク研究会 ファイナルラウンド(佐賀県事務局)

松原 静郎 (まつばら しずお) 教授



出生年：1951(昭和26)年2月
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：東京都立大学大学院理学研究科修士課程(化学専攻)修了
 学位：理学修士
 学位論文：「鉄-57およびスズ-119を含む化合物のメスバウアー分光学的研究」(修士論文)
 専門分野：科学教育、化学教育
 前職：国立教育政策研究所 教育課程研究センター 基礎研究部 総括研究官
 学内役職等：スポーツ教育学科長 (2016～)
 留学：オーストラリア教育研究所(オーストラリア)(1985.8-1986.6)
 資格：中学校教諭一級普通免許状(理科), 高等学校教諭二級普通免許状(理科)
 非常勤講師：首都大学東京 都市教養学部
 受賞・表彰：日本科学教育学会「科学教育研究奨励賞」受賞(1988年7月)
 日本科学教育学会「年会発表賞」受賞(2007年8月)
 日本化学会「化学教育賞」受賞(2010年3月)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
組立ブロックによる表現力育成に関する活動	2009年4月～現在	組立ブロックを用いて組み立てた形を、絵や文字で示し、他の人がそれを読んで同じものを再現する活動を行った。自分の表現方法を評価するとともに、再現に重要な点を確認した。重要な点は、科学におけるレポートの記載にも通じると考えている。
学生主導型授業	2015年4月～現在	4人班の中で学生が教師役を順次担当し、小学校理科の内容を教師役学生が授業日以前の昼休み2回を使って予備学習・予備実験をし、授業時には教師役学生が各班3人の児童役学生対象に授業を進めていく。プリント等の作成および指導の仕方は各教師役学生が工夫する。
2.作成した教科書、教材、参考書		
持続可能な発展に関する教材(プリント)	2008年4月～現在	持続可能な発展を目指した科学技術のあり方について、発電を題材として考察する。水力発電から火力発電、原子力発電、新エネルギーへと発電方法が広がっていく過程を知ることで、その過程がそれぞれの発電の問題点を積極的に解決していく努力によるものであることを理解し、自らの判断・意思決定や活動について考察していくとともに、次世代のことも考慮に入れる必要性について理解する。
理科の世界(大日本図書;文部科学省検定済中学校理科教科書)	2012年～現在	第一分野の「粒子」を柱とした内容に関して、構成、プロット、観察、実験活動、解説など、全般にわたって関与している。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
富山県立高岡南高等学校「表現力育成講座」高岡市	2016年2月20日	2年1組の生徒を対象に、教員および保護者も参加する中で、理科での実験レポートの書き方における定型文の考え方等を通して表現力育成について講演をした。

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略					
<p>科学研究費による次の研究を中心に進めた。(1)SD教材: 科学者・技術者の環境に対する対応が、持続可能な方向へと変化していることを意識させ、自ら判断・意思決定し行動に結び付けることに加え、SD教材で得た知識や概念を活用するワークシートの検討を継続した。また、発泡スチロールのリサイクル教材について実践した。(2)生徒主導型授業: 教師役の生徒を決め、予備実験を通して、教師役の生徒が実験活動を主導する生徒主導型授業PIEを複数の学校で進めた。意欲や知識・技能の向上により効果のある条件として、既習内容を発展させた学習であることが見いだされた。(3)実験教材: 引き続き、酸素/二酸化炭素センサや空気電池を用いた高橋式酸素センサ等を教育センターに貸し出し、研修講座や学校の授業等で実践をした。また、視覚特別支援学校では、中学校の質量保存の学習について授業プログラムを開発し、酸素/二酸化炭素センサの読み上げ機能及びリピート機能を使っての実験を含む実践を進め、複数の感覚からの情報を使った学習による効果が認められた。(4)モデル化学習教材: 概念モデルの構築、実験計画、実験実施、レポート作成、新たなモデル構築の過程を定型として検討を進めてきたが、モデル構築の基本項目に書くべき要素の定型化に続いて、具体的な問いかけや実験計画の定型文を新たに作成した。これらの基本項目や要素はレポート記述における項目と対応していることが明らかとなり、モデル構築における構造化が妥当であることを示唆していると考えられた。(5)アジア諸国との協働研究: 8月にマレーシアのマラヤ大学で第6回国際ワークショップIWS-6が開催された。日本とマレーシア及びフィリピンから教育関係者が参加し、この1年間に進めてきた研究について報告するとともに、マレーシアでの教育状況を視察し、共通理解を深めた。そのほか、前年度に引き続いて小学校理科教科書分析をはじめ、デジタル教科書や化学の新しい形式の入試問題についての検討を行った。また、高等学校理科の教育課程について日本学術会議小委員会で検討し提言した。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「新しい教育課程を実践して」	単著	2015年6月20日	化学と教育、63巻6号	—	276-277頁
「理科教育での表現力育成の経緯と試み」	単著	2015年9月20日	化学と教育、63巻9号	—	420-423頁
「自然体験や生物に対する体験が生命観育成に及ぼす効果—中学生と大学生の調査結果を比較して—」	共著	2015年10月16日	生物教育、56巻1号	岩間淳子、松原静郎、小林辰至	2-10頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
第20回シンポジウム「小・中学校間での系統性を重視した連携を考える」趣旨説明	2015年5月16日	教科「理科」関連学会協議会 CSERS第20回シンポジウム(日本化学会化学会館)	—		
”Development of oxygen sensor applicable to science experiments in primary and secondary science education—Characteristics of air battery and application as oxygen sensor—”	2015年7月28～31日	6th Network of Inter-Asian Chemistry Educators Conference (NICE2015), National Museum of Emerging Science and Innovation (Miraikan) 日本科学未来館	Mitsuo TATAHASHI, Yuji TATEIZUMI, Hiroataka TSUTSUMI, Yukie SONOBE, Kenji GOTO, Yorikazu NOUCHI, Norimichi KAWASHIMA, Yoshihiro HADA, Hiroshi IIDA, Keiichi IWAKI, Kazuyuki ODAIRA, Shousuke TERATANI, Shizuo MATSUBARA		
「理科教員養成のための大学教員と附属学校教員が連携した講義」	2015年8月1～2日	日本理科教育学会全国大会 発表論文集第13号、141頁、第65回全国大会(京都教育大学)	宮内卓也、鎌田正裕、新田英雄、原田和雄、松原静郎、番田清美、浅羽宏、川角博、元川ゆかり、藤田留三丸、堀井孝彦、青木良太、河野広和、五十嵐敏文、羽仁克嘉、岡田仁、宮崎達朗、宮城政昭、市原光太郎、岩藤英司、内山正登、小川乃絵、小林雅之、齋藤洋輔、坂井英夫、田中義洋		
「生徒主導型実験の実践」	2015年8月1～2日	日本理科教育学会全国大会 発表論文集第13号、222頁、第65回全国大会(京都教育大学)	北野賢一、柳澤秀樹、後藤頭一、寺谷敏介、松原静郎		

「生徒主導型実験の実践」	2015年8月1～2日	日本理科教育学会全国大会 発表論文集第13号、297頁、 第65回全国大会(京都教育大 学)	柳澤秀樹、北野賢一、後藤顕一、 松原憲治、寺谷敏介、 松原静郎
「相互評価表を継続的に活用した取組から見 える成果と課題－物質同定の実験を通して －」	2015年8月1～2日	日本理科教育学会全国大会 発表論文集第13号、425頁、 第65回全国大会(京都教育大 学)	北川輝洋、飯田寛志、寺谷敏介、 松原静郎 、野内頼一、後藤顕一
「教育実践・科学授業開発」座長	2015年8月22日	日本科学教育学会第39回年 会(山形大学)	－
「化学反応式の決定をテーマとしたモデル化 学習教材」	2015年8月21～23 日	日本科学教育学会年会論文 集第39号、266-267頁、日本 科学教育学会第39回年会(山 形大学)	松原静郎 、北川輝洋、柳澤秀樹、 宮内卓也、鮫島朋美、後藤顕一、 寺谷敏介
「手作り酸素センサを使った液体窒素の物性 実験」	2015年8月21～23 日	日本科学教育学会年会論文 集第39号、322-323頁、日本 科学教育学会第39回年会(山 形大学)	高橋三男、菌部幸枝、後藤顕一、 野内頼一、伊藤崇由、飯田寛志、 岩城圭一、大平和之、林誠一、寺 谷敏介、 松原静郎
「生命倫理問題に対する大学生の意見－教 育学科と看護学科の学生を比較して－」	2015年8月21～23 日	日本科学教育学会年会論文 集第39号、354-355頁、日本 科学教育学会第39回年会(山 形大学)	岩間淳子、 松原静郎
「持続可能な社会の形成を志向した理科教材 開発－科学的意決定場面を有する教材開 発に向けた予備的考察－」	2015年10月3日	平成27年度日本理科教育学 会北海道支部大会(北海道教 育大学旭川校)	松原憲治、 松原静郎
G会場座長	2015年12月5日	日本理科教育学会第54回関 東支部大会(茨城大学)	－
「生活科における植物を通じた生命への気付 き－第1学年『はな』で扱われる植物教材を例 に－」	2015年12月5日	日本理科教育学会第54回関 東支部大会(茨城大学)研究 発表要旨集、88頁	岩間淳子、 松原静郎
「理科教科書に見る問題解決能力育成の扱 い－第3学年『物と重さ』を例に－」	2015年12月5日	日本理科教育学会第54回関 東支部大会(茨城大学)研究 発表要旨集、107頁	松原静郎 、岩間淳子
”Oxydation reaction experiment og ion powder (disposable warmer) using handmade oxygen sensor”	2015年12月15-20 日	The 2015 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (PAC CHEM ™), Honolulu, USA	Mitsuo TATAHASHI, Hirokazu SAITO, Nobukatsu DOI, Yuji TAKEIZUMI, Yukie SONOBE、 Kenichi GOTO, Yorikazu NOUCHI, Yoshihiro HADA、 Norimichi KAWASHIMA, Hiroshi IIDA, Keiichi IWAKI, Kazuyuki ODAIRA, Katsuhito MIKI, Seiichi HAYASHI, Shousuke TERATANI, Shizuo MATSUBARA
「水中の微小生物の観察を通じた生物多様性 の理解と生命観育成－ミジンコの観察と心拍 数の計測を通して－」	2016年1月10～11 日	日本生物教育学会第100回全 国大会(東京理科大学)研究 発表予稿集、50頁	岩間淳子、 松原静郎
第23回化学教育フォーラム「化学教育におけ るアクティブラーニング」全体司会	2016年3月26日	日本化学会第92春季年会(同 志社大学京田辺キャンパス)	－
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
「持続発展を題材としモデル化学習により科 学知の活用と探究能力を育成する国際協働 研究」	2014年4月～2018年3月	科学研究費補助金基盤研究(B)(課題番号26282040)研 究代表者	

「我が国における各教科のデジタル教科書の活用及び開発に関する総合的調査研究」	2014年4月～2017年3月	科学研究費補助金基盤研究(B)(課題番号26285184)研究分担者
「化学実験レポートにおける考察記述を活用し思考力の獲得につなぐ学び方に関する実証的研究」	2014年4月～2017年3月	科学研究費補助金基盤研究(C)(課題番号26350260)研究分担者
(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
Sixth International Workshop of Science Education for Sustainable Development, Educational Co-research of Sustainabilityでの発表	2015年8月26日～29日	University of Malaya (マレーシア)
韓国におけるデジタル教科書の活用に関する調査	2015年9月10日～12日	ソウル教育大学、イテウォン初等学校、カゼウル中学校
(その他特記事項)		
横浜市大学連携・協働事業 平成27年度第1回理数ワーキンググループ協議会 桐蔭横浜大学で開催 2015年7月9日		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本化学会、日本科学教育学会、日本理科教育学会、教科「理科」関連学会協議会委員	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2015年3月～2016年1月	第23期日本学術会議 科学者委員会・科学と社会委員会合同 広報・科学力増進分科会 高校理科教育検討小委員会 委員
2016年1月～2017年9月	第23期日本学術会議 科学と社会委員会 科学力増進分科会 高校理科教育検討小委員会 委員
2015年5月～2016年3月	国立教育政策研究所 国際数学・理科教育動向調査 国内専門委員
2013年3月～現在	日本化学会 教育・普及部門 普及・交流委員会 化学教育フォーラム企画小委員会 委員
2011年3月～2016年5月	日本化学会 教育・普及部門 学校教育委員会 化学教育カリキュラム構築小委員会委員
2007年4月～現在	日本理科教育学会 評議員
2007年4月～2015年6月	教科「理科」関連学会協議会 委員(日本理科教育学会代表)
2013年7月～2015年6月	教科「理科」関連学会協議会 議長
2013年4月～現在	公益財団法人 教科書研究センター 特別研究員
2013年4月～現在	公益財団法人 教科書研究センター 教科書・教材のデジタル化に関する調査研究 企画運営部会及び理科部会 委員
2015年4月～2016年3月	平成27年度 附属学校研究会プロジェクト研究 共同研究者(東京学芸大学)
2015年9月～2016年3月	平成27年度 富山県立高岡東高等学校 土曜授業・評価委員

松本 格之祐 (まつもと かくのすけ) 教授



出生年：1952(昭和27)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院修士課程体育研究科修了
 学位：修士(体育学)
 学位論文：小学校体育授業における仲間づくりの可能性の検討ーチャレンジ運動とボール運動の授業実践を通してー
 専門分野：体育科教育学
 前職：びわこ成蹊スポーツ大学教授
 学内役職等：スポーツ健康政策学部学部長(2016～)
 留学：
 資格：保健体育教諭専修免許(中学、高校)
 非常勤講師：桜美林大学
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
模擬授業における授業評価、授業分析のフィードバック	2005年～現在	学生の模擬授業における形成的授業評価、期間記録等による授業の振り返り
マイクロティーチングの導入	2007年～現在	教材と場面が決められた短い時間での指導の経験。全員が指導の経験が可能。
2.作成した教科書、教材、参考書		
小学校・保健教科書の執筆	2011年～	小学校・保健6年の教科書「地域の保健活動」(学研)の執筆。

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略					
これまでに引き続き、前回の学習指導要領の改訂で注目をあびた「体づくり運動」の教材づくりについて検討してきている。本年は特に、小学校の「多様な動きをつくる運動(遊び)」の内容と指導方法について、現場の教員との定例の研究会、自治体の研修会等を通して授業で有効な内容・方法を提案してきた。また、指導が難しいということで教員に敬遠されがちな器械運動だが、文部科学省の「器械運動の手引きの作成に関わった関係から、基礎となる感覚づくり・動きづくり、関連した運動、対象となる運動のポイント等について、研修会等を通して現場の先生方に示すことができた。来年度はマット運動の書籍を執筆する予定である。さらに教育現場で役立つ情報を発信していきたい。来年度は学習指導要領の改訂に向けての取組が始まる。不易と流行という2つの側面から、その改訂の方向・内容を検討したいと考えている。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
身につく!「体づくり運動」の授業づくりとは?	単著	2015年7月1日	楽しい体育の授業No.310 明治図書	—	4頁
器械運動の指導の手引き	共著	2015年12月17日	文部科学省	三木四郎、松本 格之祐 他 16名	16頁
「シンクロマット」指導のねらい	単著	2016年1月1日	楽しい体育の授業No.316 明治図書	—	4頁
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
島根県小学校体育授業研修会講師 「5年生・鉄棒運動の指導」 「授業解説」	2015年7月27日	島根県松江市立母衣小学校	母衣小学校体育館・研修室		

静岡県・磐周地区小学校体育連盟研究講座 講師 「器械運動の考え方と指導の実際」	2015年7月29日	磐田市立豊田南小学校	豊田南小学校体育館
筑波学校体育研究会・夏期研修会講師 「鉄棒運動の指導法」	2015年8月1日	筑波学校体育研究会主催	東京・筑波大学附属小学校
島根県仁多郡体育授業研修会 平成26年度より3カ年の取り組み 毎年3回開催	①2015年8月20日 ②2015年11月18日 ③2016年1月26日	島根県仁多郡体育授業研修会	奥出雲町立高田小学校
島根県小学校体育授業研修会講師 「1年生・体づくり運動」授業の講評・指導 「来年度の中四国大会に向けた検討会」助言	2015年10月16日	島根県松江市立母衣小学校	母衣小学校体育館・研修室
埼玉県さいたま市立常盤小学校校内研究会 講師 「跳び箱運動」の授業への指導	2015年11月26日	埼玉県さいたま市立常盤小学校	埼玉県さいたま市立常盤小学校体育館
東京都神津小学校・実技講習会講師 「器械運動」	2016年2月16日	東京都神津村立神津小学校	東京都神津村立神津小学校体育館
本郷小学校校内研究会講師 2年生・ゲーム(コーンボール)授業参観、指導助言	2016年2月17日	東京都文京区立本郷小学校	本郷小学校グラウンド・会議室

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
初等教育研究会、筑波学校体育研究会、日本スポーツ教育学会、体育授業研究会、日本体育学会、日本体育科教育学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2014年4月～現在	研筑波学校体育研究会理事

宮津大蔵 (みやづ だいぞう) 教授



出生年 : 1959(昭和34)年
在籍 : 2009(平成21)年4月～
最終学歴 : 東京学芸大学教育学部卒業
学位 :
学位論文 :
専門分野 : 国語科教育学
前職 : 東京都新宿区立余丁町小学校教諭
学内役職等 :
留学 :
資格 :
非常勤講師 : 東京家政学院大学現代生活学部
受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
文部科学省後援事業 日本語検定公式練習問題集改訂版6級)小学校国語指導資料 新しい学力観に立つ国語科の授業の工夫 文部省		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
神奈川県座間市教育課程等研究推進委託事業 座間市立東原小学校研究発表指導・講演講師		

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略
前年度の活動を継続。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本演劇学会、日本教材学会、東京学芸大学国語教育学会、日本教育方法学会、表象文化論学会

木村和宏 (きむら かずひろ) 准教授



出生年：1964(昭和39)年
在籍：2008(平成20)年4月～
最終学歴：日本体育大学大学院体育科学研究科博士前期課程修了
学位：修士(体育科学)
学位論文：バスケットボール競技のチーム戦術に関する一考察－世界
トップレベルのセット・オフENSEの傾向－
専門分野：コーチング科学、スポーツ方法学(バスケットボール)
前職：日本体育大学運動処方研究室研究員
学内役職等：
留学：
資格：
非常勤講師：早稲田大学オープン教育センター
受賞・表彰：

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略

現在、ワンドフルスポーツ(新学社:中学実技書)次号のバスケットボール競技部分を執筆中。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本体育学会、スポーツ方法学会

任期、活動期間等

2006年10月～現在

学会・機関・団体等における役職等

公認バスケットボール上級コーチ

城田直彦（しろた ただひこ）准教授



出生年 : 1962(昭和37)年
 在籍 : 2015(平成27)年4月～
 最終学歴 : 奈良教育大学大学院教育学修士課程修了
 学位 : 教育学修士
 学位論文 : 「数学における「中1ギャップ」の要因に関する考察」(修士論文)
 専門分野 : 数学教育
 前職 : 白鳳女子短期大学非常勤講師
 学内役職等 :
 留学 :
 資格 : 小学校専修免許状、中学数学専修、高校数学専修、中学英語2級、幼稚園2級
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
「図解・よくわかる 測り方の事典」	単著	2015年8月10日	角川新書	—	
「中学校数学「PISA型学力」に挑戦!B問題対策と「学力向上」	共著	2015年11月30日	日本教育研究センター	—	
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
「単位のいろは」	2015年7月16日	神奈川学園高校2年	神奈川学園高校		
○その他					
(雑誌・新聞記事等掲載)					
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称			
世界計量記念日に関連して	2015年5月16日	日本テレビ『嵐にしやがれ』			
「書評 『図解 よくわかる測り方の事典』(星田直彦著)」	2015年8月25日	日本計量新報(週刊専門新聞) 2015年9月27日(3074号)			
「コメント 朝日小学生新聞 あれも知りたい これも知りたい「どのくらい高いんだ?」	2015年11月23日	朝日小学生新聞(2015年11月23日付) 8面			
(その他特記事項)					
「21_21 DESIGN SIGHTの企画展「単位展」の学術協力」2015年2月20日～5月31日 東京ミッドタウンのガーデン内の展示施設 21_21 DESIGN SIGHT で開催された「単位展」(主催:21_21 DESIGN SIGHT、公益財団法人 三宅一生デザイン文化財団)の学術協力					
「「単位展」ギャラリーツアー」2015年4月25日、2月28日 「単位展」が扱う様々な「単位」を解説しながら、来場された方と一緒に会場をまわる。					

「TOKYO FM「TIME LINE」【まえがきは謳う】図解よくわかる測り方の事典/星田直彦(著)」2015年9月27日 TOKYO FM の番組、「TIME LINE」の中で拙著が紹介された。
「JFN系列の番組「THE VOICE」著書『図解 よくわかる 測り方の事典』について」2015年11月9日～10日 FMラジオ JFN系列の番組、「THE VOICE ～ピープル・ズームアップ～」に出演

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本数学教育学会、全国数学教育学会、近畿数学教育学会、和算問題教材化研究会		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
21_21 DESIGN SIGHT 企画展 「単位展」学術協力	2014年6月～2015年5月	21_21 DESIGN SIGHT、公益財団法人 三宅一生デザイン文化財団

谷本直美 (たにもと なおみ) 准教授



出生年：1960(昭和35)年
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：東京学芸大学大学院教育学研究科音楽教育専攻音楽科教育講座修了
 学位：教育学修士(東京学芸大学)
 学位論文：シュタイナー学校における音楽教育
 専門分野：教育学
 前職：東京学芸大学附属竹早小学校教諭
 学内役職等：キャリア情報センター副センター長 (2013～2015)
 留学：
 資格：小学校教諭1種 中学校教諭1種・高等学校教諭1種(音楽) 司書教諭
 非常勤講師：東京学芸大学附属竹早小学校(音楽) 早稲田大学
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
音楽実技(ピアノ)における同一曲の習熟度別編曲による教材の作成	2009年4月～現在	履修学生のピアノ経験年数に応じて、同一曲を3～4レベルに編曲し、学生が自分のピアノ経験にあったレベルを選択して練習を始められるような教材を準備した。さらに演奏能力に差がある学生が1つの曲を合奏できるよう、パート毎に難易度を変えて編曲し、合わせる楽しさを経験して音楽指導に前向きになれるような教材を作成した。学生授業評価は2013年度後期3.95であった。
音楽劇による小学校へのアウトリーチ活動	2010年7月～現在	教科指導法(音楽)の授業内で学生に音楽劇を指導し、近隣の公立小学校で授業として構成して発表している。2011年度からは劇の中に子どもたちへの歌唱やリズムアンサンブルの指導場面を設定し、学生に指導を体験させている。その後ビデオを通してグループ協議を行い、子どもに対する実感をもたうえで模擬授業を行って学生の音楽の授業に対する理解を深めている。学生授業評価は2011年度前期平均値3.84、2012年度後期3.80、2014年度後期3.75であった。
小学校における読み聞かせ体験	2010年6月～現在	ゼミ履修学生(3年)に子どもたちの前に立つ体験として、読み聞かせの機会を近隣小学校にいただいている。毎年「なぞなぞライオン」を扱い、なぞなぞやしりとりを通して子どもたちとコミュニケーションをとりながら読み聞かせをする体験をさせ、児童理解と指導体験の機会としている。その発展として7月に行われる同小学校における保護者会主催の全校お楽しみ会にも読み聞かせで有志が参加し、自分達で作品を選び、脚色も加えながら練習を積んで臨んでいる。

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略
3年にわたる科研費研究「芸術教科における若手教師のための授業メンタリングプログラムの開発」(北海道教育大学名達教授との共同研究)の1年次に取り組んだ。音楽科では1名の熟練教師、1名の中堅教師、2名の若手教師の協力を得て、授業の撮影・録音、記録の作成・分析を行った結果、傾聴と自己制御、安心と自己解放、音楽表現とその工夫、他者との関わり、主体者意識等のグラウンド・ルールが抽出された。研究経過として日本学校音楽教育実践学会にて口頭発表を行った。若手教師から見て理解できる授業分析方法が今後の課題である。

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
音楽の授業におけるグラウンド・ルールの共有について(3)－熟練教師はなぜ子どもの主体的な取り組みを実現できるのか－	単著	2016年3月	日本学校音楽教育実践学会紀要 2016vol. 20		255-256頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名		
(口頭発表)音楽の授業におけるグラウンド・ルールの共有について(3)－熟練教師はなぜ子どもの主体的な取り組みを実現できるのか－	2015年8月14日	第20回日本学校音楽教育実践学会 (大阪成蹊大学/大阪)			
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
お茶の水女子大学附属小学校第78回教育 実際指導研究会コメンテーター http://www.fs.ocha.ac.jp/20151117_2annai.pdf	2016年2月19日	お茶の水女子大学附属小学校	お茶の水女子大学附属小学校		
○その他					
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
科学研究費助成事業	2015年4月～2018年3月	学術研究助成基金助成金 基盤研究(C)			

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本学校音楽教育実践学会、日本教師教育学会、日本教育方法学会、日本教材学会		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
横浜市立鉄小学校において卒業式音楽伴奏	2016年3月18日	横浜市立鉄小学校

徳田英次（とくだ ひでじ）准教授



出生年：1969(昭和44)年
在籍：2004(平成16)年4月～
最終学歴：筑波大学大学院博士課程心理学研究科心理学専攻中退
学位：修士(心理学)
学位論文：覚醒度変化が注意機能に及ぼす影響－主観的覚醒度2因子モデルからの検討(未公刊)
専門分野：臨床心理学
前職：東京成徳大学文学部講師
学内役職等：
留学籍：
資格：
非常勤講師：
受賞・表彰：

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本心理学会、日本カウンセリング学会、日本催眠医学心理学会、日本心理臨床学会、Society for Clinical and Experimental Hypnosis	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
	日本催眠医学心理学会広報委員

木原 洋一 (きはら よういち) 専任講師



出生年：1976(昭和51)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院修士課程体育研究科修了
 筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科満期退学
 学位：修士(体育学)・修士(教育学)
 学位論文：演劇における「からだ」のレッスンの理論と実践(体育学)
 心身論を基盤とした体育の理念形成の検討 -1931-45年
 の日本における体育的身体論を射程として-(教育学)
 専門分野：スポーツ教育学、学校教育学、比較文化学
 前職：筑波大学大学院博士課程
 学内役職等：
 留学：
 資格：中学校教諭専修免許(保健体育)
 高等学校教諭専修免許(保健体育)
 中学校教諭専修免許(社会)
 高等学校教諭専修免許(地理歴史)
 高等学校教諭専修免許(公民)
 柔道初段
 非常勤講師：
 受賞・表彰：平成23年度第9回茗溪会顕彰

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本体育学会、日本スポーツ学会、日本体育科教育学会、神奈川体育学会、日本体操学会		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
横浜市立みたけ台小学校および横浜市立荏子田小学校で、体操、マット、とび箱、球技などの基礎・基本の動きを指導。	2011年4月～(毎週火・木2コマ)	団体等名称:体操教室

箱崎 (李) 禧承 (はこざき(い) ひすん) 専任講師



出生年：1973(昭和48)年
 在籍：2012(平成24)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院博士課程教育学研究科学校教育学専攻
 修了
 学位：博士(教育学)
 学位論文：学校教育におけるハイパーメディア教材の利用に関する研究(博士論文)
 専門分野：教育工学、教育方法学、教育学
 前職：筑波大学人間総合科学研究科外国人受託研究員
 学内役職等：
 留学：筑波大学(1997年4月～2005年3月)
 資格：中等教育2級正教師資格(韓国)(教科:教育学、道徳)
 非常勤講師：筑波大学
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略					
2014年度に引き続き、デジタル教科書利用授業の特徴を明確にすべく、実際のデジタル教科書の利用授業を対象とし、教師の教授行為の分析研究を実施した。そして、その研究結果を、日本デジタル教科書学会年次大会では「デジタル教科書の利用授業における教師の教授行為の特徴－社会科授業の事例分析を通して－」と日本教育メディア学会年次大会では「デジタル教科書の利用授業における教授行為としての教師発話の分析」のタイトルで研究発表した。また、桐蔭論叢では「デジタル教科書の利用授業における「教授行為」の特徴について－学習指導案の分析を手掛かりに－」が掲載された。2016年度の研究課題としては、2015年度の免許更新講習選択必修科目を担当し、政府及び現場教員から「情報モラル」教育の必要性及び実施の難しさに共感したことから、①情報モラル教育の現状を捉え、②先決すべき課題を整理し、③日本より早い段階で情報倫理教育を実施してきた韓国との比較研究を行うことで、「情報モラル教育」の在り方について提言する。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
デジタル教科書の利用授業における「教授行為」の特徴について－学習指導案の分析を手掛かりに－	単著	2015年10月15日	桐蔭横浜大学桐蔭論叢第32号	李(箱崎) 禧承	pp.37-42
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
デジタル教科書の利用授業における教師の教授行為の特徴－社会科授業の事例分析を通して－	2015年8月12日	日本デジタル教科書学会 2015年次大会研究発表論文 集(北海道札幌市)	李 禧承		
デジタル教科書の利用授業における教授行為としての教師発話の分析	2015年10月17日	日本教育メディア学会第22回 年次大会(日本大学/東京都 世田谷区)	李 禧承		

○その他		
(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
教科書研究センター・科研課題名「我が国における各教科のデジタル教科書の活用及び開発に関する総合的調査研究」の連携研究者としての韓国調査	2015年9月10日～9月12日	ソウル教育大学、梨泰院初等学校、ガゼウル中学校(韓国)
韓国の学校教育における「サイバー倫理教育」(情報モラル教育)の実施状況調査	2016年2月28日～3月3日	京畿道ナゴク初等学校、韓国国会図書館、キョウボ文庫

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本教育メディア学会、日本デジタル教科書学会、日本教材学会、日本教育方法学会、日本教育工学会、筑波教育学会

廣川 充志 (ひろかわ みつし) 専任講師



出生年：1977(昭和52)年
 在籍：2006(平成18)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院体育研究科スポーツ健康科学専攻
 学位：体育学修士
 学位論文：中高齢者の糖・脂質代謝および酸化LDLにおよぼす複合運動トレーニングの影響
 専門分野：体育科学
 前職：学校法人了徳寺学園職員
 学内役職等：
 留学：
 資格：講道館柔道六段
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略			
昨年度までと同様、全日本柔道男子ナショナルチームのコーチの職にあり、国際大会もしくは国際合宿に同行の際、諸外国の柔道の実態調査を実施。加えて、全日本のトップ選手の体力調査および意識調査も継続して実施中。			
○その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
スポーツ功労者顕彰	2015年7月17日	文部科学省	廣川充志
国際競技大会優秀者等表彰	2015年7月17日	文部科学省	廣川充志
(その他特記事項)			
講話集「柔道への想い」 全日本柔道連盟発行 柔道ルネッサンス特別委員会編集 一部分担当			
「柔道ルネッサンススピーチ集」 全日本柔道連盟発行 柔道ルネッサンス特別委員会編集 一部分担当			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体力医学会、日本運動生理学会、日本武道学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2008年4月～現在	神奈川県学生柔道連盟 常任理事
2009年4月～現在	神奈川県柔道連盟 強化委員
2010年4月～現在	関東学生柔道連盟 理事
2010年4月～現在	全日本柔道連盟 国際委員会委員
2012年11月～現在	全日本柔道連盟 ナショナルチーム強化コーチ

福井 元 (ふくい げん) 専任講師



出生年：1975(昭和50)年
 在籍：2006(平成18)年4月～
 最終学歴：日本体育大学大学院体育科学研究科博士前期課程修了
 学位：修士(体育科学)
 学位論文：金属バットの導入が高校野球の技術・戦術に及ぼした影響
 －野球の技術史に関する研究の一環として－
 専門分野：スポーツ史
 前職：国士舘大学大学院 助手
 学内役職等：入試・広報センター副センター長
 留資格：中学校教諭 専修免許状(保健体育)
 高等学校教諭 専修免許状(保健体育)
 非常勤講師：流通経済大学スポーツ健康科学部、東洋大学ライフデザイン学部
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
パワーポイント及びVTRを使用したスポーツ実技授業	2006年4月～現在	桐蔭横浜大学のスポーツ実技(ソフトボール・野球等)において、実技授業での目標と獲得すべき技能についてパワーポイントで毎時学習を行い、実技の授業を展開し、学生の実際の動きをVTRに記録・放映し学習を促進してきた。
レポートによる実技学習内容の定着工夫	2006年4月～現在	桐蔭横浜大学のスポーツ実技において、毎時、実技授業で学習した内容をレポートさせ、提出させ、学習内容を定着させるための工夫を行っている。
自然活動論実習	2008年7月～現在	桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部の学外実習(夏冬の登山指導)を担当・指導。

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略
昨年度に引き続き、「戦後日本における野球の技術史に関する研究」というテーマのもと研究を行っているが、その一部が著書『スポーツビジネス概論2』に掲載された。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本体育学会、スポーツ史学会、日本スポーツ運動学会

スポーツテクノロジー学科 (Department of Sport Technology)

殖田友子 (うえだ ともこ) 教授



在籍 : 2014(平成26)年4月～
最終学歴 : 早稲田大学大学院スポーツ科学研究科博士後期課程単位取得後退学
学位 : 修士(経営学)
学位論文 :
専門分野 : スポーツ栄養学、健康マーケティング、食育
前職 : 帝京大学医療技術学部スポーツ医療学科准教授
学内役職等 :
留学 :
資格 : 管理栄養士、健康運動指導士、公認スポーツ栄養士
非常勤講師 : 神奈川大学人間科学部、神奈川大学国際経営学部
受賞・表彰 :

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体力医学会、日本スポーツ栄養学会、日本健康運動指導士会、日本栄養改善学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2010年7月～現在	日本スポーツ栄養学会評議員 (2013年12月日本スポーツ栄養研究会から学会に改組)
2013年4月～現在	大田区体育協会評議員

片山 富美代 (かたやま ふみよ) 教授



出生年：1960(昭和35)年
 在籍：2004(平成16)年7月～
 最終学歴：桜美林大学大学院国際学研究科環太平洋地域文化専攻
 博士後期課程修了
 学位：博士(学術)、修士(看護学)
 学位論文：人工血液透析患者の病気認知と病気適応に関する健康心理学的研究(博士論文)
 専門分野：基礎看護学、健康心理学
 前職：広島国際大学看護学部看護学科講師
 学内役職等：
 留学：
 資格：看護師免許、専門健康心理士資格
 非常勤講師：
 受賞・表彰：日本ヒューマン・ケア心理学会第一回学会論文賞(2011年7月)

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略					
キャンパス内全面禁煙後の学生、教職員の意識および、喫煙関連の健康意識に関する研究					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「本学学生の健康課題に関する特徴と喫煙予防支援の検討」	共著	2016年3月	CANPAS HEALTH 53(1)	窪谷由美子, 片山富美代	173-175頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「本学学生の健康課題に関する特徴と喫煙予防支援の検討」	2015年9月10日	第53回全国大学保健管理研究集会 盛岡市民ホール「マリオス」	窪谷由美子, 片山富美代		
「チームに対する認知が部活動適応と主観的健康に及ぼす影響」	2015年9月26日	日本ヒューマン・ケア心理学会 日本赤十字看護大学	片山富美代		

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本ヒューマン・ケア心理学会、日本健康心理学会、日本スポーツ健康科学学会、日本カウンセリング学会、日本看護研究学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2012年5月～現在	日本健康心理学会資格認定・試験委員会委員
2014年4月～2015年9月	日本ヒューマン・ケア心理学会理事・広報委員
2014年9月～現在	日本ヒューマン・ケア心理学会常任理事・事務局長

加藤 知生 (かとう ともお) 教授



出生年：1961(昭和36)年
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：日本体育大学体育学部健康学科卒業
 社会医学技術学院理学療法科卒業
 日本柔道整復専門学校卒業
 学位：
 学位論文：
 専門分野：アスレティック・リハビリテーション、スポーツ理学療法
 前職：日立横浜病院
 学内役職等：
 留資格：
 資格：日本体育協会公認アスレティックトレーナー
 理学療法士、柔道整復師
 中学1級・高等学校1級教諭免許(保健体育)
 非常勤講師：学校法人花田学園 東京有明医療大学
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
トレーナー活動およびリハビリテーションの実践的指導の導入(学生の授業外における学習促進のための取組)	2009年度～現在	水泳日本代表および社会人アメリカンフットボールチームの合宿、試合、病院でのリハビリテーションなど医療レベルからトップアスリートまでの現場体験を行う。(対象:トレーナーコース、ゼミ専攻者)

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略					
継続研究課題として「水泳選手の障害・外傷の予防」であり、①障害・外傷調査 ②障害・外傷予防のための実践的コンディショニング などについて調査・研究を行った。トップアスリートおよび、ジュニア競技選手、マスターズ選手に対する研究活動を行う。研究成果は関連団体等での報告・発表や書籍等への執筆である。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド 第2版	共著	2015年5月	文光堂	加藤知生、成田崇矢	518-525頁
(学術論文)					
動作別パフォーマンス向上のためのフィジカルトレーニング -泳ぐ-	単著	2015年7月	日本整形外科スポーツ医学会誌	加藤知生	22-28頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
マスターズスイマーにおける泳法と疼痛部位の関係	2015年6月5日	第50日本理学療法学会大会(東京国際フォーラム)	中村拓成、濱中康治、地神裕史 加藤知生		
マスターズスイマーのドライトレーニングの現状と傷害調査	2015年6月6日	水と健康医学会(如水会館)	地神裕史、濱中康治、中村拓成 加藤知生		
水泳トレーナーの活動と役割	2015年6月27日	日本水泳トレーナー会議主催 学生トレーナーセミナー (東京工科大学)	加藤知生		

演題テーマ「トレーナーサポート」	2015年7月19日	第4回日本アスレティック レーニング学会学術集会(流 通経済大学)	加藤知生(座長)
水泳競技症例検討会	2015年11月14日	水泳メディカルサポート研究 会(国立スポーツ科学センター)	加藤知生(座長)
ナショナルチーム帯同が関与する医科学サ ポートの事例報告～東京オリンピック・パラ リンピックを見据えて～	2016年1月9日	平成27年度アスレティック レーナー連絡会議 競技別 分科会 (TKP市ヶ谷カンファセン ター)	加藤知生(シンポジスト)
大学教育におけるスポーツ選手のサポート体 制	2016年2月11日	平成27年度アスレティック レーナー連絡会議 関東ブ ロック研修会(スポーツ医科学 センター)	加藤知生(講演)
水泳トレーナーに必要な基礎知識	2016年2月21日	日本水泳トレーナー会議基礎 研修会(2015年度 於:国立 スポーツ科学センター)	加藤知生(講演)
○その他			
(産学協同研究)			
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称	
競技力向上コース事業	2010年4月～	神奈川県立体育センター	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本理学療法士協会、日本アスレティックレーニング学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
1991年9月～現在(2011～)	日本水泳トレーナー会議役員(代表)	
1996年4月～現在	JOCオリンピック強化スタッフ	
2003年3月～現在(2010～)	日本体育協会公認アスレティックトレーナー(連携協議員)	
2007年4月～現在(2013～)	日本水泳連盟医事委員会(副委員長)	
2013年6月～現在	日本アスレティックレーニング学会評議員	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
横浜市立平戸小学校にて学校保健委員会 活動および保健体育授業(からだづくり)	2008年～(年3回)	横浜市教育委員会 学校運営評議会(2011年～)

河崎 賢三 (かわさき けんぞう) 教授



出生年：1966(昭和41)年
 在籍：2004(平成16)年4月～
 最終学歴：島根医科大学大学院医学研究科博士課程 修了
 学位：医学博士
 学位論文：
 専門分野：整形外科、スポーツ医学、関節外科、再生医療
 前職：島根医科大学文部教官助手
 学内役職等：
 留学：
 資格：医師、日本整形外科学会専門医、日本体育協会公認スポーツドクター
 非常勤講師：
 受賞・表彰：材料技術研究協会技術賞(2007)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
医学現場実習を重要視した授業	2006年4月～	医学現場に出向き、スポーツ医学の知識の取得に勤めている

II 研究活動

○その他 (雑誌・新聞記事等掲載)		
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
スポーツと医療の現場から考える	2010年7月～現在 (連載中)	ブックハウスHD月刊Sports Medicine
ドクターKのベースボールメディカル	2013年3月～現在 (連載中)	侍アスリート社BaseballKanagawa
野球肘は防げる	2013年5月～現在 (連載中)	ベースボールマガジン社Hit&Run

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本整形外科学会、日本関節鏡学会、日本膝関節学会、日本整形外科スポーツ医学会 など	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
1991年6月～現在	日本整形外科学会会員
1997年4月～現在	日本関節鏡学会会員
1997年4月～現在	日本膝関節学会会員
1997年4月～現在	日本軟骨代謝学会会員
1999年4月～現在	日本整形外科スポーツ医学会会員
2010年4月～現在	日本スポーツクラブ協会専門委員
2010年4月～現在	日本オリンピック委員会強化スタッフ(医・科学スタッフ、野球)
2011年4月～現在	全日本アマチュア野球連盟選手強化本部医科学部会委員
2013年4月～現在	全日本野球協会選手強化本部医科学部会委員

(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
医師として臨床診療活動 (整形外科、スポーツ整形外科)	1991年5月～現在	病院にて整形外科、スポーツ整形外科として勤務年間約5000人の診察並びに約200件のスポーツ障害に関する手術施行

IV芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
桐蔭横浜大学硬式野球部チームドクター	2006年4月～現在		
桐蔭学園高校柔道部チームドクター	2007年4月～現在		
桐蔭横浜大学サッカー部チームドクター	2009年4月～現在		
桐蔭学園高校バレーボール部チームドクター	2009年4月～現在		
(5) 青森県光星学院高校硬式野球部チームドクター	2010年4月～現在		

吉 鷹 幸 春 (よしたか ゆきはる) 教授



出 生 年 : 1964(昭和39)年
 在 籍 : 1995(平成7)年～
 最 終 学 歴 : 筑波大学大学院修士課程体育研究科修了
 学 位 : 体育学修士
 学 位 論 文 : 柔道の「背負投」におけるバイオメカニクスの研究
 専 門 分 野 : 運動方法論、コーチ学、スポーツ心理学
 前 職 : 山形県教育庁
 学 内 役 職 等 : テクノロジー学科学科長(2016～)
 留 学 :
 資 格 : 専修免許状(保健体育)、全日本柔道連盟A級審判員、講道館柔道七段
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 : 文部科学省 国際競技大会優秀者(指導者)表彰(1999年)

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本武道学会、日本体育学会、日本スポーツ心理学会、日本応用心理学会、日本教育医学会		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
全日本柔道連盟公認審判員(Aライセンス)	2003年～現在	全日本柔道連盟
講道館・全日本柔道連盟 柔道ルネッサンス委員	2003年4月～現在	全日本柔道連盟
全日本学生柔道連盟理事	2010年4月1日～現在	全日本学生柔道連盟
全日本柔道連盟広報委員	2011年4月1日～現在	全日本柔道連盟

栗山 裕 (くりやま ゆたか) 准教授



出生年：1957(昭和32)年
 在籍：1991(平成3)年4月～
 最終学歴：東京都立科学技術大学(現・首都大学東京)大学院工学研究科博士後期課程
 学位：学術博士
 学位論文：大学における情報教育の支援に関する研究
 専門分野：知能情報処理、感性情報処理
 前職：桐蔭学園工業高等専門学校 助手
 学内役職等：学生部副部長 (2012～2016)
 留学：
 資格：ITパスポート試験
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
4.その他教育活動上特記すべき事項		
スポーツ情報分析室の管理運営	2013年7月～ (継続中)	スポーツ健康政策学部の教育の質を高め、大学および学園のスポーツ競技の向上やスポーツ科学・健康分野の教育・研究に寄与するために、スポーツ情報分析室の新設を提案し、スポーツ分析ソフトウェア等の充実を図っている。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
電子情報通信学会、人工知能学会、日本フェジィ学会、日本教育工学会、日本人間工学会

岡本 大 (おかもと だい) 専任講師



出生年：1973(昭和48)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：国際武道大学大学院 武道・スポーツ研究科 武道・スポーツ専攻修士課程 修了
 学位：修士(武道・スポーツ)
 学位論文：異なる床面性状が跳躍成績に与える影響
 専門分野：ハンドボール、コーチング論、ゲーム分析、バイオメカニクス
 前職：国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科助手
 タイナショナルチームヘッドコーチ、JOCジュニア強化コーチ
 学内役職等：
 留学籍：
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略
ハンドボールにおける競技力向上のためのコーチング実践研究を行った。女子ハンドボールにおける体力データの蓄積。またコーチング内容の集積のため、クラブ活動の記録をまとめることを試みた。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本体育学会、日本体力医学会、日本バイオメカニクス学会、日本ハンドボール学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2001年10月～	日本体育協会公認ハンドボールコーチ	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
愛媛国体ハンドボール競技専属アドバイザー コーチ	2011年4月～	愛媛県ハンドボール協会

IV 芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
(女子ハンドボール部監督)2015年全国インカレ	2015年11月		全日本インカレベスト8

小山桂史 (こやま けいじ) 専任講師



出生年：1984(昭和59)年
 在籍：2012(平成24)年4月～
 最終学歴：順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科博士後期課程修了
 学位：博士(スポーツ健康科学)
 学位論文：Unstable shoes着用時の歩行特性に関する研究
 専門分野：スポーツバイオメカニクス
 前職：順天堂大学スポーツ医科学研究所研究補助員
 学内役職等：
 留学：
 資格：中学校教諭一種免許(保健体育)
 高等学校教諭一種免許(保健体育)
 トレーニング指導者
 低酸素シニアトレーナー
 非常勤講師：駒澤大学総合教育研究部非常勤講師
 受賞・表彰：第59回東総駅伝大会 優勝 区間賞(2005.12)
 栗本関夫記念奨学金受賞(2006.3)
 第26回佐倉朝日健康マラソン大会 10kmの部 優勝(2007.3)
 日本バイオメカニクス学会 国際学会参加助成 受賞(2010.9)

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略					
<p>我々はこれまで、足関節動作の制限は足関節のみならず足部の筋群の力発揮も低下させ、跳躍パフォーマンスも低下させることを示してきた。制限方法としてはサポータやテーピングに加えてシューズを使用し、シューズの着用は足部に本来、備わっているアーチ構造の機能、すなわち、衝撃緩衝機能も抑制させることが示唆された。しかしながら、先行研究においては足関節を制限することによって必ずしもパフォーマンスが低下しないことも報告され、我々の研究結果と必ずしも一致していない。その理由の一つとしては、固定強度が挙げられる。我々はサポータ、テーピングやシューズを使用した際に、これらが裸足と比べるとどの程度、足関節および足部の動作域を制限したかについては調べておらず、先行研究も調べていない。もしかすると、ある一定の固定強度に達した場合に、身体運動のパフォーマンスやアーチの衝撃緩衝機能の低下が引き起こされることが予想される。そこで、足関節の固定強度を段階的に増大させる方法を検討し、固定強度の段階的な増大に伴い、我々の身体動作ならびにパフォーマンスへの影響を検討している。現在は、足関節の固定強度を段階的に増大させる方法を確立し、この方法を活用して、次年度以降に足関節と足部の役割の解明について研究を進める予定である。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
Influence of Ankle Braces on the Maximum Strength of Plantar and Toe Flexor Muscles	共著	2015年6月	International journal of sports medicine, 36(7)	Junichiro Yamauchi, Keiji Koyama	pp592-5
シューズ着用と裸足での歩行における圧力中心の移動量の比較	共著	2015年8月	日本スポーツ健康科学誌2(1)	小山桂史、小島賢悟	pp.21-26
裸足と裸足に類似したシューズでジョギング時の衝撃力変数の比較	単著	in-press	靴の医学	小山桂史	in-press

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
Effects of ankle support on the ground reaction force during the repeated side step	2015年6月	20 th annual congress of the European College of Sport Science, Sweden	Keiji Koyama , Ryosuke Otsuka, Junichiro Yamauchi
ダイナミック動作着地時の姿勢制御と足部安定度の新たな評価方法の検討	2015年7月	第164回日本体力医学会関東地方会、神奈川	小山桂史 , 山内潤一郎
足関節の固定強度が跳躍パフォーマンスに及ぼす影響	2015年8月	第3回 日本スポーツ健康科学学会、神奈川	小山桂史 , 荻原涼子, 藤田洗樹, 百田笑, 二宮健斗
足関節装具の着用が反復横跳びのパフォーマンスおよび力発揮に及ぼす影響	2015年9月	第70回日本体力医学学会、和歌山	小山桂史 , 大塚諒介、山内潤一郎
高所4000m酸素環境下における活動筋の発汗特性	2015年9月	第70回日本体力医学学会、和歌山	小池英晃, 森田憲輝, 小山桂史 , 橋本健志, 田口貞善, 山内潤一郎
歩行時の腕振りがエネルギー消費に及ぼす影響	2015年9月	第70回日本体力医学学会、和歌山	清水麻由子, 小池英晃, 湯浅健人, 小山桂史 , 山内潤一郎
大学女子バスケットボール選手における鉄欠乏性貧血と血清フェリチンとの相関	2015年9月	第70回日本体力医学学会、和歌山	清水智美, 蓮沼裕也, 奥田美穂, 小山桂史 , 木村和宏, 河合優一, 徳岡由一
足部と下腿部の高強度パワー・エクササイズが最大筋力とバランス能力に及ぼす影響	2015年12月	S&Cカンファレンス2015、東京	小山桂史 , 長藤祐介, 山内潤一郎
歩行時の腕振りがエネルギー消費量と足圧に及ぼす影響	2015年12月	S&Cカンファレンス2015、東京	清水麻由子, 小池英晃, 小山桂史 , 山内潤一郎
ランニング時の腕振りがエネルギー消費に及ぼす影響	2015年12月	S&Cカンファレンス2015、東京	清水麻由子, 小池英晃, 小山桂史 , 山内潤一郎
足関節保護装具の装着がカッティング動作の足関節内反角度に及ぼす影響	2016年3月	フットボール学会、東京	下石怜央, 綾部誠也, 犬飼義秀, 齋藤誠二, 小山桂史 , 石崎聡之
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
平成26年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究C、代表	2014年4月～平成2016年3月予定	ダイナミック動作における下肢と足部筋の力発揮の関連性の解明と足部装具開発への応用 研究代表者: 小山 桂史 共同研究者:山内 潤一郎	
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
20th annual Congress of the European College of Sport Science, Oral	2015/6/24～27日	Clarion Hotel Malmö (Malmö, Sweden)	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本バイオメカニクス学会, 日本体力医学会, 日本体育学会, 日本トレーニング科学会, 日本バレーボール学会, 日本靴医学会, 日本スポーツ健康科学学会

任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2013年4月～現在	日本スポーツ健康科学学会大会庶務・会計理事	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
運動に関するアドバイザー	2011年4月～現在	西武池袋本店
桐蔭中学オープンスクール わくわく体験フェスタでの陸上指導	2015年5月	陸上指導
中学校野球チームへの陸上指導	2015年6月～現在に至る	陸上指導

廣瀬立朗（ひろせ たつろう）専任講師



出生年：1973(昭和48)年
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：東京大学大学院
 学位：博士(学術)
 学位論文：力学的除負荷が筋内コラーゲン代謝に与える影響
 専門分野：運動生理学、運動生化学
 前職：日本体育大学 助教
 学内役職等：
 留学：
 資格：
 非常勤講師：上智大学
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略					
骨格筋肥大時における神経栄養因子の与える影響とアポトーシスについて。ラット下肢骨格筋に代償性肥大を施し、骨格筋肥大時に発生する可能性のあるアポトーシスに関して検証中である。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
Wellness, Body and Culture 上智大学テキスト 翻訳、監修	共著	2015年4月	プリントボーイ	廣瀬立朗	

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本体力医学会 physiology

スポーツ健康政策学科 (Department of Culture and Sport Policy)

岡田 俊 恵 (おかだ としえ) 教授



出 生 年 : 1954(昭和29)年
 在 籍 : 1989(平成元)年4月～
 最 終 学 歴 : 津田塾大学大学院修士課程
 学 位 : 文学修士
 学 位 論 文 : A Study on Macbeth
 専 門 分 野 : 英語英文学、英語教育、時事英語
 前 職 : 静岡大学助教授
 学 内 役 職 等 : 桐蔭英語村村長
 留 学 :
 資 格 : 中学教員1級、高校教員1級免許
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 : 市川三喜賞(津田塾大学 1977年)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
マルチメディア教室を活用した双方向授業	2000年～現在	コンピュータ併用のCallシステムを利用して、各種メディアを使う語学授業を展開。
英語プレゼンテーション教育	2005年～現在	大学院生を中心に、英語による研究発表のための原稿作成から口頭発表練習までの指導。
2.作成した教科書、教材、参考書		
外国語特別活動の英語教材	2013年～現在	外国語特別活動(英語)の教材は、市販の教材だけではうまく授業展開できないため、殆ど手作り教材である。
4.その他教育活動上特記すべき事項		
生涯学習センターで社会人講座の担当	2006年1月～現在	生涯学習センターで社会人向け講座「学び直す英語中級」「学び直す英語上級」を担当

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本英文学会、日本シェイクスピア協会

並木 浩一 (なみき こういち) 教授



出生年：1961(昭和36)年
 在籍：2012(平成24)年～
 最終学歴：京都造形芸術大学大学院芸術研究科博士課程芸術専攻修了
 学位：博士(学術)
 学位論文：モーリス・ベジャール研究 ——メディアと芸術の関係を軸として(博士論文)
 専門分野：メディア論、表象文化論、身体論
 前職：大同大学情報学部教授
 学内役職等：入試・広報センター長(2013～)
 留資格：一般旅行業務取扱主任者(運輸省)
 【*現・総合旅行業務取扱管理者(国土交通省)】

非常勤講師：
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略					
研究の対象に沖縄の芸能を加えた。また舞踊研究の論文1編を発表。表象文化論分野での実践としてのプロダクト批評を継続して行ない、新聞(読売新聞)寄稿2回。					
(学術論文)					
バレエと腕時計 —ベジャール・バレエ・ローザンヌとジャケ・ドローの「伝統と革新」	単著	2015年10月	桐蔭論叢第32号		
○その他					
(雑誌・新聞記事等掲載)					
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称			
「ジュネーブ国際高級時計展 藍より青し 第三の色」	2016年2月3日(夕刊)	読売新聞			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
表象文化論学会、日本映画学会、日本コミュニケーション学会、日本観光学会、情報文化学会

吉田 勝光 (よしだ まさみつ) 教授



出生年：1949(昭和24)年
 在籍：2014(平成26)年4月～
 最終学歴：東亜大学大学院総合学術研究科法学専攻修士課程修了
 学位：博士(体育学) 法学修士
 学位論文：①体育・スポーツ事故に関する法学的研究(博士) ②スポーツ基本条例の制定に係る憲法上の諸問題に関する一考察(修士)
 専門分野：スポーツマネジメント、スポーツ行政・政策、スポーツ法学
 前職：松本大学人間健康学部スポーツ健康学科
 学内役職等：スポーツ健康政策学科長
 学務部副部長
 全学教職課程委員会委員長
 地域連携・生涯学習センターセンター長
 留学：
 資格：①総合型地域スポーツクラブアシスタントマネージャー、②行政書士、③日本テニス協会上級公認指導者資格、④日本体育協会公認スポーツリーダー
 非常勤講師：
 受賞・表彰：学会賞(平成16年度日本体育・スポーツ経営学会)「法務経営の観点から見た学校体育・スポーツ事故に関する一考察」

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
ゼミ活動で地域の行政補完的団体の活動を体験させたり、授業の実習で行政との連携活動を体験させる学習を実施した。その際に、学生諸君に地域のラジオへの出演、地域紙取材などの経験をさせた。	2015/8 2015/9～ 2016/3	3年のゼミ生はゼミ合宿時において、長野県白馬村のNPO法人白馬総合型地域スポーツクラブのスポーツ吹き矢などの活動を体験させた。また、青葉区との連携協定に基づき、「高齢者活動支援論(実習含む)」で、ウォーキングイベントに関わらせた。
4.その他教育活動上特記すべき事項		
シンポジウム・スポーツ法学教育の在り方を考える	2015年12月	日本スポーツ法学会年報第22号82-93頁。日本スポーツ法学会第22回学会大会シンポジウムにて司会を担当し、その要旨が掲載されたもの。

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略					
地域スポーツ政策の観点から、年度前半は、昨年度後半から引き続いて、最近発行されてきた地域スポーツジャーナルの研究に重点を置いた。学会でも、様々な切り口から研究発表を行った。後半は、数年前から引き続いて、スポーツ法学教育の在り方に関する研究を行う(論文も執筆)と共に、その成果ともいえる、「標準テキスト・スポーツ法学」の実質上の編集代表者として、同書第1章等を執筆しつつ、同書の編纂に尽力した。本年5月に同書は発行され、本学法学部の授業「スポーツ法学」においても、テキストとして使用されるに至っている。今後は、これまで口頭発表したもの(大学等三者間連携協定、地域スポーツジャーナル等)を論文化し、幾つかの出版社から依頼されている書籍編集(体育・スポーツ指導・執務便覧、スポーツ六法等)を行っていきたい。本年11月頃には、これまでの論文・論稿を集めた『文化条例政策とスポーツ条例政策』(大阪市立大学大学院准教授との共著、400頁超の分量、成文堂)を発行予定である。また、現在、青葉区と連携しているウォーキング事業やこどもの国・青葉区とで進めている子育て中の母親・シニアなどの健康づくり事業にもかかわり、研究成果として論文化していきたい。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
先生のための学校トラブル相談所	共著	2016年2月11日	学事出版	星野豊・教育と法研究会 編著	12-17頁、68-69頁

(総説・論説)					
条例ナビ「長野県登山安全条例」	単著	2016年2月1日	判例地方自治第402号		117頁
(学術論文)					
条例による熱中症予防政策の展開ー「草津市熱中症の予防に関する条例」の制定及び廃止の検討ー(査読あり)	単著	2015年4月	文理シナジー第19巻第1号		7-15頁
総合研究・教育と法／体育授業における法的マネジメント	単著	2015年7月	高校教育第48巻第9号		80-83頁
日本のスポーツ法学教育の現状と課題ースポーツ法学授業担当者が抱く課題と工夫の分析ー	単著	2015年12月	日本スポーツ法学会年報第22号		46-53頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(口頭発表)第42回教育と法研究会「東京都中央区立小学校跳び箱事故判決」	2015年5月	筑波大学東京キャンパス文京校舎			
(口頭発表)第38回文理シナジー学会大会「学校体育授業におけるリスクマネジメント～跳び箱指導中事故判例に焦点を当てて～」	2015年5月	武蔵野美術大学新宿サテライト教室			
(司会)日本スポーツ法学会事故判例研究専門委員会研究会「野球場の施設管理をめぐってー札幌地裁平成27年3月26日判決を中心にー」	2015年6月	早稲田大学			
(口頭発表)日本スポーツ産業学会スポーツ法学専門分科会「体育授業における法的マネジメント」	2015年7月	同志社大学			
(口頭発表)日本スポーツ産業学会大会「地域スポーツジャーナルとビジネスの展開に関する研究」	2015年7月	東京大学本郷キャンパス			
(口頭発表)日本体育学会大会「地域スポーツ情報の発信媒体と2020東京オリ・パラ」	2015年8月	国士舘大学世田谷キャンパス	日本体育学会第66回大会予稿集227頁。		
(座長)日本体育学会大会一般発表(体育経営管理)	2015年8月	国士舘大学世田谷キャンパス	演者3名。		
(口頭発表)日本体育・スポーツ政策学会第25回記念大会「地方スポーツ推進計画の策定に関する研究ー松本市スポーツ推進計画策定に焦点をあててー」	2015年12月	東京学芸大学	日本体育・スポーツ政策学会第25回大会プログラム(抄録集)12頁。		
(シンポジウム報告)日本体育・スポーツ政策学会第25回記念大会テーマ「スポーツ庁の開設とスポーツ政策ー学校体育と生涯スポーツ推進に焦点づけてー」の下、「地域における生涯スポーツの推進の観点から」として報告(依頼)	2015年12月	東京学芸大学			
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
(招待講演)「平成27年度第1回長野県総合型スポーツクラブ連絡協議会講演:長野県内の総合型地域スポーツクラブに期待すること」	2015年5月	長野県総合型スポーツクラブ連絡協議会	松本中央公民館(Mウイング)		

(研修会講師)「平成27年度豊橋市立小・中学校・特別支援学校中堅事務職員研修会」	2015年8月18日、19日	豊橋市教育委員会	豊橋市職員会館
(研修会講師)「平成27年度埼玉県スポーツプログラマー研修会講演:地域とスポーツ」	2015年9月	埼玉県スポーツプログラマー協議会	長野県松本市「ホテル花月」
(研修会講師)「愛知県丹葉地区学校事務研究会研修会:学校にかかわる法律のあれこれ」	2015年12月	愛知県丹葉地区学校事務研究会	愛知県犬山市役所
○その他			
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
くらしナビ・学ぶ/「朝練」廃止 実は継続も	2015年12月28日(朝刊)	毎日新聞(全国版) 取材を受け、コメントが掲載された。	
地域スポーツジャーナルにみるスポーツ権の諸相	2015年7月15日	(一社)人日本スポーツ法支援・研究センターからHP用の依頼を受けてコラムを執筆し、掲載された。	
「信州松本梓川・桜ウオークに参加して」	2015年5月13日	市民タイムス紙(長野県中信地域で販売される日刊紙)に寄稿文が掲載された。	
(その他特記事項)			
FMサルース「青葉区広報番組/あおバリューRadio:秋のファミリーウオーク」インタビュー(2015年10月23日18:30~18:50放送)			
日本スポーツ法学会スポーツ法学教育の在り方検討委員会委員長として、同学会総会において発した「スポーツ法学教育の普及・推進に関する声明文」の案作成に関与し、かつ総会での読み上げを同学会を代表して行った。			

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本体育・スポーツ政策学会、日本スポーツ法学会、日本体育・スポーツ経営学会、日本教育行政学会、日本スポーツ産業学会、日本スポーツ社会学会、日本公法学会、日本私法学会、文理シナジー学会等		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2003年4月～現在	日本体育・スポーツ政策学会理事、理事長(2009年4月～現在)	
2006年12月～現在	日本スポーツ法学会理事、スポーツ法学教育の在り方検討委員会委員長(2013年10月～現在)、事故判例研究委員会委員長(2013年12月～現在)	
2013年10月～現在	松本市スポーツ推進審議会委員(会長)	
2013年4月～現在	大町市スポーツ推進委員会委員	
2000年4月～現在	日本テニスボール協会評議員	
2008年7月～現在	日本スポーツ仲裁機構仲裁人・調停人候補者	
2008年7月～現在	日本スポーツ法学会理事、スポーツ法学教育の在り方検討委員会委員長(2013年10月～現在)、事故判例研究委員会委員長(2013年12月～現在)	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
青葉区との共催で、ウォーキングイベントを2回(秋のファミリーウオーク、さくらウオーク)開催した。いずれも、教育指導の良き一環として学生に関わらせた。いずれの回も地元の人に協力を得ながら、コース設定から運営に学生が関与し、好評を得た。	2015年11月22日(秋)、2016年3月27日(さくら)	横浜市青葉区

今泉隆裕 (いまいずみ たかひろ) 准教授



出生年：1975(昭和50)年
在籍：2008(平成20)年4月～
最終学歴：法政大学大学院人文科学研究科博士課程日本文学専攻
単位修得退学
学位：修士(文学)
学位論文：修羅能の道程
専門分野：日本文学、宗教学
前職：法政大学国際日本学研究所学術研究員
学内役職等：
留学籍：
資格：中学校教員専修免許状(国語)
高等学校教員専修免許状(国語)
博物館学芸員資格
非常勤講師：法政大学非常勤講師(文学Ⅰ、文学Ⅱ)
受賞・表彰：

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本宗教学会、能楽学会、楽劇学会、漢文教育学会

大野 哲也 (おおの てつや) 准教授



出生年：1961(昭和36)年
 在籍：2012(平成24)年～
 最終学歴：京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程 指導認定退学
 学位：博士(人間・環境学)、修士(社会学)、修士(人間・環境学)
 学位論文：書き換えられる記憶, 定型化する物語—日系アルゼンチン移民の過去の再構成の試みから—(修士論文:社会学)
 「自分探し」の旅という神話を超えて—アジアにおける日本人バックパッカーの調査から—(修士論文:人間・環境学)
 冒険的な旅から冒険的な生き方へ—アジアにおける日本人バックパッカーの「自分らしさ」の軌跡から(博士論文:人間・環境学)
 専門分野：文化人類学、社会学、環境人間学
 前職：京都大学GCOE短時間研究員
 学内役職等：
 留学：
 資格：中学校教諭1級普通免許(保健体育)
 高等学校教諭2級普通免許(保健体育)
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略					
ツーリズム研究 冒険研究 スポーツ研究 災害復興研究					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
冒険人類学序説	単著	2015年10月	桐蔭論叢第32号		pp53-70
スポーツと平等性 ジェンダーと障がい者スポーツの視点から	単著	2016年2月	桐蔭論叢第33号		pp23-37
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
現代日本社会における「冒険」の人類学的考察 「危険」の商品化と「冒険」の大衆化	2015年5月	日本文化人類学会第49回大会(大阪国際交流センター)	大野哲也		
冒険と新自由主義 「犠牲者」に着目して	2015年9月	日本社会学会第88回大会(早稲田大学)	大野哲也		
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
世界一周異文化紀行	2016年1月31日	国分寺市教育委員会	並木公民館(国分寺市)		

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本社会学会、日本文化人類学会、環境社会学会、社会学研究会、観光学術学会、日本体育学会

田中 暢子 (たなか のぶこ) 准教授



出生年：1967(昭和42)年
 在籍：2013(平成25)年～
 最終学歴：ラフバラ大学大学院スポーツ・レジャー政策研究科博士課程スポーツ政策学・スポーツマネジメント学修了
 学位：博士(スポーツ政策学・スポーツマネジメント学)
 学位論文：“An analysis of the policy-making process for disability sport in Japan and the UK/ England: The cases of wheelchair basketball, CP sport and intellectual disability”(ラフバラ大学2013年)
 専門分野：スポーツ政策学、健康政策学、スポーツ社会学、障害学
 前職：中央大学保健体育研究所 客員研究員
 学内役職等：国際交流センター副センター長
 留学：ラフバラ大学
 資格：弓道2段、中学校社会科教諭第一種免許、高等学校社会科教諭第一種免許、図書館司書教諭免許、障害者職業カウンセラー、上級介護予防運動スペシャリスト
 非常勤講師：中央大学、筑波大学大学院TIAS
 受賞・表彰：1990年 関東学院大学学長賞受賞
 1998年 オーストラリア知的障害者スポーツ・レクリエーション協会表彰
 2003年 ラフバラ大学大学院国際奨学生受賞
 2010年 警察庁長官賞受賞(高齢者エアロビックプログラム開発)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
授業の内容をまとめたパワーポイントやワードを資料として配布。		資料には、参考資料は必ず掲載する。特に学生の学習意欲を高めるために、映像やグループディスカッションといった参加型の授業も展開する。たとえば、高齢化社会論では、高齢者の身体特性を学んだ後に、運動プログラムを班ごとに作成し、発表する機会を提供した。なお、発表に至るまでは、教員が何度もプログラム内容についてアドバイスする時間も設けた。
2.作成した教科書、教材、参考書		
		文部科学省(2010)スポーツ政策調査研究(共著)、田中暢子(2012)障がい者とスポーツ、川西正志と野川春夫(編)、一般社団法人日本パラリンピアンズ協会(2012)パラリンピック選手の競技環境 その実態と意識調査(共著)、加藤千恵子、喜岡恵子、渋谷英雄、杉本富利、田中暢子、田村美智子、鳥田部達(2011)失敗しない社会調査法(共著)他

4.その他教育活動上特記すべき事項		科研研究などのテーマは国際比較(特に政策学的分析)を行っているが、2013年10月には、専門とする精神障害者の国際シンポジウム・のコーディネーター及び、国際会議の議長を務めた(日英で)。
-------------------	--	---

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略					
科学研究費基盤Cの最終年度にあたり、精神障害者スポーツの世界的動向に関する調査だけでなく、世界初の国際大会の開催に結び付け、また国際大会の組織委員会国際委員会委員長を務め、世界初の精神障害者スポーツの国際統括競技団体設立へと結びつけた。また、イタリアにおける国際シンポジウムでの基調講演、デンマークに出向き調査なども引き続き行い、最終年度への報告書をまとめた。加えて、筑波大学菊教授の科学研究費基盤Bの調査にも参画し、報告書を提出した。その他、東京2020オリンピック・パラリンピックに関連する有識者会議の委員も務め、これまでの調査の知見を活かし、会議に出席した。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
世界における精神障害者のスポーツの動向	共著	2015年5月	日本精神科病院協会雑誌2015. vol.34(5)	田中暢子, 奥田睦子, 佐々木朋子	15-20頁
自立神経指標を用いた発達障害者のコミュニケーション支援: エアロビク競技指導における一考察	共著	2016年3月	明治大学理工学部 vol.53(109)	小野弓絵, 嶋田総太郎, 岸川学, 田中暢子	1-8頁
(学術論文)					
(論文)					
パラリンピック・選手会の意義・役割に関する国際比較研究ーアスリート・ファーストが強調される現代における選手会の機能と政治力ー	共著	2015年4月	2014年度 笹川スポーツ研究助成 研究成果報告書, 笹川スポーツ財団	田中暢子, 奥田睦子, 大日方邦子, 佐々木朋子	pp.19-28
スポーツとしての価値変換を図る障害者スポーツ ~東京2020パラリンピック大会への期待も込めて「日本レジャー・レクリエーション学会第44回学会大会 シンポジウム 於:立教大学」	単著	2015年4月	レジャー・レクリエーション研究第75号, 日本レジャー・レクリエーション学会		pp.33-40
世界における精神障害者のスポーツの動向	共著	2015年5月	日本精神科病院協会雑誌2015.Vol.34(5)	田中暢子, 奥田睦子, 佐々木朋子	pp.15-20
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(学会)					
パラリンピック・選手会の意義・役割に関するアスリート・ファーストが強調される現代における国際比較研究 選手会の機能と政治力	2015年4月	2014年度笹川スポーツ研究助成『奨励の会』(開催場所:ANA インターコンチネンタル東京ホテル)	田中暢子, 奥田睦子, 佐々木朋子		

アダプテッドスポーツにおける体力科学	2015年7月	第164回日本体力医学会関東地方会, (開催場所: 桐蔭横浜大学)	シンポジウム 司会・進行
多様性を肯定するスポーツと社会―「真の共生社会」とは何か― 「障害者スポーツの観点から」	2015年8月	第66回日本体育学会学会本部企画Ⅰ〔企画: 政策検討・諮問委員会ダイバシティ推進小委員会) (開催場所: 国士舘大学)	シンポジウム パネリスト
日本財団パラリンピック研究会 第14回ワークショップ パラリンピック発祥の地英国におけるレガシーを考える～2012ロンドンパラリンピック大会からの視座	2015年10月	日本財団パラリンピック研究会ワークショップ(日本財団)	シンポジウム パネリスト
幹部中央研修会特別講演「2020年東京オリンピック・パラリンピックのレガシーを考える」	2016年1月	公益財団法人東京都体育協会(開催場所: シダックスホール)	講師
「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた東京都と市町村との新たな連携事業の展開に係る設営等業務」セミナー	2016年1月	東京都東京オリンピック・パラリンピック準備局(開催場所: 東京自治会館本館(府中市))	講師
「精神障害者のスポーツの可能性への検討～身体障害者と知的障害者を比較対象として」	2016年2月	立命館大学産業社会学部プロジェクト	シンポジスト
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
Future of Adapted sport (セミナー講師)	2015年8月	第2回TIAS&AISTS短期プログラム(開催場所: 筑波大学東京キャンパス)	筑波大学東京キャンパス
パラリンピック研究会第14回ワークショップ	2015年10月	日本財団パラリンピック研究会	日本財団
オリンピック・パラリンピックのレガシーを考える～ロンドン2012パラリンピック競技大会の取組とこれから	2016年1月	公益財団法人東京都体育協会第27回幹部中央会	シダックス会館
ロンドンパラリンピックを事例にアクセシビリティを考える	2016年1月	東京都オリンピック・パラリンピック準備局大会スポーツ推進部企画 職員研修	東京都自治会館
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
精神障害者スポーツ推進システムの国際比較研究(研究代表者)	2013年4月～2016年3月	科学研究費補助金(日本学術振興会)	
「新しい公共」形成をめぐる民間スポーツ組織の公共性に関する研究(研究協力者)	2013年4月～2016年3月	科学研究費補助金(日本学術振興会)	

(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
科学研究費研究	2015年9月	デンマーク労働者スポーツ協会、デンマーク障害者スポーツ協会、コペンハーゲン精神障害者支援組織他
(雑誌・新聞記事等掲載)		
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
スポーツゴジラ	2015年11月	第29号障害者スポーツ特集号にインタビューコメントが掲載

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体育学会、日本スポーツ社会学会、日本スポーツ精神医学会、日本社会福祉学会、日本体育・スポーツ政策学会、障害学会、日本障害者体育・研究会 他	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2004年4月～	NPO法人山下ウェルキャブの会ドルフィンズ理事(現在に至る)
2011年5月～	神奈川県エアロビック連盟諮問委員会委員長(現在に至る)
2012年3月～	一般社団法人日本パラリンピアンズ協会アドバイザー(現在に至る)
2012年4月～	日本スポーツ精神医学会役員理事(平成28年9月迄)
2012年10月～	精神障害者スポーツ国際化実行委員会委員・事務局長(現在に至る)
2013年2月～	NPO法人日本ソーシャルフットボール協会理事/国際委員会委員長(平成28年6月迄)
2013年3月～	文部科学省スポーツ青少年局 技術審査委員会委員(現在に至る)
2013年6月～	NPO法人日本ソーシャルフットボール協会理事/国際委員会委員長(平成28年9月迄)
2014年3月～	文部科学省競技スポーツ課 技術審査委員会委員(現在に至る)
2014年6月～	一般社団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会参与(現在に至る)
2014年6月～	一般社団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 参与
2014年10月～	神奈川県スポーツ推進審議会委員(現在に至る)
2014年10月～	特定非営利法人日本障害者スキー連盟理事(平成28年9月迄)
2014年10月～	特定非営利法人日本障害者スキー連盟理事(現在に至る)
2015年3月～2016年3月	公益財団法人日本サッカー協会障がい者サッカー設立部会有識者(現在に至る)
2015年4月～	一般社団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 街づくり検討委員会(現在に至る)
2015年4月	日本体育スポーツ政策学会理事
2015年4月	International Journal of Sport and Health Science 編集委員(現在に至る)
2016年3月～	日本車椅子バスケットボール連盟理事(現在に至る)
2016年3月～	日本障がい者サッカー連盟理事(現在に至る)

小笠原 一 彰 (おがさわら かずあき) 専任講師



出 生 年 : 1972(昭和47)年
 在 籍 : 2014(平成26)年4月～
 最 終 学 歴 : 横浜国立大学大学院教育学研究科健康・スポーツ系教育
 専攻
 学 位 : 修士(教育学)
 学 位 論 文 : 競泳選手のクリティカル・スイム・スピードの決定
 専 門 分 野 : コーチング学、トレーニング科学、運動生理学、スポーツ心
 理学
 前 職 : 桐蔭学園中高社会科教員(専門:日本史)
 学 内 役 職 等 :
 留 学 :
 資 格 : 中高社会科教員1種免許(地理歴史)
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 : 早稲田大学体育名誉賞(1993)、神奈川県水泳連盟特別
 功労賞(2012)

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体育学会、日本体力医学会、運動生理学会、水泳水中運動学会、スポーツ心理学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
1995年4月～現在	神奈川県水泳連盟強化委員
2000年4月～現在	神奈川県高校体育連盟水泳専門部常任委員

佐藤 国正 (さとう くにまさ) 専任講師



出生年：1983(昭和58)年
 在籍：2012(平成24)年4月～
 最終学歴：日本体育大学大学院体育科学研究科体育科学専攻博士前期課程修了
 学位：修士(体育科学)
 学位論文：スポーツと暴力に関する文化論的研究－運動部活動の指導場面に着目して－(修士論文)
 専門分野：スポーツ哲学、バレーボール、コーチング
 前職：桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部(助手)
 学内役職等：
 留学：
 資格：国際バレーボール連盟公認コーチ資格(レベルII)
 公益財団法人日本バレーボール協会公認講師
 財団法人日本体育協会上級コーチ
 財団法人日本体育協会公認スポーツリーダー
 中学校・高等学校教諭専修免許状(保健体育)
 中学校・高等学校教諭1種免許状(保健体育)
 実用フランス語技能検定3級
 自然体験活動指導者(自然体験活動リーダー)

非常勤講師：
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略
<p>スポーツ界を取り巻く今日的状況に触れ、スポーツ従事者とりわけスポーツ指導者に着目し、スポーツ・インテグリティのマインドが欠如していること事柄をコーチ学の学びの欠如であることを指摘した。 今後の研究活動のテーマは、我が国における学生スポーツ界を取り巻く現状について考察するものとする。</p>

III 学会等および社会における主な活動

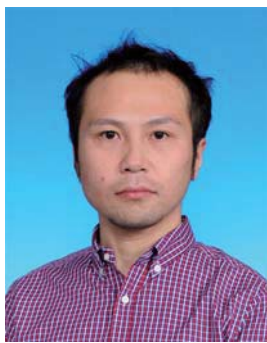
所属学会・機関・団体等の名称	
日本体育学会、日本バレーボール学会、日本体育・スポーツ哲学学会、日本運動・スポーツ科学学会、日本オリンピックアカデミー	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2015年6月1日～2017年5月31日	日本オリンピックアカデミー総務委員会 幹事

IV 芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
(女子バレーボール部監督)			
2015年度春季関東大学バレーボールリーグ戦女子5部Aリーグ	2015年4月～5月	横浜国立大学、他	女子2勝3敗(リーグ4位/総合7位)
2015年度神奈川県知事杯大学バレーボールリーグ戦女子1部	2015年6月	神奈川大学	女子0勝4敗(5位⇒2部降格)
2015年度東日本バレーボール大学選手権大会女子	2015年6月	石鳥谷体育館、他	予選リーグ突破 トーナメント1回戦敗退

2015年度秋季関東大学バレーボールリーグ戦女子5部Aリーグ	2015年9月	埼玉大学、他	女子4勝1敗(2位／総合4位)
2015年度神奈川県大学バレーボール連盟トーナメント(女子)	2015年11月	神奈川大学	女子:2回戦敗退

田中宏和 (たなか ひろかず) 専任講師



出生年：1977(昭和52)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科博士後期課程
 単位取得後退学
 学位：修士(体育科学)
 学位論文：戦後日本におけるスポーツ政策の展開に関する研究－「体育政策」から「スポーツ政策」への転換－
 専門分野：スポーツ行政学、スポーツ政策学、スポーツマーケティング
 前職：国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科 助手
 学内役職等：
 留学：
 資格：中学校教諭専修免許(保健体育)
 高等学校教諭専修免許(保健体育)
 非常勤講師：東洋大学、東京有明医療大学
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
映像を用いた実技授業	2008年4月～現在	実技科目(剣道・剣道指導法・剣道コーチング論)において、習得すべき技術を映像等を用いて説明を実施し、学習の促進を行った。
レポートによる種目特性の習得	2008年4月～現在	実技科目(剣道・剣道指導法)において実技技能以外の種目特性の習得のためレポートの作成等の工夫を行っている
映像を用いた授業	2014年4月～現在	地域スポーツ経営論において地域スポーツの現状を把握するために映像等を用いて説明を実施し、学習の促進を行った。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本体育学会、日本体育・スポーツ政策学会、日本NPO学会、日本体育・スポーツ経営学会、日本スポーツマネジメント学会

IV 芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
剣道部部長	2015年4月	日本武道館・東京武道館	関東学生剣道選手権大会、関東女子学生剣道選手権大会、関東学生剣道優勝大会、関東女子学生優勝大会、関東学生剣道新人戦大会、関東女子学生新人戦大会 出場
	2015年5月	関東学院大学	神奈川県学生剣道選手権大会(春季・秋季)

大学院

工学研究科 (Graduate School of Engineering)

杉本恒美 (すぎもと つねよし) 教授



出生年 : 1964(昭和39)年
在籍 : 1993(平成5)年4月～
最終学歴 : 東京工業大学大学院博士課程
学位 : 博士(工学)
学位論文 : 放射圧を用いた生体組織の硬さ計測に関する基礎的研究
専門分野 : 超音波工学、音響工学、生体医用工学
前職 :
学内役職等 : 研究推進部副部長(2011～)
大学院アドミッション委員(2012～)
環境エネルギー学環 研究推進チームメンバー(2011～)
英語村実行委員(2013～)
留資格 :
留資格 : 第一種情報処理技術者
日本超音波医学会「超音波工学Fellow」(1999～)
非常勤講師 :
受賞・表彰 : Scilab Toolbox Japan Contest 2009, 一般部門 最優秀賞
建設施工と建設機械シンポジウム2014 論文賞

I 教育活動

2.作成した教科書、教材、参考書		
基礎情報処理	2015年4月～	数値計算システムであるScilabを用いて、実験データの計算処理が行えるようになるためのプログラミング基礎を解説。大学院授業で使用。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
「世界中のコンクリート欠陥探査の常識が変わる！？-最新 非接触音響探査法のすべて-」	2014～	非接触音響探査法に関する最新Topic(参加者、理数科約30名)3年連続担当
4.その他教育活動上特記すべき事項		
「風も無いのに葉っぱが揺れる？」 おもしろ理科教室	2013年～	パラメトリック音源を用いた音響放射圧の実験
「音波に関する実験」 桐蔭高校理数科課題研究	2013年～	パイプを用いた楽器作り(共振)、各種音源特性(指向性)等の実験

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略
・農工融合計測 1. 葉の振動計測による植物の水ストレスの評価に関する研究(基盤C、分担研究者3年目) 2. 音波振動を用いた植物の健康状態評価に関する研究(基盤C、代表研究者1年目) ・非破壊計測 1. 非接触音響探査法の欠陥検知アルゴリズムに関する研究(基盤C、分担研究者1年目) 2. 非接触音響探査法によるスポット溶接の健全度評価システムの開発(豊橋市イノベーション創出等支援事業に係る研究開発、代表研究者1年目) 3. 非接触音響探査法に関する基礎検討 I(合同研究 ㈱東芝 H27.6-H27.9) 4. 非接触音響探査法に関する基礎検討 II(合同研究 ㈱東芝 H27.11-H28.3) 5. 音響探査法を用いた検査手法の基礎検討その他(受託研究 佐藤工業 H27.6-H28.3) 6. 音響探査法による構造物欠陥部の検査方法の開発(その2)(奨学寄付金 佐藤工業 H27.1-H27.5) 7. 音響探査法による構造物欠陥部の検査方法の開発(その3)(奨学寄付金 佐藤工業 H27.6-H28.5) ・医用計測 1. コロトコフ音波形解析による健康管理指標値の研究(アクアメイトでの計測を継続)

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
叩き点検を代替する技術の開発-打音法および音響探査法-	共著	2015年5月22日	建設機械 Vol.51 No.6	歌川紀之、北川真也、 杉本恒美	52-58頁
「コンクリート構造物を効率的に検査する音響探傷システム」	共著	2015年9月1日	東芝レビュー Vol.70, No.9, (2015)	西村 修, 千星 淳, 下村 禎朗, 杉本恒美	16-19頁
音響探査法によるコンクリート表層の欠陥探査技術	共著	2016年3月1日	電力土木 No.382, pp.116-117	歌川紀之、 杉本恒美	116-117頁
(学術論文)					
“Estimation of water stress of plant by vibration measurement of leaf using acoustic radiation force”	共著	2015年6月19日	Acoust. Sci. & Tech. 36, 3, pp.248-253, 2015, [doi:10.1250/ast.36.248]	Motoaki Sano, Yutaka Nakagawa, Tsuneyoshi Sugimoto , Takashi Shirakawa, Kaoru Yamagishi, Toshiaki Sugihara and Sakae Shibusawa	248-253頁
“Defect-detection algorithm for noncontact acoustic inspection using spectrum entropy”	共著	2015年6月30日	Japanese Journal of Applied Physics Vol.54	Kazuko Sugimoto, Ryo Akamatsu, Tsuneyoshi Sugimoto , Noriyuki Utagawa, Chitose Kuroda, Kageyoshi Katakura	07HC15
「非接触音響探査法によるコンクリート表層部の欠陥検出に関する研究 -欠陥検出アルゴリズムと強力超音波音源の検討-」	共著	2015年8月6日	コンクリート構造物の非破壊検査シンポジウム論文集Vol.5	杉本恒美 , 杉本和子, 歌川紀之, 片倉景義	191-196頁
「非接触音響探査法によるコンクリート表層部の欠陥検出に関する研究 -アスファルト舗装面下および接着系あと施工アンカーに対する適用性の検討-」	共著	2015年8月6日	コンクリート構造物の非破壊検査シンポジウム論文集 Vol.5	上地樹, 杉本恒美 , 黒田千歳, 歌川紀之, 片倉景義	197-202頁
“Study on the Non-contact Acoustic Inspection Method for Concrete Structures by using Strong Ultrasonic Sound source”	共著	2015年9月20日	Physics Procedia, Vol.70, 2015	Tsuneyoshi Sugimoto , Itsuki Uechi, Kazuko Sugimoto, Noriyuki Utagawa, Kageyoshi Katakura	pp.398-401
「ハイスピードカメラを用いた葉の振動計測に関する検討」	共著	2015年11月12日	桐蔭論叢,第32号	佐野元昭, 中川裕, 安斎拓也, 内川千春, 大平武征, 白川貴志, 杉本恒美	187-192頁
「音響計測を用いた植物の水ストレス症状の検出に関する研究」	共著	2015年11月12日	桐蔭論叢,第32号	中川裕, 杉本恒美 , 佐野元昭, 白川貴志, 内川千春, 大平武征	193-196頁
「縦挿し型送受信機を用いた培養土中の体積含水率推定に関する検討」	共著	2015年11月12日	桐蔭論叢,第32号	白川貴志, 大平武征, 中川裕, 佐野元昭, 杉本恒美	197-200頁
「圧力センサによる土壌圧力の測定に関する検討」	共著	2015年11月12日	桐蔭論叢,第32号	大平武征, 杉本恒美 , 佐野元昭, 白川貴志, 中川裕	201-204頁
「強力超音波音源を用いたコンクリート非破壊検査に関する検討」	共著	2015年11月12日	桐蔭論叢,第32号	杉本恒美 , 杉本和子	205-212頁
「SLDVと空中放射音波を用いたコンクリート非破壊検査強力-スペクトルエントロピーを用いた探査アルゴリズムに関する検討-」	共著	2015年11月12日	桐蔭論叢,第32号	杉本和子, 杉本恒美	213-220頁

「SLDVと空中放射音波を用いたコンクリート非破壊検査強力、スペクトルエントロピーを用いた探査アルゴリズムに関する検討」	共著	2015年11月12日	桐蔭論叢,第32号	上地樹, 杉本和子, 杉本恒美	221-228頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目		年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名	
”Study on the Non-contact acoustic inspection method for concrete structures by using strong ultrasonic sound source”		2015年5月14日	2015 International Congress on Ultrasonics (ICU2015), Metz, France	K. Sugimoto, T. Sugimoto , C. Kuroda, N. Utagawa and K. Katakura	
”Study on the Non-contact acoustic inspection method for concrete structures by using strong ultrasonic sound source”		2015年5月14日	2015 International Congress on Ultrasonics (ICU2015), Metz, France	T. Sugimoto , I. Uechi, K. Sugimoto, N. Utagawa and K. Katakura	
“Study on the algorithm to detect defects by the non-contact acoustic inspection method using vibration energy ratio and spectrum entropy”		2015年5月14日	2015 International Congress on Ultrasonics(ICU2015) Metz,France	Kazuko Sugimoto, Tsuneyoshi Sugimoto , Chitose Kuroda, Noriyuki Utagawa, Kageyoshi Katakura	
”Noncontact acoustic inspection method for concrete structures”		2015年6月2日	International Conference on the Regeneration and Conservation of Concrete Structures (RCCS), Nagasaki Brick Hall	T. Sugimoto , K. Sugimoto, N. Utagawa and K. Katakura	
“Noncontact acoustic inspection method for concrete structures”		2015年6月2日	International Conference on the Regeneration and Conservation of Concrete Structures (RCCS) Nagasaki Brick Hall	Tsuneyoshi Sugimoto , Kazuko Sugimoto, Noriyuki Utagawa, Kageyoshi Katakura	
「強力超音波音源を用いたコンクリート非破壊検査のための非接触音響探査法の検討」		2015年7月14日	コンクリート工学会年次大会2015(千葉)幕張メッセ・国際会議場	杉本恒美 , 杉本和子, 歌川紀之, 片倉景義	
「たわみ共振を用いた遠距離非接触音響探査法」		2015年7月30日	コンクリート構造物の最先端診断技術に関するシンポジウム 東京理科大学 森戸記念館 第1フォーラム	杉本恒美 , 杉本和子, 歌川紀之, 片倉景義	
「非接触音響探査法によるコンクリート表層部の欠陥検出に関する研究-アスファルト舗装面下および接着系あと施工アンカーに対する適用性の検討-」		2015年8月7日	コンクリート構造物の非破壊検査シンポジウム 芝浦工大(豊洲キャンパス)	上地樹, 杉本恒美 , 黒田千歳, 歌川紀之, 片倉景義	
「非接触音響探査法によるコンクリート表層部の欠陥検出に関する研究-欠陥検出アルゴリズムと強力超音波音源の検討-」		2015年8月7日	コンクリート構造物の非破壊検査シンポジウム 芝浦工大(豊洲キャンパス)	杉本恒美 , 杉本和子, 歌川紀之, 片倉景義	
「音響探査法のトンネル覆工調査に関する検討(1)供試体を用いた適用性検証」		2015年9月16日	土木学会第70回年次学術講演会 岡山大学	石川達也, 松本繁治, 杉本恒美 , 杉本和子, 歌川紀之	
「音響探査法のトンネル覆工調査に関する検討(2)実トンネルにおける適用性検証」		2015年9月16日	土木学会第70回年次学術講演会 岡山大学	松本繁治, 石川達也, 杉本恒美 , 杉本和子, 黒田千歳	

「音響探査法を用いたコンクリート表層欠陥探査技術の開発、-接着系あと施工アンカーボルトの接着材量との関連性に関する検討-」	2015年9月16日	土木学会第70回年次学術講演会 岡山大学	上地樹, 杉本恒美, 黒田千歳, 歌川紀之, 片倉景義
「音響探査法を用いたコンクリート表層欠陥探査技術の開発、-強力超音波音源の検討-」	2015年9月16日	土木学会第70回年次学術講演会 岡山大学	杉本恒美, 杉本和子, 上地樹, 歌川紀之, 片倉景義
「音響探査法を用いたコンクリート表層欠陥探査技術の開発、-スペクトルエントロピーを用いた欠陥検出アルゴリズムの検討-」	2015年9月16日	土木学会第70回年次学術講演会 岡山大学	杉本和子, 杉本恒美, 黒田千歳, 歌川紀之, 片倉景義
「非接触音響手法による鉄筋腐食ひび割れの検出」	2015年9月16日	土木学会第70回年次学術講演会 岡山大学	河野豊, 西土隆幸, 杉本恒美, 杉本和子
「空中放射音波を用いた非接触欠陥検出法に関する検討 -強力超音波音源による実用性の改善-」	2015年10月16日	日本非破壊検査協会 平成27年度秋季講演大会 かでの2.7道民活動センタービル(札幌市)	杉本恒美, 杉本和子, 歌川紀之, 片倉景義
“Study on Non-Contact Acoustic Imaging Method for Concrete Structure、-The 2nd Construction Method using a Strong Ultrasonic Sound Source-”	2015年10月22日	2015 IEEE International Ultrasonic Symposium Taipei International Convention Center	Tsuneyoshi Sugimoto, Kazuko Sugimoto, Noriyuki Utagawa, Kageyoshi Katakura
“Basic Study About The Relation Between The Natural Frequency And Water Stress in The Plant (II)”	2015年11月14日	10th Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2015(ISBME) Toin University of Yokohama	Yutaka Nakagawa, Motoaki Sano, Tsuneyoshi Sugimoto
“Study on the measurement of the soil pressure utilizing the pressure sensor of the polymer thick film”	2015年11月14日	10th Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2015(ISBME) Toin University of Yokohama	Takeyuki Ohdaira, Tsuneyoshi Sugimoto, Motoaki Sano, Takashi Shirakawa, Yutaka Nakagawa
“Propagation Velocity in Soil Using Handheld Sound Source and Sensors”	2015年11月14日	10th Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2015(ISBME) Toin University of Yokohama	Takashi Shirakawa, Takeyuki Ohdaira, Yutaka Nakagawa, Motoaki Sano, Tsuneyoshi Sugimoto
“Study on Non-contact Inspection Method for Concrete Structures using Air-borne Sound Wave, -Evaluation for healthy part of concrete by statistical analysis-”	2015年11月14日	10th Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2015(ISBME) Toin University of Yokohama	kazuko Sugimoto, Tsuneyoshi Sugimoto, Noriyuki Utagawa, Chitose Kuroda, Kageyoshi Katakura
“Study on The Modeling of The Natural Frequency of A Plant Leaf”	2015年11月14日	10th Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2015(ISBME) Toin University of Yokohama	Chiharu Uchikawa, Motoaki Sano, Tsuneyoshi Sugimoto
“Study on non-contact acoustic inspection method for concrete non destructive inspection, -Applicable inspection for the post-installed adhesive anchor bolt-”	2015年11月14日	10th Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2015(ISBME) Toin University of Yokohama	Itsuki Uechi, Tsuneyoshi Sugimoto

“Basic Study on the Detection of the Water Stress in the Plant using Ultrasonic Sound Source (II)”	2015年11月7日	The 36th Symposium on Ultrasonic Electronics (USE2015) Epochal Tsukuba International Congress Center	Yutaka Nakagawa, Tsuneyoshi Sugimoto , Motoaki Sano, Takashi Shirakawa, Takeyuki Ohdaira, Chiharu Uchikawa
“Estimation of Water Stress of Plant by Vibration Analysis of Leaf with High Speed Camera 2”	2015年11月7日	The 36th Symposium on Ultrasonic Electronics (USE2015) Epochal Tsukuba International Congress Center	Motoaki Sano, Yutaka Nakagawa, Takuya Anzai, Chiharu Uchikawa, Takeyuki Ohdaira, Takashi Shirakawa, Tsuneyoshi Sugimoto
“The detection of reinforced concrete crack caused by corrosion using non-contact acoustic inspection method”	2015年11月7日	The 36th Symposium on Ultrasonic Electronics (USE2015) Epochal Tsukuba International Congress Center	Kazuko Sugimoto, Tsuneyoshi Sugimoto , Yutaka Kawano, Takkayuki Nishido
「空中放射音波を用いた非接触音響探査法に関する研究, -コンクリート供試体を用いた鉄筋腐食ひび割れの検出および強度分布の推定-」	2016年2月29日	アコースティックイメージング研究会(超音波研究会) 東京大学生産技術研究所	杉本和子, 杉本恒美 , 河野豊, 西土隆幸
「空中放射音波を用いた非接触音響探査法に関する研究, -マルチトーンバースト波を用いた計測速度の改善-」	2016年2月29日	アコースティックイメージング研究会(超音波研究会) 東京大学生産技術研究所	杉本恒美 , 杉本和子, 黒田千歳, 歌川紀之
「コンクリート非破壊計測のための非接触音響探査法に関する研究 -鉄筋腐食によるコンクリートひび割れの検出-」	2016年3月9日	日本音響学会春季講演大会 桐蔭横浜大学	杉本和子, 杉本恒美 , 河野豊, 西土隆幸
「音響振動による植物吸水ニーズの推定に関する研究 -葉モデルを用いた葉の共振周波数に関する基礎検討-」	2016年3月9日	日本音響学会春季講演大会 桐蔭横浜大学	杉本恒美 , 中川裕, 白川貴志, 大平武征, 内川千春, 佐野元昭
「葉の多点振動解析による作物吸水ニーズの推定」	2016年3月9日	日本音響学会春季講演大会 桐蔭横浜大学	佐野元昭, 中川裕, 安齋拓也, 内川千春, 大平武征, 白川貴志, 杉本恒美
「音波振動による土壌中の水分分布計測に関する研究 -植物栽培中の伝搬音速変化に関する検討(II)-」	2016年3月9日	日本音響学会春季講演大会 桐蔭横浜大学	白川貴志, 杉本恒美 , 佐野元昭, 大平武征, 中川裕
「遠距離非破壊計測のための高速非接触音響探査法」	2016年3月17日	安全・安心な社会を築く先進材料・非破壊計測技術シンポジウム 西之表市民会館	杉本恒美 , 杉本和子, 黒田千歳, 歌川紀之
「非接触音響探査法のための欠陥検出アルゴリズム」	2016年3月17日	安全・安心な社会を築く先進材料・非破壊計測技術シンポジウム 西之表市民会館	杉本和子, 杉本恒美 , 黒田千歳, 歌川紀之
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「コンクリート非破壊検査のための遠距離非接触音響探査法」	2015年10月30日	鉄筋コンクリート建造物の非破壊試験部門平成27年度第3回講演・見学会(-点検・診断技術の高度化と標準化にむけて-)	神奈川工科大学ITエクステンションセンター(本厚木)、佐藤工業(株)技術研究所(厚木市森の里)

“Study on Non-contact Inspection Method for Concrete Structures using Air-borne Sound Wave”	2015年10月21日	Invited Lecture at Chayang University of Technology	Chaoyang University of Technology (Taichung)
「音響放射圧を用いた葉と茎の振動計測による植物の健康状態評価」	2015年12月11日	ヨコハマ・アグリフォーラム	横浜情報文化センター
「非接触音響探査法の壁面タイル剥離検査への応用」	2016年2月4日～5日	震災対策技術展	パシフィコ横浜
○その他			
(特許申請等)			
特許名	年月日	特許番号	申請者名(共同の場合)
「音波を用いた探知方法、非接触音響探知システム、そのシステムで用いるプログラム、およびそのプログラムを記録した記録媒体」	2015年4月17日 2011年7月27日	特許第5732344号 特願2011-164004号	桐蔭学園、佐藤工業(株) (杉本恒美、阿部冬真、赤松亮、歌川紀之)
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
奨学寄附金「音響探査法による構造物欠陥部の検査方法の開発(その2)」	2015年1月-2015年12月	佐藤工業(株) 寄付金額50万円(直接45万、間接5万)	
受託研究「非接触音響探査法による溶接の健全度評価システムの開発」	2015年度～2016年度	豊橋市イノベーション創出等支援事業(株)サイエンス・クリエイト、テクノシステム(株)(2年間、約530万円(間接53万))	
基盤研究(C)「非接触音響探査法の欠陥検知アルゴリズム改善に関する研究」	2015年度～2017年度	文部科学省科研費、研究代表者:杉本和子、分担研究者:杉本恒美 約380万円(間接経費114万)	
基盤研究(C)「音波振動を用いた植物の育成状態評価に関する検討」	2015年度～2017年度	文部科学省科研費、研究代表者:杉本恒美、分担研究者:佐野元昭 約390万円(間接経費117万)	
共同研究「非接触音響探査法の検討」(前期)	2015年5月～2015年9月	(株)東芝 合同研究費110万円(直接100万、間接10万)	
共同研究「非接触音響探査法の検討」(後期)	2015年10月～2016年3月	(株)東芝 合同研究費110万円(直接100万、間接10万)	
奨学寄附金「大型超音波音源の検討」	2015年6月～2016年6月	佐藤工業(株) 寄付金額100万円(直接90万、間接10万)	
受託研究「音響探査法によるコンクリート構造物への適用性検討」	2015年6月～2016年3月	佐藤工業(株) 受託研究費255万円(間接25.5万)	
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
2015 International Congress on Ultrasonics (ICU) 出席・発表	2015年5月9日～17日	Georgia Tech Lorraine (Metz France)	
Chaoyang University of Technology(朝陽科技大學)での招待講演、およびIEEE International Ultrasonic Symposium (IUS) 2015での発表	2015年10月20日～25日	Chaoyang University of Technology(朝陽科技大學)、Taipei International Convention Center(台北國際會議中心)	

(雑誌・新聞記事等掲載)		
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
「植物の水分量、超音波で判定」	2015年6月22日	日本経済新聞(2015年6月22日)13面
「空中放射音波で遠距離点検(佐藤工業)」	2015年8月3日	セメント新聞・第3172号(2015年8月3日) 22面 技術紹介
(その他特記事項)		
日本超音波医学会第88回学術集会・座長(一般口演) 2015年5月22日(金)下部消化管② 15:10-16:10 第10会場(天平) 会場:グランドプリンスホテル新高輪		
超音波シンポジウム(USE2015) 運営委員会委員 2015年6月1日～2016年3月31日		
日本超音波医学会第88回学術集会・座長(一般口演) 2015年5月22日(金)下部消化管② 15:10-16:10 第10会場(天平) 会場:グランドプリンスホテル新高輪		
「電子情報通信学会ソサイエティ論文誌査読委員」2015/6/4～平成28年総会日まで ソサイエティ論文誌編集委員会 査読委員 桐蔭横浜大学 大学院工学研究科 杉本 恒美		
「音響技術を用いたコンクリート探傷システムの開発について(東芝ニュース&トピックス)」 2015年8月10日 東芝ニュース&トピックス		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本音響学会、日本超音波医学会、日本生体医工学会、IEEE-UFFC、物理探査学会、日本土木学会、日本非破壊検査協会、日本コンクリート工学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
1999年7月～現在	超音波工学フェロー(日本超音波医学会認定 EJSUM-69)
2010年5月～現在	超音波シンポジウム運営委員
2010年5月～現在	電子情報通信学会 常任査読委員
2014年3月1日～現在	「日本音響学会 アコースティックイメージング研究委員会 委員」
2014年4月～2016年3月	日本音響学会編集委員会 査読委員
2014年4月～2016年3月	衝撃弾性波法研究委員会委員
2014年6月5日～平成27年総会日	電子情報通信学会ソサイエティ論文誌査読委員
2016年3月31日～2018年3月31日	日本音響学会編集委員会 査読委員

三浦 康弘 (みうら やすひろ) 准教授



出生年：1962(昭和37)年
 在籍：1996(平成8)年4月～
 最終学歴：東京理科大学大学院理学研究科物理学専攻博士課程
 学位：博士(理学)
 学位論文：Studies on Structure and Properties of Highly Conductive Langmuir-Blodgett Films Based on Metal(dmit)₂
 専門分野：物理学、分子エレクトロニクス、医用工学
 前職：University of Houston, Department of Chemistry
 Postdoctoral Research Fellow, State Employee of Texas
 学内役職等：
 留学：University of Houston(米国)(1994年7月～1996年3月)
 資格：
 非常勤講師：埼玉大学工学部非常勤講師(2011～2013)
 明治大学理工学部 電気電子生命学科 非常勤講師(2012～現在)
 受賞・表彰：東京理科大学理事長賞(1992)
 1998年、2002年材料技術研究会討論会ポスター賞
 Award of Excellence, Oral Session Award, Toin International Symposium on Biomedical Engineering, “Fabrication of Highly Conductive Patterns in Molecular Thin Films”
 財団法人 池谷科学技術振興財団 研究助成 受賞(2007)
 (独)日本学術振興会 平成28年度 科学研究費助成事業 審査委員 表彰

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
教育方法の実践例	平成8年4月～現在	<p>「工学へのステップ」、「フレッシュマンセミナーI, II」、「化学総合演習」等の実験を伴わない授業に於いては、毎回20分テストの小テストを実施し、学生の予備知識の程度やそれまでの講義内容の理解度を確認し、講義内容に反映させてきた。</p> <p>実験を伴う授業に関しては、実験で扱う重要事項の歴史的な背景にまで触れる説明をプロジェクターや配布資料を用いて行い、学生の興味と理解が深まるように努めた。また、レポートの書き方の指導にも力を入れ、再提出等も含めて指導を行った。配布資料については、2011年度より、原則として、WEBで公開している。</p> <p>また、卒業研究においては、研究指導を行った四年生が、その研究成果を、材料技術研究協会討論会および応用物理学関連連合講演会等の学会に卒業研究生自身が登壇して発表するまで指導を行ってきた。</p> <p>共同研究者である大学院修士課程・博士課程の学生に対しては、国内の学会のみならず、国内外で開かれる国際シンポジウム・学会において、ポスター発表や口頭発表を英語で行うまで指導を行ってきた。国際的な舞台上、研究成果を学生自身が論文や口頭発表・ポスター発表により英語で行うことに特に力を入れており、英語の基礎学力をつけるため、週一回の自主英語セミナーを開講し、研究室の枠を越えて参加する学生の指導も行ってきた。</p>

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略					
<p>日本学術振興会 学術研究助成基金 助成金(基盤研究C)(2015年度～2017年度、研究代表者 三浦康弘、課題名:「多重極限環境における分子超薄膜の電気伝導」)が新規に採択され、当該課題の研究の立ち上げを中心に研究活動を進めた。これに加えて、新たに、科学技術振興機構(JST)戦略的創造研究推進事業～先端的低炭素化技術開発(ALCA)～にも研究代表者グループ・研究参加者として参画し、二次元ペロブスカイトの作製に関する研究プロジェクトをスタートさせた。さらに、本年度も、東京大学物性研究所との共同研究が共同利用制度のプロジェクトとして採択され(採択課題:「導電性ラングミュア・プロジェクト膜の高圧下の電気的性質に関する研究」)、研究を進めた。これらの研究活動は、本人登壇による国内学会における発表1件(一般口頭講演)、及び、本人登壇による国際学会における研究発表3件(一般口頭講演2件、招待講演1件)に繋がった。また、本人が第一著者・責任著者である二報の論文が査読付き英文学術雑誌に掲載された。尚、外部への情報発信は、学術的な会合における研究発表や論文執筆だけでなく、以下のURLにおいても日英両語で行った。 http://www.cc.toin.ac.jp/sc/miura/index.html</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
“Structure and properties of the highly conductive Langmuir-Blodgett films based on ditetradecyldimethylammonium-Au(dmit) ₂ salt”	共著	2015年5月18日 (ON-LINE VERSION)	Synthetic Metals, Vol. 207 (2015)	Yasuhiro F. Miura, Haruki Matsui, Kyoko Inoue Jun-ichi Hoshino, Keiichi Ikegami	pp. 54-64
“Substitution of spreading solvent by a less hazardous one for the fabrication of the Au(dmit) ₂ Langmuir-Blodgett films”	単著	2016年2月20日	Japanese Journal of Applied Physics, Vol. 55	Yasuhiro F. Miura	38005(3pages)
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
”Development of Conductive Langmuir-Blodgett Films-From Metallic toward Superconducting Properties-”(一般口頭講演)	2015年5月21日	The 26th International Conference on Molecular Electronics & Devices (IC-ME&D)(Samsung Convention Center, Seoul National University, Seoul, Korea)	Yasuhiro F. Miura, Hironari Akiyama, and Naoki Sugimoto		
”Infrared Spectroscopic Studies on Highly Conductive LB Films based on Alkylammonium-Au(dmit) ₂ salt”(一般口頭講演)	2015年9月2日	13th European Conference on Molecular Electronics (ECME2015), University of Strasbourg, Strasbourg, France	Y. F. Miura, H. Matsui, K. Inoue, J. Hoshino, K. Ikegami		
”赤外分光法によるアルキルアンモニウム-Au(dmit) ₂ LB膜に関する研究”(一般口頭講演)	2015年9月14日	2015年秋季第76回応用物理学会学術講演会、名古屋国際会議場、愛知県名古屋市	三浦 康弘, 松井春樹, 井上杏子, 星野純一, 池上 敬一		
”Fabrication and Characterization of Conductive LB Films based on Alkylammonium-Metal(dmit) ₂ Salts”	2015年10月9日	The 15th International Discussion & Conference on Nano Interface Controlled Electronic Devices (IDC-NICE 2015)	Yasuhiro F. Miura and Keiichi Ikegami		
○その他					
(産学協同研究)					
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称			
高導電性分子超薄膜の開発に関する研究	2012年12月～現在	Global Science 株式会社			

(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
「導電性ラングミュア・プロジェクト膜の高圧下の電気的性質」	2015年4月～2015年9月	東京大学物性研究所 平成27年度(前期)共同利用(旅費・宿泊費等の支給)(研究代表者)
「導電性ラングミュア・プロジェクト膜の高圧下の電気的性質」	2015年10月～2016年3月	東京大学物性研究所 平成27年度(後期)共同利用(旅費・宿泊費等の支給)(研究代表者)
「導電性ラングミュア・プロジェクト膜の高圧下の電気的性質」	2016年4月～2016年9月	東京大学物性研究所 平成28年度(前期)共同利用(旅費・宿泊費等の支給)(研究代表者)
「多重極限環境における分子超薄膜の電気伝導」	2015年4月～2016年3月	日本学術振興会 学術研究助成基金 助成金(基盤研究C) 平成27年度交付額:1,690,000(内間接経費390,000)(研究代表者)
「二次元ペロブスカイトの作製と光電特性評価」	2015年4月～2016年3月	科学技術振興機構(JST)戦略的創造研究推進事業～先端的低炭素化技術開発(ALCA)～平成27年度配分額:180,000(内間接経費 54,000)(研究代表者グループ・研究参加者)
(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
The 26th International Conference on Molecular Electronics & Devices (IC-ME&D) に出席し、本人登壇による口頭講演を一件行い、同分野の研究者と討論を行うため。	2015年5月20日～5月23日	SNU Hoam Faculty House Convention Center (Samsung Convention Center), Seoul National University, Seoul (韓国)
13th European Conference on Molecular Electronics (ECME2015) 出席し、本人登壇による一般口頭講演を一件行い、同分野の研究者と討論を行うため。	2015年8月31日～9月7日	University of Strasbourg, Strasbourg (フランス)
(その他特記事項)		
「第76回応用物理学会秋季学術講演会におけるプログラム編集委員・世話人」, 2015年9月13日～9月16日 第76回応用物理学会秋季学術講演会(名古屋国際会議場)においてプログラム編集委員として運営に参加・協力。内容:大分類12(有機分子・バイオエレクトロニクス)におけるプログラム編集、若手奨励賞、ポスター賞の審査等。特に中分類12.1(作製・構造制御)の世話人としての業務を分担		
「2016年第63回応用物理学会春季学術講演会におけるプログラム編集委員・世話人」, 2016年3月19日～3月22日, 2016年第63回応用物理学会春季学術講演会(東京工業大学大岡山キャンパス)においてプログラム編集委員として運営に参加・協力。内容:大分類12(有機分子・バイオエレクトロニクス)におけるプログラム編集、若手奨励賞、ポスター賞の審査等。特に中分類12.1(作製・構造制御)の世話人としての業務を分担		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
応用物理学会、応用物理学会 有機分子・バイオエレクトロニクス分科会、日本化学会、日本化学会 コロイド及び界面部会、材料技術研究協会、日本MRS、高圧力学会、電気化学会、American Chemical Society、American Chemical Society:Colloid & Surface Chemistry Division	
任期、活動期間等	学会等における役職等
1997年4月1日～2016年3月	材料技術研究協会 『材料技術』誌 編集委員
2005年～現在	Transaction of Materials Research Society of Japan誌 特別編集委員

2007年4月1日～現在	東京都狛江市水泳協会 監事	
2012年4月1日～現在	材料技術研究協会 理事	
2013年1月15日～現在	公益社団法人 応用物理学会・プログラム編集委員	
2015年7月～現在	応用物理学会 有機界面制御素子研究会・委員	
2014年 12月～2015年 11月	(独)日本学術振興会 科学研究費委員会 専門委員 委嘱 担当審査部門:科研費 第一段審査(書面審査)応用物性4401(細目番号)	
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
「おもしろ理科教室」、(小学生対象理科実験)、課題名:「モーターを作ろう」	2015年8月	桐蔭横浜大学
桐蔭学園高校理数科課題研究 指導 (化学実験)、課題名:「細胞膜を真似た膜(人工脂質膜)の作製」	2016年3月(全3回)	桐蔭学園高校 52期理数科

沼田 陽平 (ぬまた ようへい) 特任助教



出生年：1979(昭和54)年
 在籍：2014(平成26)年4月～
 最終学歴：総合研究大学院大学 物理科学研究科 博士後期課程修
 学位：博士(理学)
 学位論文：Magnetic Properties of Low-dimensional Molecule-based Magnets Consisting of Transition Metals and Organic Radicals
 専門分野：物理化学、有機化学、無機(錯体)化学、電子物性
 前職：独立行政法人 物質・材料研究機構 ポストク研究員
 学内役職等：
 留学籍：
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略

ペロブスカイト構造を有する、鉛トリハライド化合物を光活性層として有する、ペロブスカイト太陽電池(PSC)の研究を行っている。私は高性能と高耐久性を有する、混合カチオン、及び、ハライドを用いたPSCの開発を行っている。主な研究として、ポーラス層として用いられている金属酸化物を低温製膜できるBrookite TiO_2 に変える事で、製造プロセスの簡易化を図った。また、ペロブスカイト膜の作製法に関する検討も行い、現在、5 mm角の大きなセルにおいて、最高で19%近い変換効率を達成している。

○著書・論文等

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
Photocurrent Enhancement of Formamidinium Lead Trihalide Mesoscopic Perovskite Solar Cells with Large Size TiO_2 Nanoparticles	共著	2015 Sep.	Chemistry Letters Vol.44 (11)	Youhei Numata , Yoshitaka Sanehira, and Tsutomu Miyasaka	pp.1619-1621

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演

研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名
(ポスター)“Formamidinium leads triiodide perovskite solar cells; influences of chloride ion and meso-scaffolds on morphology and performance”	2015年4月	2015 MRS Spring meeting (Moscone West/San Francisco, California)	Youhei Numata , Yoshitaka Sanehira, and Tsutomu Mityasaka
(ポスター)“Hydrothermal Synthesis of Two-Dimensionally Oriented Decahedral TiO_2 Nanocrystal Films and Application to $\text{CH}_3\text{NH}_3\text{PbX}_3$ Perovskite Solar Cell”	2015年4月	2015 MRS Spring meeting (Moscone West/San Francisco, California)	Yoshitaka Sanehira, Ajay K. Jena, Youhei Numata , and Tsutomu Mityasaka
(オーラル)チオシアネートを有する2次元擬ペロブスカイトを用いたペロブスカイト太陽電池に関する研究	2016年3月	第63回 応用物理学会春期学術講演会(東京工業大学 大岡山キャンパス/東京都目黒区)	沼田陽平、實平義隆、宮坂 力

(オーラル)結晶配向性を制御した酸化チタン膜上における二次元ペロブスカイト結晶の太陽電池特性	2016年3月	第63回 応用物理学会春期学術講演会(東京工業大学 大岡山キャンパス/東京都目黒区)	實平義隆、 沼田陽平 、宮坂 力
(ポスター)ハロゲン混合 $\text{CH}_2(\text{NH}_2)_2\text{PbX}_3$ 太陽電池のBand gap 制御	2016年3月	第63回 応用物理学会春期学術講演会(東京工業大学 大岡山キャンパス/東京都目黒区)	内海 一馬、 沼田 陽平 、宮坂 力、白井 肇
○その他			
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
MRS 2015 Spring Meetingでの発表	April 6-10, 2015	Moscone West (San Francisco, California, USA)	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本化学会、日本応用物理学会、太陽エネルギー学会

星 秋 夫 (ほし あきお) 教授



出生年：1954(昭和29)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：日本体育大学大学院体育学研究科体育学専攻 修了
 学位：体育学修士(日本体育大学)、医学博士(順天堂大学)
 学位論文：Effects of swimming and weight loading on bone density and mechanical properties of femoral bone in mice
 専門分野：環境衛生学、生気象学、健康・スポーツ科学
 前職：日本歯科大学生命歯学部共同利用研究センター准教授
 学内役職等：スポーツ科学研究科長(2015～)
 留学：
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略					
我が国の夏季における環境は急激に悪化し、熱中症をはじめとする暑熱障害の発症が問題となっている。そこで、我々の研究グループは熱中症予防対策を構築することを目的に、実験的、疫学的手法を用いて各種分野から研究を行っている。2020年東京オリンピックの対策については検討課題として取り組んでいる。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
ヒートアイランドの辞典	共著	2015年6月15日	朝倉書店	日本ヒートアイランド学会編	30-33頁
(総説・論説)					
日常生活における熱中症予防	共著	2015年6月	公衆衛生79巻	星 秋夫、樫村 修生	469-475頁
(学術論文)					
陸上長距離女子選手における高地トレーニングによる呼吸循環機能の変化	共著	2015年8月	日本スポーツ健康科学誌2巻1号	樫村修生、南 和広、菊池 潤、星 秋夫	11-19頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(口頭発表)2020年東京オリンピック開催期間における環境推測からの熱中症発症の危険性	2015年8月29日	第3回日本スポーツ健康科学学会(神奈川大会)	樫村修生、南 和広、齊藤雄司、星 秋夫		
(口頭発表)熱中症による救急搬送の地域差について	2015年8月29日	第3回日本スポーツ健康科学学会(神奈川大会)	永田 侑加、星 秋夫、樫村 修生		
(口頭発表)造船作業従事者における熱中症発症の実態	2015年8月29日	第3回日本スポーツ健康科学学会(神奈川大会)	齊藤雄司・樫村修生・星 秋夫・小島信樹		
(口頭発表)ラットにおける熱中症発症にサチャインオイルが与える影響	2015年9月20日	第70回日本体力医学会大会(和歌山)	樫村修生、南 和広、星 秋夫		

(口頭発表)搬送区分別にみた救急搬送の地域差について	2015年11月6日	第54回日本生気象学会大会(名古屋)	永田 侑加, 星 秋夫, 樫村 修生
(口頭発表)2020年東京オリンピックマラソン競技時のWBGT予測	2015年11月7日	第54回日本生気象学会大会(名古屋)	樫村修生、南和広、星 秋夫
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
熱中症とその対策	2015年5月25日	(一般社団法人 日本造船協力事業者団体連合会)熱中症講演会	一般社団法人 日本造船協力事業者団体連合会

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本衛生学会、日本生気象学会、日本体力医学会、日本スポーツ健康科学学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
1999年4月～現在	日本衛生学会評議員
1999年9月～現在	日本体力医学会評議員
2003年10月～現在	日本生気象学会評議員
2009年4月～現在	日本生気象学会幹事
2012年4月～現在	日本スポーツ気象アドバイザー協会理事
2013年2月～現在	日本スポーツ健康科学学会会長
2013年2月～現在	日本スポーツ健康科学学会理事
2014年4月～現在	日本生気象学会学会会長

櫻井 智野風 (さくらい ともぶ) 教授



出生年：1966(昭和41)年
 在籍：2014(平成26)年4月～
 最終学歴：横浜国立大学大学院教育学研究科保健体育学専攻修了
 学位：博士(運動生理学), 教育学修士
 学位論文：運動による骨格筋損傷とその治癒過程における一酸化窒素の関与
 専門分野：運動生理学, スポーツ科学, トレーニング科学
 前職：東京農業大学 生物産業学部 准教授
 学内役職等：就職指導部副部長(2016～)
 留学：アメリカ・ウィスコンシン州立大学マディソン校キネシオロジー学部 客員研究員(1999～2000)
 資格：小学校教諭一種免許, 中学校教諭一種免許(保健体育), 高校学校教諭専修免許(保健体育), 日本体育協会公認コーチ(陸上競技), 国際陸上競技連盟 レベル I 講師
 非常勤講師：青山学院大学
 受賞・表彰：

I 教育活動

2.作成した教科書、教材、参考書		
運動生理学の基礎と発展 (フリースペース)	2002年4月～	体育概論の教科書として使用.
パソコンで学ぶ元気で生きる健康科学 (三井出版)	2011年4月～	体育実技の教科書として使用.

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略					
スポーツ活動中および休息時における脳活動の変化に関する研究や、筋痛のメカニズム解明に向けた研究に関して、国内外で発表を行った。科学研究費を用いた研究では、筋痛回復に性差が存在することの立証に向けた研究を行った。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の 年 月 日 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
不調を治す50の習慣	単著	2015年4月10日	樫出版	櫻井智野風	
「走りのサイエンス」	単著	2016年1月10日	樫出版	櫻井智野風	
(学術論文)					
The Molecular Mechanism Underlying Continuous Exercise Training-Induced Adaptive Changes of Lipolysis in White Adipose Cells	共著	2015年5月10日	Journal of Obesity Volume 2015, Article ID 473430	Tomonobu Sakurai	-
疲労困憊運動時および回復時の腹外側前頭野活動における一考察	共著	2015年8月	日本スポーツ健康科学会雑誌 Vol.2	櫻井 智野風, 樫村 修生, 得能 瑞樹, 後藤 広太郎	

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
The effect of estrogen on the recovery process of damaged skeletal muscles -Using HSP70 as a marker-	2015年6月	20th Annual Congress of the European College of Sport Science	T. Sakurai
○その他			
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
20th Annual Congress of the European College of Sport Science での発表	2015年6月23日～28日	Malmö University, Malmö, Sweden	

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体育学会, 日本体力医学会, 日本トレーニング科学会(理事), 日本生理学会, 日本臨床生理学会, 日本発育発達学会, 日本生気象学会, 日本健康医学会, 日本宇宙航空環境医学会, 日本陸上競技学会(理事), 日本スプリント学会, 日本スポーツ健康科学学会(理事), American College of Sports Medicine(アメリカスポーツ医学会)	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2007年4月～現在	日本トレーニング科学会理事、編集委員会委員長
2012年4月～現在	日本陸上競技学会理事
2013年4月～現在	日本スポーツ健康科学会理事
2014年4月～現在	日本生理学会評議員
2014年4月～現在	日本体力医学会評議員

澁倉 崇行 (しぶくら たかゆき) 准教授



出生年：1972(昭和47)年
 在籍：2014(平成26)年4月～
 最終学歴：名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士課程(後期課程)心理発達科学専攻修了
 学位：博士(心理学)
 学位論文：「高校運動部員の心理的ストレスに関する研究:部活動ストレスモデルの構築と介入プログラムの作成」(博士論文)
 専門分野：スポーツ心理学
 前職：新潟県立大学人間生活学部准教授
 学内役職等：
 留学：
 資格：中学校教諭専修免許状(保健体育), 高等学校教諭専修免許状(保健体育)
 非常勤講師：国士舘大学
 受賞・表彰：日本体育学会学会賞(平成26年度)(共著者)

II 研究活動

○講演会・研究会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研究会等名	開催場所
選手の「目標達成」をどうやってサポートするか！	2015年6月21日	スポーツフォーキッズジャパン・第2回ベーシックセミナー(指導者編)	新潟県スポーツ医科学センター(新潟市)
選手の「目標達成」をどうやってサポートするか！	2015年6月27日	スポーツフォーキッズジャパン・第2回ベーシックセミナー(指導者編)	横浜文化体育館レストハウス(横浜市)
いかにして子供のやる気を高めるか、引き出すか！	2015年5月31日	NPO法人親心支援協会・子育て支援セミナー	文京シビックホール(文京区)
グッドコートに近づこう！「子どものやる気を高めるスポーツ指導法」	2015年6月12日	(公財)長岡市スポーツ協会・スポーツコーチングセミナー(第1回)	長岡市市民体育館(長岡市)
選手の「やる気」を高めるために指導者や保護者ができること	2015年6月14日	岩手県教育委員会・いわてJr.マルチサポートプラン	滝沢東部体育館(岩手県滝沢市)
選手の「やる気」を高めるために指導者や保護者ができること	2015年7月18日	岩手県教育委員会・いわてJr.マルチサポートプラン	宮古総合体育館(岩手県宮古市)
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
青少年スポーツ活動における保護者の問題行為の発生機序と対処過程(研究代表者)	2015年4月～2019年3月	科学研究費補助金:基盤研究(B), 日本学術振興会	
子供のスポーツ活動を支援する保護者の負担感とその影響要因:サポートシステムの構築に向けた基礎的研究(研究代表者)	2015年4月～2016年3月	2015年度笹川スポーツ研究助成, 笹川スポーツ財団	
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
オピニオン「勝利よりも人間性育む」	2015年5月16日(朝刊)	新潟日報	

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本体育学会, 日本スポーツ心理学会, 日本教育心理学会, 日本健康心理学会, 日本ストレスマネジメント学会

法科大学院 (Law School)

江口 眞樹子 (えぐち まきこ) 教授



出生年：1958(昭和33)年
 在籍：2007(平成19)年4月～
 最終学歴：神戸大学大学院法学研究科博士後期課程
 学位：法学修士
 学位論文：企業の社会的責任について—フランス法におけるsociétéとassociationに関する法の歴史的変遷を通じて
 専門分野：商法、金融商品取引法
 前職：平成国際大学法学部助教授
 学内役職等：法科大学院 教務委員長
 留学：ドイツ連邦共和国ミュンヘン大学法学部(1987～1989)
 資格：
 非常勤講師：平成国際大学大学院法学研究科
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
教育内容・方法の工夫	2015年度	商法、会社法等の法制度の細部のみにとらわれるのではなく、常に各法における制度の位置づけ、趣旨、論理を重視し、制度を根本から理解させることに努める。試験等においても導き出された結果ではなくむしろ「なぜそうなるか」という論理性を重視する。また、実例を用いながら、これらの法が現実社会でいかに運用されているかという実務的側面からのアプローチも行うことで、理解を深める試みを行っている。教室では講義形式を基本として、双方向の対話形式を用いながら授業を進めている。

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略					
平成26年改正会社法施行後明らかとなった問題点の検討および買収防衛策について裁判例を中心に検討した。また、Le Parfait Negotiantの翻訳作業も引き続き行った。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
新基本法コンメンタール「会社法1」(第2版)	共著	2016年3月	日本評論社	奥島孝康・落合誠一・浜田道代編著・田村詩子	476-488頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本私法学会、日本経済法学会

大澤 恒夫 (おおさわ つねお) 教授



出生年：1954(昭和29)年
 在籍：2005(平成17)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科民事法専攻博士後期課程修了
 学位：法学博士
 学位論文：「弁護士業務における対話の理念と技法—法と対話の専門家をめざして」
 専門分野：法的対話論、司法アクセス論、弁護士論、ADR論、(弁護士としての主要業務)IT分野における知的財産法、競争法、企業再建
 前職：
 学内役職等：メディアエーション・交渉研究所センター長 (2014～)
 留学：
 資格：弁護士(1981年～現在)
 非常勤講師：中央大学法科大学院客員教授(裁判外紛争解決)
 受賞・表彰：

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
ケースメソッド	2005年4月～	裁判例(特に第1審判決)等により、具体的事実やそこから伺われる現実の複雑さ、法実践での事実の切り出し方、自分自身の取り組みとしてどのように考えるか、などを検討する。
実演、ロールプレイと振り返り	2005年4月～	人と人が話し合うプロセスについて、台詞を用意して行う実演やケースを設定して行うロールプレイを実施し、参加者全員で振り返りを行うことにより、法運用をめぐる実践知の内面化への契機をつかむ。
プレゼンテーションとファシリテーション	2005年4月～	プレゼンテーション(発表)とファシリテーション(議論の支援)について、その技法を理解し、実践してみることを通じて、コミュニケーション力の向上への契機をつかむ。
授業ごとの短時間小レポート課題	2005年4月～	各授業の最後の15～20分程度を使い、その日の授業(または前回の授業)の復習になる事項について、設問を示して(あるいは自由に課題を設定させ)その場で、ミニレポートを書かせることにより、授業内容の理解の促進と短時間での手書き文章力の向上を図る。
学生自身の紛争体験から紛争プロセスを振り返る	2005年4月～	学生自身の紛争体験(大小や種類は問わない)を振り返り、そのプロセスを丁寧に辿ることにより、紛争の発生から解決・克服への過程の中に含まれる重要な実践知に気付くとともに、これからの法律学習への動機付けを高める。
5.その他教育活動上特記すべき事項		
ソフトウェア情報センター「ソフトウェアの知的財産権入門講座」講師	2001年2月～現在	IT関連の法務担当者や若手弁護士等を対象に、ITに関連する知的財産と独占禁止法上の諸問題について解説。
大学間交渉コンペティション審査員	2004年12月～現在	大阪大学・上智大学「平成16年度・特色ある教育支援プログラム(特色GP)」事業(住友グループ広報委員会・日本仲裁人協会等後援)により、国際的に活躍する交渉者の育成を目指して、毎年2日間にわたる模擬仲裁、模擬交渉による競技会が行われ、その審査員を務めている。

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本民事訴訟法学会、日本法社会学会、法とコンピュータ学会、仲裁ADR法学会、司法アクセス学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2005年4月～現在	法とコンピュータ学会理事
2006年4月～現在	司法アクセス学会理事
2005年4月～現在	財団法人ソフトウェア情報センター(SOFTIC)評議員
	ソフトウェア紛争解決センター運営委員
	「司法制度改革と先端テクノロジー」研究会委員
	日本仲裁人協会会員、日弁連業務改革委員会幹事
	インターカレッジ・ネゴシエーション・コンペティション審査員

蒲 俊 郎 (かば としろう) 教授



出 生 年 : 1960(昭和35)年
 在 籍 : 2005(平成17)年4月～
 最 終 学 歴 : 慶應義塾大学法学部法律学科
 学 位 :
 学 位 論 文 :
 専 門 分 野 : 電子商取引(EC)、労働法(使用者側)
 前 職 : 桐蔭横浜大学客員教授
 学 内 役 職 等 : 法務研究科長 (2014～)
 留 学 :
 資 格 : 弁護士(第二東京弁護士会)
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
2.作成した教科書、教材、参考書		
レジュメの配布	2006年4月～	全ての講義においてオリジナルレジュメを作成し配布した(科目によってはプロジェクターを使用し、パワーポイントによる講義を実施)。
4.法律実務教育に関する特記事項		
研修:「新社会人が知っておくべきSNSリスクと炎上防止対策～自分を守るために何が必要か」	2015年4月3日	独立行政法人都市再生機構 主催
法務基礎講座:「医薬品・化粧品の表示規制～医薬品・化粧品の表示規制の基本的知識と実務上注意すべきポイント」	2015年4月16日	株式会社電通 主催
法務基礎講座:「食品の表示規制～食品の表示規制の基本的知識と4月1日からスタートした「機能性表示食品制度」について」	2015年4月23日	株式会社電通 主催
研修:「機能性表示食品制度～第3の健康食品について」	2015年5月12日	株式会社ピアラ 主催
研修:「SNS利用に伴うリスクから自分と会社を守るために何が必要か」	2015年6月2日	株式会社ピアラ 主催
研修:「職場のハラスメントについて～ハラスメント新時代に、社員・企業はどう対応すれば良いのか」	2015年6月22日	東急不動産キャピタル・マネジメント株式会社 主催
研修:「個人情報漏洩について～社員による故意の情報漏洩をどう防げば良いのか」	2015年6月25日	株式会社イーウェル 主催
講演:「ハラスメント新時代への対応～セクハラ・マタハラに関し、最高裁が出した2つの画期的判決を受けて、今後何が変わるのか」	2015年6月30日	学校法人共栄学園 主催
研修:「不当表示に対する課徴金制度の導入とその影響」	2015年11月	株式会社イーウェル 主催

講演:「裁判所がハラスメントを巡り相次いで画期的判断を下し、日々ハラスメントへの対応が厳しくなる新たな時代に、どの様に対処すれば良いか?」	2016年1月	東急不動産ホールディングス株式会社 主催
研修:「ハラスメント研修～ハラスメントのない良好な職場環境を維持するために」	2016年2月	株式会社東急ハンズ 主催

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本私法学会、情報ネットワーク法学会、経営法曹会議、民事訴訟法学会、司法アクセス学会、日本法律家協会会員	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2006年3月～現在	ガンホー・オンライン・エンターテイメント株式会社 監査役
2007年8月～現在	株式会社ケイブ 監査役
2013年6月～現在	株式会社ティーガイア 監査役
2014年6月～現在	学校法人桐蔭学園 理事
2015年3月～現在	株式会社ピアラ 監査役
2015年6月～現在	一般財団法人東京都営交通協力会 理事

久保利 英明（くぼり ひであき）教授



出生年：1944(昭和19)年
 在籍：2015(平成27)年4月～
 最終学歴：東京大学法学部卒業
 学位：
 学位論文：
 専門分野：コーポレートガバナンス及びコンプライアンス、M&A、株主総会運営、金融商品取引法、独禁法等企業法務、知的財産権(特にエンターテインメント・ビジネスや通信・放送ビジネス等)

前職：大宮法科大学院大学教授、桐蔭法科大学院客員教授
 学内役職等：
 留学：
 資格：弁護士
 (日比谷パーク法律事務所代表/第二東京弁護士会)

非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
レジュメの配布	2014年4月～	全ての講義でオリジナルのレジュメを配布し、講義内容に合わせた文献等の資料を用意した。
ゲストスピーカーの招聘	2014年4月～	独自の人脈により、第一線で活躍する方々をゲストとして呼び、法曹の魅力を伝えた。また、受講者以外にも広く聴講を認め、多くの学生に参加の機会を与えた。
4.法律実務教育に関する特記事項		
新潟株式懇話会	2015年4月10日	「今年の株主総会と企業不祥事の対策」
ヒューマンライツ・ナウ	2015年5月12日	「企業不祥事と第三者委員会の役割」
財界研究所	2015年8月3日	「最近の事象に見るガバナンスとコンプライアンス」
JA東京監事協議会 監事研修会	2015年9月14日	「最近の事例から学ぶコンプライアンスと監事の責任」
金融庁・証券取引等監視委員会 法曹勉強会	2015年9月29日	「これからの法曹に期待される役割」
商事法務 トップマネジメントセミナー	2015年10月2日、 11月4日	「取締役の職務と責任」
日本外国特派員協会 記者レク	2015年10月20日	「指定暴力団山口組の分裂について」
国家公務員倫理審査会	2015年12月4日	「法理と道理の倫理の間で-国家公務員の在り方-」
商事法務 株主総会対策セミナー	2016年2月17日(東京) 3月2日(福岡)	「平成27年株主総会対策とコーポレート・ガバナンス」
商事法務	2016年2月18日	「第三者委員会の役割と機能」
日本生産性本部 経済情勢懇話会	2016年3月4日	「東芝・不正会計問題を考える」
日本貿易会	2016年3月14日	「不祥事対応の解説」
日本組織内弁護士協会	2016年3月18日	「弁護士は何か出来るか? 何をすべきか」

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
スポーツ法務の最前線—ビジネスと法の統合	共	2015年5月	民法法研究会	編集責任	
弁護士たった3万5000人で法治国家ですか - 弁護士がいたら、泣き寝入りしないのに	単	2015年11月	アイ・エル・エス出版		
未来を切り拓く若者たちへ志は高く 目線は低く	単	2016年2月	財界研究所		
本林塾講演録 新時代を切り拓く弁護士	共	2016年2月	商事法務	本林徹弁護士編	332-370頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
日本法社会学会2015ミニシンポジウム パネリスト	2015年5月9日	日本法社会学会2015ミニシンポジウム	首都大学東京		
司法アクセス学会第9回学術大会シンポジウム パネリスト	2015年12月5日	司法アクセス学会第9回学術大会シンポジウム	弁護士会館クレオ		
民事紛争処理研究基金設立30周年記念シンポジウム パネリスト	2016年2月6日	民事紛争処理研究基金設立30周年記念シンポジウム	弁護士会館クレオ		
桐蔭コンプライアンス・リサーチ教育センター設立記念シンポジウム 基調講演・パネリスト	2016年3月26日	桐蔭コンプライアンス・リサーチ教育センター設立記念シンポジウム	桐蔭横浜大学		
○その他					
(雑誌・新聞記事等掲載)					
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称			
月刊「JA」4月号	2015年4月	オピニオンリーダー			
問答有用	2015年4月	週刊エコノミスト2015.4.28号			
「生ぬるい調査」は東芝を傷つける 東芝第三者委員会の件コメント	2015年5月22日	日経ビジネスオンライン			
「東芝の会計問題、危機管理が不十分だ」	2015年6月16日	東洋経済オンライン			
「倫理を徹底した企業こそが結果的に成功する。渋澤栄一の『論語と算盤』を今こそ」	2015.8.4号	財界			
フロントランナーの肖像	2015年10月	月刊『弁護士ドットコム』創刊号			
東芝特集	2015.10.12号	日経ビジネス			
「化血研」不正の背景に何が	2016年1月8日	NHKニュース コメント放映			
平成27年の企業不祥事を振り返る ～弁護士・法務部が果たすべき役割～	2016年3月 掲載	弁護士ドットコム BUSINESS LAWYER WEB			

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
法と経済学会, 租税訴訟学会, 日本法社会学会, 日本内部統制学会, 法とコンピュータ学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2006年9月～現任	金融庁総務企画局参事(法令等遵守調査室顧問)	
2008年6月～現任	農林中央金庫 経営管理委員	
2011年6月～現任	東京証券取引所グループ(現 日本取引所グループ)取締役(社外)	
2011年6月～現任	東京証券取引所自主規制法人(現 日本取引所自主規制法人)外部理事	
2014年6月～現任	ソースネクスト株式会社 取締役(社外)	
2004年4月～現任	NPO法人エンターテインメント・ロイヤーズ・ネットワーク理事長	
2013年3月～2016年6月	規制改革会議 創業・IT等WG 専門委員	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
ロースクールと法曹の未来を創る会 代表	2014年5月～	ロースクールと法曹の未来を創る会
第三者委員会報告書格付け委員会 委員長	2014年4月～	第三者委員会報告書格付け委員会

熊田 彰英 (くまだ あきひで) 教授



出生年：1969(昭和44)年12月25日
 在籍：2014(平成26)年4月～
 最終学歴：京都大学法学部
 学位：法学士
 学位論文：
 専門分野：刑事法, 刑事実務, 国際司法, 韓国法制
 前職：法務省大臣官房秘書課(検事)
 学内役職等：
 留学：
 資格：弁護士(のぞみ総合法律事務所)
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
実際の事件・実務を意識した教育	2014年4月～	毎回、判例・時事問題のほか、自らが実務で担当した事件等について適宜言及し、現在習得しようとしている理論・知識が将来実務においてどのような形で役立つか、また、いかなる場面で必要か、学生が具体的なイメージを持てるよう適宜工夫している。

II 研究活動

○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
セミナー「検事の取調べ手法に学ぶ調査・面接の基礎」	2015年5月	一般社団法人 日本公認不正検査士協会	八重洲セミナールーム
○その他			
(その他特記事項)			
ドラマ「HERO」リーガルアドバイザー (2014年7月～)			
「スーパーニュース」コメンテーター (2014年7月～)			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
第二東京弁護士会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
平成26年4月～現在	非弁護士取締委員会幹事

IV 法律実務に関する活動

会の名称	年月日	場所	内容等
弁護士	2014年4月～現在	のぞみ総合法律事務所	司法実務

小林 学 (こばやし まなぶ) 教授



出生年：1969(昭和44)年
 在籍：2002(平成14)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科博士後期課程
 学位：法学修士
 学位論文：自律的規範構造モデルの構築による民事訴訟法学の学問的復権—実体法と訴訟法の規範的連関論—
 専門分野：民事訴訟法、司法アクセス、法曹論
 前職：桐蔭横浜大学法学部教授
 学内役職等：学務部副部長(2013年4月～)、法務専攻長(2015年4月～)
 非常勤講師：亜細亜大学法学部
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(3) Syllabus@Net、スマートキャンパスによるレジュメの公開と課題出題	2012年度～2016年度	法科大学院科目の「民事法総合演習3」のレジュメ(課題含む)をSyllabus@Net上にアップロードしたうえ、受講者が各自でダウンロードして教室に持参するよう指示した。なお、法科大学院科目の「民事訴訟法」についても、2013年度以降、同様の方法による授業展開を実施している(2016年度よりスマートキャンパスを利用)。

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略			
1. 「司法アクセス」をモチーフとしつつ、民事訴訟の証拠収集の拡充傾向を考察し、韓国・忠北大学校での東北アジア民事訴訟法学会主催の国際シンポジウムにおいて、日本における証拠収集拡充の方向を社会実態の変化で迎るとともに、司法アクセスの視点からの展望を示す報告を行った。帰国後、報告をまとめなおし、公刊するに至った(比較法雑誌50巻1号175頁以下掲載)。 2. 平成23年度に実施した「碩学にきく」の文章を整える作業を通じて、戦後の司法制度を概観した。 3. 文部科学省の「平成28年度法科大学院公的支援見直し強化・加算プログラム」において本学法科大学院の「職域拡大に向けた“コンプライアンスのパイオニア養成”プログラム」が「優れた取組」として採択されたことから、単なる法令順守にとどまらないコンプライアンスの核心に何があるのか、法の用い方と意思決定プロセスの関係いかんなどについて考察を進めていくことに研究の方向性を定めた。			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名
口頭報告「日本民事訴訟法における証拠収集」	2015年10月24日	第8回東北アジア民事訴訟法国際学会主催国際シンポジウム(忠北大学校/韓国 忠清北道清州市)	小林学
○その他			
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
第8回東北アジア民事訴訟法国際学会主催国際シンポジウムでの発表	2015年10月23日～25日	忠北大学校(韓国)	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本法社会学会、日本民事訴訟法学会、日本私法学会、仲裁ADR法学会、司法アクセス学会、東北アジア民事訴訟法国際学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2008年10月～現在	東北アジア民事訴訟法国際学会日本事務局
2010年12月～現在	司法アクセス学会事務局

中 島 肇 (なかじま はじめ) 教授



出 生 年 : 1955(昭和30)年
 在 籍 : 2007(平成19)年4月～
 最 終 学 歴 : 東京大学法学部
 学 位 :
 学 位 論 文
 専 門 分 野 : 民法、企業法、倒産法、農業法、医療・福祉法
 前 職 : 東京高等裁判所判事
 学 内 役 職 等 :
 留 学 :
 資 格 :
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 :

Ⅲ学会等および社会における主な活動

任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2008年～現在	司法試験考査委員(商法)	
	全農福岡パールライス株式会社不適正取引調査委員会・委員長	
	事業再生研究機構(理事長・多比羅誠)会員研究員	
	地方自治法務研究会(座長・交告尚史東大教授)監事	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
全国銀行協会あっせん委員会小委員長	2011年4月～現在	全国銀行協会
参議院情報後悔苦情審査会委員	2011年4月～現在	参議院事務局
原子力損害賠償紛争審査会委員	2011年4月～現在	文部科学省

Ⅳ法律実務に関する活動

任期、活動期間等	活動内容等
	弘済事業株式会社民事再生手続申立代理人(東京地方裁判所)
	国際書房民事再生事件申立代理人(東京地方裁判所)
	破産事件管財人3件(東京地方裁判所)

福井康佐 (ふくい こうすけ) 教授



出生年：1961(昭和36)年
在籍：2012(平成24)年4月～
最終学歴：学習院大学大学院法学研究科法律学専攻博士後期課程
学位：博士(法学)
学位論文：「国民投票の研究」(博士論文)
専門分野：直接民主制・憲法訴訟・選挙運動規制
前職：大宮法科大学院教授
学内役職等：法務研究科法務専攻長(2012～2014)
留学：
資格：
非常勤講師：
受賞・表彰：

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略

憲法改正国民投票の比較研究を行う。欧米の収容実施国の憲法改正国民投票の運用実態を調査し、日本の憲法改正国民投票の運用の在り方を考察する。とくに、憲法改正案の作成方法を重点的に研究する。本研究は、憲法改正国民投票という題で、出版を計画している。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

憲法理論研究会、比較憲法学会

宮 島 里 史 (みやじま さとし) 教授



出 生 年 : 1951(昭和26)年
 在 籍 : 1994(平成6)年4月～
 最 終 学 歴 : 中央大学大学院博士後期課程終了
 学 位 : 法学修士(中央大学)
 学 位 論 文 : Master of Laws (Northwestern Univ. School of Law)
 Waiver of the Sixth Amendment Right to Counsel at the
 Pretrial Stages (Northwestern Univ. School of Law)
 専 門 分 野 : 憲法、刑事訴訟法、少年法
 前 職 :
 学 内 役 職 等 :
 留 学 : Northwestern Univ. School of Law (U.S.A)
 資 格 :
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 :

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
プライマリー刑事訴訟法(第五版)	共著	2016年3月	不磨書房	椎橋隆幸編	第13章, 第14章, 第15章, 第26章

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本刑法学会、日米法学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2008年2月～現在	第二東京弁護士会懲戒委員会委員

菅谷 貴子 (すがや たかこ) 准教授



出生年 : 1972(昭和47)年
 在籍 : 2010(平成22)年4月～
 最終学歴 : 慶應義塾大学法学部法律学科
 学位 :
 学位論文 :
 専門分野 : 刑事法、労働法、会社商事関係全般 等
 前職 :
 学内役職等 :
 留学 :
 資格 : 弁護士(第二東京弁護士会)
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本民事訴訟法学会、(財)日本法律家協会、司法アクセス学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2004年4月～現在	(財)金融情報システムセンター検討部会委員
2006年4月～現在	司法修習委員会委員
2006年6月～現在	(社)全国民営職業紹介事業協会 理事
2006年6月～現在	(株)キーウォーカー 監査役
2007年6月～現在	(株)フェイス 監査役
2007年8月～現在	メディアスティック(株) 監査役
2010年3月～現在	(財)楠田育英会 常務理事

千葉 理 (ちば おさむ) 准教授



出生年 : 1963(昭和38)年
 在籍 : 2010(平成22)年4月～
 最終学歴 : 東京大学法学部
 学位 :
 学位論文 :
 専門分野 : 会社法・商法
 前職 : 三菱商事株式会社勤務(1987～1999)
 学内役職等 :
 留学 :
 資格 : 弁護士(第二東京弁護士会)・曙綜合法律事務所
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
4.法律実務教育に関する特記事項		
複数の顧問先への会社法等の研修会(買収防衛策及び会社法の改正動向等)に講師として参加した。またいくつかの株主総会指導を行い株主総会に参加した。		
5.その他教育活動上特記すべき事項		
教務委員会委員として教務委員会にまた定期的で開催されるFD研究会に参加し、よりよい法科大学院としての教員の質の向上のための議論に参加した。		

III 学会等および社会における主な活動

任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2006年4月～現在	第二東京弁護士会民事介入暴力被害者救済センター運営委員会委員

中野 邦保 (なかの くにやす) 准教授



出生年：1976(昭和51)年
 在籍：2005(平成17)年4月～
 最終学歴：名古屋大学大学院法学研究科博士後期課程
 学位：法学修士
 学位論文：行為基礎論における等価関係破壊の評価
 専門分野：民法
 前職：
 学内役職等：
 留学：
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)ソクラテスマソッドによる講義	2005年度～	少人数の講義において、出欠席・評価とを連動しつつ、問答形式で、学生の理解度を確認しながら民法の授業を行っている。

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略					
<p>・私法体系の再編に向けた基礎的研究 「立法論の時代」とも呼ぶべき世界的な法変動の背景には、資本主義の高度化・複雑化に伴う法化現象やグローバル化の進展による「法の質的变化」とともに、「近代私法体系の限界」(近代の仮象性と現実との間隙)の顕在化という問題が潜んでいると考える。そこで、次の時代を担う新たな私法体系モデルを再編すべく、学際的な観点から、考うる新たな私法体系モデルについて研究している。具体的には、資本主義の発展に伴う予測可能性・法的安定性の要請から「固定性・画一性」を重視した、ある種、設計主義的な単一的な私法体系モデルから、資本主義の成熟化・グローバル化の進展により社会・経済活動の流動化・世界化が増し、複雑かつ多元的な様相を呈する現代社会に適合しうるような、「柔軟性・継続性(プロセス化)」を加味した可変的な私法体系モデルを模索している。</p> <p>・日本民法典財産法編・担保法の改正に向けた立法論的研究 上記の基礎的研究は、最終的には、民法典において、それをいかに結実させるかという問題にたどり着くことから、現行民法典の各条文の問題点を考察したうえで、具体的な紛争解決に資し現代に適した、よりよい民法改正条文案の検討を継続的に行なっている。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
『民事判例XI 2015年前期』	共著	2015年10月	日本評論社	現代民事判例研究会編	「取引裁判例の動向」3-17頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「取引裁判例の動向」	2015年7月25日	現代民事判例研究会			
『民法改正研究会『日本民法典改正案』第一編 総則』	2015年10月24日・25日	中国法学会主催「第1回中日韓法律シンポジウム」(山東大学)	(第1分科会「民商事法の具体的な問題点の検討」のコメントーターとして、日中韓の8件の報告につきコメント)		

○その他		
(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
日本民法典財産法・担保法編の改正(課題番号:25245011、代表:加藤雅信)	2013年4月～2018年3月	科学研究費補助金(基盤研究(A)) 研究分担者

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本私法学会、日本法哲学会

弓削田 博 (ゆげた ひろし) 准教授



出生年 : 1974(昭和49)年1月9日
在籍 : 2010(平成22)年4月～
最終学歴 : 明治大学法学部
学位 : 法学士
学位論文 :
専門分野 : 知的財産法, 企業法務, 広告規制法
前職 :
学内役職等 :
留資格 :
資 格 : 弁護士(2000年登録 小林・弓削田法律事務所)
非常勤講師 :
受賞・表彰 :

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本工業所有権法学会, 法とコンピュータ学会, エンターテインメント・ロイヤーズ・ネットワーク, 全国倒産処理弁護士ネットワーク		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
社外監査役	2007年6月～2015年6月	株式会社ゼンリン

Ⅳ法律実務に関する活動

任期、活動期間等	活動内容等
2014年4月～現在	工業所有権審議会臨時委員(特定侵害訴訟代理業務試験委員)

平岩 桃子 (ひらいわ ももこ) 助手



出生年 : 1980(昭和55)年
在籍 : 2011(平成23)年1月～
最終學歷 : 桐蔭横浜大学法科大学院法務研究科博士課程修了
學位 : 法務博士
學位論文 :
専門分野 :
前職 :
学内役職等 : 法科大学院教育助手
留学 :
資格 : 弁護士(城山タワー法律事務所)
非常勤講師 :
受賞・表彰 :

加藤 幸嗣 (かとう こうじ) 特任教授



出生年：1953(昭和28)年
在籍：2004(平成16)年10月～
最終学歴：東京大学法学部
学位：法学士
学位論文：
専門分野：行政法、地方自治法、環境法
前職：参議院法制局参事、山口大学助教授、国土舘大学教授等

学内役職等：
留学：
資格：
非常勤講師：
受賞・表彰：

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本公法学会、日本行政学会、自治体学会、日本環境学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
	行政経営フォーラム(PMFJ)等における行政関係者等との交流活動等

先端医用工学センター (Biomedical Engineering Center)

奥井 理 予 (おくい みちよ) 専任講師



出 生 年 : 1972(昭和47)年
 在 籍 : 2005(平成17)年4月～
 最 終 学 歴 : 広島大学大学院医学系研究科博士課程後期修了
 学 位 : 博士(薬学)
 学 位 論 文 : ダウン症関連領域からクローニングされたMNB遺伝子の発現解析
 専 門 分 野 : 分子生物学、細胞生物学
 前 職 : 慶応義塾大学医学部助手
 学 内 役 職 等 :
 留 学 : St. Jude Children's Research Hospital (アメリカ) (2008年11月～2010年9月)
 資 格 : 薬剤師免許
 非 常 勤 講 師 : 国立大学法人電気通信大学
 受 賞 ・ 表 彰 :

II 研究活動

○2015年度の研究活動概略					
2015年度は、マウス脳腫瘍細胞を用い、PARP阻害剤によって発現が上昇する3種類のmicroRNAを同定した。これら3種類のmicroRNAをマウス脳腫瘍細胞に過剰発現させた後、PARP阻害剤を処理した結果、細胞増殖が抑制されることを明らかにした。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
Increased oxidative stress in AOA3 cells disturbs ATM-dependent DNA damage responses	共著	2015年4月	Mutation Research/Genetic Toxicology and Environmental Mutagenesis Vol. 782	Kobayashi J, Fujimoto H, Okui M, Saito Y, Miwa N, Lavin M, Komatsu K.	p.42-50
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(ポスター発表) MicroRNA-203 modulates olaparib sensitivity in medulloblastoma cells	2015年10月11-14日	The 16th Ataxia-Telangiectasia Workshop (北京)	Junya Kobayashi, Kenshi Komatsu, Youngsoo Lee, Helen R. Russell, Peter J. McKinnon		
○その他					
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
科学研究費補助金 基盤研究(C) PARP阻害剤感受性を亢進するmicroRNAの同定と新規併用療法の開発	2015年4月～2018年3月	科学研究費補助金(日本学術振興会)			

(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
The 16th Ataxia-Telangiectasia Workshop	2015年10月11日～14日	北京師範学校(中国)
(その他特記事項)		
京都大学放射線生物研究センター重点領域研究(2011～2015年度) マウス脳腫瘍におけるDNA修復経路と効果的化学療法剤の検討		

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本薬学会、日本癌学会、日本分子生物学会、アメリカ癌学会(American Association for Cancer Research)

公開講座・セミナー・シンポジウム・イベント等開催

(シンポジウム開催)

桐蔭コンプライアンス・リサーチ教育センター設立記念シンポジウム

日時: 2016年3月26日(土)12時30分～16時00分

場所: 桐蔭学園アカデミウム B2F ポロニアホール

プログラム概要

12:30【第1部】設立記念講演会(12:30～13:30)

◇挨拶:「桐蔭法科大学院の社会的貢献」(12:35～12:45)

桐蔭横浜大学 学長・小島武司 氏

◇基調講演:「経営とコンプライアンスと法科大学院」(12:45～13:15)

桐蔭コンプライアンス・リサーチ教育センター長・久保利英明 氏

(桐蔭法科大学院教授、弁護士、金融庁総務企画局参事[法令等遵守調査室顧問]、株式会社日本取引所グループ 社外取締役)

13:15【第2部】“コンプライアンスのパイオニア養成”プログラムの紹介(13:15～13:30)

桐蔭法科大学院長 蒲 俊郎 氏(桐蔭法科大学院教授、弁護士)

13:30 ～休憩～

13:40【第3部】パネルディスカッション(13:40～15:30)

テーマ:「コンプライアンスの Value—法科大学院修了生の活躍と社会への貢献—」

◇コーディネーター

大澤 恒夫 氏(元日本 IBM 法務担当、桐蔭法科大学院教授、弁護士)

◇パネリスト

久保利英明氏(桐蔭コンプライアンス・リサーチ教育センター長)

中島 肇氏 (元東京高等裁判所判事、桐蔭法科大学院教授、弁護士、原子力損害賠償紛争審査会委員)

熊田 彰英氏 (元最高検察庁検事、元法務省大臣官房秘書課付検事、桐蔭法科大学院教授、弁護士)

越後 純子氏 (虎ノ門病院医療安全部、Medius ホールディングス社外取締役、医師、弁護士、桐蔭法科大学院修了)

貝原 怜太氏 (弁護士、桐蔭横浜大学法学部卒業、桐蔭法科大学院修了)

城森 徹氏 (桐蔭法科大学院法務博士課程在籍、外資系金融機関の法務部ディレクター、米国 NY 州弁護士)

ほか

15:30【陪審法廷等見学】(15:30～16:00)

16:00【懇親会】(16:00～17:30) 会場:カフェポロニア(桐蔭学園アカデミウム 2F)

(国際シンポジウム開催)

桐蔭医用工学国際シンポジウム2015(第10回)

The 10th Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2015

日時:2015年11月14日(土)9:00~18:15

場所:桐蔭学園アカデミウム

Program

Plenary session —invited speakers—

- Session 1 :** Revascularization - capillaries to large vessels: current research, clinical applications and future directions
Dr. Peter S. McFetridge
Associate Professor, Department of Biomedical Engineering
University of Florida, U.S.A.
- Session 2 :** Shedding Light on Cardiovascular Research Using Zebrafish as A Model Organism
Dr. Ian Liao
Professor, Department of Applied Chemistry and Department of Biological Science and Technology
National Chiao Tung University, TAIWAN
- Session 3 :** Genome Engineering Today: The sky is the limit?
Dr. Sjef Verbeek
Associate Professor, Department of Human Genetics
Leiden University Medical Center, THE NETHERLANDS
- Session 4 :** Towards Beside Visualization of Complex Flow Dynamics Using High Frame Rate Ultrasound
Dr. Alfred Yu
Associate Professor, Department of Electrical and Computer Engineering
University of Waterloo, CANADA

Oral presentation

- Presentation 1 :** Mr. Shinobu YAMAUCHI
Doctoral Student / Graduate School of Engineering, TOIN University of Yokohama
- Presentation 2 :** Mr. Ashish KULKARNI
Doctoral Student / Graduate School of Engineering, TOIN University of Yokohama
- Presentation 3 :** Mr. Shuntaro OHKI
Graduate Student / Graduate School of Engineering, TOIN University of Yokohama
- Presentation 4 :** Mr. Takahiro NAGASHIMA
Graduate Student / Graduate School of Engineering, TOIN University of Yokohama
- Presentation 5 :** Mr. Kazuki HIROSE
Graduate Student / Graduate School of Engineering, TOIN University of Yokohama
- Presentation 6 :** Mr. Makoto HOSAKI
Graduate Student / Graduate School of Engineering, TOIN University of Yokohama
- Presentation 7 :** Ms. Fusako HIRONO
Graduate Student / Graduate School of Engineering, TOIN University of Yokohama
- Presentation 8 :** Mr. Norikazu KOMORIYA
Doctoral Student / Graduate School of Engineering, TOIN University of Yokohama
- Presentation 9 :** Dr. Kazunori OKANO
Assistant Researcher / Center for Interdisciplinary Science, National Chiao Tung University, TAIWAN
- Presentation10 :** Dr. Sumio ISHIJIMA
Assistant Professor / Graduate School of Bioscience and Biotechnology, Tokyo Institute of Technology
- Presentation11 :** Dr. Keitaro HAGIWARA
Assistant Professor / Department of Biochemistry, University of Occupational and Environmental Health

Presentation12 : Ms. Donna Maretta ARIESTANTI
Doctoral Student / Graduate School of Bioscience and Biotechnology, Tokyo Institute of Technology

Presentation13 : Ms. Chuyi WU
Graduate Student / Precision and Inteligence Laboratory, Tokyo Institute of Technology

Poster presentation

BIOMEDICAL ENGINEERING — 15 posters

CLINICAL ENGINEERING — 25 posters

FRONTIER ENGINEERING — 9 posters

(イベント／学内)

第17回おもしろ理科教室

日時： 2015年8月18日(火)10:00～15:30

場所： 桐蔭横浜大学 法学部棟 他

対象： 小学生以上の児童、生徒およびその保護者 他

実施テーマ

「じゃんぼシャボン玉に挑戦」

「手笛にチャレンジ！」

「空気砲を作ろう！」

「生物の光を作ってみよう」

「わくわく実験教室 犯人は誰だ？化学の技で謎を解け！」

「なりきり裁判官」

「電気のでコインを飛ばそう」

「力を実感してみよう」

「さわれない黒いかべ！ 偏光って何だ？」

「風も吹いていないのに葉っぱが揺れる？」

「熱機関てなに？ドライアイスで進むポンポン船」

「モーターを作ってみよう」

「サボテンのふしぎ発見」

「わくわく病院ごっこ」

「マイクロの世界を探険しよう」

「ペットボトルで遊ぼう」

「ブーメランを飛ばそう」

「体育館遊園地化計画」

「桐蔭英語村」(静電気の不思議、団扇作りなど)

「新体育館工事現場見学ツアー」

特別授業「ヒトの身体はどうなってるの？」

特別授業「知れば知るほどおもしろい血液の話」

(イベント／学外)

tvk 秋じゃないけど収穫祭(tvkかながわ合同大学祭)

日時: 2015年5月31日(日) 13時～14時30分

場所: 象の鼻パーク

主催: テレビ神奈川

内容: ミスキャンパスが集合し、多くの来場者に県内の大学の魅力をPRするイベント。本学はミスキャンパスが大学紹介をし、玉入れでも3位と健闘した。ステージでダンスサークル「VIIIarious」が参加した。見事、初代総合優勝校になった。

大学で学ぼう生涯学習フェア

日時: 2015年7月10日(金) 11時～16時

場所: 聖セシリア女子短大

主催: かながわ大学生涯学習推進協議会(県内68大学と県教育委員会、県立図書館生涯学習サポート課)

内容: さかなクン氏(東京海洋大学名誉博士)・吉永龍起氏(北里大学准教授) 両氏による講演。参加大学38校の資料と生涯学習の情報冊子配布コーナーあり。

かながわ発・中高生のためのサイエンスフェア

日時: 2015年7月11日(土) 10時～17時30分

場所: そごう横浜店 新都市ホール

主催: かながわ発・中高生のためのサイエンスフェア実行委員会(県、県教育委員会、参加大学、神奈川科学技術アカデミー、県内25大学・県内3社)

内容: 科学の不思議や理工系の魅力を直接体験できる。各参加大学による実験体験ブース。本学は手術等に使う電気メスの体験やAED装置の使い方など体験して頂いた。

第29回「あざみ野まつり」

日時: 2015年8月28日(土) 14時～21時

場所: あざみ野

主催: あざみ野まつり実行委員会

内容: テント張り、あざみ野商店街の方の模擬店の手伝い(地元地域の方とのコミュニケーション)

アオロクまつり2015

日時: 2015年9月6日(日) 10時～17時

場所: たまプラーザ テラス

主催: 青葉区役所区政推進課、青葉6大学

内容: 青葉6大学学生が中心となり、各大学テントブースをだし小学生以下対象で実験や体験を行う。本学はボランティアサークル「Arch」が盲導犬育成のためのグッズ販売・募金活動を行った。

ヨコハマ大学まつり

日時： 2015年10月3日(土)・4日(日) 10時30分～18時30分

場所： みなとみらい21地区 クイーンズスクエア

主催： ヨコハマ大学まつり実行委員会

内容： 市内参加大学が各団体ステージパフォーマンスを行ったり、教室で講座や実験・体験を行う。本学はステージパフォーマンスでダンスサークル2団体、音楽部が参加。教室講座で「医療技術者ってどんな仕事！」をテーマに医用工学部 米坂教授が講演をした。

青葉区民まつり

日時： 2015年11月3日(火) 10時～15時

場所： 青葉区総合庁舎

主催： 青葉ふるさと協議会・青葉区民まつり運営委員会

内容： ボランティアサークル「Arch」が参加して、模擬店(岩手県大槌町の物産展)、ステージの手伝い。

秋のファミリーウォーク

日時： 2015年11月22日(日) 9時30分～14時

場所： 桐蔭周辺(早野)

主催： 青葉区役所福祉保健課健康づくり係・桐蔭横浜大学

内容： ミニ講座(櫻井先生によるウォーキングのコツ)、コース解説、桐蔭の学生と一緒にウォーキング、交流タイム。

青葉台祭り マルシェぶらり～と青葉台2015

日時： 2015年12月5日(土) 10時～15時

場所： 青葉台駅前

主催： マルシェぶらり～青葉台実行委員会

内容： 近隣の学校がステージでダンス・吹奏楽など発表(本学はダンスサークル参加)各ブースで模擬店など(本学はボランティアサークル「Arch」が盲導犬育成支援活動を行った)

横浜サンタプロジェクト2015

日時： 2015年12月12日(土) 11時～16時

場所： パシフィコ横浜円形広場など

主催： サンタが街にやってきた！2015実行委員会

内容： 参加者がサンタになって横浜に笑顔を届けるプロジェクト。ステージサンタ・ブースサンタ・清掃サンタ・訪問サンタ・ドライブサンタ 等。(本学はステージサンタにダンスサークル2団体参加)

さくらミステリーウォーク

日時： 2016年3月27日(日) 9時～12時

場所： 桐蔭周辺(江田～学園)

主催： 青葉区役所福祉保健課健康づくり係・桐蔭横浜大学

内容： 近隣の最寄り駅から桐蔭横浜大学周辺・近隣の桜を愛でつつ、遺跡や来し方の歴史に思いをめぐらし、体を動かす喜びとともに様々な文化に触れ知的探求の喜びや楽しさを感じて頂く。

2015年度 第I期
桐蔭生涯学習センター講座一覧表

講座番号	講座名	講師	講義日	時間	回数	受講料
01	現代と宗教	八木 誠一 (元桐蔭横浜大学教授)	4月23日～ 6月25日	10:30～ 12:00	10	15,000
02	パウロと現代		4月23日～ 6月25日	13:00～ 14:30	10	15,000
03	短歌 実作の楽しみ	佐佐木 朋子 (歌誌「心の花」編集委員)	4月21日～ 6月30日	13:00～ 14:30	9	13,500
04	続日本紀を読む(19)	寺田 恵子 (日本女子大学非常勤講師)	5月25日～ 6月22日	10:40～ 14:30	8	12,000
05	イスラームとキリスト教の対話	久山 宗彦 (カイロ大学客員教授)	4月22日～ 7月8日	10:40～ 12:10	10	15,000
06	ゼロから始めるスペイン語 -入門編-	高橋 悦子 (日本ペルー共生協会副会長) 山城 リタ (スペイン語講師)	5月13日～ 7月8日	10:40～ 12:10	9	13,500
07	基礎スペイン語講座① -文化と共に学ぶ-		5月13日～ 7月8日	10:40～ 12:10	9	13,500
08	スペイン語会話 -ネイティブの先生と共に学ぶ-	山城 リタ (スペイン語講師)	5月13日～ 7月8日	13:00～ 14:30	9	13,500
09	街角のフランス語	照木 健 (元桐蔭横浜大学教授)	4月25日～ 7月4日	10:40～ 14:30	12	18,000
10	初級中国語	韓 寧 (桐蔭横浜大学准教授)	4月20日～ 7月6日	13:00～ 14:30	11	16,500
11	中上級中国語		4月20日～ 7月6日	14:40～ 16:10	11	16,500
12	ゼロから始める韓国語 -入門編-	兪 三善 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	5月8日～ 7月10日	13:00～ 14:30	10	20,000
13	初級韓国語		4月24日～ 7月10日	10:40～ 12:10	12	24,000
14	簡単だけれど、お洒落な英語の読み書き -Creative Reading and Writing-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	4月21日～ 6月30日	13:00～ 14:30	10	15,000
15	学びなおす英語 -中級程度-	岡田 俊恵 (桐蔭横浜大学教授)	4月24日～ 7月10日	13:00～ 14:30	12	18,000
16	学びなおす英語 -上級程度-		4月24日～ 7月10日	14:50～ 16:20	12	18,000
17	English is fun ! -初級英会話A-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	4月23日～ 7月9日	13:00～ 14:30	12	18,000
18	Let's Talk:Life in Japan and Abroad -初級英会話B-	ジョシュ・ニーランズ (ウエストゲイト専任講師)	5月7日～ 7月9日	13:00～ 14:30	10	15,000
19	Let's Talk:Life in Japan and Abroad -初級英会話C-	マット・バックingham (ウエストゲイト専任講師)	5月12日～ 7月14日	14:40～ 16:10	10	15,000
20	You Can Do it in English ! -中級英会話A-	ジェームズ・グラジアニ (桐蔭学園講師)	4月20日～ 6月29日	10:50～ 12:20	10	15,000
21	Broaden Your Horizons ! (自分の視野を広げる) -中級英会話B-	アンドリュー・バーク (桐蔭学園講師)	4月23日～ 7月2日	10:50～ 12:20	10	15,000
22	Advanced English Conversation -上級英会話-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	4月23日～ 7月9日	10:40～ 12:10	12	18,000
23	特許翻訳講座⑥ -訳語選択の「なぜ」を考える-	水野 麻子 (特許翻訳者)	4月23日～ 7月16日	10:40～ 12:10	7	10,500
24	朗読を楽しむ I	鈴木 正導 (元NHKアナウンサー)	4月23日～ 7月2日	10:40～ 12:10	10	15,000
25	朗読を楽しむ II		4月23日～ 7月2日	13:00～ 14:30	10	15,000
26	初めての写真講座 -一眼レフ入門-	玄 一生 (写真家)	4月21日～ 7月7日	10:40～ 12:10	10	20,000
27	楽しい写真講座		4月21日～ 7月7日	13:00～ 14:30	10	20,000

2015年度 第I期
桐蔭生涯学習センター講座一覧表

講座番号	講座名	講師	講義日	時間	回数	受講料
28	たのしいフルーツアンサンブル (午前クラス)	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	5月8日～ 7月3日	10:40～ 12:10	9	18,000
29	たのしいフルーツアンサンブル (午後クラス)		5月8日～ 7月3日	13:00～ 14:30	9	18,000
30	表現を豊かにするワークショップ	真山 葉瑠 (元宝塚歌劇団)	4月24日～ 7月17日	13:00～ 14:30	12	18,000
31	ちょこっとSALSA!		4月24日～ 7月17日	18:00～ 19:30	12	18,000
32	健康体操 -リズム&ストレッチ-		4月24日～ 7月17日	15:10～ 16:10	12	12,000
33	季節の薬膳12カ月&食材帳-春夏編-	大根田 笑子 (国際中医薬膳師)	4月27日～ 7月6日	13:00～ 14:30	6	9,000

2015年度 第Ⅱ期
桐蔭生涯学習センター講座一覧表

講座番号	講座名	講師	講義日	時間	回数	受講料
01	現代と宗教	八木 誠一 (元桐蔭横浜大学教授)	10月1日～ 12月3日	10:40～ 12:10	10	15,000
02	短歌 実作の楽しみ	佐佐木 朋子 (歌誌「心の花」編集委員)	9月29日～ 12月8日	13:00～ 14:30	9	13,500
03	続日本紀を読む(20)	寺田 恵子 (日本女子大学非常勤講師)	9月4,7,10, 14,17日	10:40～ 14:30	10	15,000
04	イスラームとキリスト教の対話	久山 宗彦 (カイロ大学客員教授)	9月30日～ 12月2日	10:40～ 12:10	10	15,000
05	ゼロから始めるスペイン語 -入門編-	高橋 悦子 (日本ペルー共生協会副会長)	10月7日～ 11月25日	10:40～ 12:10	8	12,000
06	基礎スペイン語講座② -文化と共に学ぶ-	山城 リタ (スペイン語講師)	10月7日～ 11月25日	10:40～ 12:10	8	12,000
07	スペイン語会話 -ネイティブの先生と共に学ぶ-		10月7日～ 11月25日	13:00～ 14:30	8	12,000
08	街角のフランス語	照木 健 (元桐蔭横浜大学教授)	10月3日～ 12月19日	10:40～ 14:30	12	18,000
09	初級中国語	韓 寧 (桐蔭横浜大学准教授)	9月28日～ 12月14日	13:00～ 14:30	10	15,000
10	中上級中国語		9月28日～ 12月14日	14:40～ 16:10	10	15,000
11	ゼロから始める韓国語 -入門編-	俞 三善 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	10月2日～ 12月11日	13:00～ 14:30	11	22,000
12	初級韓国語		10月2日～ 12月11日	10:40～ 12:10	11	22,000
13	簡単だけれど、お洒落な英語の読み書き -Creative Reading and Writing-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	9月29日～ 12月8日	13:00～ 14:30	10	15,000
14	学びなおす英語 -中級程度-	岡田 俊恵 (桐蔭横浜大学教授)	10月2日～ 12月18日	13:00～ 14:30	12	18,000
15	学びなおす英語 -上級程度-		10月2日～ 12月18日	14:50～ 16:20	12	18,000
16	English is fun ! -初級英会話A-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	10月1日～ 12月10日	13:00～ 14:30	11	16,500
17	Let's Talk:Life in Japan and Abroad -初級英会話B-	ジョシュ・ニーランズ (ウエストゲイト専任講師)	10月1日～ 12月17日	13:00～ 14:30	12	18,000
18	Let's Talk:Life in Japan and Abroad -初級英会話C-	マット・バッキンガム (ウエストゲイト専任講師)	9月29日～ 12月22日	13:00～ 14:30	12	18,000
19	You Can Do it in English ! -中級英会話A-	ジェームズ・グラジアニ (桐蔭学園講師)	9月28日～ 12月14日	10:50～ 12:20	10	15,000
20	Broaden Your Horizons ! (自分の視野を広げる) -中級英会話B-	アンドリュー・バーク (桐蔭学園講師)	10月8日～ 12月3日	10:50～ 12:20	8	12,000
21	Advanced English Conversation -上級英会話-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	10月1日～ 12月10日	10:40～ 12:10	11	16,500
22	特許翻訳講座⑦ -訳語選択の「なぜ」を考える-	水野 麻子 (特許翻訳者)	10月1日～ 12月10日	10:40～ 12:10	6	9,000
23	朗読を楽しむ I	鈴木 正導 (元NHKアナウンサー)	10月1日～ 12月3日	10:40～ 12:10	10	15,000
24	朗読を楽しむ II		10月1日～ 12月3日	13:00～ 14:30	10	15,000
25	楽しい写真講座 -一眼レフを使いこなそう!-(午前クラス)	玄 一生 (写真家)	9月29日～ 12月15日	10:40～ 12:10	11	22,000
26	楽しい写真講座 -一眼レフを使いこなそう!-(午後クラス)		9月29日～ 12月15日	13:00～ 14:30	11	22,000
27	たのしいフルーツアンサンブル (午前クラス)	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	10月2日～ 12月4日	10:40～ 12:10	9	18,000

2015年度 第Ⅱ期
桐蔭生涯学習センター講座一覧表

講座 番号	講座名	講師	講義日	時間	回数	受講料
28	たのしいフルーツアンサンブル (午後クラス)	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	10月2日～ 12月4日	13:00～ 14:30	9	18,000
29	表現を豊かにするワークショップ	真山 葉瑠 (元宝塚歌劇団)	10月9日～ 12月18日	15:15～ 16:45	11	16,500
30	ちよこつとSALSA!		10月9日～ 12月18日	18:00～ 19:30	11	16,500
31	健康体操 -リズム&ストレッチ-		10月9日～ 12月18日	13:15～ 14:30	11	13,750
32	季節の薬膳12カ月&食材帳-秋冬編-	大根田 笑子 (国際中医薬膳師)	10月5日～ 12月7日	13:00～ 14:30	6	9,000

2015年度 第Ⅲ期
桐蔭生涯学習センター講座一覧表

講座番号	講座名	講師	講義日	時間	回数	受講料
01	現代と宗教	八木 誠一 (元桐蔭横浜大学教授)	1月7日～ 3月17日	10:40～ 12:10	8	12,000
02	短歌 実作の楽しみ	佐佐木 朋子 (歌誌「心の花」編集委員)	1月12日～ 3月1日	13:00～ 14:30	6	9,000
03	続日本紀を読む(21)	寺田 恵子 (日本女子大学非常勤講師)	2月29日, 3月 7, 10, 14, 17日	10:40～ 14:30	11	16,500
04	ゼロから始めるスペイン語 -入門編-	高橋 悦子 (日本ペルー共生協会副会長)	1月13日～ 3月2日	10:40～ 12:10	6	9,000
5	基礎スペイン語講座 -文化と共に学ぶ-	山城 リタ (スペイン語講師)	1月13日～ 3月2日	10:40～ 12:10	6	9,000
6	スペイン語会話 -ネイティブの先生と共に学ぶ-		1月13日～ 3月2日	13:00～ 14:30	6	9,000
7	街角のフランス語	照木 健 (元桐蔭横浜大学教授)	1月9日～	10:40～ 14:30	10	15,000
8	初級中国語	韓 寧 (桐蔭横浜大学准教授)	1月18日～ 3月7日	13:00～ 14:30	5	7,500
9	中上級中国語		1月18日～ 3月7日	14:40～ 16:10	5	7,500
10	ゼロから始める韓国語 -入門編-	兪 三善 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	1月8日～ 3月18日	13:00～ 14:30	8	16,000
11	中級韓国語		1月8日～ 3月18日	10:40～ 12:10	8	16,000
12	簡単だけれど、お洒落な英語の読み書き -Creative Reading and Writing-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	1月12日～ 2月23日	13:00～ 14:30	6	9,000
13	学びなおす英語	岡田 俊恵 (桐蔭横浜大学教授)	1月29日～ 2月19日	13:00～ 14:30	4	6,000
14	学びなおす英語 -上級程度-		1月29日～ 2月19日	14:50～ 16:20	4	6,000
15	English is fun! -初級英会話A-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	1月7日～ 3月3日	13:00～ 14:30	6	9,000
16	You Can Do it in English! -中級英会話A-	ジェームズ・グラジアニ (桐蔭学園講師)	1月18日～ 3月7日	10:50～ 12:20	5	7,500
17	Broaden Your Horizons! (自分の視野を広げる) -中級英会話B-	アンドリュー・バーク (桐蔭学園講師)	1月14日～ 3月17日	10:50～ 12:20	7	10,500
18	Advanced English Conversation -上級英会話-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	1月7日～ 3月3日	10:40～ 12:10	6	9,000
19	朗読を楽しむ I	鈴木 正導 (元NHKアナウンサー)	1月7日～ 3月17日	10:40～ 12:10	8	12,000
20	朗読を楽しむ II		1月7日～ 3月17日	13:00～ 14:30	8	12,000
21	楽しい写真講座 -一眼レフを使いこなそう!-(午前クラス)	玄一生 (写真家)	1月12日～ 3月1日	10:40～ 12:10	7	14,000
22	楽しい写真講座 -一眼レフを使いこなそう!-(午後クラス)		1月12日～ 3月1日	13:00～ 14:30	7	14,000
23	たのしいフルートアンサンブル (午前クラス)	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	1月29日～ 3月11日	10:40～ 12:10	6	12,000
24	たのしいフルートアンサンブル (午後クラス)		1月29日～ 3月11日	13:00～ 14:30	6	12,000
25	表現を豊かにするワークショップ	真山 葉瑠 (元宝塚歌劇団)	1月8日～ 3月11日	15:15～ 16:45	7	10,500
26	ちょこっとSALSA!		1月8日～ 3月11日	18:00～ 19:30	7	10,500
27	健康体操 -リズム&ストレッチ-		1月8日～ 3月11日	13:15～ 14:30	7	8,750

桐蔭横浜大学学術交流レポート2015

2017年2月発行

発行人：佐藤宣践

発行所：桐蔭横浜大学

編集：桐蔭横浜大学 大学事務局

〒225-8503

横浜市青葉区鉄町1614

TEL. 045(972)5881(代)

<http://toin.ac.jp/univ/>
